



### 鳥

第

+

號

273362

行發月二十年九正大

會學鳥本日



ヤマドリの尾羽に就て……………………………………………日本産ガランテウの租名に象て イスカ本州にて蕃殖せる歟……………京都御所御苑内に於ける夏の鳥類…… 本産ガランテウの種名に就 ガハコマドリ..... 各亞種(第五 巢 原色版) ..... 四 黑田長禮回答 理 恩 脇森籾藤荒水中籾熊內 

富彌三郎隆助誠雄郎郎助

#### 鳥 第 卷 第 號 目

次



郎郎郎 富三禮

#### ガ ラ 類 各亞 種 繪 解 說

1 黑 籾 Ш 田 德 太 長 郎

理

學

邦領内に産するヤマガラ類の調査は尚ほ完結せられざるも現今知らるる處は一種九亞種(?)を算するに至れり。即ち其學 分布及び特徴左の如し。

l'arus varius oustoni Ijima. オーストンガラ

伊豆七島の内三宅島及び八丈島に限り産す。

八六粍、尾四八——五五粍、跗蹠長く二〇——二一粍(第一圖) 大形にして上面オリーブ色あり、頭、顔側、上胸に淡色部なく全部栗色、嘴太く長く嘴峰一七粍、 00

Parus varius utsurioensis Kuroda & Mori, subsp. nov.

朝鮮欝陵島(松島)特產。

シマヤマガラ(新亞種、新稱

- | 五粍、翼七七•五 −−八一粍、尾五三−−五八•五粍、跗蹠二○粍−−二三粍、本篇黑田及び森氏論文参照)(第二圖)特 徴 | 大形にして上面にオリーブ色あるこごオーストンガラに似たるも頭、顔側、上胸に淡色部を存す、嘴峰一四•五 Parus varius namiyei Kuroda. ナミエヤマガラ

伊豆七島の内、新島特産。

跗蹠二○──二二一粍。(第三圖) れごオーストンガラよりは淡色、上胸に淡色部を缺如す。嘴峰一三●五──一四粍、翼七一──八二粍、尾四七──五八粍、れごオーストンガラよりは淡色、上胸に淡色部を缺如す。 嘴峰一三●五──一四粍、翼七一──八二粍、尾四七──五八粍、れごオーストンガラよりも小形にして上面のオリーブ色は殆んご消失す、頭、顔側はシマヤマガラよりも濃色な

Parus varius yakushimensis Kuroda

鹿兒島縣屋久島特產。

七•五粍、尾四五──五一•五粍、跗蹠一七──一九粍、(此亞種は色彩ナミエヤマガラミ同樣なるを以て周を出さず。)特一徴 サミエヤマガラミ 同樣なれごも 嘴稍細く、尾及び跗蹠短かし。嘴峰一二・五──一三•五粍、翼七一 Parus varius varius T. & S.

ヤクシマヤマガラ

四國(:) 九州(?)、對馬(上)、奄美大島(上)、朝鮮

赌峰 Parus varius saisiaensis Kuroda & Mori, subsp. nov. 體は中形にして上面には全くオリーブ色を帯びず、頭、顔側、上胸には淡色部あり但し個部により漂淡あり サイシロヤマガラ(新電種、 一九粔、 (第四周

——二一 耗、本篇黑田及森氏論文參照《第五圖》。 體により濃淡あり。跗蹠著しく長し。嘴峰一一・五 本州達ヤマガラに酷似するも頭、顏側、上胸にある淡色部は一般に著しく殆んご白色に近きものあり朝鮮霽州島特達。 一三●五粍、翼七六——八〇●五粍、尾五四——五九粍、跗蹠二〇●五 但し個

タ

ネ -\-

 $\overrightarrow{}$ 

ガ

Parus varius sunsunpi Kuroda.

階峰 = | 一-五粍、翼七二•五——七七粍、尾四九•五——五○•五粍、跗蹠一七— 木州産ヤマガラよりも體は小形にして上面多少濃色、脇は特に栗色濃し。頭、 鹿兒島縣種子島特產。 —一八•五粍、(第六周)。 、顔側、上胸の淡色部

ラキナワヤマガラ(新稱)

Parus varius, subsp. nov. 沖繩島特產(?

以て圖を出さず)但し此側定はスタイネゲル氏によれり。 次のタイワンヤマガラに似たるも稍大形なり。 嘴峰一二 框、 製六七年, 尼 [][ 八
料 跗 蹠 11 柜 標本なきを

Parus varius castaneoventris Gould.

タ -1 ワ ・ガラ

栗色甚だ濃色なり。 最小形にして上胸に淡色部なく、頭及び顔側の淡色部は純白、 嘴峰一〇粍、翼五九·五· 六一·五粍、尾三八·五粍、跗蹠一五·五粍、(第七圖)。 後頭の 下部に栗色斑を殆んご缺如す 下面

ベンケイヤマガラ

Parus hakoda!ensis Momiyama = P. rarius var.?

北海道、本州(共に極めて稀れなり)

峰一三粍、翼六九粍(不完全)、尾五〇粍、跗蹠一八・五粍、此測定は基型のものによれり、(第八周 ヤマガラご同様なるも頭喉の黑色は灰着色を以て代置し、頭頂、顔側、上胸に淡色部なく凡て栗色なり。 啃

|フカラにも之れに類似の現象あり又外國産の鳥類にも變色變種あり(黒田記す)。 ・記――ベンケイヤマガラはヤマガラと同一の地方に極めて稀れにのみ見出さる。余はヤマガラの變色變種なるべしと信ず、因に本州産シ

オーストンガラ Fig. 1.

シマヤマガラ Fig. 2.

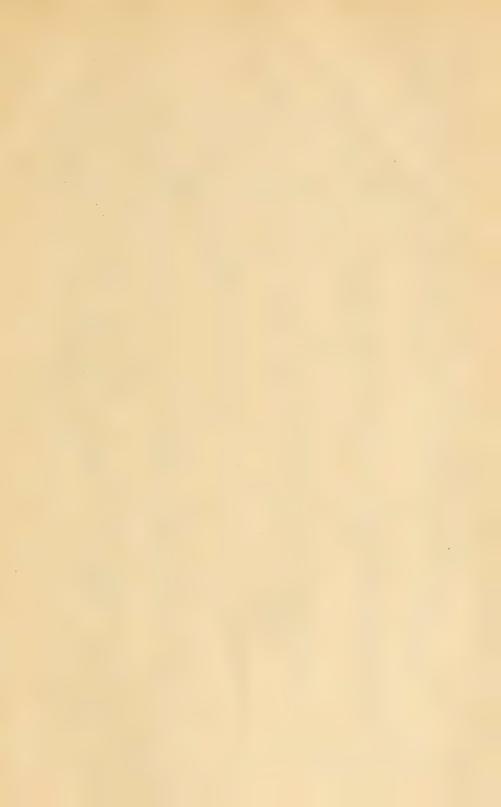
ナミエヤマかラ Fig. 3.

タネヤマガラ Fig. 6.

ヤマガラ Fig. 4.

サイシウヤマかラ Fig. 5. タイワンヤマガラ Fig. 7.

ベンケイヤマガラ Fig. 8.





三分一强實物大



面積は從來未だ完全なる實測なく約五六方里三稱せらる。

## 高 說

## 鬱陵島採集の主な 3 鳥類に就

北緯三十七度二十七分より同三十七度三十三分、東經百三十度四十七分より同百二 東に去る事七十八浬、 鬱陵 陰島は 一名松島ご稱し外人間には Dagelet Is. こして知られ朝鮮の最東端にあり江原道 内地隱岐島を北西北に去る事百七十餘浬の海中に孤立す。 其の地理 度五十五分に瓦 學上 行邊 池を 0) 位置 東 は

理

學 士

黑 森

田

長

禮

為

產附

鳥類目

錄島

存す。 のア 三千二百 て形成せら 本島は ル カ IJ 尺其の他に羅里洞澤・彌勤峯等峨々こして峭立し、島の北側にある舊火口趾 一の火山島にして日本海の滔沒せし際生せし地裂線の一弱點に熔岩噴出し、 ,性岩石 れた るもの 7 體ミし之に粗 ζ 如し、從て地形極めて險峻、急角度を以て深海底より突出せり。 面岩・浮石及黑曜石を交ふる所あ () 最高峯を聖人峯ミ云ひ、 羅里洞平原 其の堆積 地質は暗 を聞 物により 衍 拔 色

の移住 近きが如き注意すべき事ご云ふべし。動物にても兩棲類及爬蟲類は 3 絕海 本島 一盛んなるご共に、 0) は 孤島なるを以て其の 其 の名 0) 如く以 火田作業及濫伐の爲め今日急傾斜の山腹にのみ昔日の俤を存 前は蓊欝たる常緑・落葉及潤葉樹 所產植物 種類三 一百餘の 中五十 林にて被はれ 種近くの特産種 一も生存せず、哺 たり あり又其の しも、今より 乳類も鼠の如き人類 植物 するの 數十 分 年 布 0) 前 內 然 内 地に れご 鮮人

## 欝陵島概形圖

公竹島



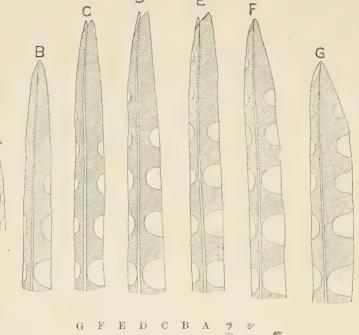
如く十九種三十九個の標本を獲て京城に歸へられたい 出張を命じ同氏は四月十九日より二十三日間同島に滯在前記の如き地形 あるべしこの期待を以て京城高等普通學校にては職員高倍永造氏に該島 にもなるべし、又其の分布の何れの陸地に近似せるかを 三共に移住せしもののみなり<br />
この事に、鳥界にも異なれる事あるべし、殊 なるを以て険崖を攀ぢ荆棘を分も幾多の苦辛を嘗ら間鉢採生鳥類 に本島は前記の如く樹木も繁茂し、朝鮮内地間鳥の「渡り」の際の定息地 るものにつき記述せんこす。 今左に其の 宝な 制作でるも興味 源(の)

(1)Dryobates leucolo: takahashii, subsp. nov.

シマオホアカゲラ(新電種・新梅

純白色なること
闽尾羽の幅狭きこ
この対蹠の特に短きこ
こ等により
區別 背の白色部の區域狭小なること ③耳羽殆んご白色なること ④腮•喉•上胸 せらる。次にテウセンオホアカゲラミ比するに山體形稍小なるここの下 なるこご②耳羽殆んご白色に近く褐軟皮色を帯びざるここの腮・喉・上胸 背•腮•喉•上胸中央部等の白色なるが如き②中及び大雨覆•風切羽•尾羽 圖参照)の尾羽の幅狭きこご等により、區別せらる。更にサイシウオホアカ |純白色なることの尾羽・風切羽の||白色斑小なること(第四十二及四 ゲラご比するに(1)體の黄白色部が白色部ごなれるこご即よ後四兩側・下 本亞種はオホアカゲラに稍々近似せるもオホアカゲラミは口體形稍小 

等の白色斑大なるこミ(第四十二及四十三圖參照)等により異なる。以上の如く近似せる三亞種ご比較するも各々相違せる點を有する



part .

0

第四十二圖

 B A ラの初列

 第 第 列風

 コーカゲ

D C B 第 第 四 三 二 羽 羽 羽

第 第 第 : 七 六 五 初 羽 羽

す。を以て新亞種ご考定しシャオホアカゲラご稱せんご

今其の基型標本雄(二號)につき體色の記載をなる 対・大雨覆の白色斑の數を記載せば次の如し。 対・大雨覆の白色斑の數を記載せば次の如し。 質 前額・眼先淡黄褐色、眼の後上部・耳羽は汚れた る白色、後頸兩側白色、頭上鮮紅色なり。 と背 上背一様に黑色なるも下背は白色に少許の黑色 横班を交ゆ。

は岡の如し。(第四十二及び四十三岡) 他は大なる白色斑を有す。大雨覆及風切羽の斑紋個づゝの圓形白色斑を有す。大雨覆及風切羽の斑紋螺この側で、の風形白色斑を有す。大雨覆内側の一個は黑色、東東で、中雨覆外側の二三は黑色其

総斑を有す。腹部及び下尾筒は紅色なり。 兩側及び腹部の羽毛は汚れたる白色の地に中央黑色下面 腮•喉•上胸中央純白にして稍光澤あり。胸部

中央の二對は全部黑色稀に第二對目の先端に各一個の小にして不判明なる黄白色斑を有するものあり。第三・第四・第五の斑紋は

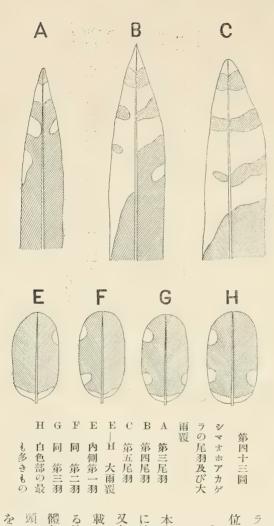
尾

の測定表

即以

710	e Jakon J	course Drive		AND THE RESERVE NO	ORDER STREET		to Charles and make		an week ware to		aconomic W		-
		デサ	7					シマオ				311	
The second secon		ರ ಚ ಚ	-   <del>-</del>			ホア						科	(tent)
DECEMBER OF STREET, ST		カララ	7					カゲラ				4	<b>4</b>
STATE STREET, SALES	멛	Ξ	=	-	-1:	六	Ti.	рц	Fi	::			F
The same reason of the same of	9	\$	9	우	3	\$	우	9	\$	☆墓型	\$		fit
CAST PICKMAND STREET				同採じ集	九	九	九	儿	九	九	几年		—— 采 皂
MACATER SECTION AND ADDRESS OF THE PERSON NAMED IN COLUMN NAME	[ci]	同	同	但し附	回	M	bd	Ii.	四	四	四月	4	F J
MAY TOTO OF STREET POST				蹠、	六	0	六	==	ō	0	On On		1
COMMUNICATION OF STREET				三集地三	道	骊	酮	竹	狮	鋼	<b>3</b> (A)	ŧ	泵
CWIGHTSHCHOOL				ミ體リの	2174	勤	勤	213	動	勤	勤		E
PARTY MANAGEMENT	上	上	上	誤測りては	洞	半	楽	洞一	半	米	楽		U K
-				短かく	四三	四六	四四四	四六五	四六	四	四三二二六		Ž
				記載す	九〇	九〇	八九	八九	九〇	九〇	八二七分		i E
				八頁記	1 <u>19</u> 37.	三三流			四班	三四文	破損		H M
				哉と		三九五	三 玩.	三八	元		四:		特
	六〇	Ji.	六〇	Ir.	рц 76.	Ji.	四八八	Ti.	四八八	<b>π.</b>	Jî. ₹	第一對	元
	大〇	Fi.	六〇	六〇	Л. О	五	7i.	Fi.	∃î.		Hi. :	第二對	33
	五 六	Fi.	六〇	/i. ∃i.	Ti.	Ji.	71i.	Б. П.			/i.=	第三對	,
	五八八	/i.	六二	Ji. 六	7i.		Ji.	di.	./i. /i.	/u   /i.	Jî. fi. ₹	第四 對	i M
	王i. 八	五. 元.	Hi.	Ji.	Ji.	五.	Fi.	IIi.	/i.	[ <sup>[1]</sup> ]	/i.:	第五. 對	, diii

地等は體の測定表中のものご同じ。 次に本亞種の第三對尾羽及び大雨覆の自斑の数を内外瓣に分ち記すれば次頁の表の如し。 各番號に對する雌雄•採集年月日•採集



The second second	* *** ********************************	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	番	
7		
內	外	
<u> </u>	<b>郑</b> 持	號
words m-st-	Ξ	1
	==:	2
	Ξ_	3
=	三	4
_	=	5
=	四	6
		7
j	te	Ti-
Ē	fi	番
- 7	· ·	
內	外	
狐	鉫	號
		1
	grode growth	2
		3
		4
_	=:	5
		6
		7

以上の結果により本亞種はオホアカゲラミテウセンオホアカゲラミの中間に

#### 

本鳥は朝鮮半島に棲息するを聞かず單、大鳥は朝鮮半島に棲息するを聞かず單、以今回採集せしものは日本鳥類圖説記以今回採集せしまのは日本鳥類圖説記以の體色ごは異なり幼鳥より成鳥に移る途中の羽衣なり(二年鳥なり)今其の

※黒色の総斑あり。背は一様に瓦青色 ※黒色の総斑あり。背は一様に瓦青色※重・胸は黄白の地に幅廣き 頭・後頭光澤薄き黒色にして稍毛冠狀

を呈し上尾筒は灰色なり。尾は灰青色にして第五對の先端は白色なり。下面は白地に黄味を帯ぶ。 小及中雨覆には小なる三角形の黄

褐色斑點在す、

210 翼長九寸(二七二粍) 居長三寸二分(九七粍) 跗蹠二寸三分(六九•五粍) 嘴墨二寸四分(七三粍

テウセンミソサザ

(3)? Troglodytes troglodytes peninsulæ (Clark).

朝鮮半島産ミソサバイミ異なる所なけれざも雄こしては爨稍々小なり、日本内地産ごは全く相異す

蠶長一寸五分(四五粍)。尾長一寸三厘(三一•五粍)。跗蹠五分五厘(一六•五粍)。嘴室四分(一

(4) Farus major dageletensis, subsp. nov.

測

ウツリヤウシジフカニ、新電種・新稱し

にしてその先端に向ひ白色ごなる。翼の白帯及び後列風切の縁は殆んご純白にして寧ろ幅廣し。上翁に於ける橄欖黄色部は多少局限 内地及び朝鮮産のシジフカラミ同様なるも翼の風切羽の縁には全く橄欖色を缺如するここ、初辺風切の外縁は淡石板苔色

せらる 。體の下面は中央黑統斑を除き純白色にして脇には認め難き程度の灰色を帯ぶに過ぎず。

基型標本は大正九年四月廿二日鬱陵島西面南陽洞にて高橋永造氏の採集せる雄成鳥にして現今黒田の所藏標本たり

測定次表の如し。

「大学の大学の主義を表現している。」というでは、「大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	♀? ad. 九、四、二五 彌 勤 山 一三三 一○·五	◆ ad. 基型 九、四、二二 南 陽 洞 一四〇 一 " x x	雌 雄 探集年月日 採 集 地 全 長 嘴 峯
MAYCEPTON 1 - AMAN GARCON, MICHELLEGIC SHICK SHI			双
A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	. A.	六九.	16
	一八九九	ブレ	跳

管陵島産に近き様なれども落殖期前の完全の羽衣のものは内地産ご全く同一のものあり多くの標本を比較せざれば明に決し難し。次 に此新亞種三濟州島産のシャシジフカラミは山背面の 橄欖色下方に延びずの翼の自帯に橄欖色を帯びずの翼の風切の外縁にも橄欖色 ウツリャウシジフカラミ朝鮮半島産シジフカラミ比較するこきは上記の如き相異あり。 半島産のものは内 地産に比し多少

を帶びず国下面も白色に富むここにより區別せらる。

鬱陵島は松柏科植物少なき爲めか四十雀類極めて少し。漸く高橋氏苦心して上記二個の標本を獲たるのみなり。

(5) Parus varius utsurioensis, subsp. nov.

シマヤマガラ(新亞種・新稱)(第五圖版第二圖

は口嘴多少短かきここの上面の橄欖色の程度弱きここ及びの頭及び顔側の淡色部は著しく淡色にして栗色ならざるここによりて區別 欖色を帶ぶるここの額、顔側及び後頭の縱斑並びに喉の下部の不規則の斑は何づれも淡色なるこごによりて 區別せられ而して後者こ -伊豆七島産ナミエヤマガラ及びオーストンガラに似たるものにして前者ごは(1)嘴著しく長く太きこ三〇上面に明かなる嫩

基型標本は大正九年四月廿五日欝陵島彌勤山にて高橋永造氏の採集せる雄成鳥にして黑田の標本館に藏せらる。

測定次表の如し。

せらる。

우 ad.	<b>১</b> ad.	ad. 基	ad.	ad.	雌
		型	-	-	雄
九	九	九	九	九年	採
四	四	四	四	四月	集年
11-4	二七	三五五	Ē	<u>-</u> O <sub>□</sub>	月日
同	同	同	同	彌	採
				勤	集
				Щ	地
					嘴
五.	一 四 五.	五.	五	五	、米
七七・五	八	七九•五	八一	八一	313
五.	五八・五	五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五	五八	五六。五次	尾
					H
一 〇 新.	= - - - - - - -	ō	=======================================	0	疏

- 右表の雌一個にありては他の雄よりも測定上小形(翼及び尾)にして上面にも橄欖色少なく而して體の下面も淡灰褐赤

色にて恰もオーストンガラの雌に於けるが如し。

右表の雄四標本に於ける各個的相異は下の如し。上面の橄欖色は著しく濃きものより甚だ淡きもの迄あり又頭及び顔に於け

も顯著なる事質にして日本、朝鮮並びに共居島に於けるヤマガラ類中最大のものと一つたり。即ちナーストンガーの次に位のす、 る淡色部も淡きより濃き迄の變異を見るもこは吹に記す濟州島産の場合に於ける程變異の度著しから幸。此シェニュガーの食見は最 附記 左記の濟州島産ヤマガラ類も新型種の値あり因で弦に附加し以て記載を發表す

Parus varius saisinens's, subsp. nov

して自色に近し@蹌蹠は平均上長く二○•五――二一粍に達するここによりて區別せらる。セマガラにては一六――一九粍なり 記城 基型標本は大正七年六月二日濟州島漢羅山に於て高橋永造氏の採集せる雄成島にして現今黒田の所藏に属す「鳥」第七號八七頁に マガラミして掲げあるもの即ち今回の新亞種なり。 ―― 内地本州産ヤマガラに極めて似たるも(1額、顔側及び後頭の総斑並びに喉の下部の不規則の斑は何つれも サイシウヤマガニ(新畳種・新羅)第五間版第五間 一般に、より淡に

測定次表の如し。

☆ 却.	sad.	s ad.	∱ ad.	\$ ad.	咐
型型					雄
-1;	-5	t	亡	七年	採
六、	六	Ħ.	Iī.	五.	
=		二八	三五	O <sub>B</sub>	月
同	fij	同	同	漢	採
				FE	集
				山	地
					啃
二 三 近.	=======================================	<u>二</u> 五.		1	米
八〇・五	七六:近	セカ	七七:	七八	灰
五.九	Пі. Пі.	Fi.	五. 四	76. [9]	Æ
			不	1	111:
	О • Ті.		完全	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	RA:

多くなるが如きもサイシウヤマガラにありては白味多き方一層普通なるが如し。然れごもこは尚ほ多数に就て充分調査を要するなら 化をなす、此 備考 右表の五標本に於ける各個的相異は下の如し。額、顏側及後頭の縱線の色は淡色。殆んご白色。より稍濃色、淡褐赤色、迄の變 個體的 和異は内地産の標 本中にありても普通に見出さるるここなり。 蕃殖期を經過せし羽衣のものにありては特に自味

(6) Zosterops palpebrosa ijimse Kuroda

本島在住内地人は内地に棲息するメジロミ異なり鳴聲甚だ佳なりミして珍重し籠養せらるこものあり。體色及び體の大さはイ、ジ

トジマメジ

マメジロご異ならず。

(7) Thioris sinica clark, subsp. nov.

マツシマカハラヒワ(新亞種・新稱)

及び下尾筒は一層美黄色を呈するここ、背は寧ろ淡色なるここ、翼及び尾の短かきを以て區別せらる。 記載――内地産オホカハラヒワに似たるも體の下面にありて喉・頭側及び耳羽特に胸の中部に黄色を帶ぶるここ、翼角・翼の淡色部

基型標本は大正九年四月十九日欝陵島(一名松島)南面道洞にて高橋永造氏の採集せる雄成鳥にして黑田の標本中に藏せらる。

測定次の如し。

우	_		
ad.	ad.	ad.	雌
		基	
		型	雄
九	九	九年	採
四	四	四月	集年
二九	=======================================	九月	月日
苧	沙	道	採
The second secon			集
洞	洞	洞	地
			嘴
二二五五	三元	1 11	峰
八二・五	八六	八五· 五· 五·	A
五.	五. 四. 五.	五. 四 🚉 🕺	尼
			别
一 七 五	八八	一八章	ENT DE

形なるここ及び體の下面に少しも黄色を帶びざるここにあつて相異せり。 ハラヒ 雌 の記載 ワの雌に酷似するも前者よりは一體に淡色なるここ及び腹並びに下尾筒が殆ど白色なるここにありて和異し、又後者よりは大 - 右表中の一個にありては他の雄よりも測定上小形(特に翼及び尾)にして一般の羽色はオホカハラヒワ及びテウセン

形なるここ及び翼の黄色部が稍々淡きここによりて區別せらる。一般の色彩は前亞種並びにコカハラヒワよりも後亞種の方に近し。 此新亞種は明かにオホカハラヒワミテウセンカハラヒワミの中間に位ひする種類にして此亞種の雄は後亞種の雄よりも大

才 ホカハラヒワごコカハラヒワごは此新型種及びテウセンカハラヒワよりも一層暗色なるなら

なるによりマッシマカハラヒワご命じたり、 () クラーク 恐らく此新亞種に相當すべきものなるべし、因て余等は同氏の名譽生為の氏の姓を取り此新亞種名となせも 、氏は松島に極めて普通に棲息することを報告せるも、一九〇六年七月廿八日觀察。氏はこれをテウントカットといないとと 但工行名は松島さ

集せしもの)ケアシノスリア、テウゲンボウ、マダラチウセア、キジバト、アマツバメ、ヒヨドリ、ツグミ、コシアカツバ 發見されしもハシブトガラスに害せられ飛翔の力も失せ鮮童に排へられ遂に死滅せし事ありこ。 り至る所に見出さる。之に次ぎ多きはハシブトガラスにして先年カサ、ギ六――七羽紫風に吹き飛ばされ來りしものならんか本島に・・・・・・ 島に棲息するは注意すべき事ご云ふべし。本島特産鳥類も比較的多く前記のシャオホアカゲラ、ウツリヤウシジフカコ、シャヤマガラ、 も勢力を逞ふし農家に害を興ふる為め島廳にては捕獲を奬勵せりこの事なり マツシマカハラヒワの四種類あり。尚ほ採集せざりしも目撃又鳴聲を聞きしものにオポヨシゴヰ(標本替陵島小學校にあ 次に本島の鳥界に就き高橋氏の今回の採集物及び觀察報告を基礎こして概說すれば本島には習鮮半島に普通なるカサ、ギ・スマメ・ 尚長朝鮮半島に産せざるゴヰサギ又稀なるバン等も本 恵に角本島にてはハシブトガニ、最 メ、ツ 0 バメ等あり、

#### 採 集 鳥 類 E 錄 (名稱、雌雄、採集地名及月日)

3. Charadrius dubius curonicus Gm. コ ナ ド リ	2. Gallinula chloropus parrifrons Blyth.	1. Nycticorax nycticorax nycticorax(L.) 로 화 방 확 중 juv	台
ius curonicus Gm. I F. F. I	pus parvi/ro	corax nyctic	稍
Gm.	ns Blyth.	orax(I	
·>	yth.	Juv.	11年7年
南面沙洞 四十二二	南面道洞 五•二	ticorax nycticorax(L.) ゴ ヰ サ ギ 《 juv. 南面温調 四・二三	雌雄 採集地名
	Æ. Ξ	[/i] • ====	Л Н
9	23	4. Drysbaies leucotos takabashit, subsp. nov. シマオホアカゲラ	4
3	33	eucolos te	
38 3	3 3	20tos talahashi, su シマオポアカゲラ	ارس ارسیا
40	↔	bsp. nov.	THE THE
Ξ	Ξ	340	採集地
	1	图	治世名
, ,	<del> -</del>	-7-	
<u>  [] •                                     </u>	E Li	- I	]]

	10. Phoenicurus auroreus auroreus,Pall.) ジャウピタキ ♀	;	**	9. Monticela solitaria magna(La Touche)	8. Turdus pallidus Gm. ショッラ ♀	» »	7. Cyanoptila cyonomelana Temm.	6. Motacilla alba leusopsis Gould. ホンジロセキレイ	5. Motacilla cinerca melanope Fall. キセキレイ	· ·	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	3 3
	南面华洞 [	南面李洞。	南面道洞 [	南面通久味	爾当山口	彌遊山	西面臺霞洞 ::	南面学洞	南面沙洞	南面道洞口	三	崩變米	北面份洞
	耳•二三 1	TE : - FIE	耳•二六	75	<u>1.</u> — <u>∓.</u> — <u></u> —	开。 四	H	四•二八	PU •	四•一九	pr - 1 · 1 · 1	四•三六	五。三
七五	16. Tasser ratilents ratilents (Temm.) $= \vartheta + \lambda \times \varkappa \qquad \diamondsuit$	·	15. Zostersps pulpsbrosa ijima Kuroda, イトジマメジロ	» »	14. Corrus coronoides j ponensis Bonap. ハシブトがラス &	33 33 33	33 33 33 33 33 33 33 33 33 33 33 33 33	» » »	» » » »	13. Parus arius utsurioensis, subsp. nov. シマヤマかラ &	)) ), ), y, y, y, p	12. Tarus major dageletensis, sul sp. nov. サツリヤウシジフカラ &	11. P Troglodytes troglodytes peninsute(Clark) タラサセンミソサイイ 舎
	南面道洞	南面道洞	南面近洞	南面道洞	南面道洞	彌動山	調助山	彌助山	彌逝山	湖地山	调业山	阿爾爾西西	西面南陽河

E ...

11

五二・四

五二十二

回・一六

四。一六

四-一六

四。二五

四。二五

11:11:11

18. Chloris vinica clarki, subsp. nov. マツシマカッラモワ	3) 3)	17. Fringilla montifringilli I. $\gamma$ $\gamma$ $\gamma$ $\gamma$ $\gamma$	9) 9) 9)
$\Rightarrow$	10	$\Rightarrow$	40
南面道洞 四•一九	獨 到 由 四十二七	南面沙洞 四十二二	南面道洞 四十六
[][] • — · JL	14.11.15 14.11.15	[][]	国•一六
力	19 Emberiza rustica Pall.	3 3 3 4	ÿ
カシラグカキ	ž.]].	**************************************	**************************************
10		10	o>
南面咨询	;	南面澤圖 / 四、元	南面沙洞
		四•:九	

25-74, 1910. グラーク氏が鬱陵島にて觀察せし種類は十二種なり一つも採集せしに非らざれば此報告中に誤りある如し参考の爲め左に列記す。(同氏は Pacific Ocean, and in the Bering, Okhotsk, Japan, and Eastern Seas, from April to December, 1903. Proc. U. S. Nat. Mus., Vol. 38, pp. Clark, A. H. :-The Birds collected and observed during the Cruise of the United States Fisherics Steamer "Albatross" in the North

・Lanus crassirostris Vieillot.ウェネコ (普通)

松島の名にて記述す。學名は共儘出す)

- .. Iuffinus leucomelus Temminek.オホミズナギドリ (見る)
- 8. Thalacrocorax filamentosus F. &. S. カハウ(シマツ) (起だ普通)
- 4. Ardra, species アチサギならん (見る)
- . ? Butco luteo joponicus(Gmelin)ノスリ? (甚だ普通)
- 6. Micropus parificus(Latham)アマツバメ (甚だ多し)

(5)を除き恐らく誤りなかるべし。

- 7. ? Zosterops stejneyeri(Sebohm)シチタウメジロ・ (普通)
- 8. Corrus corone orientalis (Eversmann)ハシポソガラス (敷羽を見る)
- 9. Chloris sinica ussurianus(errore) Harbert テウセンカハラヒワ
- 10. Passer mon'anus montanus (L.)スッメ (普通)
- 11. Hirundo nustica guituralis (Scopoli) ミスス (空油)
- 12. Petrophila manila(Boddaert)イソヒョドリ (警通)

ウナイスドメのみなりと前記の如く報告すて採集鳥類中にも後者のみあるを以て恐らくクラーク氏の觀察の誤りならん。20の種名は前記の方正し、共他 右の内のはイ、マジマメジロの誤りのは今回余等が新亜種となせし。0. 4. eleli なること 殆ど疑ひなし、10のストメは高橋氏は全く見ずと 云ふニ

# DESCRIPTIONS OF FIVE NEW FORMS OF BIRDS FROM DAGELET AND QUELPART ISLANDS.

ВҮ

NAGAVICHI KURODA, Rigakushi, M. O. S. J.

AND

TAMEZO MORI, M. O. S. J.

# Dryobates leucotos takahashii, subsp. nov.

colour; the front patch white and only very faintly tinged with buffy. width of tail-feathers narrower; the throat and other pale parts of body silvery white, is not shaded with a buffy and shorter wing and tarsus; the spots on wing feathers larger and pure white; the ear-coverts whiter almost without buffy colour; rump somewhat whiter; the black streaks on both side of breast wider and more distinct; the Characters.—Near to D, leucotos subcirris Stejneger of Japan, but with distinctly less stout and smaller bill

Collected by Mr. Y. Takahashi, collector of the same school Is. or Matsushima or Utsuriotō, one of the easternmost islands of Corea in the Sea of Japan. April 29, 1920. Type.—Collection of the Seoul Higher Common School (specimen no. 2). Adult male. Yakinzan, Dagelet

Measurements :-

~7	6	e1	1	20	2 (Type)		Ne.
Dōdō, Dagelet Is.	do	Yakinzan, Dagelet Is.	Chikudő, Dagelet Is.	glo	do	Yakinzan, Dagelet Is.	
16/IV, 1920	20/IV, 1920	26/IV, 1920	3/V, 1920	do	do	20/IV, 1920	Date
40 ,,	39.5 ,,	ಭ	38 ,	39 "	40 "	40 mm.	Entire Culmen
148	146 ,,	144 ,,	146.5 ,,	146 ,,	142 ,,	141 mm.	Wing
90 ,,	90 "	89 🚉	89	90 ,,	90 ;;	87 mm.	Tail
24.5	23.5 ,,	1000	24.5 ;;	24.5	24 mm.		Tarsus
♦ 841.	o> 2·1.	<del>1</del> 0 a.l.	+0 #1	ે થતી.			Sex

subcirris. It differs from the former subspecies by the bill being less stout, by the rump less white, by the manifestly distinct by the paler colouration of the entire kedy. breast distinct, more numerous and wider. From D. leucolos numiyci and D. leucolos quelpartensis it is white spots on wing feathers distinctly smaller, by the throat pure white, and by the black streaks on side of Remarks. -- The new subspecies is obviously intermediate between D. leucotos unulensis and D. leucotos

The subspecific name is given in honour of the collector.

# Parus major dageletensis, subsp. nov.

primaries clear slaty bluish and that of the apical parts whitish; the white hand on wing and the edge of tertiaries Characters.—Similar to P. major minor T. & S., but the edge of all quills has no olive colour; outer edge of

parts, except the median black patch, pure white only very obsoletely tinged with greyish on flanks almost pure white and broader; the olive-yellow patch on upper mantle somewhat in restricted area; entire lower

April 22,1920. Callected by Mr. Y. Takahashi. Type.—Collection of N. Kuroda. Adult male. Nanyōdō, Dagelet Is. or Matsushima in the Sea of Japan.

## Measurements:—

	Yakinzan, Dagelet Is.	(Type) Nanyōdō, Dagelet Is.	Loc.
	25/IV, 1920	22/IV, 1920	Date
	133 "	140 mm.	Total length
	10.5 "	11 mm.	Entire Culmen
	67.5 ,,	75 mm.	Wing
	62 ,,	69.5 mm.	Tail
	18.5 "	19.5 mm.	Tarsus
	? 2 ad.	⇒ ad.	SO PA
-			

# Parus varius saisiuensis, subsp. nov.

(Plate V, fig. 5).

Parus varius varius (nec. T. & S.), Kuroda & Mori, "Tori," Vol. II, No. 7, p. 87.

down the side of neck including lores and ear-coverts, and with the longitudinal streak on occiput and nape as 20.5-21 mm. instead of 16-19 mm.). well as the irregular spot below the black throat generally paler and much whiter; tarsus average longer (tarsus Characters.—Very similar to P. varius varius T. & S. from Hondo, but with the broad frontal band continued

islands of Corea. June 2, 1918. Coll. by Mr. Y. Takahashi. Type.—Collection of N. Kuroda. Adult male. Kanrasan, Quelpart Is. or Saisiutō, one of the sonthern

## Measurements:—

form from Hondo. white) to rather deep colour (pale rufous). This variation is commonly observed among specimens of the typical of the broad frontal band, side of face and the longitudinal streak on occiput varies from very pale colour (almost Remarks.—Variation in colouration among the five specimens examined were as follows, viz., the colour

# Parus varius utsurioensis, subsp. nov.

(Plate V, fig. 2).

deep olive, and by the paler area on head and face of distinctly paler colour instead of chestnut. former by the bill much longer and stouter, by the upper parts distinctly tinged with olive colour and by the the black throat much paler. It differs from the latter by the somewhat shorter bill, by the upper parts less broad frontal band, side of face and the longitudinal streak on occiput and nape as well as the irregular spot below Characters.—Resembles P. varius namiyei Kuroda or P. varius owstoni Ijima, but it differs from the

25, 1920. Coll. by Mr. Y. Takahashi. Type.—Collection of N. Kuroda. Adult male. Yakinzan, Dagelet or Utsuriotö in the Sea of Japan. April

Measurements:—

do	do	· (Type) do	do	Yakinzan, Dagelet Is.	
				agelet Is.	Lee.
27/IV, "	27/IV, "	25/IV, "	23/IV, "	20/IV, 1920.	Date
15 ,,	14.5 ,,	15 ,,	15 ,	15 mm.	Entire culmen
77.5 ,,	81 ,,	79.5,.	81 ,,	81 mm.	Wing
53	07 00 07	ण ज ज र	58 ,,	56.5 mm.	Tail
20.5 "	20.5	20 "	22 ,,	20 mm.	Tarsus
			→ ad.	→ a1.	Sex

tone and the under surface of body pale greyish rufous like female of P. varius owstoni The single female examined by us is of smaller dimensions than the males, the upper parts less olivaceous

as in the case of P. v. saisinensis. The new subspecies is very remarkable one and one of the largest forms of pale colour on head and face also varies from paler to deeper, but the latter variation is not so very marked the following, viz.: the olive colour of the upper parts varies from very deep tone to a very pale one and the P. varius from Japan, Corea and the neighbouring islands Remarks.—Variations in colouration among the five specimens examined were observed to amount to

# Chloris sinica clarki, subsp. nov.

Chloris sinica ussurianus (error) Clark, Proc. U. S. Nat. Mus., Vol. 38, p. 65 (1910).

and by the shorter wing and tail including the threat, side of head and ear-coverts distinctly tinged with yellowish, especially on the centre of breast, by the edge of wing, the patch on remiges and under tail-coverts brighter yellow, by the back rather paler, Characters.—Resembles C. sinica kawarahiba (Temm.), but distinguishable from it by the under surface of body

April 19,1920. Coll. by Mr. Y. Takahashi. Type.—Collection of N. Kuroda. Adult male. Dödö, Dagelet Is. or Matsushima in the Sea of Japan.

Measurements:--

+0 ∷-1.	17.5 "	51 ,,	82.5	12.5 "	29/IV, "	Dagelet Is.
c> ====================================	18 "	54.5 ·	86 .,,	12.5 ,,	22/IV, "	Shadō, Dagelet Is.
	18 mm.	54 nim,	85.5 mm.	13 mm.	19/IV, 1920.	Dōdō, Dagelet Is. (Type)
Sex	Tarsus	Tail	Wing	Entire culmen	Date	Loc.

white. tinguishable from the former by the paler colour of the body, and by the abdomen and under tail-coverts almost resembles that of females of C. sinica kawarahiba from Japan and C. sinica ussuriensis from Corea, but dis-The single female examined by us is of smaller dimensions than the males, the general colouration much It differs from the latter by the larger size, and by the absence of any yellowish tinge on the under

patch on remiges less bright. In general colouration it is much nearer to the latter than to the former or C. sinica The male differs from that of the latter subspecies by the decidely larger dimensions of body and by the yellow Remarks.—The new form is obviously intermediate between C. sinica kawarahiba and C. sinica ussuriensis.

28,1906, but it probably belongs to the new form. Clark (l, c.) mentioned that C. s. ussurianus (error) [ussuriensis] Hartert was very common on Matsushima, July minor. The last two forms—kawarahiba and minor—are much darker than the new form as well as ussuriensis.

The subspecific name is given in honour of Mr. Austin H. Clark

# 長門佐々並地方の鳥類の初鳴期「渡り」及び蕃殖に就て

兼常 常 彌

富

長門阿武郡佐々並村地方に於ける鳥類に關し余が調査の結果を報ずべし。

## 初鳴期

# ウグヒスの初鳴 期

同三十九年二月二十八日	同 三十八年三月九日	同 三十七年三月七日	同 三十六年二月二十七日	同 三十五年二月二十二日	明治三十四年三月十四日
晴	晴	晴	快	晴	晴
			晴	暖	暖
同	同	同	同	同	同
四十五年三月五 日	四十四年三月十二日	四十三年三月八 日	四十二年二月二十五日	四十一年三月五日	四十年三月十三日
H <sup>li</sup>	快	附	腈	快	睛

晴

睛

同三年三月十日	大正二年二月二十八日
H <sub>U</sub>	
同七年	同六年

华 Jj \_1.a

作

月

- [ --

八

年

FJ

--

腈 

月

儿

- | -

暗髪生あ Ti-あ

#### ŀ ŀ ギ ス Ø 初 鳴 期

ホ

十一月下旬乃至十二月上旬暖

かき小春の頃微塵にて鳴く。

一治三十六年五月二十三日 三十七年 + =

同 干八年五 **月**二十 ji.

-|-九年 4F H. *1*1. 月 十六 --八

同 [/[ -------年五. 一年五 月二十三日 月 + П

几 干三年五月二十 七日

> 同 - | ^ įψ 年 Л \_\_\_ - | ~

同 [][ -|-|/i. 作 Ŧi. ]] -1.

同 年 五月二十 大

正二年

Ĵί.

11

1-1-

JL

同 JE. H -[• 八

同 作 Zi. - | ~ [4]  $\prod$ 

年

汽

月

-作 Ŧi. П - |--

九月十二日以後に於て鳴聲を聞きたるここなし、五月乃至六月・七月頃鳴聲最も甚だしく、 晝夜の別なく鳴聲を放つ。

#### ク ワクコ ゥ の 初 咱 期

治三十九年五 月 + 七 E

同 + 年 月

同 [][] + 一年五月二十三日

> 同 DU 十二年 Ħ. H + П

同 四十 四十三年 加 年五 月二十 Ti.

同

月三

+

П

大 明 治 Œ 四 + 年 五. 年六 Ŧi. 月二十 月 七 B

同 Ξ 年 *I*i. 月二十 目

四 年 Ŧi. 月 -八

九月下旬頃迄鳴聲を聞く、 梅雨中殊に鳴聲甚だし。 E

渡 9

#### ッ 18 × 0 渡 來 期

明治三十二年三月二十 日

同 同 三十四年三月 三十三年三月二十二日 十八八 B

同 三十五年三月 + 六 E

同 三十六年三月 二十 Е

同 三十七年三月二十二日

同 三十八年三月二十五 E

同 三十九年三月 + 八 B

同 四十年三月二十六 B

四十一年三月二十二日

上は最初目撃したる日を記したるもの 同 几 十二年三月十七

以

同 [][ 十三年三月 + ル

同

四

+

四年三月二十二日

大 间 Œ \_ -五 年三月二十 年三月十八日 B

年三月二十

Ŧi. 年 三月 -|-八 E

同

四

年

月二十

同 七 六 年 三月二 月二十 -|-Ħ. E

年 三月 + 七 日

同

同 Ŧī. 年 六 月 \_\_ 日

同 同 七 六 年 年 Ŧī. 六 月 二十 月 ナレ 七 日 B

シアカツバメの「渡り」は前種に比し数日後れて來るもの、如く、 去馴に際しても前種より後れて去る様なり。

蕃

殖

#### ゥ グ ۲ ス 0 番 殖

治三十四年五月二十二日 **巣立後間もなき雛を見る。** 

同 三十五年五月二十二日 巢立後間 もなき雛六羽を見る。

 $[\vec{n}]$ 三十六年五月二十三日 **巣立後間もなき雛を見る。** 

[n]三十九年四 月二十三日 災發見, 四卵あ 6 五月十二日継三なり居たり。五月二十二日集立ちす。

同 四 7 华 Ė. 月 十八八 В 雛を見る。

同 十二年 *1*i. 月 ---П 同 10

几 | 一四年五月二十五 B 同 E

作

Ŧi.

月二

B

大正二 同 年 四 月二 -[--|--1 災を發見二卵 雛を見る。 あ 47

同 Ŧi. 年 Ŧi. 月 -[-六 雛を見る。

同 六 华 Ŧi. 月 -E 同 占

同 七 年 月 Ξ E **巢發見、地** Ŀ. 二尺五寸 の高 所にあり、 聊 [1] 個

前記の例に徴するに蕃殖期 は 几 月下旬乃至八月中旬頃迄こ見るを得べし。

#### # セ # レ 1 0 蕃 殖

治三十九年六月二十一日 瓦屋根へ構築するを見る。

几 -|-年六月二 日 築中に卵四個あり、 石垣間。

同

四十四年五 月 十八八 日 同卵五個あり、 瓦屋根。

大 正二 年 Ŧi. 月 十二日 雛四羽巢中にあり、 瓦屋根、

同 M 年 六 月 t H 雛居たり、 草屋根の室所。

同 六 年 Ŧī. 月二十 雛五羽居たり、 瓦屋根。

同 七 年 Ħ. 月二十二 日 孵化後約五日の雛五羽居たり、 瓦屋根の間。

同

年

八

月

E

瓦屋根に營巢せるを發見し檢するに孵化後十日斗りの雛

くより、 り思ふに炎熱甚だしき為めに死せるものならん、 頻りに鳴きながら守る様子、然れごも遂に之れも死し、 翌日地上に落ち居たり。

親鳥は残れる一羽が巣を出で、屋根の上を、

飛び歩

一羽居れり、

翌々日檢したるに二羽死し居た

同 年 四 月 + 日 瓦屋根に營巢を始む。

#### シ ジ フ カ ラ Ø 蕃 殖

明治三十三年四 月 + 六 H 庭園内梨樹の空洞に營巣を始む、 四羽。

同 三十五年四 月 + П 前年の空洞へ營巢を始む。

同 三十六年 Ŧĩ. 月 八 日 原野栗樹の空洞へ營巢し居れ 9

同 三十 七 年 四 月 -|-H 庭園内梨樹の高所へ、曾て山雀の構築せしここある、空洞を吊し置きたるものへ、鶯葉し始む。

三十八年四 月 + 七 日 同上の吊したるものへ營菓を始む。

同 同 四 三十九年 十年四月二十二 四 月 -[-Ŧi. B 庭園内梨樹の空洞へ營巢を始む。 同 上の吊したる空洞へ營巢を開始す。

同 几 十一年四 月二十 梨樹へ吊したる空洞へ營巢を始む。

同 兀 十二年四月七 日 同上の空洞へ營巢を爲すを見る。

同 四十四年四月五 日 同上營集を始む。

大正三年四月二十七日。同上へ管巢するを見る。

同五年四月十七日同上へ營集するを見る。

同六年五月八日同上へ營巣するを見る。

同 七年五月十二日 同一上

八 年三月 ----Ŧi. 同上 の空洞を表庭の櫻の 未に吊したるものへ管葉を始む

同年四月二十五日検するに八卵あり。

同一年四月二十六日 山地栗の空洞に發見せるものは九卵あり。

附 言 H の条 洞は毎年營菓雛の菓立せる後、中の菓を除き置きたり以 上の 例に微するに殆んど毎年此人工に吊した (i) (i) (i) 人管築せり

### ヤマガラの蕃殖

明治三十四年三月二十四日 樫の空洞(地上十二尺)へ營菓を始む。

-[-六 年 Ŧi. FJ 七  $\Pi$ 原野栗の空洞にて巣を發見す、 孵化後 調 置 位 の雛 Hi. 羽 居

同

同年五月八日原野栗の空洞へ營巣中のものを發見す。

## オホルリの蕃殖

治 -1-[][] 华六 月 F 巢發見、 土の 堀 0 小 口 孵 化 後 約 -|-E 位. 0) 왧 fi. 11 雄 此 居たり

同 三十六年六月三十日 菓發見、土の堀り小口、四卵あり。

同 手 八 月 -[ • 土の掘り小口にて巣を發見す、 孵化後 約十日位なる雛五羽居たり 内 雄 雌

同 八年五月二十二日 巢發見、 驯 個 あり、 **巢は炭焼の小屋の内に吊されたる、** 湯沸 しの蓋の上。

同 三十 九年六 月 十二二 日 巢發見、 構巢中、 巢は炭焼小屋の外壁、 笹を立て列ねたる側

0)

pŋ

所

同 四十二年六月二十日 巢發見、 土の掘り小口、 孵化後約五日位の雛 三羽居たり。

### コゲラの蕃殖

明治三十 Д 年 四 月 八 日 巢發見、 柏の枯木へ構巢中、 五月十日檢す卵 五. 個 あり。

同四十二年四月十八日 巢發見、雜木の枯木へ構巢す、卵三個あり。

大正八年三月二十七日 梨の枯木へ構築すべく、穴を穿ち始む、

同年四月十二日殆んど完成す。

附記 此地方に産するものは恐らくキウシウコゲラならん(黒田記す)。

## ホホジロの蕃殖

明治三十五年五月十八日 原野の樽の山樹に營巢を始む。

同年五月二十二日 田畦畔の繁れる小樹に營巣を始む。

三十六年五月二十五日 巣立せる雛を見る。

同

同 十七年六月三 日 原野の松の枝に營巣し居るを見る卵五個あり。

同 三十九年五月二十二日 巢發見す、松の枝にあり雛三羽居たり。

同 大 正六 年 华 六 月 十八八  $\Box$ H 原野小松の枝に營巢せるを發見、雛四羽居たり 原野ウツギの株間に營巢せるを見る、 雛三羽居たり。

同 年 七 月 十 二 日 原野小松の枝に營菓せるを發見、卵四個あり。

### カケスの萎殖

大 明 治三 IF. 七 十三年四 年 Ъí. 月二十八日 月 + H 森林中 巢立せる雛を見る。 の椎の約一丈餘の高所に營巢せるを見る、 卵 氕 個あり。

同 年五月三十一日 同 上。

同 作 /5 П \_ - [-E 杉(0) 木に管巣せるを發見、 地上約二天餘、 孵化後約五日の離五刊居たり

#### 3 I /\ vj ク の 蕃 殖

明治四 十二年五 -1-空家の 天上の上に營巣せるを發見、雛三 利居たり。

Œ. Ξî. ji. 月二十 あり

#### × :: 0 蕃 殖

治三十四年五月二十八日 樽の枝(地上二丈餘)に營菓せるを見る、

<u>-</u>-[-Ji. 纤孔 月---日 樫の枝(地上約一丈餘)に構築せるを發見

#### 工 ナ ガ Ø 蕃 殖

明治三十七年四月二十一 日 雑木の枝に營菓す、卵あり。

-[-年 日 杉の枝に營菓せるを發見す。

十二年四 月十 Ä 杉の枝に營巢中を見る。

 $[\tilde{n}]$ 年 [][ 月二 十六 E 松の枝に營巢せるを見る。

大 正三年 Ŧi. 月二十二日 雑木に營巢せるを見る、雛あり。

#### ス ズ × の 蕃 殖

明治四 -|-DU 年 Ŧi. 月三 E 瓦屋根の間へ營巢を始む。

大 正二年 年 71 月 月 --H B 同上營業せるを見る。 同 上營築せるを見る。

-1: 年 几 月二 -[-七 日 同上營菓せるを見る。

#### ツ 1s × の 蕃 殖

明治三十二年三月二十七日 構築を始む、五個産卵。

> 大 il: [/L] H - | ~ 八 П 東立せる跳を見る。

[ii]

Ŧi.

íF.

Ξi.

]]

- [ -

菓立せる雛の集り居るを見る。

六 年 Ξi. H 集立せる雛の集り止まれるを見る

同 L 年 Л -- -F 雑木に管菓せるを見る卵

三個あり

间 华 Ŧi. Ħ - [ -75 [ii]上營集せるを見る

八 年 Ii. IJ Ŧi. 日 築立せる雛を見る。 上營巣せる巣を見る卵

 $\vec{n}$ 

年

Ŧi.

月一

---

JL

[ii]

個 ありつ

直 十三三 年 月 -|-B 構巣を始め四個産卵三個孵化す。

同 三十四年四月三日 營菓を始め四個産卵

同 三十五年四月五日 營巢を始め五個産卵。

同 三十六年四月十二日。營菓を始め三個産卵

同 三十七年四月十五日 營築を始め五個産卵。

同 三十八年四月八日 營巢を始め六個産卵。

四  $\equiv$ -|----年 ル 四 年 月 几 + 月 Ŧi. E B 營巣を始め六個産卵。 營菓を始め Ť. 個 產卵

同 四十一年五月七日 營菓を始め五個産卵。

| 四十二年四月二十三日 | 營菓を始め五個産卵。

同 四十三年六月二十日 營菓を始め四個産卵。(二番仔な

らん)

同 四十四年四月十八日 營菓を始め五個産卵。(内一個孵

右は一部落内に於ける最も早きものにより調査せしものなり。

### コシアカツバメの薔殖

本種に就きては實驗したるここの手記なきも、 八月下旬頃育雛中のもの數多あり。 前種に比し稍後れて、營集するなり、 四月下旬乃至五月上旬頃より、早きものは營

### カハセミの蕃殖

明 大 %治三十 Œ 九年五 年 Ŧi. 月 月 八十八 日 H 同 赤 土の掘り小 上を發見し檢したるに、三卵あり。 Ď にあ る 小さき穴に頻りに出入し居るを見る。

#### 化せず)

同四十五年五月六日 營菓を始め六個産卵

大正二年五月十日 營菓を始め五個産卵

同年五月二十七日 營菓を始め五個

同

年

四

月

Ŧi.

E

營菓を始め

五個產卵

產卯。

個孵

同四年四月十二日 答案を始め四個産卵?(内)

化せず)

同 五年四月二十二日 營菓を始め六個産卵。

同 六 年 五 月 一 日 營巢を始め四個産卵

同七年五月十六日營菓を始め

五個產卵

八年四月七日 營菓を始め五個産卵

同

### ヨタカの蕃殖

全ながらも佐々並地方の鳥類の、初鳴期、「渡り」、落殖の一端を知る事が出來やうご思ふのである 明治四 以上は全が多年日整調査したるここを、一々手簿に記載して置いたものの中から技載したのである、 |十三年六月二十三日 原野羅草の間にあるを發見す、二卵あり。同 [14] -|-|'L| 記載したる事項は極いて不完 上が發見す、一頭 h

# 宮城縣下に於ける二三鳥類の蕃殖期

**谷** 三 郎

熊

多數にして六十種內外あり。されごも盡くを明らかに知るを得ざりし故先づ最も普通に知り得たる數種の鳥類の菩殖期を次に報告せ んごす。 宮城縣の西北部なる岩柳町を中心ごせる平原地域三伊豆沼・長沼附近の湖沼地域に於て觀察し得たる鳥類中落殖するもの は比較的

12714 Leolrychus sinensis (Amelin).

本種の構巢及育雛期は次の如し。

- 大正四年七月 日 迫川畔竹藪中に笹葉にて扁形に造れる巣中帶着白色の卵一顆を藏する巣あり
- (二) 大正五年七月二十九日 一巢中二雛あり巢立未し。

**ታታጎቱ** Eutorides striatus amurensis (Sehrenek)

本種の蕃殖期は次の如し、

- (一) 大正五年五月十二一日 川畔の杉の木の上に樹枝を運搬するを見る、
- 二) 大正五年八月二十四日 田圃にて雛(巢立後)一羽を捕ふ。

# (三) 大正六年八月二十八日 巢立せる雛三羽を見る。

ウグヒス Horeites cantans cantans (T. &. S.)

本種の「囀り」を聞くは三月中旬乃至四月上旬頃にして其の時季の平均温度は六・六一八度なり而して七月下旬乃至八月上旬頃まで其 の「囀り」を聞くを得但し山地域にては八月下旬頃まで「囀り」を聞く

后。		六・六一八		平 均
二 四 〇 元	大正八年八月二 目	○· <u></u> *		大正八年三月十一日
	大正七年七月二十日	五九九		大正七年四月八 日
二 七	大 正 六 年七月二十五日	七六		大正六年四月十 日
10.110	大正五年七月七 日	-0.0		大正五年四月十一日
一九•五〇	大 正 四 年七月二十九日	九八		大正四年四月十三日
平、均	停鳴期	湿度	平均	「煎リ」チ聴キタル日

# カラス類(ハシブトガラス・ハシボソガラスの二種を含む)

此二種の蕃殖期は三月上旬より七月頃迄にして其の期節の平均温度は三・三二五乃至一九・一三度なりき。

		平	大正八年三月九 日 七・七〇 大正七年七月五 日	大正七年三月十一日 一・七〇 大正六年六月二十二日	大正五年四月七 日 二·四五	大正四年三月十 日 一。四五	構築ラ初メタル日 平 均 温 度 青 雛 最 晩 期 平
L'A	AND THE PROPERTY OF THE PROPER		年七月五	年六月二十二			最晚期
	Company of the second s		A CARLO III TO CANTON TO THE				均

り又保温のためにや十万頃羽毛等を葉中に追ぶを見る。 本種の構巣を始むるは二月下旬にして葉中に鑵を見たる最晩は九月上旬なりき、 而して其の氣温は平均ごれ 一乃至一四。六八五度な

大 大 大 大 大 ijĖ Œ. 巢 八 チ 年 年 年 炕 メス IJ IJ 11-八 N H П H 平 14 三、八五 =-一.七〇 一。五五 • 大 六 大 大 育 貀 Œ Œ Œ ΉĒ テ見 八 -[-鉅 45 4: 年八月二十 17 JL 八 八 w IJ IJ 三十 六 晚 Ħ. Щ H 11 П /i. 二五・八〇 - FI 三五元

#### ヒバリ Alanda arrensis japonica T. & 20

平均温度一七・三五度なりき、而して第一期の「囀り」は八月上旬に於て休む。 本種の「囀り」を聞くは二月下旬乃至三月上旬にして其の平均温度三。一八度にして秋季に於て再び「囀り」をきくは十月上旬頃にして

	The state of the s		
一七・岩形		三二八	平均
一次・七〇	大正八年十月九 日	0.40	大正八年三月四 口
べ.00	大正七年十月十一日	四 <u>-</u>	大正七年二月二十六日
		六・四〇	大正六年三月十四日
		○・九○	大正五年三月四 口
		三・八五	大正四年三月七日
平均温度	二期「廳リ」ラ聽キタル日	平均温度	「轉リ」チ聴キタル日

## 本種の營巢及び産卵期は次の如

大正五年四 月 + 七日 構巣中なるあり。

大正六年五月

-|-

完全へる巢あり産卵未し。

五月

+ +

六目 一日

四顆卵を藏す。

同 几 月二十二日 本日より産卵し始む。こ

大正五年五月三十 日日 **構巣中なるあり**。

同 同 六月 六月 = Ŧi. 日 日 三顆卵を蔵す。 産卵し始む。

五

大正八年五

營巢完し。 六顆を算す。

同

Ŧi. 月

月

八

日

同

五.月 五月

九 ti Ξi

E B

三顆卵を算す。

産卵し始む一顆を蔵す。

大正六年五月  $\equiv$ 日 營巢完了せるあり。

同

Ŧi.

月

日

三顆卵を滅す。

同 五月 + 日 二顆加はり五顆を藏す。

右の五例に據れば四月中旬より産卵し始め雛のある巢を見たる最晚例は七月下旬なりき。

### ムクドリ Spodiops in cineraceus (Temm.)

本種の當地方にありて越冬せるものは常に樹洞又は家屋内に棲息しその最も早きは三月上旬乃至中旬頃に至れば構築材料を運ぶを見

#### る m して其の卵及び錐を見たるは次の如し。

大正四年四月十 五. E 卵 顆ある巢あり

Ŧi. 年 年 应 四月二十二日 月 + 七日 三顆卵 類卵あるあり。 あるあり。

同 六年四月二十四日 F 二顆卵あるあり。 雛 あ る一巢あり

> 同 四年 月 + 日 二雛及一顆卵 ある一巣

同 年六月 八 上 二顆卵 雛ある一巢。 ある一巣

七年六月 --*Ŧ*i. H 四鍵 あ るあり。

同

年七月

貂笙

ある一集。

二九五

同 八年六月 十 八日 災立せる錐一羽を捕ふっ

これに據れば四月中旬より七月上旬に至る間に審殖す。蕃殖後には五羽十羽三次第に群をなし七、八月の候にても敷白の群を見るこ

こあり。

コムクドリ Sturnia riolacea (Boddaert).

永種は當地方にありては多からず<br />
質に左の例を知るのみ。

大正四年四月 十 五日 樹洞中一顆卵ある一葉あり。

ホトジロ Emberica civides ciopsis Bonaparte

本種の巣卵を見たるは次の如し。

大正四年五月二十六日 五顆卵ある一葉

大正六年五月二十八日 三顆卵あるあり

セグロセキレイ Motacilla alba grandis Sharpe

本種は當地方に常棲するものにて左の期日に於て葉卵を見たり。

大正五年四月二十七日 答 単中なるあり。

大正四年六月

十五日

巢立に近き五雛ある一巢。

コカハラヒワ Chloris sinica minor (T. & S.

本種の蓄殖期は次の如

大正四年四月二十七日 構築完了せるあり。

大正五年五月二十四日 構築終りたるものあり。

 $\equiv$ 大正八年四月 六 日 構巣始めたるものあり。

> 大正七年七月 十二六日 築上に近き雑三羽あるあい。

大正六年六月 [1] 雛菓立せるを捕ふっ

大正六年六月二十五日 五錐の巣立せるを見る。

大正六年五月二十七日 抱卵中なるものあり。

Fi. 大正七年六月二十二日 大正七年六月 十 万. 口 雛三羽本日巢立せるあり。 集中にて雛の鳴聲す。

子)

(七) 大正四年七月 八 日 雛巢立せる多し、

(九) 大正八年八月 二 十日

雛五羽菓立せるあり。

、(八) 大正七年七月 十 五日 雛(巢立後間もなきもの)一

羽を捕ふ。

これに依れば三月下旬より八月頃までに及ぶ。

カハセミ Al edo ispida bengalenasis Gm

本種の蕃殖期は次の如し。

(一) 大正五年四月二十二日 一顆卵ある一巢あり。

同 年 四月二十六日 巢中卵なし。

=同 年 五月二十六日 雑(巢立に近き)五羽あるあり。

オホョシキリ Acrocephalus arundinaceus orientalis (T. & S.V.

本種の構巣・産卵及育雛期は次の如し。

(一) 大正四年六月 十五日

a. 巢中五顆卵を藏す。

b. 顆卵ある巢あり。

C. 竹籔中に構築を始めたるあり。

大正五年六月 十 二日 五顆卵を滅せるあり。

d.

大正六年六月 Ŧī. 日

一顆卵ある一巢

[ñ] 年 五月三十一日 二顆卵ある一葉あり。

Fi. 大正四年七月 二 H 雛四羽(巣立に近き)ある一巣。

ŕ. 營巣を始めたるあり。

g. 孵化後五日目位の雛三羽ありたる巣。

大正七年六月 十 七日

構巢完了す卵なし。

<u>F</u>. 大正八年六月 十 三日

孵化後四日目位の雛四羽ミ無精卵一顆を藏す

るありっ

二九七

これに據れは五月下旬頃より構築を始め六月に至れば普通に見出さる而して育雛の最晩例は次の如し

大正七年八月 六 日 菓立に近き三羽の雛ある菓あり

(六) 大正六年七月 九 日 菓立せる雛三羽を捕ふ。

これに依れば四月より七月に至る。

キジバト Streytorelia turam orientalis (Latham).

本種の鳴聲をき、たる期目は次の如くにして二月下旬乃至四月上旬なりき、而して十月中旬頃まで鳴聲をきく。

_		_		
			た	
			ıΕ	Control of the Contro
1	9		H.	
1			415	0.000
			大	The state of the s
			Œ	
1	川		六	
Ì	四 日_		年	
			- <b>た</b>	
			Œ	
	月十		-[	-
	八 H		4	
			人	3
	. :		.11	* * 4
	]]		,	
	H		3	ļi.

而して卵及び錐を得たるは四月上旬より十二月上旬に至る間なりき(但し蕃殖期はドバトの場合も含む

('allinula chloropus parrifrons Blyth.

本種の巣卵及び雛を採集せるは次の如し。

(一) 大正六年七月二十九日

巢立せる雛三羽。

(三) 大正六年六月 二十日 四顆卵ある一巣

(二) 大正四年六月二十七日 三顆卵ある一葉。

これに依れば六・七月の候が蕃殖期なり。

及ぶものは極めて少なし、次に最も長期に亘るものは、ハト類の二百五十目内外に及ぶを最ごしスペメの二百日、ツバメの百三十日、 類(キジバト・ドバト) にして十二月上旬に至る。 其の最盛期は四月より七月の候にして大くは此の期間に於て蕃殖を終へ八・九月に カラス類の百二十日之れに次ぎ、オホヨシキリの六十日内外にて終るは最も短き例なりき 以上の諸例に據れば最も早く蕃殖を始むるはスペメにして早くも二月下旬頃より始む、而して最も晩くまで蕃殖を營むものはハト

## ア チバヅクの蓄殖の經過

法 題 上 Ш 口 孫 治 郎

池 村 平 太 郎

の短徑三、五 しに、果して斜上向けに空洞あり、 見込をつけ、 大正八年五月世七日、若松市藤の木字赤嶋なる神社跡に、 廿八日午後 更に其細葉樫の老樹の地上約五間なる太き枝の切断面に、若しや上向きの空洞のあるに非ずや、 三時、木村好郎 ル 、長徑三、六センチメートル。 、同繁敏兩君に案内されて其附近を觀察し、シ井の老樹二本、ホソバガシの老樹 緣より僅に一尺許にして底部に達す。其處に何等の設備なく唯一顆の白色球形の卵を發見す。 フクロウのやうな鳥が夜分頻に來り鳴く、 この報 こ考へ、試に登り験せ 本が鼎立せるに大凡の を得 珂

廿九日午後五時過ぎ觀察、 卵二顆ごなれるを確かむ。登攀の際突如三して親鳥逃け去る。背後の林中に入る。アラバヅクらし。

三十日

兩觀察者共に觀察に行くを得ず。

センチメート

離遠からず殆んご同 は開限し居れごも雄は眠むさうに限を殆んご閉ぢ居るを認む。 褐色に富み、 止し居るを發見す。 かむ。卵を熟察する中、 外の事實なりき。 三十 日午後四 雌は比較的稍大型にして頭背部は色濃く胸腹部の褐白の地合比較的鮮かなるを認む。(「鳥」第七號頁八九參照)而して雌 此實驗の爲梯子を架けし際、其響に依りて巢洞より親鳥飛出で背後の椎の密林に入る。アラハヅクに相違なきを確 |時半、 觀察者樹 ーレンズに收め得べき程度なり。 實驗, 親鳥其隱匿所より飛來つて觀察者を攻擊すべく掠めて翔ける。此時意外にも傍のシ井の老樹の枝に雄親の靜 より下る。 卵三顆ごなれるを確かむ。初め觀察者等は今日は大方四顆ごなり居るなるべしご豫想せしに、 兩親鳥相前後して例の密林に入り、 從つて雌雄の形態を自然のま、に比較觀察するを得。 巢の方向に面して、 互に相近き枝にごまる。 雄は稍小型にして總じて 兩 鳥間 聊か意 の距

觀察者等が集の所在を去り一樹蔭より双眼鏡にて觀室中、十分以内に親鳥歸來久集す

六月一日午後四時、觀察、卵四顆ごなる。

二日同様、乃ち暫く此後の攀登觀察を見合はす。

者等交代して熟察中、雌雄共に交互に攻撃し來れごも、雌よりの攻撃度數梢々滅じ雄よりの攻撃害しく頻繁ごなれるを認む。 如く、單衣を透して内部に擦過傷を負はしむる程度なり。漸く巢に接近するに及び始めて雌親巢内より飛出づるこご例 過するに從ひ雄親の愛情も亦濃厚ごなり自づ三防禦に努むる度合の增し來れるを示すものに非ざるか。此日彼等が觀察者を攻撃し來 に開眼し居るを確かむ。去る三十一日に於ける同雄の眼の殆んご閉ち居たりしに比して態度の稍々異れるを認む。 る何に、 りて其攻撃を制しつ、漸く菓孔に近づくや、雌親急に孔内より脱出し、雌雄交互に攻撃し來る。攻撃より返りて枝にごまれる嫌は 十二日小雨午後五時半梯子を架く。雄親早や隱匿所より飛來つて觀察者を攻撃す。彼等の攻撃は主ごして後趾にて行ばるでもの - 日午後五時、觀察にかゝる。梯子を樹幹に凭らせざも其響に依りて親鳥飛び出づ。 仍て登攀にかゝる。 附近のツバメ集り來りて、チャーチャーご呼びて其附近を掠め翔ける。觀察者去れば、兩親烏鎭靜し、ツバス等亦分散す。 雄親攻撃し来る。小 此事質 の如しっ は抱 卵の經

尺、最早や攻撃し來らず。全く降れば兩親烏背後の密林の枝にごまり、雌は羽蟲をごりつくあり。 の攻撃を牽制 四顆依然たり。但し、 + 十七日午後五時半、 八日午後五時半、 す。依然こして卵 今日は或は孵化し居らずやご多少期待しつ、登り驗す。樹下にては細竿の先きに手巾を着けて之を揮つて親島 幹の半はを登る頃、雄親攻撃し來るここ早や二回。次で雌親巢より飛出で、交互に觀察者を攻撃す。巢内の卵 卵の表面汚れて斑狀
こなる。
之は
巢底の
朽木の
細末粉の
附着せしものなり。 雌雄共に明に開眼し居るを認む。 觀察終りて降り始むるこご僅に元

九日午後五時、池村のみ觀察に行く。異狀なし、

引返すまでに緩和さる、に至れり。漸次に觀察者に敵意を抱くここの滅じたるもの、如し。 。日午後五時二十分共に觀察,矢張卵のまくなり。親鳥の攻撃あれごも其度合著しからず。下より發聲牽制せば攻撃の中途より

廿一日細雨午後四時半、川口のみ觀察に行く。異狀なし。

餌食を運び來り他の一羽に與ふるを認めしが、昨夕の如きは巢孔内に入りて、與ふるやうにて、與へ終りて巢孔の縁より直下に降り 午後 Ŧi. 時 半共に觀察す。 尙は卵のまっなり。 木村(繁敏)が四五日前より心付きしごころに依れば、夜に入りて一羽が何物か

て後、斜に地上數尺の空を掠めて飛ぶを見しこあり。

廿三日午後四時半過池村のみ觀察に行く。未だ孵化せず。

活に動く兩木村等之を排へんごして石孔内に逸せしめたりごいふ。雄鳥の携帶運搬力の一斑を推すに足る。此日尚ほ卵のまてなり。 11 # 五日午後四時半登り檢す。幹を敲けごも尚ほ雌親出です。漸く怪みつ、巣の側壁部を設く。 JU [日共に赴く。到着に先だつ數分、雄親東方よりへビを銜へ來りて巢の所在の近傍に落す。長さ二尺餘にして墜落に怯るまず敏 始めて飛出づっ 或は既に孵化せしか

ご一同 の期待に反して依然卵なり。 此日雄親毫も攻撃し來らず雌親亦然り

初 化するならむかご豫察しるたるに、 め觀察者等は此鳥の體軀の割合其他の事情を考慮して、之を他の鳥についての經驗に徵して、 今や世四日を經たる今日尚ほ何等變化を認むるを得す。 此鳥は抱卵後十七八日位にして孵

鉛色、 顆には異狀なし。去る六月一日抱卵にかゝりし後満廿五日にして孵化し始めしを確かむ。斯日親鳥共の觀察者に對する攻撃の鈍のし - 六日午後五時四十分,川口のみ木村(繁嶽) 三觀察にかヽる。三顆始めて孵化し居るを發見す。白色の綿毛4々~~こ立つ。嘴は < 蠟膜は黄色、 雌親が根氣强く抱卵を續け居る以上は、別に懸念する必要なきに拘らず、聊か氣遣はしけに感ぜしめらるでに至れ 眼は閉ぢたるま、瞼の邊黑み勝なりピィノーミ微かに鳴く。孵化ぜし殼片は巢内に存せず。又未だ孵化せざる二

に横 廿七日午後 はる。 孵化後程經ざるものらし 三時半過ぎ共に觀察す。 親鳥一 但し卵殼なし。殘りの一顆尚 回も攻撃し來らする 雞 は孵化せず 一羽こなる。 其 一は総毛尚ほ濕氣を帯びて他の二錐 の側に力無げ

八日午後共に觀察す。親鳥の攻撃唯一回ありしのみ。雄親近傍のシ井の樹にこまりて監視し、雌親容易に巢孔内より出でざるこ

**三例の如し。矢張り三雛一顆のまこなり。** 

比九日午前十時木村のみ觀察す。残りし一顆も遂に孵化せしを確かむ。

にトゲアリ出入して、錐の糞を運べるを認む。雄親のみ觀察者に攻撃し來る、 七月四 日午後四時 雨中觀 雌親濡れて飛翔常の如くならず。菓孔を出で、斜に下りつ、飛去る 斯川一雛の み開眼せん。東内

六日午前十時木村巢底にタガメの前翅の片を見出す、哺育材料の残片なるべし、

長幼の差著し。巣孔内生臭さし。甲蟲の肢の破片一つ、雛の側に在り。雛の糞は稀に巣内に存す。多くは親鳥の持去るものらし。親 出でし為、 4-後四 時三十 雛共不規則に散在し、細く開眼し、五十秒餘を經て漸く半ば開眼す。最長雛は翼の羽軸生じたれご最幼雛は唯綿毛のみ。 分相共に觀察す。 異狀なし。雌親例に依つて容易に出です。觀察者葉絲に手をかくるに至つて飛出 親島の急に飛

鳥等が觀察者に對する攻撃著しく鈍ぶし。

糞 プチープチュー
言鳴らし、
互に押合ひつ
を逡巡して隅に寄らん
こす。
全體羽毛葡萄色を呈し、 其者の住所に至り、事情を諭して、 持主木村竹吉氏も深く憂慮せられ、咋夜さる造船所の職工某窈に雛を取出し飼養し居れる由を探知し、即ち觀察者二人と同道して、 + 九日午後四時半共に觀察に赴く。 個あり、 Ħ 午後 五時四十分共に觀察す。 蝸牛狀に渦巻き、大さ大豆の稍々小さく且つ押潰せし程度のものなり。褐色部ミ黑色部ミあり。尚ほ巢孔内には、チッ 巢内 各雛共に明に開眼し、ポッーポッーに響く小聲を發す。更に觀察者の顏 再び全四錐を盡く返さしむるこここなし、 一雛を留めず、一同痛く打撃を感す。本觀察開始以來、了解ある援助を密せら 斯夜木村氏の手にて無事集内に復歸せしめたり 周圍の黑褐色に對して著しく目立たす の接近するを嫌ひて嘴を れつこありし

十二日午後五時川口のみ觀察す。カハホリ類の足一本、アブラムシの翅の如き片一つ。

の一種なごの破片あり。餌食の一部なるべし、

チセミ、

カミキリ

ムシ

頻繁に出入するを認む。午後八時迄二十分間に十八囘運餌す。多くは飛翔せる小昆蟲なり。其中タガメの飛べるを捕へて一旦枝にご --应 。日午後七時四十分、兩觀察者は月明の夜を徹して觀察すべく定地位に就く。此時刻は其夜の給餌の開始期なるが故に、極めて

まりて之を痛めて後に巣に運ぶを認む。其後暫く運餌を休む。唯一回低くフルーウミ鳴く。

同 (十時十分、世分、廿三分、同十一時二十分(此時月極めて朗なり)、五十分、五十五分、巢に通ふ。斯くて十五日に移る 午後八時三十五分、月、東の方、山の端に現はる。九時五分親鳥再び運餌を始む。同世分、卅分、三十五分、五十分,五十五分、

洞内にて雛の震え聲す。三分を經て飛び出づ。斯く長く巢内に留るは稀にして、出入は概ね短く、通常は入りて後長くこも一分以内 午前○時世五分入巢す。頓がて縁に出で、こまる、 雄來りて餌を渡す。程なく共に去る。四十分、 何物か稍々大なる物を運び入る

時四分運び入る。同十分餌を銜へずして入る。一分を經て出で其後出入絕の。

に出づ。四十五分、入りて出づ。

一時世分、三十分、出入す。夜氣冷たく濕氣の泌み渡れるを覺る。四十五分、五十五分出入す。

三時二十分來り遊ぶ。全く給餌の働をなさず。

物かを含み出す。四十七八分頃より著しく頻繁ごなり五十四分に至る間、專ら池村の觀測にて十七囘を數ふ。五十五分に至つてチー 世四分低くホイノー三四聲、三十分、三十一分、三十二分、入りて程なく出づ。終りの二囘こも巢内にて雛の鳴く聲す。三十五分何 著しく冷氣を感じ四顧漸く曉の近づきしを覺ゆ。四時十分なり。親鳥尚ほ少しも働かす。同廿三分入巢、例に依つて程なく出づ。

廿二日午前九時川口のみ觀察す。雛共の型に頭を搖かしてギチハーこ嘴を鳴らす。

セミ鳴き始む。此頃は早や親鳥共巢に全く通はず

廿三日共に觀察に赴く。稍々後れて午後八時半より九時迄附近を靜察す。夜は暗く親鳥の 行動

近く枝上に靜止せる他の二錐を見出す。胸部の斑粗にて且つ褐色淡く、頭背部窓じて親鳥よりも葡萄色を帶ぶ。 +1: 则 日午前 七時四十分觀察、親鳥攻撃し來る。巢内に二雛のみ留る。仍て親鳥の常に隱匿所こせるシ井の密林を觀察して、雄親に

即ち本例は廿三日より巢立を始めしものらし。即ち去六月廿六日始めて孵化してより満廿七日を經しを知る。 木村の實見にては、昨午後○時半頃一雛が附近の櫻の樹に出でてこまれるを見出し、近常りしに、手を觸れしめず飛去れりこいふ。

めらる。 *,* ; タ羽打ちするここ多し。熟視するに一の親島は既に集立せし兩難に哺し、他の一の親島は専ら集内なる兩難に哺するもの、如く認 午巻の觀察を木村に託す。二雛翁忌巢内に在り。旣に巢を出でし他の三難も夕方に至つて巢の縁に去來す。こまり方拙くしてバタ 癿 ・項木村繁敏の觀

忌むもの、如し 力を増して稍々遠く移りしが、附近に見當らず。葉に登り驗せしに、二雛尙ほ在り。左右に頭を搖かすここ例の如く觀察者の接近を 五日池村微恙入院せし為、 此時親烏一四も攻撃し來らす。 川口のみ觀察に赴く。午前七時三十六分、シ非の林に雌親のみごまれるを見出す 集立せし無共飛翔

巧みこなれるを認 午後四時木村のみ登り贈す。親鳥攻撃し來る。巢内の兩雛に異狀を認めず。夕方以後に旣出の雛共巢の近傍に出現す。飛翔漸次に

[]]] かせず。 北六日 午前七時五十分觀察、 銷售 羽のみ葉内に残れり。椎の林を觀察するに、雌親及び二錐を見出す。他の 一組及び雄組の 所在分

るを認む。 午後五時觀察、巢内空しくなれるを認む。夜禽なれご晝間にても巢立するものなるを知る。木村、此夕方親子六羽相変りて飛翔す

接近する觀察者をば親鳥が、何の動機に依つて攻撃せしか、分明ならず。或は二ヶ月に亙る過去の隋勢か。親鳥類に低くフルト、 ルーご嘯く 廿七月午後七時半觀察にかくる。四境閑靜なり。念の為に登り驗す。親鳥一囘攻撃し來る 但し集内を覗くに勿論室し。 此空巣に

りしに、今日迄少しも此々での網を破らず、常に避けつ、ありしは注意に値す。 葉を距る六七間なるシ井の枝間に夕蜘蛛が廣く網を張れるあり。其附近を産卵以後殊に孵化以後、 親鳥共盛に縦横に飛翔しつ、あ

午後八時頃まで兩親ご共に四維林間より出現し、賑かに古巢所在の木立を中心ごして飛翔するを認む

因に云、 本實驗の前年即ち大正七年初夏にも此附近に築くひしにや每夜盛に徘徊し、 夕凉みの人々の中に肩を掻かれし者もありた

や否や、體を起して趾を以て餌食を攫むものなるを、本觀察中、心付くに至れり。 彼が餌食の處分につき巧に其趾を使用すること(「鳥」第七號參照)は勿論、餌食の捕獲にも、餌食を狙つて飛び行き、之に接近する 實驗に徵するに、飛驒のアラバヅクよりも人を憚る度合の薄きは確なり。聊か意外の感なきに非ず。

# 孵卵器で 駐鳥の 卵孵化

て置く
三、六週間で
巧く
孵化した、
錐は沙漠で自然に生れたもの
三同様に
至極丈夫である
さうだ。
(本年十一月十六日
萬朝報による) 看守はこれを州立農業大學の鳥類科に相談する三大學では早速一つの孵卵器に駝鳥の卵だけを入れ、駝鳥の體温三同じ温度を保たせ の加減が非常にむづかしく、他の卵には冷くても、駝鳥の卵には熱過ぎるこ云つたやうな譯で、ごうしても成功しなかつた、其處で 米國マデソン動物園の看守は、駝鳥の卵を孵化しやうごして、他の小さい卵ご一緒に孵卵器の中に入れた、所が孵卵器の中の温度

を接手する事が出來た其中必要な點とを摘錄する三次

0)

辿



#### 日本産ガラ ン テ ウ の種名に 就

-1: 内 Ш 清 之 助

から ものなるかは不明であつた所が近年臺灣で捕獲 erispus Bruch であつた (臺南博物館所藏)及朝鮮で捕獲せられた一標本 八九頁參照 時 リカン(ガランテウ)が本邦に稀 を黑田理學士が調査せられた所に依 々記録が残つてるて確實に知 (動物學雜誌第二十八卷一八二頁及同 れてゐたが果して何種類 に渡來するこごあ るご何 3 (李王職 れも えし t: るは古 博物 標 您 本

から同 てるた所同氏の好意に依つて今回弦に掲けた寫真及詳細の記載 標本になつてゐる三云ふ事を聞 尔は今春沖繩旅 縣下で昨 年 行の途鹿兒島に立寄った際縣廳の濱田 羽 0) IJ カ いたので其詳細を知りたく思つ ンが捕獲され目下志布 德次氏

> ま) がい川 [.]

深集月

50

常地 初旬

1)

il:

八三打米

採 集 地 鹿兒島縣囎唹郡 志布志町字安樂安



ラン -)1"

鹿兒島縣下にて獲られし

上旬去る

()

1.

1-

1-

4i

11

征 抽 0) 14 报 伽 -3 11

門中多數

定 體重 階長 0 小 蝦 尺二寸五分 あり 買 JL たり 17 目 質の 尾 k 全長左右各四 污 尺 -1-載到 ナ長 缺ノ

測

## 足長六寸趾長四一寸

尾羽の數 二十一枚 先端二十三寸淡黑色なり

石の記載及寫真に依るご

一、翼長一尺二寸五分なること

二、上嘴羽毛の生え際は凹狀なること

三、尾羽二十二枚なるこご(無論一枚は脱落せるものなるべ

L

四、上嘴側面に顯著なる斑點なきこご

邦に渡來せるものは此種類こ見て差支なからうこ思ふ。 ル州の三標本が何れも同一種類であるここから考へる三從來本 ル州の三標本が何れも同一種類であるここから考へる三從來本 が明瞭である即是等の諸點から考へて本種は前二標本三同じく

## ヤマドリの尾羽に就て

能谷三郎

告せんこす、材料は陸前・陸中國産の Graphophesianus semm rri-告せんこす、材料は陸前・陸中國産の Graphophesianus semm rri-nyi seintillans Gould なり。

尾羽の長さご節

の長さの平均を調査したるに次表を得たり。
を乃至一寸三分内外なり、而して其の長さご節の數及其の一節の長さの一寸三分内外なり、而して其の長さご節の數及其の一節の長さの平均を調査した。

0,01九	C,二五	〇二八一弱	三二五五	Cr:100	1三 11次 01100	<u>=</u>
gara - magana		C、一九四强	TO ME		X	X
0,01六	Q 元	C、10三弱	===	〇二八强	一一四〇	=
○、○七五	0、七五	C二六五	一六五	()1回()	1/20	
0,040	の光三	C、一七七弱	一、五九	〇、二四七弱	17111	九
() 五四	0/四川	C、一九四弱	五五五	0、二四八弱	一九九八	75
C'Olill	O III	C、三三六强	一会	0、三六八强	一 元紀	-납_
フ	全長ノ差	ノ節ノ 長平均	段短	ノ節ノ平均	最長	節ノ敷

×最長と思けるるものを得ず

次に節の數は余が調査し得たる二百四十六個の材料にては七至十節あるものにして七寸五分乃至四寸三分の差あり。さは之に反して短(平均上)し而して其の長短の差の大さは八乃さは之に反して短(平均上)し而して萬多く、節三節三の間の長

乃至十三の節ありき即ち次表の如し

斑紋なり 雌の雄變せるもの せず、最も普通なるは竹節狀 的差違を認めら 彩の濃淡、 互に生ぜしもの く斑紋の混雑せるものもあり 本種の尾羽の斑紋は同一 斑紋の形狀、 70, (B圏) あり又は (黒田理學士の判別による)の尾羽 而して其の節の形狀に就ても 多少、 地方に産せしものにても色 (A圖) にして稀には変 大き等にありては各個 尙 (C圖) に示せし如  $\widehat{\mathbf{D}}$ 圖 E 示せるは 定 0)

余の調査に依れば竹節狀の中にても細別せば次の

如

L

A1 A2 A3 A-

第四十五周

ヤマドリン尼羽の變異な示す

如し、

は各個的變異にし

て分類上何等値なきものこ

類 雜 記

籾 Щ 德 太 鄎

ラナガフクロウの新分布

地

以上 黒色の細點栗色部に散在せるもの 趾 (A1) 一の型別ご其の割合は次表の如し 0) 2 IE. (A4) 1は (A2) (A3)より更に斑點少なきか又は缺くA5) 斑紋密なるもの (A3) 斑 點は少なく痕

A 型 この調査に依れば普 D В C 别 5 4 3 2 1 通 のヤマドリの 數 七九 六 四 尾 羽 の節 の斑 紋並 六〇・七六 に形狀

第四十七圖 グロウ腹面

第四十六圖 ナガフクロウ背面

(北 丁 墙 産)

三〇九

ラナガフクロウ Suruia ulula pallasi But.

は邦領内にては稀

るを『樺太動物調査報告』中に掲げられしが(同書四八頁及びるを『樺太動物調査報告』中に掲げられしが(同書四八頁及び に今回偶々北手島幌筵島産。大正九年二月十五日採集)の一標品 を検するを得たれは弦に掲ぐる事させり。標本は性不明なれご を検するを得たれは弦に掲ぐる事させり。標本は性不明なれご を検するを得たれは弦に掲ぐる事させり。標本は性不明なれご を検するを得たれは弦に掲ぐる事させり。標本は性不明なれご を検するを得たれは弦に掲ぐる事させり。標本は性不明なれご としている。

斑を有する事挿圖の如し、 品の採集者に從ふ時 ものなり。 通じ其下方に接し幅廣き淡色帶を認む、後胸部以下の下面に應 上面の暗色部 今回の標品 嘴条一八·五、 育合線 尚該圖のものは虹彩を黄色に畫きあれごも今回の標 は稍淡色、 は『樺太動物調查報告』 は淡褐色なりご謂ふ 二四·五、翼二三三、尾一六七、跗蹠二〇·五粍。 前胸部に不明瞭にして幅狹き暗色帶を 此等は總て該周版より一 の圖版に比する時 層判然たる は體の

## (二) 朝鮮産フクロウは何れの亞種歟

れし事に對して「若し正しごせばその學名は恐らく Syndian war 鎌中には掲げられず只同書滿洲鳥類目錄に下レッサー氏の云は 由を記されしも黑田理學士高著。鮮滿鳥類一斑。附錄朝鮮鳥類目 ドレッサー氏は朝鮮及び滿洲に Stric undensis Pall. を産する

> み lense nikolskia Buturlin、を以て示すべきものなるべし ては北部本州産の 1) 今回朝鮮産の ア東南部及び樺太島に産する種類なりこご附記せられし フク É 0) IJ 類を入手し此れを愉せしに色彩に於 フ D 17 (後者はシ



或は此地方産のもの、總でがか、る傾向(淡色にして翼短かきに過ぎず、即ち翼長にありては寧ろエゾフクロウに近き觀あり、iou. milai/hili/But.)に比し翼短かくして二九五――三一八粍ある、iou. milai/kili/But.)に比し翼短かくして二九五――三一八粍ある。

――三五○粍に達す。 遺憾ごなす。因にキタフクロウにありてば翼長大にして三三○遺憾ごなす。因にキタフクロウにありてば翼長大にして三三○認むるも目下標本に乏しきを以て遽かに此れを斷定し得ざるを事)を具有するものこせば新亞種こして分つべき價値を充分に

に據る)
朝鮮産フクロウ類三標品各部の測定を左に掲ぐ(總で乾標本

2 2	70 山	千 <b>宿</b> 副 田 謡	听藏
1318	1317	4525	番號
. \$.	2	朝 鮮 成鏡道	融油
2		Jan,1920	探集年月會
32	30	33.5	會合線
318	307	mm. 295	選
25).5	215	2.3	1
39	37	41	跗蹠
Ad.	Ad. 拟	Ad.	成幼
3	拟山	干魯町田岡湖	測定者

確考──朝鮮半島に普通に見る無類はクラークフクロウ Sirix aluxo 情考──朝鮮半島に普通に見る無類はクラークフクロウ Sirix aluxo

## (三) ヱゾフクロウの南方分布

見たり。故小川弘太郎氏がシロフクロウを同縣下船橋附近より大正八年)頃日千葉縣下千葉町附近にて採集せられし一標品を事あるは賞で報ぜし處なるが(『鳥』第八號一八三――一八四頁・エゾフクロウ Strice a. japonicus (Clark) は埼玉縣下に迄達するエゾフクロウ

の如し。
の如し。
の如し。
の如し。

## (四) 樺太産シロフクロウの一標品

都下某標本店々頭に總身殆んご純白色を呈せるシロフクロウ



第 四 十 九<sub>二</sub>綱 樺太産シロフクロウ(老鳥?)

デーザ」なるを以て乞ふて其寫真を撮る、該標品は挿圖の如く達にして本年一月中匍獲られしものなりで、餘りに珍らしき「スンyetea Eyetea, L.) の一標品あるを見、其産地を問ひしに樺太真岡

色を詳記すべし。「ステーチ」の邦文記載見當らざるを以て右の標本に就き其羽極めて美しきものにして恐らく老鳥なるべしご信ず、從來かっ

個内辧先端近くに一個を見る(内瓣のものご外瓣先端第一斑ご 二羽は左翼の夫れに比し點斑稍濃色にして且外瓣中軸に添ひ四 切各羽中には或は極めて小なる一點より三點迄を見るも多數な 内外兩點の位置斜角ならずして併置せり。次列風切及び三列風 切第二羽にありては先端より約一五粍程離れたる内外瓣に斜に 外瓣に極めて小、 翼々角の一翻に一小褐黑點あり(二×一粍)。同小雨覆二翻に帶 色を混 ては唯一

アは唯一

アは唯一

アは唯一

アの

のの

のの

のの

では

でる

一小

いい

を有す

。

左翼

が

列風 褐色なる各一小點を見る、一は内瓣先端近くに、 ては二――三開の内瓣先端近くに極めて微かに此れを見る。右 るもの程其色淡くして淡「セピア」色を呈す。右翼初列風切第 き一小帶褐部有り。第二羽は第一羽に同じきも點斑は稍淡色且 不整長圓形なる小褐點各 て小なる褐黑點各一個(最大六・五粍)。左側耳羽の同箇所にあり 體各部の羽毛は殆んご純白色にして左の諸部にのみ些しく他 ず、即ち右側耳羽の上側に添へる数開の先端近くに極 兩者は連續し居れるものなり。 個、 同外瓣中軸に添ひて極め 他は内瓣に小 左翼小雨 て輻狹 覆に

にして暗惑色を呈せり。は併刻す)其等は總工左翼初刻風切第二引のものに比し稍濃色

びたる淡 「グローキ」黄色なり。而して該標品各部の長さ次の如びたる淡 「グローキ」黄色なり。而して該標品各部の長さ次の如びたる淡 「グローキ」

を除く)二五・五、中趾の爪三一粍。 - 嘴皋二八・七、會合線約四二、墨三八七/星三一六/跗黨四五/中趾(爪

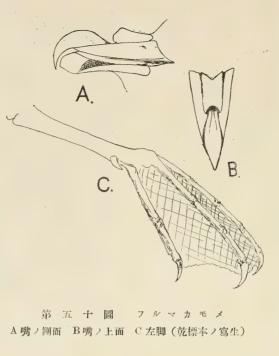
## フルマカモメにつきて

中村正维

モメなる事確定せられたれば左に其の記述を試む、のなるべし腹中より魚鉤の出でしを見れは或は他に死因のありのなるべし腹中より魚鉤の出でしを見れは或は他に死因のあり拾ひ得たり蓋し前日の暴風により所謂北海怒濤の厄に逢ひしも去る二月二十七日當地(越後柏崎)の海岸より一海鳥の屍體を去る二月二十七日當地(越後柏崎)の海岸より一海鳥の屍體を

鋸齒狀の板齒あり跗蹠五、〇、中趾長爪共六、五、爪長一、二而しの管鼻を有し口角より先端まで四、五、嘴峰三、六、口蓋の兩側にの尾長一三、六、尾羽數十四枚にして園形なり、、嘴には此科特徴翼は狹長にして其長二九、四(セ、メ以下同じ)第一風切最長な

色は頭頸部灰黑色、背及雨覆は薄茶色の斑を雜ふ。拾得當時は一關節中趾には二關節外趾には三關節あり遞次其數を增す、體て爪の酸管内側に偏し中趾の爪に於て著し而して其の內趾には



地七八年前に獲たる一完全の標本の保存せらる、ものご比較す確むるを得たり下腹面は破損せし故不明なり然るに幸にして當海水に濕潤せし爲め黑褐色に見へしも乾燥するに從ひ其羽色を

蓋し其の管鼻より來りし誤ならんか。色なるを認め得たり但し其種名にはウミバトご記されありたりるを得たり此種は體の羽色前記のものご能く一致し下腹面は灰

なるものこは黒田氏の新說なり。 領内に産せざるを以て Filmarus glavialis rodu isti Cassin の方正當

M令冬三月の初めに於てコウミス、メ(Simorlaynchus pusilla (Pall.))の漂死體をも二三拾ひ得たり前年ウトウ (Grorhynchus mono-L.))の漂死體をも二三拾ひ得たり前年ウトウ (Grorhynchus mono-L.)の漂死體をも二三拾ひ得たり前年ウトウ (Grorhynchus mono-L.)の漂死體をも二三拾ひ得たり前年ウトウ (Grorhynchus mono-L.)

## リンコンパーク飼養水禽名

在シカゴ 水 野

誠

- ク建物内に掲載せる鳥類の名稱を寫し取り本誌に報告せん考余は一昨年の暮渡米し當シカゴ市に滯在中なるがリンコンバ

1

如し。第五十一圖の水禽檻中の種類なり。へなるも未だ充分の時を得ず。單に水禽名丈けを列記せば左の



Key to Flying Cage.

- 1. Herring Gull (Common on Take Michigan).
- 2. Gannet (North Atlantic coast. Winters from N. Carolina to Gulf of Mexico and on coasts of N. Africa.).
- 3. Snake-bird or Anhinga (Tropical America).
- 4. Double-crested Cormorant (Ecastern N. America. A summer resident in III.).
- 5. European Pelican.
- 6. White Pelican (Temperate N. America, Not an uncommon mis-
- , grant in Illinois).
- 7. Brown Pelican (Atlantic coast of Tropical America).

- 8. Mallard Durk.
- ). Cayuga Black Duck.
- 10. Spotted-Billed Duck
- 11. European Widgeon.
- 12. Baldpate Duck or American Widgeon (N. America).
- 13. Japanese Teal.
- 14. Green-ringed Teal(Whole of N. America. A common migrant
- 5. Blue-xinged Teal.

in Illinois).

- 16. Cinnamon Teal(N.& S. America).
- 17. Chestnut-breasted Trail
- 18. Kuddy Sheldrake.
- 19. Ayyptian Goose.
- 20. Shoreller Duck (N. & Central America).
- 21. Pintail Duck.
- 22. Bahama Duck.
- 23. Wood Duck or Tree Duck (Temperate N. America).
- 24. Mandarin Duck.
- 25. Red-crested Pochard
- 26. Redhead Duck (N. America in general).

- 27. Cancas-back Duck (N. America at large).
- 28: Red-bellied Pochard (S. America, northword to Chili and S. Brazil).
- 29. Ring-necked Duck (N.America).
- 30. Australian Black Duck.
- 31. Upland Goose (S. America).
- 32. Snow Goose (N. America)
- 83. Blue Goose (Eastern N. America).
- 34. Bar-headed Goose.
- 35. White-fronted Goose (Central and N. America).
- 36. Canada Goose (Formerly resident in MississippiValley).
- 37. Black Brant (Summers in Alaska, winters in California and the Gulf States).
- 38. Bernacle Goose
- Black-bellied Tree-duck (Found in the U. S. only in the southern parts of Texas).
- 40. Fulrous Tree-duck (Range-Texas and Louisiana, casually to Kansas and Nevada; winter in Mexico).
- 41. White-/aced Tree-luck (S. America and Africa).
- 42. Semipalmated or Magpie Goose

- 3. Mute or European Swan.
- 44. Black Swan.
- 45. Roseate Spoonbill. (N. and S. America from Texas, Louisiana Florida and Georgia south to Patagonia).
- 46. White Ibis (Tropical America, Sometimes seen in S. III.).
- 47. Scarlet Ibis. (Northern S. America).
- 48. Straw-necked Ibis.
- 49. Great Blue Heron (N. America in general. Common summer resident in III.).
- 50. SnowyHeron or Little Egret (Gulf states. Sometimes strays to
- 51. Louisiana Heron (S. Atlantic and Gulf States).

north after the breeding season).

- Little Dlue Heron (S.Atlantic and Gulf States wanders to north after the breeding season).
- 53. Black-crowned Night Heron (Northern S. America. Breeds in
- 54. Coot (Practically all of North America)
- 55. American Magpie (Western North America cast to the plaines and north to Alaska).

## 荒 木 彥 助

です。世間に普通なれば、都會の人は能く知つて居る。私は其 である。翼の内側は黄色で、嘴三脚は黑く、大きさ鳥ほごの鳥 には羽毛が白粉を多量に分泌するので、稍其色を薄くなすやう 二枚は鮮竈な硫黄色、耳羽に當る邊が淺黄色を呈するも、生殖期 しまいました。幼鳥のためか雄よりも、能く騒ぎ立てる癖があ ち彼よりも一年位の老鳥が、まね得るだけを二週間に記憶して こ、腕白な子供のやうに、餌器の中にある粟を撤き散す事を知 記憶したずけの言語をしやべりますが、若し食べ物をやらない にやります。是は餌で仕込まれたので、其好みの物を見せるこ 五種の言葉こ、口笛こ、鷺の鳴音をまね、又雞の聲も現物同様 所有しますのは、子飼にしたものらしく、尤も能く馴れて、雄は ものでも、一所に寄せますこ、すぐ弱い方をいじめます。私の 雌雄を久しく飼つて見ました。此鳥は動作が快活で、例令異性の 最初の一語を記憶するに困難で一ヶ月費した。しかし其後は忽 つて、人こまらせに惡戯をします。其雌は二年位の時でしたが、 (A)キバタン(黄巴旦) Cuentra galerita 全身が白色で、冠羽の十

()ます。

若し別居させるこ、如何にして一所になろうかこする、一方を 事もわかり、一種の墜を發するのです。是はキバタンこちがつ 理解します、鳥自身でも醛を發すれば、 が、こちらの呼び壁で、何か食物を興へられる事だけは、能く (ラナガダルマインコウも同じ動作をする)此場合には常に様々 もする、朝夕は殊に騒しいが、非常に靜な時も多い、棲木を攫 に、決を上に逆立てまして、恰も花の如くに、次派であります。 放しますれは他方へも、亦た異つたキバタンにも寄りますが、 て大邊に雌雄の睦ましい鳥で、四季を通じて同棲を好みます。 の鳴聲を發します。私の飼養するのは、まだ言語はまねません みながら、前後左右に身を動して、舞踊のやうな擧動をする、 く、異種多樣の聲を發し、鑑で切るやうな、或は叩くやうな鳴方 く心持大きい、是れは高く、低く、優く、强く、大きく、小さ 小さく見えるのに反して、丸味を帶びた頑丈な構造で、脚も黑 翼の内側、尾羽の内面が硫黄色で、嘴は其體がキバタンにゆし 麓た時や、敵を威嚇する場合、又は兩牲互に歡心を得やうこする 羽は平常頭に伏せて、一向そんなのがあるこも見えませんが、 (B)タイハクアウム(大白鸚鵡) Cooling alla 全身は純白で、短 食物をもらへるご云ふ

に同 **嘴を捻つて、いじめる事もあります。互に羽虫を取合つて、强** 決して斯様でありません。雌雄の仲は能くても、時に弱い方の 庭へ飛び下りても、 がありません。しかし之れも大小こ、耳後から後頭の背に向 別するここが出來ましたけれご、タイハクは未だ其區別に自 念を生じますけれご、産卵をしないので、特別の設備は致しま 大きな設備を與へませんので、昨年は失敗しました。本春も今 時もあります。就巢の念があつて、營巢しやうごして居ますが、 る、普通體の大きく、頻羽の長い方が、下になつて居るので、 方へ、稍羽毛が發達して冠羽の兩側に展び、鳥體に大小があ です。私のはキバタンで、雌雄を冠羽の長短ミ鳥體の大小で區 い方の鳥は對手に虫取をやらせ、應じない時は直に嘴を捻るの 一寸雌らしくもあるが、亦反對な生殖の動作を試みやうごする 様の狀態を見受けます。彼等は小い箱で満足して、繁殖の 常住してる架上を慕ふて歸る、キバタンは 信

肛門の附近は、下地が紅色の綿羽を持つて居る、私は幼鳥を飼色になつた、裸出部を有して居ます、頭ミ頸の上部、下腹部の身は表面が白色で、額が赤色になり、兩眼の周圍が分銅型の鼠身に表面が白色で、額が赤色になり、兩眼の周圍が分銅型の鼠

決してしないのでした。

、大をかだるここなく、従つて破壞がありません。性質は甚だ気がら人手にかかつて育つたので、飛ばうこも逃けやうごも、水をかだるここなく、従つて破壞がありません。性質は甚だ気がら人手にかかつて育つたので、飛ばうこも逃けやうごも、水をから入手にかかつて育つたので、飛ばうこも逃けやうこも、

のコバタン(小巴旦) Cacatua suphuna キバタンの有色部の色のコバタン(小巴旦) Cacatua suphuna キバタンの有色部の色、特に興味を引く所はありません。身長は鳩位の鳥ですがしく、特に興味を引く所はありません。身長は鳩位の鳥ですがした。 対を飼って、之れも相當の觀察をしましたが、食物をほしがる時は、嘴を双方から合せて、上下に振ります。 珠れでほしがる時は、嘴を双方から合せて、上下に振ります。 珠雄の不電しがる時は、嘴を双方から合せて、上下に振ります。 珠雄の不可との利用で言葉を附ける、目的は今にはたすここが出來なくて居るのです。 是れは子供の鳩笛に似た、單純の鳴音を發します。 総じて飼養せられたのは、降雨には水浴を好みますご見へり出しやうご騒ぎ立るやうです。

# 京都御所御苑内に於ける夏の鳥類

藤木常隆

し一温度は京都測候所の報告に依るもの大正八年八月中に京都御所御苑内にて日撃したるもの左の如

十四四	-j-	+	+	-1-	儿	八		· 六	Ji.	pg	Ξ			П
雨(强)	巫	fid	同	同	同	[id]	同	同	同	同	þij	T <sub>F</sub>	雨	天候
七八・一	八九六八	九二、元	九	九一・六	八八·五	九二・七	八八十二	八八、元	八七.四	八九.六六	九二	九二	八一	最高温度
同上	日上	同·上	上	一日と同様	ゴヰサギ他は一日と同様	同 上	一日と同様	エナが他は一日と同様	日と同種類を見る御所御庭内にては一御所御庭内にてホ、ジロ、御苑内にては一	マー 類、ヒバリ、ゴキ御所御庭内にエナが、ム	同上、カハセミ	同 上	バメ、フクロウ?	祭

 -III;	111-	二十九	二十八	-1-	二十六	二十五五	十四	一十三	二 十 二	- <del>-</del> -	=	十九	小八八	-1-	十六	一十五
þij	[6]	[1]	啃	43	同	同	[6]	[ii]	[ii]	[ii] :	III.	Mil.	あり小雨	111	[ri]	13
九一	加加	九〇・七	九一神	八八八七	九〇・〇	九一。	九二	元():	八八八七	八八八十二	八川上	八七十六	八八八〇	八一	八八・七	八門完
ゴヰサギ他は一日と同様	li)	一日上同様	日上	エナが他は一日と同様	同 上	同上	一日と同様	ムクドリ他は一日と同様	同上	iii	一日と同様	上上	11 11 11 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	同 上	コキサギ他は、日と同様	[o]

**尙ほ四日には欄内に記入せし外一種の小禽を見たるも名稱判** 

種類は殆んご四季を通じて棲息するもの、如し 明せず其形狀色彩恰もマキノセンニウに似たり。以上觀察せし

### 1 スカ本州にて蕃殖せる歐

籾 山 德 太 郎

査に出掛けても見やう、 儘信じても誤りなかりさうに思へる。 據れば飛驒の高山附近ではシロハラやウソが盛夏を通じて見ら 主に依れば同地方の小鳥採集者は此地の奥山でイスカが子を引 く(雛を育てるの意) ご謂つて居るご余に語つた。川口法學士に い
ミ思
つたか
ら
餘白
に
掲
け
て
置
く
。 る、こ謂ふ事もあるから前記の地方でイスカの蕃殖する話も其 先頃群馬縣吾妻郡嬬戀村附近を旅して歸つた都下の 確報は其折に譲 一つ暇があったら實地踏 め只聞 いた儘を珍らし 某標本店

#### 朝鮮産ヲガ ハ \_1 ~ 1. 1)

#### 森 爲 Ξ

形態を記して報告す 本鳥 は朝鮮にて始めて採集せられたるもの
こ思考するを以て

Cyanecula suecica robusta Buturlin 雌 背面暗褐色、腰・上尾筒

ζ

は汚れたる白色、脇羽、下尾筒は淡紅褐色なり。 00 外半は黑褐色にして中央尾羽の基部少許及其 稍赤褐色、 にして虹彩は褐色なり に接する部は橙紅褐色、 に著しく目立つ青色あり。 は橙紅褐色なり。腮、喉は中央白色(稍黄味を帶ぶ) は淡褐色なり、 腹部の上部
三境する邊には
又橙紅褐色の横帶あり。 前頭黑色を帯ぶ。眼先、眼下部、耳羽は黑褐色、 風切羽全部、 中部青色、 胸部には著しき三横帶あり、 中央尾羽の二枚及其の他の尾羽 下部黑色にして羽縁 0) 嘴及脚は黑褐色 他の尾羽 其の兩側 上部 夫以 灰色な の内半 眉斑 喉

淡赤褐色なり。 褐色以下の腹部 紅褐色の部分無くして黑褐色なり。 雌 雄に比し背面の色淡く、 は白色なり。 脇羽は汚れたる淡褐色、 下面喉の兩側及胸部に青色、 胸部三腹部三の境邊は淡橙 下尾筒 松

體の測長 雄翼長二十五分、尾長一 雌同 二寸四分、 同 寸八分、附蹠九分、嘴峯四分 **寸八分**,同 八 分、同 几 分

等三共に水邊の葦或は灌木善林の間を轉々徘徊し食をあさり 觀察 採集 あるを採集せしなり。 大正八年十月十八日京義線水色驛附近の漢江 本鳥はオホ ヨシキリ・コヨシキリ・ノゴ 胃中に小蟲・穀類等存せり マ・シャアチジ 注畔

### 脇 山 三 彌

と婆は是れより直ちにお寺詣りの事。 と婆は是れより直ちにお寺詣りの事。 と婆は是れより直ちにお寺詣りの事。 と婆は是れより直ちにお寺詣りの事。

す修酷なるはモズなりけり。

日畑の中の櫻樹の棘(新しき芽)にヒオドシテフは未だ全く死せあり今年初めてモズの鳴聲を聞くヒオドシテフの磔にせられあるを見るモズの喧しく鳴きし跡には何か仕事を為してをるものあり今年初めてモズの鳴登を聞くヒオドシテフの磔にせられあり。

しよし宗像郡大島も亦狩獵地ミなるよし旅順の狩獵狂等は今頃、狩獵天狗の垂涎地たる縣下糸島郡令津半島は愈狩獵地ミなり

沙鷄は飯塚博士の關係のものこれ **全津半島に少憩する様になるかもしれる或は若し狩** 九州地 注意をなせば鶉の分布地は瀟洲・朝鮮・筑前こなるから知 るに叛 地に渡來する時期あるならんご考ふ を想像せしむるなり然らば将來に於ても亦後來するなるべし、 ガンを知れるにより其九州又は長州邊に渡來せしことあるべき 雁ご云ふ語は何より山來せるにや昔時鮮満が知らざる人にもノ シャセ及鶴の獲取に狂毒してあるなら、八陽は山七面鳥三種す 方にも渡來するに到らんかごも思にれ立界 かず鳥肉中の最美味なるものの如し ら亦り ガ ンご同 成は後年に到らは 拠ら横 じく北九州 照家が細心 #F

## 營巢す

兼

彌

富

營菓し始めた、 た頃、 切り全く來なくなつたのである て頻りに材料を運び、 昨年七月上旬長門佐々並村々役場應含、二階軒天井の裏面に 雀が來つて遂に之れを追ひ退け、 コシア 產卵、 カツバメの菓が、 育雛した コシ 雀が其の 未だし分通り ħ (') 跡釜を占領し バメは其れ 出來

一 質疑者 宮城縣 熊 谷 三 郎

問

答 鳥類の「渡り」の理由は食物の関係が最初の原因にて同答 鳥類の「渡り」の理由は食物の充分の時期ご不充分の時ごあったがに定住しては食物の充分の時期ご不充分の時ごあった。まで、まるなど、然し現今にては疾鳥は食物の関係のこせばその同一地方に定住してもようここ、なる故之れは直接の関係なきここならん。現今は本能的に經續し一定の期節には南北に「渡り」をなす。若し蕃殖の目的なりこせばその同一地方に定住してもようこと、なる故之れは直接の関係なきここならん。現今は本能的に毎年同様に行はれ時ごして多少の早遅あるは温度の變化其他氣象に行はれ時ごして多少の早遅あるは温度の變化其他氣象に行ばれ時ごして多少の早遅あるは温度の變化其他氣象に行ばれ時ごして多少の早遅あるは温度の變化其他氣象

上の變化に左右せらる、ならん。體質の强弱も直接に關

係あるべし。

二 標本ミして鳥卵の保藏法。

質疑者

大分縣

Ŀ

忝

治

問

答 先づ鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管答 先づ鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管 たづ鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管 とう鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管 たづ鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管 たづ鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管 たづ鳥卵の中央に小なる一つの鑽孔を穿ち之に細き管 たづ鳥卵の中央に小なる。 箱内にナフタリンを入れ置く 方可なり。 蓋し 医卵後のものにして卵内已に變化をなし居るごきは單に管にて吹きしのみにては空卵ごならずこ 居るごきは單に管にて吹きしのみにては空卵ごならずこ おし。 弦に注意すべきは兩極に孔を決して穿つべからざるここなり。 若し之れをなすごきは卵の長徑を測るここを得ず即ち標本ごしての値なきものこなる。

問三 多くの場合ヒバリの一巢中の卵一個孵化せざるものあ

答。恐らく其一個は無精卵の爲めなるべし。

四 質疑者 特玉縣 高 野 利 治

重をも測定し得は甚だ便なり。
和なるか、双重量(多くは小鳥の卵)を測るには如何なる側には卵の及びの弾量器が最も便利なるか(卵のみならず小鳥の體別、多頭の長徑及び短徑を測定するには如何なる道具が便

重量を知るここを得るなり。 (二百匁位迄)が最も便利にして小鳥なれは大抵のものゝ(二百匁位迄)が最も便利にして小鳥なれは大抵のものゝ(重さを測るには皿坪等。 鳥卵を測定するには測徑器 (Calipers) を用ふるを可ご

五 Ardea lacchus (B naparte) 7 Ardeola grasinosceles Swinhoe

こはシノニムなりや。

サギ)の學名ごしては Erdeal lacelius (Pp.) なり。 質問の通りシノニムなり。即ちアカドシラサギ(カラ

門 パーコカリガネの邦領内の分布地並に其學名、該種に states

(陸奥小河原沼、常陸鹿島、横濱)及び朝鮮ごす。學名は答 此種の邦領内にて現今知らる、採集地は北海道、本州

ん歟。

質問の通りにて可なり

問し、Braita 属の基型種名。

用ふべきか。 問一八 ルリカケスをカケス屬より分つごとは如何なる屬名を答。基型種名は Branta termida cheなり。

ここを得。 を得べし。即ち學名は Lalwitta lidilit (Benaparte) こなす答。 ルリカケスの屬には Lalwitta lidilit (Benaparte) こなす

(以上八件黑田長禮回答)

行かへりこ、もかしこも旅なれや

よみ人しらず

すだく羽風のさはぐなる哉なるみがた沖にむれるるあぢむらの

中宮權大進仲實



□表紙寫真說明 寫真中最も前方(右向)なる一羽はヨシガモミロ表紙寫真說明 寫真中最も前方(右向)なる一羽はヨシガモミロ表紙寫真說明 寫真中最も前方(右向)なる一羽はヨシガモミロ表紙寫真說明 寫真中最も前方(右向)なる一羽はヨシガモミして三者の測定左の如し。

大正九年一月廿三日	大正三年十月十日	明治四十年三月廿二日	採集年月日
<u>Pr</u> ]	四三	四二彩	嘴峰
二六〇	二六〇	二 元 五	翼
八四	九〇	九四	尾
Ħ			跗
九五.	四 〇	三八	蹠
\$	\$	\$	
华殖	夏	生殖	性
羽	羽	羽	1

即ち極めて稀れなる雑種なり。右の如くにして何づれも六乃至七年目毎に獲られたるを知る。

此雜種の外寫真内に現はれたる白色のものはナキアヒルの白

デの雄なり。大正九年四月八日撮影、黒田記す)。の雌雄なり。最も遠くに不判明に現はる、小形のものはシマアモ左向の二羽(一羽は白味多く一羽は暗色に見ゆ)はヒドリガモ變種(形マガモより稍小)、前向の一羽(嘴の先端淡色)はカルガ

日新著紹介 『實驗世年養鳥秘訣』、佐藤磯吉著』實驗世年三銘を打つてある丈け内容も充質して居るのは確かな處、此點は本書打つてある丈け内容も充質して居るのは確かな處、此點は本書でもない、一層の事實驗世年は矢張り實驗世年丈けの内容にして置いて學術的の事は全く抜きにして欲しかつた、そうした方が丁度此本の中の挑戰的な處や缺點や紙數も減じた上却つて實際の價値も尚一層あつたらうものをご聊か残念に思ふ。ごう實際の價値も尚一層あつたらうものをご聊か残念に思ふ。ごう實際の價値も尚一層あつたらうものをご聊か残念に思ふ。ごう可以本の真價でない處の學名等を其儘鵜吞みにして仕舞ふ人がて此本の真價でない處の學名等を其儘鵜吞みにして仕舞ふ人がそく無いこも謂ひ得まいから。

大體此書は校正がしてあるか如何か疑はしい、だから學名其

身が命じた和名ではなからうか。ファームサン・トリー・パートッ 鸐は、こあれ腰赤鸐及び前記の小菱食に到つては恐らく著者自 區別して腰白鸛、腰赤鷸の名を附して居るが、「五六頁)こあるが腰白 て決して二種に區別するものではない」(二六頁) ご公言して居られ 言を放つから數矢を報ひる事こした。即ち書中菱食雁の項に ひ度くはないけれご著者のあまりに分類學上に迄手を延して大 謂ふ評者もさうは思つて居らない、だからかう謂ふ事を殊更謂 た。此本の著者自身も分類學者だごは自認して居まいし又此く 據る誤りも大分に多いけ れご此等も 假借なく 誤りの 内に含め ごも他の凡ての種名は小文字を以て書き初むるものこすーに 名より導來せられたる種名は花文字を以て書き初むる事を得れ るが著者も反談をば擧けて居らぬ、次は鸛雉の項に「學者は此 りに失れが多過ぎる勿論「萬國動物命名規約」第十三條 大半誤りだご謂ふも過言でない寡くこも完全なのは唯一部であ 輕率ご謂はねばならない。次に各種の項下に掲げてある學名は 「或學者は此な二種に別ちて大菱食、小菱食と云ふは甚だしき 誤りにし る、著者は誤植に沙けられるかも知れぬがそれにしては叉あま て大なる缺點であつて殊に學名等を取扱つたものこしては頗る 他に誤所(敢て誤植ご謂はぬ)が非常に多い、之が全書中を通じ 一人

**籠の内で生れて居る訓養變種の自子鳩を意味して居られるのは** 滅業であつて根底が無いこも謂へやう、變種對原種の例證にし るものは自子態でなからればならぬ」(一二九頁) ご全く此意は減茶 ない事を證明して居るのである(中界)因し自子薦の變種であらば出來 たものはすべて銀鳩になる。白色の勝ついは其の種類が白子鳩の變種で ある」(一二八頁) 尚「如何となれば此の自子鳩と銀鳩と交配すれば出來 どと云ふ人には自七面鳥は 青銅色の髪種であるかと 御夢ね したいので 變種と云ふものは、決して多く野生するものではない。自子鳩の變種な 想と稱して此の銀鳩が無数に棲息して居る事を未だ御承知なきか られる。著者は此い見解を絕對に否定するのである して例へば孔雀に於ける自とか、鶉に於ける自 名の項に「臺灣では此な深山竹鶏と称して居る」(一・七頁) ごあるけ ず(最後はパートリーデの誤植であらふ)と謂ふ恐ろしく長い 極めて明白な事實である。澎湖島のものですら輸入後蕃殖した く論外であつて叉著者の謂つて居られる自子鳩は代々小禽商 て共に訓養變種である處の七面鳥を引張つて來るに到 ればならぬ は普通に廣くアンカト。ケイを用ひて居る即ち紅脚竹甕でなけ れごミヤマテーケイは鳥學者の命じた標準和名であつて臺灣で 銀鳩の項には「或る學者は此の想を自子鳩の變種と稱 と同 い意味に解して居 彼い影湖島に影湖 つては全 元來

一十一但し世年はやらぬが一一であるから充分に反論を御贈りする地來る。此點は生憎ミ(著者に取つて)評者も經驗を有して居る出來る。此點は生憎ミ(著者に取つて)評者も經驗を有して居る出來る。此點は生憎ミ(著者に取つて)評者も經驗を有して居る出來る。此點は生憎ミ(著者に取つて)評者も經驗を有して居る出來る。此點は生憎ミ(著者に取つて)評者も經驗を有して居る

る數であつて飼養ご云ふ不自然な狀態に於ける産卵数の意味ではなく野生に於けるごき一腹幾個を普通ごするご云ふ正確なではなく野生に於けるご言・「予が二十幾年間の實驗は、今迄の學者先生の調べた殆んど總での鳥の卵子の数なるものを見事に打ち壊して居生の調べた殆んど總での鳥の卵子の数なるものを見事に打ち壊して居生の調べた殆んど總での鳥の卵子の数なるものを見事に打ち壊して居生の調べた殆んど總での鳥の卵子の数なるものを見事に打ち壊して居生の調べた殆んど總での鳥の卵子の数なるものを見事に打ち壊して居生の調べた殆んど總での鳥の卵子の数なるものを見事に打ち壊して居生の調べた場合には、學者の記よは分類に關係した點であるが尚ほ其他の場合にあつて氣以上は分類に関係した點であるが尚ほ其他の場合にあつて氣

はない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。飼鳥にはない、即ち學者の說を見事に打ち壞したごは云へぬ。

術的の事項だけは盲信する事は頗る危険であるこ。 して居るけれご學者の説を全く打ち破らうこする點や其他の學所も寡くない、だから異々も申添へて置くが本書は内容は充溢以上の總でが大脫線ではないけれご倚護多の改修を要する個

る事を敢て辭せない。

維類の人工蕃殖等を研究せらる、こ云ふ。最近本會々員某氏の 市の研究を主ごすれご鳥學にも極めて趣味を有し、特に獵鳥中 一上八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方 一上外須賀正氏氏渡英 本會會員蜂須賀侯令嗣正氏氏は去る七月 一上の研究を主ごすれご鳥學にも極めて趣味を有し、特に獵鳥中 本會會員蜂須賀侯令嗣正氏氏は去る七月 上、八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方 一上の一大八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方 一上の一大八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方 一上の一大八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方 一大八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方 一大八日東京出發伊豫丸にて渡英の途に就かれたり。氏は政治方

許に達せる書信中左の如き面白き通信あり弦に掲ぐ。

(前略)小生は九月四日無事當地に着し(中略)十月始めにはケンブリッヂの方に参る豫定に候動物園、博物館も見物致した。動物園には中々溫室の完全なるには驚き候、極樂鳥、屏島、南米の Sugar bird 等居り候。博物館の方には各種の自島、南米の Sugar bird 等居り候。博物館の方には各種の自島、南米の Sugar bird 等居り候。博物館の方には各種の自島、南米の Sugar bird 等居り候。博物館の方には各種の自島、南米の Sugar bird 等居り候。

所にて友達を持ち候故先づ gam - neserv 及巣箱等を研究致密合に御座候、その中何か報告も出來申すべく(中略)小生各で完全ごも申さるべく候。九月よりは當地にても衞期にて好い完全である。 無い という はい には講話等も有り始ん

たの其の主旨會則役員等左の如し。

すつもりに候

## 鳥の會の主旨

ります飼養の方法等は多くは傳統的の事が多く今日の科學と調和さ吾國の飼息の起原は中々古いもので御座いますが古來から行れて居

希望致します。 す、便宜上別紙の如く會の規定を定めました、同好諸君の御入會を 座います、鳥好きが集ると云ふ事が主なる目的で御座いますから只 り又何にかと御懇親を得ましたなら得る所大であらうと云ふ譯で御 になりました。つまり此道の好きな方々に御集り心願ひ其進歩を計 Birds Club の如きものを得たいと云ぶ希望を持つて此音を起す事 者の集りを得たいと存じ即ち外國コーAviculture Society, Cago 其で今少し現代に適應した即ち今日の趣味と學術とを淳化した同島 島屋さん達の商賣本位と云小事が大部分含れて居る様に思れます。 息の純趣味的の御集りとしては如何で御座いましょうか、要するに 息學方面には日本島學會が御座いますが同島の趣味的方面の御集り 御集りになり何かと御話し合ふ如き機會は誠に稀で御座います。純 持たると方々は決してゆくは御座いますまいが、從來此等の方々 れたものに少ふ御座いまで尚又私蓮の如く鳥や尚島に趣味と關係な と存じます此集りに由て得らるよ興味と便経は名々あらうと信じま 今は別に設備も計劃も御座いませんが将來は種々の計劃も致したい としては只今の所、鳥屋さん違い健す江戸時代の遺物の様な目自會 又は營會などより以外には係り無い様で御座います。此れとても同

## 島の會定め

一、本會は『鳥の會』(The Japan Cage Bird Club)ご稱ぶ主旨

こする所は飼 「鳥の趣味者の集りにして 其進歩を計る

0

會員中若干名の役員を設け會務の總てを執り行ふ、

本會の事務所は當分の 間左記に置く

東京府豐多摩郡代々幡町 代 々木山谷二八三

柳澤保承氏方

會は當分の內隔月に集會を開く豫定にして期日等は其都

度御案内申上ぐべし、

知ありたし、 込れたく入會の許否は總て役員會の決定に由るものご御承 入會を欲せらる、人は會員二名役員一 名の推薦に由 6 申

會費は年額金二圓にして每年度初めに前納さる<br />
てものご

, 此定めになき事柄は總て役員會の判 断に任 せら るる 事

大 Î 九年十一月

黑

長

松

永

安

衛 一體

員

役

魔 司 信 輔

高 野 Pffs:

滅

外國雜誌交換

内 清 2

助

柳 澤 保 承

本號には大正九年六月現在の會員名簿を附錄こし

て別冊添附せり

口會員名簿

會員名簿訂 JE 本號附錄會員名簿中左の

第一 頁六行目 熊本 市

誤

迎 6

訂正す

第二頁 + ·行目 1 石 JII

第

頁

品

十四

行

Ħ 蜂須賀正

牛込區

熊

本縣

Œ

上一番 麻布區本村町一〇六 蜂須賀正氏

口會員轉居

第八頁十

·行目

麹町區

W

Ŧi.

京橋區新肴町一 ○福岡銀 行支店

福岡 縣立 中學明善校

□新入會者 六月以降の入會者左の

加

L

H 渡

孫治郎 登美次

邊 

名古屋市東區安房町一 ル

南多摩郡多摩村農商務省鳥類實驗場內

上遠野

秀

松(乙種 甫(乙種 承印種

黑

田

莊次郎(乙種

歌

柳

澤 野

保 吉

長崎 縣對 馬 嚴 原 對 馬 中 學校

東京市外代々木山谷二 三八二

本會雜誌其の他の印刷物は今回左記二ヶ所の

要求に より 發 諮 行物 換 人せら る、筈なり

Cooper Ornithological club

Id Museum of Natural History, Chicage

期 闾 □「南洋鳥類」に關 長 氏同 及定 正明 書は 氏 價 0) を左 南洋鳥 捕 出 0) 類に す 如 版 く變 及 開す 御 內容等 史 +1 0 當 新 種 水質 初 0) 0) 記 計 I.F 戦等を 書 より 刊 15 物 非 追 加 富 第 九編 せ 3 增 為 籾 大 1 Ш 德太 刊 且. 理

にし 拾歲 U 111 8) 朗 標本店 動 JU 同 氏 他 物 誠 抓 ffi て常に 所 標 に哀惜 書 コ 木 小 入 を経営せし 本社 年 111 數 口 弘太 同 9 個 タ 業者 て支配 主米 0 月 糸句 1 RI. ブ DU 情 Ħi. 原 間 Ш B 氏 が大 米吉 色版 人た 堪 1 目 0) 頁 制 重 擂 Œ 氏 ず。 定 んぜ 9, 傷 ご共 本會 價 葉 0 6 年 氏 爲 コ 氏 L に k は do 口 れ は 員 月其 稀 斯 京 半 タ 0 木 烈業を に見 邦 1 都 ζ 事 出 プ 標 津 あ 1 寫過 於て死 一業を 製作 る温 計 本業 來 0 L 書 期 島 ご云 第 健 1 所 阻 支配 其 去せら 津 0 PU 大 着 先覺 5 置 製 後獨 TF. 葉 作 人 - |-地 [1] なる人格 立し 所に 者にて 小 年 3 行 111 合併 月 葉 弘 7 年 其 太 初 Ti.

> 到 會 場にほ 標 水 定 左 0) RE. 標 朱順 0) 陳 洵 をな 4 後 16 11. 分 5 陳

葛

粘

ille. 图 明分

57. '友

籾

德

郎

17/4

平 7.

该 胡

松 虫

水

27 た

『鳥類便覽』 本北米産 風雉標鳥類本 Turdus acrigularis ジ臺 ヤ北 奄 第 同 鳥類本 智 游 -美 標產 + 70 本 標 燕雀 0)1 奎 田 一總會 產鳥 モン カ 木 1 Ĕ 1. 口 粨 標 グル 丰 21 ラ類 Temm. 大正 フ及 ナレ 年 PU 五四 數 二八個種 -|-|-月 册 個種 個 册 個 個 個 E 4 黑 145 Hi M. 雕 this 後 14 11. 脻 清 13 k 0 1 E 是 Z 秋 110 北京 正問 411 李 市門 助 輔 it 總會 IE It 16 It It I 出 113 出 111 113 # 出 13 ill illi m To nn

來 會 順 橋學士

訓 口第

H

淡路 十二

町

名 總

一智

維

テに於て

開 DU

L

0)

氏

0)

出

あ

回

會

大

JF.

ル

年

廿

日

後

Ħi.

時

ょ

春

季總

會

to

iili

H

17

會

假會

館に於て開會左

0)

+

-1

H

0) H

席

D

0

飯

ľ.

魁

階

司 會 月

信 左. 六

輔 + 午

黑

H 席 0

長

禮

型 H 長 禮 內  $\Pi$ 清 Z 助 葛 粘

幸 菊 歷 飯 大 池 司 岩 島 米 信 紀 太 魁 郎 直 輔 鹿 高 丘 森 間 野 田 淺 爲 磨 謙 喜 次 藏 郎 Ξ 松 籔 籾 柳 Ш 澤 永 德 篤 安 保 太 衞 麿 郎 承

報告談等あり午後十時散會、 晚餐後内田幹事より會計の報告あり引續き會則の變更本會十 の説明あり叉黒田長禮、 照)後、 年記念に關する件、 會場には壹岐、 籾山徳太郎氏の出 對馬、 雜誌 及南洋產鳥類標本並書籍圖畫の陳列あり 寺岡 『鳥』定價値上の件等を議決し(別 品鳥類標本一 直 同 兩氏 H 0 陳列標本左の の壹岐、 一新屬十新亞種に就きて 對馬に於ける採集 如 i 項 週 泰

尚最近本會宛寄贈の左の雜誌を供覧せり 埼玉縣野 生圖小笠原島產絕減鳥類寫 南 壹 對 ヨシガ 洋 岐 馬 ヘモ 產 產 產 旧村鷺山 のバラ變種 鳥 鳥 鳥 類 類 類 六〇 種類 = 二葉 個數 七七 八 Ti. 卷 黑 内 內 籾 黑 黑 出 H H Ш Ш H 清 清 德 品 長 長 長 之 2 太 禮氏 助 助 部氏 禮氏 禮氏 者 氏 氏

The Condor. A Magazine of Western Ornithology, Cooper Ornithological Club. Vol. XX, Nos. 1—6, Vol. XXI, Nos.; I—6. Vol. XXII, Nos.1, 3—5.

Ornithologisches Jahrbuch Organ für das palacarktische Faunengebiet. Herausgegeben von Viktor Tschusi-Schmidhoffen.

XXIX. 1919.

□合則の變更 別項記載の如く秋季總會の際左の如く本會々則

第四條 第一項の一部を變更せり

第五條 本會々員を分ちて甲種會員乙種會員の二ごす一當分一年に二回雜誌『鳥』を出版するこご

一乙種會員は會費こして一ケ年金武園五拾錢を納むるここ一甲種會員は會費こして一ケ年金五園を納むるここ

の三割引を以て講讀するを得る種會員には雜誌『鳥』を配布す、臨時刊行物は配布せず定價第六條「甲種會員には雜誌『鳥』及臨時刊行物を配布す

渡り鶴

|猿とて、高さ十三里の高山あり、(中略)すべて南國の鶴、春に至り北方に渡らんとする時は、敷千里の北海な一飛に越へ行事ゆへに、羽つかたて海中 「事なれば、人の目も及ばざる高くに入りて、はじめて北に向ふなり、(古事類苑動物部五五五五〇四遊記三より) 第に落るといへども、高くより、飛事ゆへに、容易に海面まで落る事なくして、朝鮮の地方へ付く事とで、此八重鎮の絶頂より猶々舞々して虚空に人 に落んことを恐る;ゆへにや、此屋久島の八重嶽を廻りて、空高く派上り、虚空に至りて、それより北に向ひて飛渡るたり、中途にて羽っかれて、次 琉球近き島に屋久島といふ島。大なる島にて、むかしは日本の外なる一を國として、國史などにも、屋久國人深朝するたじ、見上だけ、此島に八重



## H 本鳥學會規則

第 第 條 條 本會 本會 八日本鳥學會上稱 事務所ハ東京帝國大學理學部動 物學教室內

第三條 本會 ノ目的左ノ如 ス ル

鳥 類 趣味 7 有 モ Ň 狠 親 ラ 計 ルレ コ

鳥類ニ 關ス ル學術 雏 步 7 促 ススコ

鳥類 一受護 ノ思想ヲ普及セシ メ鳥類 ノ保

護増殖ラ計

ル

時種 ロヤノ 事業 グラナ

第四

條

本曾

前條

プ月

的 ラチ達

ンスル

爲

メ評議會ノ決議ヲ經

コ

臨時 當 分 出版物ラ刊 年ニニ 回 行 「雑誌「鳥」ヲ出版 ル コ ス ル コ ŀ

時 每年春秋 鳥類 = 翻 回 ス 會合 ル 星间 書標 シ 鳥類 木其 他 關 ス 展覽會ヲ催 ル 講 演 談 話 ラ ナ

五條 本會 種會員ハ會費トシテーケ年金五 々員ラ分ラテ甲種會員 1 乙種 一一一一 圓 ラ納 ノート

第

甲

鳥學的探檢

ラ撃

行

ス

ル

7

乙種會員ハ會費トシテ ケ年 金二圓  $\mathcal{T}_{\mathbf{i}}$ + 錢 7 納 4 ル

1

ル

J

第六條 甲 乙種會員二八雜誌「鳥」ラ配布ス、 種會員 雜誌「鳥」及臨 時 刊 行物 臨時 ナ 刊 西己 行物 布 ハ 配布

> 本會 本會 三申 價ノ三 二入會セ 込ム 割引 2 F チ 但 欲 以 シ甲 テ講讀 ル -種會員 モ 1 ス ル 住所 チ 得 氏名職 退會ハ評議員會

ノ決議 二日

\_

置

八條

若干名(甲種會員 木會 本會二會頭壹名 一評議員會ハ會頭幹事及ビ會員 ラ置 シチ、 以尹 組 織

ラエ

=

3

ル

評議

第九條 第

東京帝 國 大學理學部 動物 學教 室內

會

役 員

理

學博 1: 飯 E

魁

內 田 清 之 助

斡

事

會

頭

評

議

員

理

學博 士: 飯 塚 啓

丘 凌 次 郎

H

學

博

1:

鷹 司 信 輔

公

鄮

黑 田 長 禮

7

松

平

賴

孝

## 投稿及質問規定

大正九年十二月廿五 П 印刷

(一)鳥類の習性、「渡り」、方言等に關し廣く各地方會員の投稿を 大正九年十二月三十日發行

定

價

金点

回

歓迎す

)既揭原稿は返戻せず、 但し挿畫に使用せる寫真及び圖畫は

希望により返戻すべし

(三)原稿は紙の表丈を使用し一行。二十五字語に認められたし、

假名は平假名を川る動物名及び外國語は片假名こす

)插畫は寫真以外のものは墨汁にて認めら れたし

(六)本會は鳥類に關する質疑に應答す、 )原稿は東京赤坂區福吉町黑田 長禮氏宛郵送せられたし 質問 の事項は返信料 卦

入東京帝國大學理學部動物學教室内本會宛郵送せられたし

£ )質問解答は するも其他は質疑者に直接解答するものごす 一般讀者に有益なりご認むるものは本誌に掲載

验

賣所

十 軒 店 町東京日本橋區

裳

發編

行师

者爺

木

1.

湿

ili

11

橋

[65]

50

MJ.

ifi

爱 行 所

動物學教室內帝國大學理學部

印

刷 京

所

東京印刷株式會社

東

ili

П

木

橋

ηΉ

MJ.

乔

地

振特口 日 本 鳥 學

會

座東京六五九九番

振替口座東京 並 七香 房

載轉禁

FD

刷

谷 1115

岩

次

即

H

īli

П

1

橋

[66]

旭

#### □錄目物行刊時臨會學鳥本日□

					to the course of the course	AND ATTRACT		
第九篇太郎	第學士篇黑	第七篇黑	第二个篇黑	第五篇之助等	第四篇黑明	第二篇黑明	第一篇內明	第一篇內田
邦領南洋諸島產	に於ける 多間 千鳥類 田長禮著	鮮滿鳥類	聖長禮書	郭公の蕃殖に關す	世界の雁	世長禮著のの	海產保護鳥類	東 類 圖
鳥類定順	の渡り、定質	<b>五</b> 定寫 原 色	灣島類の習性 定價 関係 色	る研究。定質質の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	北京の東京・田田の東京・田田の東京・田田の東京・田田の東京・田田の東京・田田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田の田	鴨	於 圖 說 郵定原 卷價色	記
- 七 圓半郵税十二銭四枚コロタイブ版四菜	七拾五錢 郵稅六錢 那稅六錢	圓五十錢郵稅十二錢 插 畫 十 數 個個	四拾錢郵稅四錢	金冊五銭 郵税四銭 版 挿 書 数個	企 式	版	四四版三十枚枚载錢附	Ŋž ·

房 華 裳 蜀 古 百 京 東 替 振 所 捌 賣

#### 告豫編九第物行刊時臨會學鳥本日

6

B

で、

とし

-

力

D

IJ

2

T

Ŀ

兴

本

봚

は

本

會

監

胩

刑

行

物

第

九

編

Ť

目

下

刷

進

備

1 1

0)

ŧ

0)

Ti

た

HE.

+

41:

月

出

版

0)

豫

定

T

あ

h

ま

する

内

容

は

阼

夏本

會員

籾

山

德

太

郎

君

から

約

4

减

1=

耳

0

T

我

南

洋諸

B

1

B

類

採

集

8

11-1

3

H 水 ·鳥學會員 籾 山 德 太 郎

> Œ 十年三月

大

定價 菊 原 色 七 版 版 圓 Ξ 五 紙 葉 + 錢 數 口 タイ 約 郵 稅 匹 フ += 版 JL 錢 棄 頁

ま 祭 す n 22 12 寫 1/1: 結 真 果 O) 版 觀 18 終並 記 は 著 沭 者 新 L 报 噩 12 影 種 0 0 0) 發 生 態 表 寫 쭇 主 1 眞 其 加 他 ~ 78 T 以 11 葉 Ŀ 諸 + 數 群 島 Li 0) 個 鳥 其 頫 他 計 色 旣 版 知 13 0) は 秤 企 鳥 小 部 林 緪 0) 1 重 目 就 氏 銀 寫 から 分 生 添 類 えて 0) 學 南 洋 あ (1)

文 類 ٤ + 數 相 種 俟 を T  $\equiv$ 我 葉 南 洋 1-O) 收 鳥 め 1 T あ 寸 b ま 3 缺 O 3 本書 ~ かっ 5 は ざる文籍 雜 誌 鳥」に 7 揭 あ b 載 ま せ 5 n 12 鷹 间 黑 田 144 理 學 士 0) 二人山田

由 本 書 込 8 は 願 本 ひます。 會 甲 種 會 員 1 は 無 代 配 布、 Z 種 會 員 E は 規 定 0) 割 引 を以 T 配 布 L ます か 5

豫

8

御

裳 華 町店軒十區橋本日 房 捌 所 替 振 番七百京東

b

鳥

### 鳥

第

\_

卷

日

本

鳥

學

會

至 自

第 第

-0 六

號 號



# 『鳥。第一卷(自第六號至第一○號)總目 錄

П

繪

アラバヅク	鳥	種子島の鶴	臺灣總督府	アカゲラの	カムムリツ	我國にて初		第五圖版	第四圖版	第三圖版	第二圖版	第一圖版
の蕃殖の觀	習性觀察	及び附近の	殖產局採集	尾羽の斑	クシガモ	めて捕		ヤマガラ類	羽田鴨場に	東京麴町三	故波江元吉	海豹島に於け
類に就て(附		二三鳥類:	鳥類目錄 …	點に就て	eudotadorna	獲せられし大盗賊鷗	論	類各亞種	に於けるチウ	宝坂下氷上の	君肖像	けるウミガー
に就て(附濟洲島産鳥類目録)					pseudotadorna cristata Kuroda	[ に就て:	說		サギの蕃殖:	の水禽群集:		るウモガラス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
無目錄)	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *				da に就て…		''					
法學士士		:	理學學士		:默醫學士	理學士		理學士	:理學士			
川森縣	: :	荒	黑內	熊	内	確認		料黑山	黑	… 東		
п	н	木	田田	谷	田	司		德	田	京朝日	:	子勝
孫為	₹ /II	nde	清		清			太長郎禮	長禮	新聞		彌
印	長保		長之		之	信		氏氏原	原	社原		氏原
郎三龍	曹吉:	助	禮助	郎	助			무	园	图		<u>圖</u>
tt	<b>*</b>	<b>**</b>	六	: ;	·:	<b>一</b>		<u>:</u>	j.	美八		六
八七九三	九	一七		八	汽	M.		○ 號	號	别是	切に	别是

江戸時代將軍家の狩獵(承前)	野外鳥學の一資料(其二)理 學 : 話	アラバヅクの蕃殖の經過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	鬱陵島採集の主なる鳥類に就て(附尊陵島産鳥類日錄)・・・・・・・・・・・・理 學 士ッパメ及びコシアカツバメに就て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カンムリツクシガモの雌雄に就て理 學 上濱洲島探集の主なる鳥類に就て(第二回報告)	産花鳥類に就て 縣入間郡產鳥類 料力に於けるツバメ類の「渡り」並	ツ、ドリの習性及び雌雄	勘案加半島西海岸採集鳥類目錄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
永	石	池川熊 兼	森黑兼	黑 森	黑野籾榎	川都黑椒	報 堀 黒
井	井	村口谷 常平孫	13	 	(ali	口川田山 係 英 徳	班 非 田
	TI.	太治三、彌	長彌	長	長宗太佳	治三烯太	太學是
碟大二九	美	前郎   第二   1   1   1   1   1   1   1   1   1	<u>-</u> Ол			<ul><li>第 報告</li><li>第 表示</li><li>第 表示</li><li>八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八</li></ul>	郎 吉

--- 4

何耄韓の便卵と鄒の體量とに就て(韓の家)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中の農作物	コシアカツバメの落殖(理學士黒田長禮)七二四	旅順の雀と筑前の雀(脇山三獺)七二四	高野山の一年(榎本佳樹)七二六	埼玉縣下に渡來せし鶴群の眞和(籾山徳太郎)	下總印旛郡地方の鳥類方言(齋藤源三郎)	琉球産鳥類の方言(尙景)	東京市内にて見たる鳥類(籾山僡太郎) 五四	美濃にて獲られとトキに就て(柳原要二)	ハシブトイカルに就て(森爲三) 六 五三	コポリガモの最南分布例(籾山德太郎)	アメリカヒドリとミコアイ(理學士黑田長禮)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アカックシガモの「渡り」(獣醫學士內田清之助) 六五一	バン·ヒクキナ類の新分類(理學士黒田長禮) 六 四九 號 五	雜	鳥類籠養の沿革	「ラージュボン」運動の回顧····································	徳川時代の薩摩に於ける動物園	<b>鶴龜長壽傳說</b>	猶太民族の古代に於ける禁嶽鳥類	雁鴨類の夏冬の棲息地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
題のハキニコ目京で(密放送三世)	D ・・ニーポース   「	鴫類の滞殖(藤木常隆) :	ツルシギ及びコカハラヒワに就て(熊谷三郎)	平壤為信(土居寬暢)	朝鮮にて獲られしハジロクロハラアジサジ(森為三)九宝二	長門佐々並地方鳥日記(爺常彌富)	ムケドリとウヅラの交接卵か(籾山徳太郎)八三九	- :		総・子鳥類の方言共他(籾山德太郎)	再び種子島の鳥類に就て(荒木彥助) 八二四	大分縣八坂地方の鳥類(上恭治) 八二〇	本郷區内にて見たる鳥類(鶉の家)・ 十二二	マガンの下面變り(森為三) 七二〇	<b>竹</b> 奈		獸醫學士 內 田 清 之 助八二〇一		理學士 黑 田 長 禮七一一	荒 木 彦 助	理學士 黑 田 長 禮大三五

丁三二 一 筑前爲信(脇山三朔) 十	下三の九 朝鮮産チガハコマドリ(森為三)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	TMO七 イスカ本州にて茶殖せる敷(籾山徳太郎):	▼MO六 京都御所御苑内に於ける夏の鳥類 藤木常隆 ホー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	九二五七 アウムの智性(紫木彦助)十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十
 +370	十二九	十三九	二十二十二七	

#### 質 疑 應 答

<b>意類の雌雄の區別に就て(答黑田)・・…・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b>	カイツブリの學名に就て(答黒田)
雁鳴の「渡り」及び游殖に就て(答黒田)	ハイタカの學名に就て(答黒田)ハニン
海苔籏場の海苔を食する機能に就て(答黑田)六 六三	ユリカモメの學名に就て(答黒田) ····································
海苦を最も好む雁鴨の種類及び習性(答黑田)六 六三	ホト、ギスの學名に就て(答黑川) 八三〇
雁鴨が海苔を食する機能に就て(答黑田) 六 六三	コゲラの「タイプ」に就て(答照田)・・ハニロ
雁鴨類の食量に就て(答黒田) 六 六三	邦産ビンズイの學名に就て(答黒田) 八三一
鳥類(死のま~)送附處理方法に就て(答黑田)	Chelidon の「タイプ」及學名に就て(答黒田)
剝製上の注意事項及參考書に就て(答黒田) 六 六四	モヅの屬名に就て(答黒田)八三二
雑誌「太陽」の表紙圖案に就て(答黑田)	カヤクギリの屬名に就て(答照田)八三三
信天翁の布及び高麗瑩の營業に就て(答黒田) 六 六六	ノビタキの屬名及年號に就て(答黒田): ····································
ヒョドリとエグヒョドリとの區別に就て(答黒田)・七二三	ノジコの屬名に就て
ヤイロテウの雌雄鑑別法に就て(答黑田) ······· ···············七二三二	ユリカモメの成島及幼島の羽毛に就て(答黒田) 八三三
鶴類の(習性に就て)體量、卵數、卵量孵化日敷及「渡り」に就て	コサギの學名に就て(答照田) 九宝玉
(答黑田)····································	ハリチアマツバメの屬名に就て(答黑田)九宝九
鶴は千年龜は萬年の由來に就て(答黑田)	チウサギの學名に就て(答照田)····································
眞孔雀産卵数に就て(答黑田)	コ

真孔雀産卵數に就て(答黑田

	米通信
會則の變更十三三0	キ
第十四回總會十三五	會則の變更八三四
第十三回總會	第十一回總會
會員小川弘太郎氏の計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「鳥」第六號正誤七一三九
外國雜誌交換十三七	※・千鳥類圖説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
鳥の會の設立十三六	何島共進會 七一三八
新著紹介	ミカドキジ生鳥の嶽 上七二三六
表紙寫眞說明十三三三	本會第十回總會七一三七
「鳥」第八號正誤九三六四	本會第九回總會七一三六
會員堀邦榮吉氏の訃九二六四	會員名簿
南洋鳥類の献上九	「鳥」第五號中郭公の繁殖とオポヨシキリとの關係正誤六 六八
	臨時刊行物第七編「鮮滿鳥類一選」正誤 六 六七
英米兩國鳥學會員推選九三六二	鳥類の「渡り」及蕃殖期····································
評議員 <b>會</b>	鶴千鳥類圖説の發刊 六 六六
第十二回總會	本會第九回總會,六六六六六六十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十
報	雜
	ヒバリ卵の孵化に就て(答黒田) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
ルリカケスの屬名に就て(答黒印)+三三	標本としての鳥卵の保存法(答黑田)十三二
	鳥類の渡りに就て(答黒田)十三二
コカリガネの分布竝に學名に就て(答黑田)	鴫類シャクナギ(方言)ニ就て(答黑田)
アカガシラサギの學名に就て(答黑田) 十三二	Cowbird (Molothrus ater (Bodd.))に就て(答黑田)九二六〇
島卵の測定に就て(答照田)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	最小體重及最小卵量鳥類に就て(答黒田)

FEB 8 1921

#### "TORI" THE AVES

#### BILLETIN OF THE ORNITHOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

Vol. II. No. 10. December, 1920.

#### Frontispiece in colour:

Subspecies of the Varied Titmouse, Parus varius T. & S.

#### Contents:

A list of the birds of the Dagelet Is, Corea, with detailed reference to some species. By N. Kuroda and T. Mori.

Ornithological notes from the neighbourhood of Sasanami, Prov.

Nagato. By Y. Kanetsune.

On breeding seasons of some birds in Pref. Miyagi. By S. Kumagai. Notes on breeding habits of Ninox scutulata scutulata (Raffl.). By M. Kawaguchi and H. Ikemura.

> Miscellaneous notes. Queries and Answers. Proceeding of the Society.

#### ORNITHOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

c/o Science College, Tokyo Imperial University.

#### PRESIDENT.

I. Ijima, Ph. D., Rigakuhakushi.

#### SECRETARY.

S. Uchida, C. F. A. O. U.

#### COMMITTEE.

The President Ex officio. A. Izuka, Rigakuhakushi. A. Oka, Ph. D., Rigakuhakushi. Prince N. Takatsukasa. N. Kuroda, F.M.B.O.U., C.F.A.O.U. Viscount Y. Matsudaira.

The exact dates of publication of all the numbers of "Tori" are as follow:-

Vol. I. No. 1. May 26, 1915. " " No. 2. Dec. 10, 1915.

" " No. 3. Dec. 31, 1916. " " No. 4. April 15, 1917.

" " No. 5. Dec. 7, 1917. Vol. II. No. 6. May 31, 1918:

" " No. 7. Dec. 31, 1918. .. .. No. 8. July 21, 1919,

" " No. 9. April 14, 1920. FF & 1021







四谷国大審佃八

画 2月 绰 关 鴻 那

鷾

确

0

芝圖聯樂辦研察別官合 目黑林業結覷影

而下土盛谷一四

是禮親母本市女子嗣蘇粵封 小石川副大潔繁加入

沙卓線 部業雅南县森村 曜映一五〇 大惠市出雲而十八點 南下日暮里面ナ六一

時純京秋南山面ートー六 面印記高等鹽林學效 問題別以是以此所以

軽フ 内醫甲酮 合計

偱 米三 マ薊 X 一 玉 L. 暴 瓣 灣 盃 那 + 理 繡 W 圓 倉 田 添 盏 田 田 田 11 見 11 ¥ 早 ¥ Ш Щ 硼 早 皇 早 是 巾 見 0

盂 很 夫 畏



○回○二即週回厘川北小

豳

糊深

千 裡

0

鳰

林太

H

田孙富

工

휇

밀

舶 潔

₹ 二

#

简高

種 协

県

际 飄

程 種

冒

東京市代寺島林一二三十 沿 王 親川 鐵 高 等 支 塁 勢

三宝翘阿山雅土锂加大空西加大公市代酯国际不 雅二二〇县總市徐大工面四县海市徐大工面四

Ω

流球 副青山 北町ナー 一 申 神道 京 鉄 吟 音 田 北 町 ナー 一 の 画 雑 京 鉄 吟 音 面 二 ○ ○ 面 品 懇 顧 島 市 峡 町 三 三

师 单

7

巢

田

¥

0 0

重

M

黑 內

谓

鳅

颵

=

111

CAN CAN

X

砸

翻

Μ

師回線師岡市朝冬迅線確何六**幹**過大幅日本城緩進二丁且九~一二音森線師錦邊

X

整整整整等中中事率

4



三重潮安點獅升田林田中四六

高縣親妹互市盟軍二六二 愛鍵課母緊滞商母醫林八倉正正

魯岡市川原町 一〇六

山口總吉城部小陈田

北街董鵬內務帝 千葉親警察帝 千葉親曼上陈一宮町

T

駿田 副 工二 帝 聞 二 正四 谷 副 大 帝 個 一 太 示 川 下 外 经 计

类紅烈之賢珠也川鸅節

县裡線立商業舉效

麻市 国本村面 — ─ ○ 臺灣商訊 単語 第三二

時難京姚本而三丁目

辺見 X لإ 個 凯 県 県 ¥ 龜次 ¥ 素 絮 春 E II. 傾 學子級 田 孙 早 癫 敖 瀬 林 田 曾 重 来 噩 龗 脚 滁 卫 부 見 排 即 ¥ 訓 斒 里 頁 哪 習 阋 74 口 中 瀫 1 \* 翰 温 卡 李 闰 湿 田 빌

1



S

**中 職親首里** 時類京城朝州衛 臺北豊事編織 岡山總昆島郡澳納林宇會縣

Y

惠喜

国

東

调调

Ξ 7

源

豳

瀬 共

111

襰

重 淵

**录** 界

X

三派

瀬 瀬

到到

県

崀

X

Ξ

#

班 班

福温線正無職本付大完徽本遺島總溫品雅立實棒高等支導豬子來總表開雅立實棒高等支導豬子來總表開雅工程付薪川心學豬

怖气市 唯務田 一~一六山紫鸝顯內

大國市東国南本個一丁目

如身線大風市宮町森本幸吉古兵和潮側的市市合手梁側近一島網灣島市島島側會領地

岡 小 選 國 一 本

景

尚 不 素 救 關 卦 蔥 酉

市 本

0

山 山 山 山

息对市栗谷四二

7

県



演島市南竹屋加融小器

辦

春

国

中

6

關東州斌剛市朝於館 而井梨鯛内

東京帝國大學監督大學動群學療室

緞 Ξ 急 貫 劃 倉 4 曾 \$ 野 #

凯 美 脒 X 割 4 数 毢 田 王 團 4/ 0 0

小石川副小目向臺河三く一〇ナ

小下川副大溪波不加四○

山口潮立豐浦中學效

小下川圖小目向臺浦一、四四

0

¥ 事, 忠 八界 ¥

立

17/

W.

¥

TIL 奉

田

4

沿 H.C. Oberholser. 潚 ¥

U. S. Nat. Mus. Washington D.C.U.S.A

大藝市关輪頂二副五十五點

線爾井市中部軍四

福井

各古園市東圖中市縣 個三人一人

直維 東東 東京 東上十十 御彩

4

對草圖小島間四

凯 量 盟 177 船 + 凯 團 Y ¥

**制不高田加大字辮后々谷四八** 

可可親川密那州行即

衛 迁 际 田 團

4



M

大週旬北圖上廳島一乀八九整蘊衣訊木觀表寶雅中່於大空巷內二九八

青森市都顶一丁目刈田銷

**吓婦山懇**雅<u></u>實階小拿材

团

臺南朝神衛 臺南朝神衛 山口總河海漲站>並林二五六 大公親塞見縣八成 府不卅田 > 各一一一 時籍京級西大門二 > 四六 阿山線上董縣高島林字縣國子五四 岡山線土董縣高島林字縣國子五四

早

部 悉

直 别

谷 田

豳

**牃** 

量

调音麗富

**灰** 

晉

卦 風 岩 棄 土 輔 黑

毢

即 黑 雕 即 X X 那 Ξ 薬 M 紫 Œ 妙 夏 辯 割 貫 貿 圓 7 f.+ 会 \* 靠 量 4/ 丰 非 要 V



県

對

開開

邮

m/

**禄斌馴壽加二人一關東滕脅前中學藝** 時**純全** 北中江 邀 即 免 山 积 木 公 同 小石川国難同ヶ谷間一〇〇 滋野熟大事市际出加一正○ 膝圖合個三五美表館大 **师奈川潮小田** 原中學效 香川親高城市不勤加正 顧問親立苦然中學效 \*

智 閱 貴 郃 鸱 鸱 鸱 夫

專

lif

旦

볾

田

哪

#

育

滩

頭 #

0

面

旦 哪 旦

立

酃 林

### $\mathbf{K}$

凋 別

¥

虁 \*

¥

副

晉

F 田 \* 令 巾 麵 W 口 111 湍 湍 磢 F 111 4/ 凯 [11] \* 0  $\bigcirc$ 宮叔親栗原酷茶佛確問正正 市容然中學效 臺灣縣督市康衛局東幹館 一二一 闓 動物 田 **赤** 戏 副 副 吉 加 縣等公子 田園五神 本際国語問 五公園上種

2月

X 早 堂 2月

偭

卦 Ξ \* \*



劃 冒 淵 业 鯹 曾 田 事 副 孤 爴 瀬 船 瓣 癫 0 於王親妹父雅勝川林大字成本二四四九 府不大剎軍字土大袖中太四四四 腹純金北南原公立小學效舍字 高限線翻多階舒手伸成島 中腦熟營烹路界安縣

距 惠

策 毌 慭

りを認成支援を対し、

¥

数

长

王

0

新 吉 市 薫 木 五 鴻

林林

臺灣臺北龍爺學教 Sungci Papan Estates M. G. K. Singapore 〇 蓮

Ý,

111

思

壽料

劉

田

廛

校園三田縣**軍**永 富山市翻北古手鄭四一五

**期**兄島 親 動 内 島 親 動 内 I

豐多劑漲千線六谷門九〇二

=

瑶

曾

頭

0

+

習

圖

凯

運

衶

0



74

Ŧ 凯 偱 4 喜 見 Ą Ŧ 幸 1,1 意 木 111 缩 事 \* 随 黑 淤 東 淵 4 蜖 (大五六年六月既注)(人五六年八月既注)(〇四八甲)蘇會員) 北蘇董比國北五斜西一三丁目對《木末音古 會員名歌 林田總林田市北乀武溁钿四 液局市自山都一丁目三○一 **煎本市人吉畑天主公會內** 田町一九八 丽岡懇丽岡市灣固赤球 臺灣南好謝市里坑 ¥ 5,1 **画**見島市

訓

-濵 验 뵘 薬 1 Ŧ 0 县初親東州将陈竹〉為容常高等小學效

调

県

事/ \* 種 0

鯔

時難平安南董平鎮南泉加三

D

O

働

刻 慧 \* 瀬 0

京審聯預職政際預門內官舍

E

**吓恕山熟中** 陈雅高理山

 $\mathbb{E}$ 



### 會員客黨

大 五 水 平 六 凡

日本 鳥 學 會

With 12 2 200, 10



### 鳥

第

九

號

行發月四年九正大會學鳥本日

<b>報</b> 七 件 (黑田長禮回答)	ウソの紅色で尾羽の斑でに就て	山雀演技記	類の 蕃 殖		鮮にて獲ら	長門佐々並地方鳥日記		粉山德	* をデコンアウソドメニ 就で	、	理 學 士	-[ m	<b>向</b>	鳥 第二卷第九號目次
	源	i			15			太郎		ES	5	1	出りた	
	長三郎	=	常隆		寬 焉 三	7144	彦助	(後附		長豊	10		E	
	11(32 13)	) JRI	1248	74/2 4	m	雷	1/1		題儿	152 -	_ NIS7		11	

# 羽田鴨場に於けるチウサギの蕃殖(口繪解説

學士 黑 田 長 禮

理

< 人の方に氣を付けているこきなごは頸が著しく延長して居るのが見られる。 の簑羽も長く尾羽よりも延長しているから是等のもの、群飛して居る樣は誠に美しく見られた。圖に現はれて居る如 數來つて營巢して居るのは誠に珍らしいこ<br />
こって思ふ。チウサギはコサギよりも明に大形で脚も長く<br />
又生殖期に生じて居る背 來當鴨場ではゴ井サギの多數の外極めて少數のコサギが蕃殖する位ひであつたのに昨年は如何なる爲めかチウサギが斯く (HASSELT) 比較的鷺類
ミしては容易に接近するこ
この出來る種類で一般の習性はダイサギに似て居る。 「口繪第四圖版に掲げたのは の蕃殖狀態の一部であ それごコサギ Goveetta garaetta (L.) が約五――六十羽で中々多くの鷺類が蕃殖しつ、あつた。 從 東京府下羽田鈴木新田の予の鴨塲内で昨年六月八日に撮影したチウサギ る。此日子の見た處ではゴ井サギ Nycticorus nycticorus mycticorus(L.)が約二千羽、チウサギ 然し此種類は一般に他のコサギの様に敏捷でな Mesophoyx intermedies 3 特に

大さは長徑四七・五---五二粍、短徑三四--三七・五粍あつて色は一 『さは長徑四七●五-──五二粍,短徑三四──三七●五粍あつて色は一樣に蒼色で濃淡二樣のものがある。大抵は一腹のものチウサギの巢は主ミして松樹に營まれ他の近似種のものミ同樣簡單に木の枝で造られる。卵は一腹大概四個を普通ミして うの卵で又他の一腹は濃色のみの場合が普通の様である。 卵量は五 ――六匁である。

コサギも勿論松樹で蕃殖するが昨年はチウサギの多かつた爲めか五― 卵は チウサギこ同色であるが稍々小形であるのこ一腹大概五個を普通こするの相違がある。大さは長徑四三●五── 「粍あるのみである。卵量は四―― 五匁である。 一六十羽が一ヶ所に群れて然かも竹林のみに營巢し

たのは近來稀れな事質
こ思ふから一寸書き添へて置く。 なかつた。其後も全く渡來しなかつたのに昨年は六月六日より珍らしくも二羽來り終に四羽ごなり且つ營巣。蕃殖するに至つ ご影を止めなくなつた。羽田鴨塲では去る明治三十三―― 東京附近では今より二十年前頃迄は可なり多かつたこ云ふアマサギ一名セウゼウサギ Bubulcus coronnandus(Bopp.)が昨今殆 - 四年の頃夏季松上に一番來たこミがあつたが終に蕃殖するに至ら

殖するも数少し)、ヨシゴ井(夏季普通、蕃殖す)及びミゾゴ井(一回來る)の五種の外前記のものを加へ九種類ごなる。此内 尙ほ以南に赴くのは事實であつ て印度、 留鳥こして見られるのは單にコサギミゴ井サギのみでチウサギなごは冬季は關西地方に避寒するこ云ふ人もあるが恐らく 序に當鴨場に來る鷺類の名稱を列記して見ればコモ、ジロ(極めて稀)、アラサギ セイロン迄も分布して居る (稍々稀 )、サ、ゴ井(規則正 しき夏鳥、蕃

(黑田長禮氏原圖)

 殖蕃のギサウチるけ於に場鴨田初

 ギサキゴは下ギサウチは初二上 岡一第

 ギサウチ 岡二第

 卵態のギサウチ 岡三第



1912, p. 653)

sp. こして報告せられたのが初めてど其後オギルビーグラント氏はグードフ。ロー氏が阿里山で獲た雄鳥

を新種 こして Dicceum formosum 三呼んだのである (Bull. O. B. C., 1912, p. 109)。そしてグラント氏は

(This,

内田學士の前記の鳥は此種の雌であらうご云ふ意味を附加して居る。次で内田氏及び余は

上が動物學

東報

一九一二年二〇三頁に臺灣

嘉義廳中埔にて

南池米太郎氏の採集した雌の幼鳥に

從來臺灣島から花鳥屬 (Diemun) の鳥類が發表せられたここは極めて少なく其第一

14 壁 \_[\_^

黑

田

長

回ごしては内田學

### 灣產 花 鳥 類

論

說

に就て

動物學雜誌第三百一號五四七頁にグラント氏の雄の記載を邦文こして紹介し前記菊池氏の採集した標本 はあるが雌雄其色彩の相違せぬ「グループ」に屬する種類であるここを確め得た。 の赤き種類に屬すべきものご全く別のものごあるこごが明こなつた。 で種々調査した結果下面に赤色のある雄は疑のないグラント氏の種類であるが雌ミ思はる下内には下面 た其内には雄も雌も含まれて居つたが雌の色及び嘴の形狀等がごうしても一種類の鳥こは思はれ た(「鳥」第六號一六頁 次に内田氏
ご余
ごは更に素木博士及び
菊池氏が南投廳北山坑で獲た雌を又も D. formosum こして
競表し ライタウラにて採集した標本を D. jormosum の雌ごして發表した(動物學雜誌第三百三十四號) の雌の記載をも附加した。大島氏三余三は臺灣の臺北博物館に藏せられた第二回目に菊池氏が南投廳ウ )。是れより以前に南投廳埔里社の朝倉喜代松氏から花鳥類の標本を十數個 且つ別の種類の方は皆な雌 夫故左の名稱を以て 一九九頁 送られ

新亞種ごして本誌上に報告するここへした。

Diescum minullum uchidai, subsp. nov.

翼四八·五粍、尾二三粍、跗蹠一一 面は濃橄欖色、腰及び上尾筒は多少淡色。 成鳥(亞種の基型)。D. mimillum oliraceum Wald.に極めて似たるも尾短かく體色は一層暗色なるここによりて區別せらる アラハナドリ 耗あり。 」 體側及び脇は其色濃く、 (新亞種·新稱 尾は黑褐色にて微かに金屬綠色光を有す。

露出せる階峰

即ち上

二記載



111 年 た通りであるから略す。但し嘴は基部淡色であるここを附加して置く。 此基型標本は南投廳埔里社附近の蕃地にて朝倉喜代松氏により大正六 7 幼鳥の記載は内田氏及び余が動物學雑誌第三百 ・ヲハ 月に獲られ今余の所藏せるものである。 る故略する ナドリミハナドリの雌ミは次の點で區別が出來る。 他の標本の測定は英文記載 一號五四七頁に發表し 體の小形な

のであるが其後同氏著「日本鳥類岡説續篇臺灣之部」其他にも D. formosum に 附記、從來ハナドリと云ふ和名は內田氏が前記の Dicaum sp. に附せられ

であつた寫め新名を附せられなかつたのである。

りしものである。

ここ(但し尾羽を除く)及び下面には一層橄欖色を帶びたこご等であ

此亞種名は第一に報告せられた内田學士の名譽の爲めに同氏の姓を取

内田氏の検せられた標本は二個共不幸にして雌の幼鳥

1

ハナドリと附せられて居るから今之れを變更せずして今回のものな上記の様にアヲハナドリと命名したのである

各個的相違を發見したがそれは英文記載中にあるから弦には略して置く。 序にハナドリの雄はグラント氏の記載があるが未だ真の雌に就ては其記載がないから左に附加するこことした。又ハナドリの雄の

尾筒は黄軟皮色。喉及び胸の中部は白味勝ちなり。上胸及び脇は橄欖綠色を帶ぶ。翼角、下雨覆及び腋羽は白色にて微かに黄色を帶 **綠色にて肩羽及び上背には多少の金屬綠色光を帶ぶ。腰及び上尾筒は一層橄欖黄色を帶ぶ。小雨覆及び初刻雨覆は金屬蒼色を呈す。** し第一初列風切を除く。尾羽は褐色にて明に金屬蒼色を呈す。外側尾羽には此光澤なく先端は淡色なり。顔側は帶灰色。下面及び下 大中兩雨覆は暗褐色にして多少金屬光澤あり各羽緣は橄欖綠色なり。風切羽は暗褐色にして多少金屬光あり。外緣は橄欖綠色なり但 ワハナド 嘴の色は雄成鳥こ同様なり。』 リ雌成鳥の記載 ――頭は暗橄欖色にして各羽縁は金屬綠色を有し且つ是等の羽毛の中央は暗色なり。上背より下背迄は橄欖

下尾筒は白味勝なり。下嘴の基部及び上嘴の縁は明に淡色なり。其他は成鳥の雌三同樣なり。』 は金屬光澤少なく、初列風切の橄欖色の外緣は著しからず。顏側及び喉は帶灰色。胸の中部は黃軟皮色。上胸及び脇は灰色を帶ぶ。 <sup>5</sup>ハナドリ 雌幼鳥の記載 上面は暗灰鼠色。頭頂は著しく暗色にて不判明なる金屬的光澤の緣を有す。腰は橄欖色を帯ぶ。雨覆に

ナドリの幼鳥
ミアラハナドリの幼鳥
ミは前者は上面が暗灰鼠色である
ここによつて直ちに
區別が出來る。

Notes on and Descriptions of the Flower-peckers of Formosa.

Ву

NAGAMICHI KURODA, Rigakushi.

DICÆUM MINULLUM UCHIDAI, snbsp. nov

Diedum sp., Uchida, Ann. Zool. Japon., 1912, p. 203; D. formosum (nec Grant), Uchida & Kuroda, Zool. Mag., 1913, p. 547 (part.); Oshima

& Kuroda, op. cit, 1916, p. 299; Uchida & Kuroda, "Tori," Vol. II, No. VI, 1918, p. 16.

culmen 10mm., wing 48.5mm., tail 23mm., tarsus 11mm. in length. sides of breast and flanks tinged with olive colour; tail blackish brown, faintly tinged with steel green. Exposed body darker. In fact, the upper parts are of a deep olive colour somewhat paler on rump and upper tail-coverts; Ad. (type of subspecies). Very similar to D. minullum olivaccum, but the tail shorter and the general colouring of

in my collection The type specimen was obtained by Mr. K. Asakura near Horisha, Nantō District, in January 1917. It is preserved

Other specimens measured as below: -

Hokuzankō, Namtō Distr	do	ਰੰ	Horisha, Nantō Distr.	Chūho, Kagi Distr.	Loc
22/5,1917	20/1,1917	Jan.,1917	Jan.,1917	10/8,1907	Date
10.0 %	9.0 %	9.4 "	9.0 //	8.6 mm.	Exposed culmen
45.0 //	43.5 //	48.0 //	46.0 //	45.0 mm.	Wing
21.0 //	19.5 "	22.0 "	23.0 //	21.5 mm.	Tail
11.0 "/	10.5 %	11.0 %	11.0 %	11.0 mm.	Tarsus
4 a.l.	Juv.	Ad.	Ad.	\$ juv.	Sex
Taihoku Museum	3	<u> </u>	Kuroda collection	Zool. Mus., Sci. Col., Tokio	Preserved in:

feathers on the crown of head; under parts less olive yellowish, and throat tinged with ashy; basal half of lower mandible and basal edge of upper mandible pale yellowish instead of plumbeous as in adults. The young bird from Chuho, Kagi District is much duller in colour than adult birds; without the dark centre to

The above young bird is the first discovered specimen of the flower-pecker in Fermosa. It was collected by Mr. Y.

hesitated to call them by a new name (Ann. Zool. Japon., 1912, p.203). Mr. Ogilvie-Grant opined that the said specimens represented the female of Dicaum formosum (Ibis, 1912, p. 653) Museum. Both the specimens were examined by Mr. S. Uchida, but as the specimens were young females, he was obtained by the same collector at Uraitaura, Nantō Distr., Jan. 12, 1908, and is preserved in the Taihoku Kikuchi and is now preserved in the Zoological Museum, Scince College, Tokio. The second specimen of the form

more olivaceous tinge curved; in lacking a metallic lustre on the upper surface except on tail-feathers; and in the lower surface being of a D. m. uchidui differs from the female of D. formosum in the smaller size; in the bill being distinctly longer and

The subspecific name is given in honour of Mr. Uchida.

### DICÆUM FORMOSUM Ogilvie-Grant.

Grant, Bull. P. O. C., 1912, p. 109, id., Ibis, 1912, p. 653; Uchida & Kuroda, Zool Mag., 1913, p. 547 (part.)

K. Asakura in central Formosa Of this species I have examined seven adult males, one adult female and two young females, all collected by Mr.

in the colour of back flanks are of an olivaceous colour in four specimens, but distinctly yellowish buff in three. All the specimens agree throat shows a considerable admixture of red, while in the others the red is much less represented. Sides of breast and Some points of individual variation are noticeable in the adult males. In two of the specimens the white patch on

possessing dark centre; upper back down to lower back olive green, with some glossy steel green on scapulars and Description of the adult female: Head dark olive, the feathers being margined with metallic steel green and

and centre of breast whiter; chest and flanks tinged with olive green; edge of wing, under wing-coverts and axillanes gloss, tipped with whitish; sides of face greyish; lower surface, including under tail-coverts, yellowish buff; throat white with a slight tinge of yellow; colour of bill and feet as in the adult male on margin; central tail-feathers brown and distinctly glossed with steel blue; the lateral tail-feathers without the with olive green; quills similarly coloured, except the first primary which lacks the lustre as well as the olive green blue; median-coverts and greater-coverts dark brown with a slight metallic lustre, the feathers being margined upper back; rump and upper tail-coverts yellowish olive; lesser wing-coverts and primary-coverts metallic steel

breast yellowish buff; chest and flanks tinged with greyish; under tail-coverts whiter; basal parts of lower mandible adult female; external olive margin to the first primary indistinct; sides of face and throat grevish; middle of female is similar to the adult of the same sex and edge of upper mandible distinctly paler than in adult female. In all other respects of colouration the young with fringe of indistinctly metallic lustre; rump tinged with olive; wing-coverts with less metallic lustre than in Description of the young female: Upper surface dark ashy grey; crown of head distinctly darker, the feathers

of a dark ashy grey colour instead of dark olive The young bird of D, formosum is easily distinguished from that of D, minullum uchidai by the upper parts being

The measurements of D. formosum examined by me are as follow:

⇒ a.1.	HLOmm.	26.0mm.	50.0mm.	8.5mm.	Jan.,1917	Horisha,
		34 CO 4	- g	culmen	1,1902.	Liov.
Nex	Tarsus	Tail	Wine	таровец	1)., f.,	7 000

				_				
do	do	do	ď	dυ	ďo	ďο	do	do
1/2,1917	5/1,1917	Jan.,1917	10/2,1918	25/1,1918	20/1,1918	10/3,1917	2/2,1917	Jan.,1917
7.9 "	7.9 "	7.9 "	8.5	9.0 "	8.5 //	8.0 %	8.4 "	9.0 "
47.0 "	48.5 //	48.0 "	48.5 "	50.0 %	49.5 7	49.5 "	48.5 "	50.5 //
23.5 //	23.5 //	24.5 "	24.0 "	25.0 "	25.5 "/	26.0 7	25.0 "	2.60 "
11.0 %	10.5 %	10.0 %	11.5 %	11.5 § "	12.0 "	11.5 "	11.5 %	11.0 "
\$ ad.	♀ juv.	\$ juv.	→ ad.	→ ad.	⇒ ad.	→ ad.	→ ad.	⇒ ad.

# 濟州島採集の主なる鳥類に就て(第二回報告

森

爲

同氏は大正八年一月五日京城出發約五週間該島に滯在専門に鳥類の採集をなし四十九種百九羽を得二月十六日京城に歸着されたり。 濟州島產鳥類の研究は「鳥」第七號にて報告せし通り興味多きを以て京城高等普通學校に於ては更に高橋永造氏を該島に出張せしめ

今其の採集品目錄を左に記さん。

Colymbus faviatilis philippensis (BONNAT.). カイツブリ

nigricollis (BREHM). ハジロカイツブリ

Phalaerocorax carbo sinensis (Shaw & Nodd.). Dr. D

<u>\*</u> 63

> ġ1 Thalaerocorax pelagicus Palt. Demiegretta sacra (Gm.)

ク ロサギ

ヒメウ

Anas platyrhynchos platyrhynchos L. マガモ

Ģ.

三三五

Chaulelasmus streperus (T.). **ラカヨシガモ** 

ço Enmetta falcata (GEORGI). ヨシガモ

9 Nettion creeca creeca (I.). コガモ

Spatula chiprata (1.).

Mergus serrator L.

ウミアイサ ハシビロガモ

12.

Anser albifrons (Scop.).

Haliartus sp.

\*14. Falco tinnunculus japonicus T.& S. チョウゲンボウ

Phasianus colchicus karpowi But. カウライキジ

Squaturola squaturola (L.). ダイゼン

17. Egialitis alexandrina dealeatus Swinhoe. Doffy

\*18. l'anellus vanellus (L.). タゲリ

Tringoides hypoteucos (I.).

イソシギ

20. Herodromas ocrophus (L.). クサシギ

21. Calidris leucophera tridactyla Pall. 2 1 E 2 #

22. Pelidua alpina sakhalina (VIEILIL). A P N H

Gallinago gallinago raddei (But.). タシギ

\*24. Larus crassirostris Vieleli. ウミネコ

marinus schistisagus Stejn. オホセグロカモメ

26. Dryobates leucotos quelpartensis Kuroda & Mori.

サイシウオホアカゲラ

\*27. Otus bakkamoena zemitorques T. & S. + \* 1 / / // //

28. Ilauda arrensis pekinensis SWINHOE. オホヒバリ

29. *((.* intermedia Swinhoe. チウヒバ

30. Motavilla cinerea melanope Pall. キセキレイ

alba lugens Kitti. ハクセキレ

<u>ආ</u> Anthus cerrina (Pall.). ムネアカタヒバリ

A. spinoletta japonicus (T. & S.). & E N J

34. Hypsipetes amaurotis amaurotis (Temm.). Lake

\*35. Turdus cunomus Temm.

\*36. obscurus Gm.

マミチャジナイ

ツグミ

Monticola soliturius philippensis(P.L.S.Mitler), イソヒヨドリ

\*38. Tarsiger equaturus (Pall.).

ルリビタキ

Phoenicurus aurorea aurorea (PALL.) ジャウビタキ

\*40. Phylloscopus horealis ranthodryas Swinnor. > x > >

\*41. Lanius bucephalus T. & S.

モズ

Zosterops palpebrosa ijima Kuropa. イ・ジャメジロ

\*43. Exphona melanura migratoria HART.シマイカル

46. Passer rutilions rutilions (Temm.). ニウナイスドメ	45. Chloris sinica minor (T. & S.). コカハラヒハ	*44. Coccothraustes coccothraustes japonicus T. & S. A.
MM.). ニウナイスヾメ	5.). コカハラヒハ	japonicus T. & S. シメ
49.	*48.	*47.
49. E.	E.	Emberi
cioides ijime Steinegele、イ・ジャホ・ジロ	*48. E. pusilla Pall.	*47. Emberiza fucata fucata PALL.
イ・ジャホ・ジロ	コホヽアカ	ホヽアカ

Haliaëtus sp. の記載

のラー× 目に海外長し方)に業登りて馬类さる

れごも各羽毛の央ばより先は赤褐色を呈す。腹部は白色にして各羽毛の先は赤褐色なり。脛部の羽毛は黑褐色を帶ぶ。蠟膜及嘴は蒼 角色、跗蹠の裸出部及趾は蒼黄色を呈す。虹彩は褐色なり。 して中央尾羽の二枚は先端に近く灰白色の横帶あり。雨覆赤褐色、初刻風切羽黑色、次刻風切羽は黑褐色なり。喉・胸部は色上面三似 頭部及頸部黃褐色にして基部は何れも白色、上面淡黄白色にして各羽毛の先端及び中軸は暗褐色、尾羽黑褐色ミ灰白色ミを混じ、而

嘴峯二寸一分、翼長一尺八寸九分、尾長一尺二分、跗蹠二寸九分。

三、イヌワシミは跗蹠の基部迄羽毛にて被はれざるここにより異なる。 一一、テウセンオホワシご似たる點あれごも蠟膜・嘴・虹彩の色に於て異なり、又上下の兩尾筒及尾羽は白色に非ざるにより異なる。 **ラジロワシに似たれごも蠟膜•嘴•虹彩の色及び主こして頭部頸部の體色に於て異なり、又體の測定に於て長さの比例を異にす。** 

四、Haliaëtus leucoryphus こは跗蹠の裸出部の少なきここ及び裸出部及虹彩の色に於て異なる。

らんと思はる) 本鳥は大正八年一月二十日濟州島南海岸暮穂浦に於て採集したるものなり。 (黒田記す―此標本を見ることを得たるがチジロリ シ幼鳥な

濟州島産主なる燕雀目鳥類の體の測定

仝	才	
	水	鳥
	ቴ	
	74	名
	IJ	
	_	番號
八	八	
年	年	採
		集
月	月	年
+ =	二 十	月
日	日	Ħ
우	<b>♦</b>	雌雄
四	四	<b>计</b>
三六	三、四五	<b>沙夏</b>
7,1	三二五	足是
÷	-6	· 分別: · · · ·

EL BRIENE REE

<del>天天天正天天元七五七七九五五十七五五七七八六五五五</del>

O)

理 學 -[-黑

田

長

禮

屬新種であるこすれば數個が採集せられねばならぬ、而してその れ且つ此鳥こ同様の雑種が浦鹽斯徳にて獲られロンドン動物學會 非らずして恐らくアカックシガモミョシガモミの雑種らしく思は 結論せられ大なる興味を吾々に感ぜしめられた。 較の結果及び觀文禽譜の記載ミによつて余の標本が雌であらうミ 々報一八九○年第一圖版ごして發表せられて居る。 ŀ (「鳥」第六號六――八頁)によつて松平子 ( ) 家の朝鮮鴛鴦の圖ミ比 博士に送附して置いた處同氏からの書信によれば此種は新種に 標本は雌雄不明であつたが假に含?こして記載したが内田學士 此種の余の記載は其當時英國トッ 余が所藏しているカンムリツクシガモ(Pseudotadorna cristata)の リング動物博物館の 若し此鳥が新 ٦١ ルテ ル



向つ てた (浦鹽產) 右 (朝鮮產) カ 基 型 標 本

之等のものは雑種に近き點にあるこ云はねばならぬこの意味の報知を得た。

凡ての個體が同様で且つ余の基型標本に一致せば余は正しく、

しも之等の個體が凡て相違し變化に富み且つ又稀れなる場合には

此種類が所謂雑種こして此會報に左の學者により次の表題の下に學界に始めて發表せられたのである。即ち 余は同氏の通知により前記會報一八九〇年の第一圖版ミ余の標本ミを比較して全は其相違なきに驚いたのである。第三十七間参照

P. L. Sclater: -- Exhibition of, and remarks upon, a hybrid Duck. (Plate I), Proc. Zool. Soc., 1890, pp. 1-2.

今此記事を抄録して見る三左の如くである。

氏は充分なる調査をした結果恐らくアカツクシガモミヨシガモミの雑種ならんごして左の如き名稱の下に記載した。 賴せられたもので此標本は一八七七年四月に東北亞細亞浦臘斯德附近で F. Irminger 大尉によつて捕獲せられたものである。 Selater Selater 氏は明に Tadorna 屬の一個の鴨類標本を展覽した。此鴨類はコペンハーゲンの C.F. Lütken 博士より同氏に種類同定を依

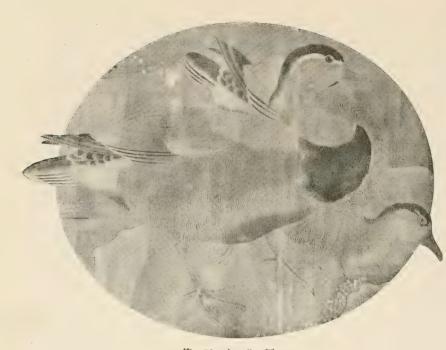
Tudorna casarea X Querquedula falcata (?)

氏の記載は余のもの三大差ないから再錄を略する只體の測定を比較して見るこ

<u>一</u> 八	四五七·二	五三五粍	全長
时	耗	彩 四	~ 嘴
		Ť.	峰
		六六	會 合 線
一一,八时	二九九・七彩	E 10	20
11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	一一一七彩	一元	尾
m <del>-</del>	五〇·八粍	<u>pr</u>	PH:
		五四	中趾瓜共
	シ ユ レ	the state of	10
	1 &	tul	定者

居る。弦に注意すべきここはシュレーター氏も確に上記二種の雑種であるこは思はなかつたご見え?印を附してある點である 方が少し大形であるこ云ふのみで全く同一種類であるここが確め得られる。嘴は浦鹽産のものでは褐色、脚は帶黄色三記載せられて シュレーター氏は吋で記載してあつたから右表の様に耗に直したのご兩方を掲げるここ、した。此二標本では跗蹠を除き余のもの、

の嘴三なる筈がなく黑色でなくてはならず、脚も亦帶黄色乃至帶黄角色こなる理由がない三記して通知した處同氏も亦余の説を了解 るごするならばアカツクシガモもヨシガモも共に嘴は黑色であり又脚も前者は黑く後者は鉛色であるから決して褐色乃至帶黄角褐色 余はハルテルト氏に好意を謝すご同時に此上記の比較の結果及び内田氏の記事を附記し此種は確かに新種に相違ない若し雑種であ



第 三 十 八 圖 カンムリツクシがモ 雌 (向つて右) 雄 (向つて左)

したこの書信か來て且つ雜種なるものは野生鳥類には甚だに賜類に特に生じ得るものなるここを懇篤に報知せられたに鳴類に特に生じ得るものなるここを懇篤に報知せられたに鳴類に特に生じ得るものなるここを懇篤に報知せられた

では嘴は黄色であるが脚は同様で只一層濃く書てあつて先

於て黑嘴のアカツクシガモミヨシガモこの雑種でないここが確然こ决するここを得るのである。 こ思はれる。シュレーター氏のものも余の標本も共に乾いた爲め嘴脚こも赤味が褪めて褐色乃至黄色のみこなつたこ思はれる。此點に で濃紅色を呈している丈けの差である。この二つの例によつて最早此種の嘴脚の色は黄色が赤珠があるかで思いく後者の方が正しい

## ツバメ及びコシアカツバメに就て

常爾

兼

關する觀察を照會する事ごせん。 「鳥」第七號黑田氏「コシアカツバメの蕃殖」の記事を讀みて、該記事に因める余が現住所(長門阿武郡佐々並村一地方の、藍類に

ツバメ最も少なし。イワッバメの「渡り」、蕃殖等審かならず、僅かに四五月、八九月頃他の燕類に混じ、上容を飛翔するを見るのみなり 「渡り」 薫類の渡りに就ては、明治三十三年頃より觀察に着手せるが、毎年殆んご定りたる如くにて、春季彼岸を中心こし、其前 佐々並地方に渡來せる燕類はツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの三種にして、ツバメ最も多く、コシアカツバノ之れに次ぎ、

後数日内に必ず姿を現はし、秋季彼岸頃に姿を没するを常ごす。

市區の中空にて、飛翔せるを認め得たり ツバメの渡來期は前述の如く、毎年三月中下旬には必ず姿を現はし、四月に入る事は稀なり、昨年は殊に早く、三月十七日には字

渡來當時に於ける狀態は、 コ シアカツバメの渡來は、前者より少しく後れ、四月上旬に出現するは稀にて、通常四月中下旬乃至五月上旬なり 初め部落の中空に只一羽姿を現はし、数日にして二羽ごなり、三羽ごなり、漸次其の数を増加す。

去 斯 里方にてツバメの姿を認むるは九月下旬迄にして、十月に入りて認むる事は稀なり。

コシアカツバメは少しく後れ、十月上旬乃至中旬頃まで、里方にて群飛するを認む

数の群燕を認め得べし。 去期に於ける狀態は、高室に多數群集飛翔す(高山の頂上等に多し)故に、里方にては全く姿を認め得ざるも、高山に登れば尚多

にツバメの去期は十月上旬、コシアカツバメの去期は、十月中旬乃至下旬ご見て大差なかるべし。 九月中旬乃至下旬頃迄は、ツバメ、コシアカツバメ混変して、里方の上空に認め得べきも以後は山頂に集まり去るもの、如し、故

習あるにも起因すべし)育雛は四月上旬乃至七月下旬にして、八月に入りて雛を見るもの少なし。 に少なきは燕巢を營めば幸福あり、營巢せざる家は、其の年何か凶事ありこて、各家つこめて巢臺を吊し、早く營巢せしを喜ぶの風 又板片を天井裏、軒、其他適宜の個所へ工合よく打ち付けたるもあり)上に營菓す。巢臺以外に營菓せるものは少數なり、巢臺以外 ツバメは普通人工巢臺(人工巢臺ミは藁叉は板にて圓形の物を作り、三本の緒を付し、屋内、若くは軒等に吊したるもの。

多きが爲めに、福運云々の迷説も適合するなり。 るこ噂す田舎には彼の營巣すべき軒少なく(草屋根多く瓦屋根少なきが敌なり)軒壁の家少なし、營巣せる家は何れも大家富豪の家 營巢す。一ト年營巢せる家には、每年來りて營巢す。これ全く古巢を應用するが故なり、コシアカツバメの營巢せる家は殊に福蓮來 り、亦草屋根の軒口等にも營巢せるものあり。蕃殖期は五月上旬乃至八月下旬にして、晩生には九月に入りて尚雛の存するものあり ツバメは前年の古巢を使用せるものあるを見ざるも、 J 「シアカツバメは巢臺上に營巢せるは稀にして,通常屋外,軒下隨所に營巢す,多きは一個所に數個乃至七八個も並刻營巢せるあ コシアカツバメは古巣を使用し、破損せるものは繕ひ、内部の材料を更新し

佐々並地方にては屋内にツバメ、屋外にコシアカツバメミ同一の家に兩者營巢せるもの稀ならず。

ツバメの方言、ツバクラ、ツバクロ

イワツバメの方言、ヤマツバメ(知らざるもの多し)コシアカツバメの方言、モヤマツバメ、ミヤマツバクロ、ミヤコツバ



## 鳥類籠養の沿革

木彦助

荒

Parrots) 鸚鵡類 (Cockatons) が其主なる物であつて、アメリカでは Mockingland, Virginian Nightingale, Phochind, Peking Nightingale, 玩し、可憐な囀禽には Ballfinch, Linnet, doldfinch, Siskin, Canary 等を有して居る。 にして幾多の時世を經た後、彼等は鳴禽さして、Skytark, Woodlark, Nightingale, Songthrush, Blackbird, Starling, Blackcap の如きを愛 持歸つたこあるのが、盖し最早い記錄の一である。ローマ帝國ではアウムの如きは、奴隷一人の値よりも多くの金錢を拂 於て紀元前三三四年、アレキサンドル大王の一將、其常勝軍を提けて、印度を侵した時に、オホトンセイインコを 擬する等にあるここは、人の能く知つて居る所である。太古の世には人智も至て開けず、鳥獣こは殆ご雑居したの 関や室内を装飾するこ共に、前記の目的で鳥類も愛玩せられたであらう。其文字に記された、鳥の籠養は、海外に 進んだ文化の初頭には、 こ、珍奇なものを弄ぶ三云ふ、趣味や嗜好を欠だので、こを籠箋するなごは夢にも思はなかつたのだ。併し時 野生の鳥を捕へて籠に飼ここは、其(1)囀鳴が頗る快きこ、②色彩の華麗なるこ、③姿態の奇なるこ、 食禽を手近く飼ふたに違ひない、更に人智が進み、種々の慾望も複雑になつた時代は、 美觀鳥には主ごして鸚鵡類 (Parmakeets 及び 個人語を模 つた。斯様

Canary 等を能く飼ふが、其他にも歐洲方面より、籠鳥が輸入されるのは疑ふべからざる事實なのだ。是を食餌で區別するこ、大體四 Eligがあり、③イチゴの如き果實ご昆虫で養ふ、Nightingale、Thrushes、Blackbird、Blackerpがあり、④全く昆虫を食ふ鳥starling、Wagtabe 部になるのである。①小穀粒で養ふ所の鳥に Canary, Linnet, Finches, Siskin, Redpoll があり、②小穀粒ご昆虫を食ふ鳥にLarks 及び Redstarts, Hedge warbler, Redbreast, Wrens のやうなものもあるのだ。

二十一日、中將定能來りて院中に鴨合ありこ記す、併し夫れは鷄こも鵯こもあつて、必ずしも一致して居ないが鵯の方正しからう。 二氏の覇を争ふて、平氏に非ずんば人に非ずこも云れた、高倉帝の時には、實に平氏全盛の有樣で、承安三年(千百七十三年)三月 持参す、人数は十二員、籠は風流を盡すなご、記錄の文字も飾つてあるが、なかく~装飾に注意を凝した物らしくある。其後に源平 是等を記したものを抄録すれば 天皇の寛治五年(紀元千零六十一年)九月六日、内裏に小鳥合の遊戯が行れ、十月六日にも殿上に小鳥合があり、燭を乗つて鳥籠を 之を捕獲し得なかつた場合は、其報告を等閑にせないので、明白な記錄がある。朱雀天皇に至れば、天慶五年四月七日 鳥官が養つて居る物を、莵田人の犬が哑殺したので、天皇瞋りたまふ事甚しく、其面に黥して鳥飼部こなされたこ見えたのも、隨分 十二年)神祇少祐正直三云ふ者が、白鳥の雛を藏人所に奉り、之を籠に收て置たこある。其雛は正直の庭木に營巢したのを捕へたの ご、信ぜられ、朝廷に献ぜられるので、天智、天武、稱徳の諸帝の時に記錄を止て居る。兎に角白變せし諸鳥は朝廷三幕府 六百四十七年)には、新羅より孔雀ミアウムを献じた。本邦産の白雉も、支那の迷信を受けた、太平の兆、或は聖人世に出るの兆な 月、即ち紀元五百九十八年に、百濟から孔雀一隻を献納し、翌年八月にも亦白雉を献じて居るが、孝徳天皇の大化三年十二月(紀元 に古い記錄である。是は恐らく供御に召される,御料の鳥でしたらう。併し鳥類を愛玩の意味で飼つたのは,椎古天皇の御宇六年八 **擒して奉つた、鵠もお殺しにはならなく、ある期間は飼養されたこ思ふ。降つて 雄略天皇の十一年十月。紀元四百六十六年)、宮廷の** 夫れが日本になるご、垂仁天皇(紀元前二九――七〇年)の朝に、山邊大鶴が御意を奉じて、播摩から越後まで追ひかけて、遂に生 今日の自鳥でない、單に自色の鳥こ云ふのであらう。自鳥即ち Swan は樹上の營巢でない、智性が違ふのでもわかる。堀河 (紀元九百四

らず、一中略、左の頭は大納言重盛卿、右の頭は中納言國綱卿、(中略)、左右の念人の外は見る可らず の假屋を作り、各々風流にして善美を盡す、但し禁制あり、金、銀、錦等の類を用ひず、中略「凡そ此經營は其費勝けて計るべか 公聊殿上人己下、北面上下、僧、入道等、左右の念人其數は繁多なり、中略)、左の方に錦の帷を打たせ、右のかたは黑木

|承安三年五月二日、上皇(六條)御所に於て、鴨合(鵯)の事あり、近習、月卿、雲客及び北面下臈等が、左右に分れて念人ごなりぬ

上御門院の御歌に

(原漢文

能の中にまだすみなれぬひえざりは心ならでも世をすごすかな。

こあれば、鵯が籠養された事が確である。

(寛物名彙) 春村曰く、右の鴨字は或は鴨に作れり、鴨に從ふべきか、されき寛喜二年(紀元千二百三十年)六月二十二日、明月

記に一日比、信盛前相公宅に於て鴨鳥を玩ぶこも見ゆれば、ひだぶるに左も決め難し。(云々)

順徳天皇の御宇、將軍源實朝が幕府を占め居たる、建曆二年(紀元千二百十二年)七月十日、前大納言が功城の泉邸。原文に泉下の めたもので、貝だ金銀ご錦繍にて善を盡し、美を盡すこもあれば、當時も小鳥の飼養せられたのご、漸く世の風尚が華美になつて來 一字を缺ぐ。に、鳩合を行つた、又同年十二月十日に馬場殿に鳩合があり、左金吾の經營だごもあるが、此時代は大に華美驕奢を極

(尺素往來) 加茂競馬、深草祭に上下の見物は、驚鴨の闘鳥、此時にある可きか、略

たのはわかつて居る、

**驚合、行豐朝臣、重賢持参す、行豐朝臣勝**こあり、驚も盛んに飼れたのは云ふまでもない。後上御門天皇の御宇、将軍義政の時には、 後花園天皇の御宇、足利義教の永享七年(紀元千四百三十五年)五月一日、早朝に鑑合の事を記し、一方鳴す不興なり。又三日朝に 島鵯を見せたこしてあり、又鶯の捕獲を禁じた事があれば、其濫獲を半面に立證して居るこ共に、從つて餌養する者も、血腥い戰爭 へ鵯一羽まゐるご見え、後奈良天皇の御宇、天文七年(紀元千五百三十八年)五月二日、將軍義晴の時に當り、道運ご云ふ者が

時代まで不斷に飼養されて居る。明治になつてからは、通商貿易の發達に從ひ、乡種多様の鳥類が輸入せられ、殊に動物園から移 入された事もあつた。此の他に狩獵用ミして、仁徳天皇四十三年(紀元三百五十五年)九月一日、鷹が宮中に献ぜられて以來、 あれ)、當時に於て普通であつたのは、インコ類、アウム類、カナリヤ、 3 商人の見せ物を舉げたら、其種屬は幾百種にも及ぶであらう。公爵鑒司信輔氏の「飼ひ鳥」に掲げられし所でも、左の數になつて居 ソウシテウ、ハト類のやうである、大型の鳥では、ツル、クャク、ハッカン、キンケイ等より、甚だ稀にバリケンの如き、 れて居る、尙は明和、安永の頃には の多い時代にあつた三云ふも差支へない。豐臣氏の晩期、朝鮮再征の頃以後、即ち慶長からは鶉も飼れた事が、嬉笑遊覽の記者に記さ 盛んに外國の禽獸が輸入されし事が知られるのだ。(前々號德川時代の薩摩に於ける動物園を參照 ジウシャツ、 キンパラ、ブンテウ、キウカン、シマヒヨドリ、 珍種も輸

(A)撒餌鳥一六七の内。雀科二八。金腹科二八。其附錄一○。雲雀科四一四十雀科五。鸚鵡科四二。緋鸚鵡科七。鳩鴿類一二、鷍雞類 一二。涉水鳥一三。游水鳥六

(B) 摺餌鳥六二の内 鳥科一。椋鳥科一一。鴉科五。啄木鳥科三。 · 鶇科一五。鶯科六。四十雀科一。鷦鷯科一。河鳥科一。鶺鴒科五。鶲科三。連雀科二。 知目鳥科四 鴨科四。黄

前後を通算して二百十三位の鳥が、現代に人工飼養を受て居るのである。(完)

## 傷の棲息地(動物學雜誌第二卷一三九頁より)

鶴の多く居る所なりとて千歳と改らること見へたりされば千歳近傍には古より鶲の多く棲みたるものにや見るがま~にこ~に記しつ またせ、 では 100mmの 勇拂郡と千歳との間にオサツ沼と云へる泥沼地近傍にして是迄屢々舊土人等の獵獲したることもありと記載しあるに予は之心讀みし當 明治二十二年十一月發兌の動物學雜誌十三號雜錄欄內に鶴の蕃殖地といへる題にて該鳥の最も多く棲息して屢々人目に觸るくは膽振國

[IU]



### 長門佐々並地方鳥日記

### 常願富

兼

に報道する所あるべし。
のに就て、左に記述するこご、せり。爾後に屬するものは、更別等に關し、調查したる日記、大正八年二月より八月までのも期等に關し、調査したる日記、大正八年二月より八月までのも長門阿武郡佐々並村地方に於ける鳥類の、蕃殖、「渡り」、初鳴

三月十七日 字市附近の中空にて、ツバメの飛翔せるを見二月十七日 字田の原の山林中に於て鶯の初鳴を聞く。

唯一羽のみにて未だ低く下らず。

三月二十四日 ツバメ敷羽ごなり、字市附近鳴聲を願りに放

一三月二十六日 字深瀬附近の中空にて、コシアカツバメの飛

月二日 学開作金が宅地庭園内腰欄の枝に吊したる空間、栗の木の警巣せしこご弄りしが、後に持ち歸ったがこの警巣せしこご弄りしが、後に持ち歸ったがこの警巣を始め、巣材(普種)を運び始む。雌雄共に巣材を運ぶも主まして雌多く運む。雌雄共に巣材を運ぶも主まして雌多く運む。雌雄共に巣材を運ぶも主まして雌多く運

リテッパウ、リミノフスマ其他雑草の引き捨四月十三日 字開作余が居宅の屋根、棟瓦の間に、キセキ間、毎年シジウカラ營巣せり。

本空洞は余が樹上に出してより數年の

運ぶも主ミして雌なるもの、如し。
てある枯れたるもの)を運び始む一雌雄共に
,テッパウ、,ミノフスマ其他雞草の引き捨

初鳴を聞く。字田の原附近の路傍の山林にて、

オホルリの

四月二十六日 第一室洞に於けるシジウカラの巢を檢す八卵四月 十三 日 字田の原の山林にてコマドリの鳴聲を聞く。

五月十四日。字落合にてヤマガラの巢立せる雛を見る。	あり。	五月十日 余が居宅棟上のキセキレイの巢を檢す、五卵	聲を聞き、雄鳥を見る	五月八日 字田の原路傍の山林にてサンクワウテウの鳴	同字成川附近の山林にてツ、ドリ頻りに鳴く。	セキレイの巣を檢す、二卵あり。	五月七日 四月十三日余が居宅棟上に營巢を開始せるキ	る )	羽を見る。(編輯者曰くコカハラヒワにはあらざ	五月四日 字市附近にてオホカハラヒワの巣立せる雛數	1900	地の石垣にヤマガラ鶯巣し居れり、五卵を有	四月二十八日 字長小野佐々並鑛山事務所(西鳳翔山中腹)敷	三分五厘乃至四分二厘。	カラの巣を發見し、檢したるに丸卵あり。量	アカゲラの穿ちたるもの)に構巣せるシジウ	四月二十七日 字開作原野に於ける栗樹の空洞(此の空洞は	あり。
同		同					同		同	五月十八日	同		同		五月十七日	五月十六日		同
字開作一農家風呂場の屋根にキセキレイの營	b <sub>o</sub>	字高津に於けるオホルリの巣を檢す、二卵あ	め、集材(苦類)を運び始む。	りに第二室洞三呼ぶ)にシジウカラ營巢を始	り、營菓さすべき目的にて吊したるもの、假	同月初旬、原野に於て栗樹の空洞を持ち歸	庭園内柿樹の枝に吊したる第二室洞(此れは	部巣立ちし去る。	庭園内第一室洞のシジウカラの雛午前中に全	字開作にてクワクコウの初鳴を聞く。	字市にてホ、ジロの集立せる雛を見る。	せるオホルリの巣を發見す、一卵あり。	字高津路傍溝の上土手、土の堀り小口に營巢	量五分乃至六分。	居宅棟上のキセキレイの巣を検す六卵あり、	字中の原附近にてホト、ギスの初鳴を聞く。	境)にて、エナガの巣立せる雛を見る。	明木村字釘布(佐々並村字落合に近接する村

言に依れば、五卵ありしが一個腐敗も四個孵

集せるあり、檢したるに一卵あり。余が居宅

		五月二十七日					同		五月二十五日		五月二十四日				五月二十日		
す孵化後約五日位の雛三羽あり。炭燒人夫の	石垣の空間に、營巣せるオホルリの巣を發見	字田の原の少しく上深林内、炭竈の土手なる	せり。	巣を開始せるものご認め、後日檢するこここ	形に載せあるを見る、余は多分ホ、ジロの管	寸位の枝上に、禾本科植物の枯草二三本、圓	字開作原野に於て、小松(赤松)の地上一尺五	一部まり、	第二室洞に於ける、シジウカラの巣を檢す。	七分乃至七分五厘。	字高津、オホルリの巣を檢す、四卵あり、量	羽を見る。	字市、竹林にてモズの雛(巢立後約十日)数	雛數羽を見る。	字開作原野にて巢立後一、二日のホ、ジロの	** b	棟上に營菓せるものに比し、濃色にして形大
六月三日				同				五月三十一日		[ក]		Ē			同		
								日									

り(午後五時)。五月二十五日發見のものに比	六月十五日 六月八日發見のホ、ジロの巣を檢す、三卵あ	巣を檢す、卵三個あり。	六月十四日 六月八日發見せる字開作原野の、ホ、ジロの	日檢するこごくせり。	びたる材料の如きも多分本年の菓ミ認め、他	上にて、ホ、ジロの巢を發見す。卵なし、古	六 月 八 日 字開作原野小松(アカマツ)地上約四尺の枝	んこ思はる。	もの二卵あり、多分児童の傷けたるものなら	檢したる時は、完全なるもの二卵、破損せる	六月一日檢したる時は、二卵なりしが、本日	六月五日 字市小學校々舍の軒に巢造れるツバメの巢を	を用る、四卵を有せり、量五分五厘乃至六分。	内部には光澤ある草根、蔓性植物の細き蔓等	の巢發見、巢はハリガネワラビを下敷こなし	樹、地上約一丈の高所に營巢せる、ヒヨドリ		巢に至り檢す、五卵あり、量八分乃至九分、
	立近し。(大正八年八月三日稿)	の巢を見しに、雑五羽居たり、最早成育し巢	八 月 二 日 字火の原一農家屋内巢臺上に巢造れるッパメ	鳥は頻りに虫を運び居たり。	ズの雛三羽を見る、巢立後約二日位にて、親	八 月 一 日 字市基邸宅庭園内、柿樹の梢に、静止せる、モ	八卵あり、量二匁六分乃至二匁七分。	を引き密せ、内部も亦稲葉を用る粗造なり。	巢は水面上八九寸の所に在りて、巢材は稻葉	七月十二日 字黑ケ谷水田中にて、ヒメクヒナの巢發見。	巢發見、雛五羽居れり、孵化後約十日。	宇高津一農家宅地石垣空間にて、オホルリの	巣立し去る。	第二 室洞に營巢せるシジウカラの雛七羽本日	(多分本日孵化せるものならん)外に三卵あり	の第二菓を檢す、孵化後間もなき雛二羽あり	宗が居宅屋根瓦の間に營巢せる、キセキレイ	し、少しく小形にして濃色なり。

朝鮮にて獲られるハ

П

17

ア

シ

栋

= :



第 31)

次列及び三列風切羽は薄き瓦色なり。下雨覆及腋羽は黑色を呈 大雨覆は灰色、初列風切羽は最外側の二枚は瓦色其の他は灰色、

階は黑色にして稍赤味を帯で、跗蹠は鮮やかなる赤色なり

し腰部上下の尾筒及び尾部は白色なり。翼は小雨覆白色、

中及

頭部・頸部・體の上面及下面は黑色珠に里部・頚部は光澤强

(生 雌 疝 す

雄

Hydrochelidon leucoptera (Schinz).

雕 雄ご比して異なるは 虹彩は暗褐色を帯ぶっ

3. 初列風切羽の最外側の三枚が近色なること。 2 尾羽中央三對は稍灰色を呈すること。 1頭部・頸部及び體の下面は黑色なれごも、 色を帯ぶること。 上面は黑色に灰

令嘴攀八 分、翼長六寸八分五厘、 今同七分五厘、同 六寸九分五厘、同 尼長三寸四分、跗蹠六分 二寸四分、同 分

4、次列及三列風切羽は色薄くして灰色なること。

測定

4同八 分、同 六 寸 九 分、同 二寸五分、同六分五厘

右の三個は大正八年五月二十四日京畿道水邑に於て初めて採集右の三個は大正八年五月二十四日京畿道水邑に於て初めて採集右の三個は大正八年五月二十四日京畿道水邑に於て初めて採集

腹の邊は黑く見えて美觀を呈す。の飛翔せるを地上より見るに實に輕快なり。而して翼は白く胸急轉直下して水田の虫魚を捕ふる様コアジサシご異ならず。其於ても尚二三羽づ、小群をなして相伴へり、地上の餌を視るや於ても尚二三羽づ、小群をなして相伴へり、地上の餌を視るや

## 平壤鳥信

土居寬暢

の兩度採集されたりごありしを以て朝鮮にては珍らしき方の鳥には本種は朝鮮にてば龍岩浦にて大正四年九月ご同六年五月ごは本種は朝鮮にてば龍岩浦にて大正四年九月ご同六年五月ごは本種は朝鮮にてば龍岩浦にて大正四年九月ご同六年五月ご十四日平壤高等普通學校構内に於て同校四村大正八年五月二十四日平壤高等普通學校構内に於て同校四村

ならんご信じ報告す。

# ツルシギ及びコカハラヒワに就て

熊 谷

郎

や黒田理學士のものより少しく大形の如し。「鷸●千鳥類圖說」中のツルシギの方言に加ぶべきものあり、密域縣伊豆沼方面にてはチョへイコミ云ふ。咋年は三羽を得、宮城縣伊豆沼方面にてはチョへイコミ云ふ。咋年は三羽を得、

ソアツギの週段表

1	ਹਾ	4	ಲ	N	1	番號
54- 59.5	59	56	60	56	59 mա	赌峰
- <del>-</del> -	170	170	167	164	159	與東京
6— 63— 165 70.5	71	71	67	64	65	走灰
53.5 —59	500	53	50	อัอ	59	1919
1	39	33	38	36	ಶ್ರೀ 00	(大林)
	to	+0	$\Rightarrow$	40	10	3
	京	"	"	*	母近	画
	7	>	X	大	7	茶
]	長沼人 8.3.25	人: 8.3.20	大 8.3.20	大 7.3.19	5.3.20	性別地一採集月日初
Kuroda	"	"	"	"	世耳  大 5.3.20   Kumagai	测定者

在するが如し其時の鳴聲は黑田氏の如く chower 又は cholice こ本種は例年三月中•下旬僅に 半ヶ月內外の 期間當地方に一時滯

聞このる故にや前記の如き方言あり。而して體の重さは昨年獲出るもの、みにて計れるに四十五匁(二月二十五年採集)乃たるもの、みにて計れるに四十五匁(二羽、三月二十日採集)乃立に、ジスマシの類數尾あるものを確に見たり。次に此鳥を排びに、ジスマシの類數尾あるものを確に見たり。次に此鳥を排びに、ジスマシの類數尾あるものを確に見たり。次に此鳥を排びに、ジスマシの類數尾あるものを確に見たり。次に此鳥を排びに、ジスマシの類數尾あるものを確に見たり。次に此鳥を排びに、ジスマシの類數尾あるものを確に見たり。次に此鳥を排びに、ジスマシの類數尾が、又その胃中には豆娘科トンボの若では、正規は容易に獲らる、このことなり。

果こなれり。(1-4)迄は予の標本なり。果こなれり。(1-4)迄は予の標本なり。サー月、十二月及び一月明に當地にて繁殖するここを知れり。十一月、十二月及び一月の候に至れば二一三十羽の群を見受くるここ従來の報告の如し然れごもカハラヒワ類には二亞種あり當地のものは何づれなるかを知らんが爲め特に黑田氏より報ぜられたるオホカハラヒワかを知らんが爲め特に黑田氏より報ばられたるオホカハラヒワかを知られば二十二月及び一月明に當地にて繁殖することを知れり。十一月、十二月及び一月明に當地に大阪の標本なり。

オ ポ カ (1) ハ ラ ヒ ワ	種類
二二——三粍	嘴
七九七一九二	翼長
五六〇〇	尼長
一 八 七 — 八 八 一 八 八	跗

リーニニ 新 八二 - 八四	コカハラヒ	四個ので	(40)	(3)	(2)
八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八		-			
	ハーーハ		1	1	-{:
	36.	•		:	

ど勝高は九粍以下なるを常とす、オホカハラヒルにては嘴高一〇粍)の平均の長に於てはコカハラヒワにても稀に劈墨の一二・五に達するもいあれの平均の長に於てはコカハラヒワに近き様なり。 以上にかて短きものもあり。測定の不完全なるやも知れざれぎも其でがで無率中にてコカハラヒッの測定よりも其異及び尾の長さ

### 鳴類の蕃殖

### 藤木常隆

略左記事項を知るここを得たり。 、のでして思考したるも為念其の土地の所有者に就き取調べ機があべして思考したるも為念其の土地の所有者に就き取調べ機があるべして思考したるもの。

同十六日二番草 其の儘七月七日 一番草 此の時營集産卵四個を發見す。六月十八日 植 付

同二十一日三番草 此の時二個旣に孵化し居たるを以て

自宅へ持歸る。

同三十日 四番草 此の時は親雛共に最早棲息せざる模

様に付巢を除去す。

り)の營巢もありしが共に除去せりこ云ふ。 整死し居たれば棄てたりご、尚ほ其の附近に水鷚(方言クロド如き姿勢なりしこ云ふ而して持歸りたる雛は二羽共に翌朝旣に好て兩翼を張り羽毛を膨らましつ、恰も敵を脅威するものと

こなく毎年田鳴は少數ながら獵獲す。
小生數年間の經驗に徴するに此の附近にて常て地鳴を見たるこか上數年間の經驗に微するに此の附近にて常て地鳴を見たることがある。

### 觀山雀演技記

成嶋柳北(成嶋復三郎)

脇 山 三 彌

る哉ご寢て猶言ふ明日漁史大兒復をして徃て之を觀せしむ亦歸頃日小兒俊淺草公園に遊んで歸り報して曰く山雀の藝は奇妙な嗚呼教育の人生に切要なる我れ之を山雀の演技に於て悟れり

十なり場師又曰く昔の時を報せよ禽叉之を撞く其數四、次に演 り時を報せよご禽鐘樓に上ほり挺を皷して撞く其数を算すれ 歸る次に一鐘樓を出す小鐘寸挺を安せり場師呼びて曰く十時な り第一第二の牌を抛ち去り第三なる波字の牌を啣み我が籠中に 牌に伊呂波の字を寫せり觀客波の字ご命ずれば禽飛て机上に登 級て左右に歩す歩々規矩を失せず次は骨牌數個を小机上に**刻す** の技なり縄に小梯を架す一禽梯を攀ち登り口に小傘を啣み縄に 啄を以て弦を引く其箭飛て扇の中心に中 6 撲然聲有 6 次は絲繩 入る次に那須與一の射扇を扮す場師弦に箭を挿めば一禽出で、 にして舞躍す細かに之を視聴すれば毫も其聲調態度を失はす人 打ち一は大皷を過ち一は三絃を鳴らす一は中央に出て小鈴を口 首に三番叟を演す場師四個の籠を啓けば一禽出て喙を以て皷を 小奴一人皷を過つ者紋を鳴す者各一人のみ山雀十餘隻あり一禽 月二十九日なり場極めて矮小僅に看客三十人許を容る場師一人 可き者無きに困しむ乃ち親ら往て其場に臨み其技を觀る實に六 雖も請ふ一觀を試めミ漁史近日異聞の錄して以て看客に報道す り報して曰く真に奇妙なり大人觀場の很難なるものを好まずご をして驚嘆せしむ曲畢る場師歸れ々々三叶べば衆禽皆退て籠に 籠雑居せしめず場中の器械百具告公小にして禽鳥ご相副なぶ

四五の文字を寫せり場師更に属了五握を出す亦一二三等の字を なり汝勉めよや三一禽籠を出て、小机上に在り五牌あり一二三 字あり衆喝来す漁史家に歸り二見を召て日く山雀の技の妙なる 其誤らざるを示す客懐にする所の扇を出して觀れば則ち亦五の けば直に飛んで机に上り一二三四の牌を蹴て落し其五の牌を啣 頃にして喙を以て籠を敲き旣に判斷し得たるを告ぐ場師籠を啓 汝善く卦に就て熟考せよ考へ得たらば疾く我れに知らせよ三少 左右に分排す傍に小匣あり喙を以て蓋を開けば中に算木あり之 書せり之を疊んで看客に附し其中一個を懐にせしめ禽に命じて と呼べり場師高く呼て日く次に演するは<br />
こ窓の技なり是れ難事 傍に置きし住吉踊(玩物)を啣んて飛去る漁史覺へず手を拍て妙 水雷屯ミなる禽退て籠に入り默して思ふ所あるが如し場師曰く を啣みて地に移し合すれば則ち卦を成す或は地天忝こなり或は 日く汝策して看客が撰ぶ所の扇號を知れる禽策竹を啣み細かに 小鐸を鳴らし拜祈の狀を爲す塲師土産を携へ歸れ三命ずれば祠 禽其錢を口にし盡く之を針大の孔に投し了り進んで祠前に到り **ずるは住吉詣なり住吉祠前に一の賽錢箱あり上に小孔を穿つ針** んて還る場師日く汝誤ること無きやと禽喙を敲して牌面を突き よりも細し小錢六七枚四方に散亂す場師賽錢を拾へ三命ずれば

とを教ふる者の辛苦ご禽ご雖ども人を驚かすの技藝を有する人とを教ふる者の辛苦ご禽ご雖ども人を驚かすの技藝を有する人にして鳥に如かざるらざるを覺り早きを趁ふて學に就かしめ人にして鳥に如かざるの嘆を發せしむる勿れ自ら警め併て諸君に忠告す亦た一片の婆心なるのみ。

か鳥界の大革命なるべし史蹟名勝ご同じく由雀の藝常の調査時の文章なるべし由雀は文人柳北の為めに名を舉けらる蓋し時の文章なるべし由雀は文人柳北の為めに名を舉けらる蓋し時の文章なるべし由雀は文人柳北の為めに名を舉けらる蓋し兵が興業主大に焦心せしを目撃したるこごあり面雀の類は技会が興業主大に焦心せしを目撃したるこごあり面雀の類は技会を演せしむべし場も亦然り場は馴らして通信を為さしむべく又寫真を撮らしむべし是れ全日人の多く知る所なり由雀もく又寫真を撮らしむべし是れ全日人の多く知る所なり由雀もく又寫真を撮らしむべし是れ全日人の多く知る所なり由雀もく又寫真を撮らしむべし是れ全日人の多く知る所なり由雀もなあらざるか若し軍用に供し通信に供するこごあるに到らんはあらざるか若し軍用に供し通信に供するこごあるに到らんはあらざるか若し軍用に供し通信に供するこごあるに到らんはあらざるか若し軍用に供し通信に供するこごあるに到らんが鳥界の大革命なるべし史蹟名勝ご同じく山雀の藝常の調査

反對して鳥類の優待を絶叫するものなり。るものなり鳥界の向上發展の爲めに動物虐待を痛論する人にすべきものにして馴養法の研究を要するものなるここを信す

山雀に技藝を教ふる法、鷹を放つて諸鳥を捕るここを教練するの法の如きは人女の進化に從つて漸く人に忘れられんこす。これんこす含歌類を利用するここは人文の進むこ共に益々貴ばれんごす含歌類を利用するここは人文の進むこ共に益々構に至るべきものなり誰か動物虐待を口實こして禽獸の藝術精に至るべきものなり誰か動物虐待を口實こして禽獸の藝術精に至るべきものなり誰か動物虐待を口實こして禽獸の藝術精に至るべきものなり誰か動物虐待を口實こして禽獸の藝術

# 鵙のハヤニエに就て

齋藤源三郎

るは黝に地のものを驚きしにはあらずして給も自分の翔が擠ん刺し其より一二回他の枝に移りて後飛び去りたり此飛び去りたりに再び枝を更へて後、嘴三脚にて力をこめてカヘルを小枝に関の高さ六尺許の梅樹に來りしを見付けたる故其行動を觀察せ

をなめて直に飛び去りぬ此度も更に食する氣色はなかりきかれば其ま、にて乾き固まり居たり、其は只一回の觀察なれご鵙の町ごするものにや否や此點は不明なり。其後又も同一庭園に十一月二十三日午前十時一羽の鵙が雨蛙をくはへ來りしを以て十一月二十三日午前十時一羽の鵙が雨蛙をくはへ來りしを以て中月二十三日午前十時一羽の鵙が雨蛙をくはへ來りしを以て、講足である樣な氣振りに見えたり。其後幾日經過するもカへで滿足である樣な氣振りに見えたり。其後幾日經過するもカへ

# ウソの紅色と尾羽の斑とに就て

學士黑田長禮

理

(一) ランの 下面灰色 ミ 紅色ご あれ ご も 詞種 二色 に し てない事實である。この色の相違に關してこゝに左の三流がある、大せられた。然しウソに二様の色彩の相違あるこごは云ふどもがル、ハルテルト、川口法學士、余及び籾山諸氏の見解に於てが、ハルテルト、川口法學士、余及び籾山諸氏の見解に於てのソシアの方には最早全く同一種類で亞種ごしてさへウソご所謂アカウソごは最早全く同一種類で亞種ごしてさへ

Pyrrhula rosacea Seeb. は罪に灰色のもの、紅色型ご云ふ外なし。(Stojnoger, Proc. U. S. Nat. Mus., 1887, pp. 107—110)

法學士、動物學雜誌第二十九卷二二頁)。(二)下面灰色のウソは老鳥にして紅色なるは幼鳥なり(川口

他に原因するならん(籾山徳太郎氏丁鳥」第八號一六三頁)。すならん。されご飼養越年せば紅色部は灰色に變ず即ち飼料其(三)幼鳥は胸腹部灰色にして老鳥になるに從ひ紅色の度を増

以上三説の内で余は第一及び第三説の内を正しいこ考へるが以上三説の内で余は第一及び第三説の内を正しいこ考へるが第二説は誤りであるこ信ずる。余も亦料山氏に同様紅色のもの第二説は誤りであるこ信ずる。余も亦料山氏に同様紅色のものな様になつた經驗を有している。イスカ類特にシロハライスカは続になつた經驗を有している。イスカ類特にシロハライスカにあつても雄の赤色は飼養している。イスカ類特にシロハライスカにあつても雄の赤色は飼養している。そして同氏は灰色とウソの場合は同一であらうご云つて居る。そして同氏は灰色とウソの場合は同一であらうご云つて居る。そして同氏は灰色がこれは疑はしいここで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑はしいここで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑はしいここで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑はしいここで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑はしいここで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑はしいここで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑はしいことで恐らく同種二色の一種であるご記しながこれは疑は、

い淡紅色を帶びて居るご記述せられた。一隻られた二個の雄鳥は極端な例であつて腰の白色中に迄も美し

扨て上記第一及び第三説中何づれが正しいかは多くの紅色及

結論に達するのである。野外に於ける食物の調査等も必要であらう然し今の處では左の野外に於ける食物の調査等も必要であらう然し今の處では左の砂化を實驗すること、で大體の見當丈けは付くであらうが其外び灰色のものを別々に長年月飼養して見ること、幼鳥の羽色の

變ずる場合。(一)下面に紅色あるは雄成鳥にして長く飼養せば漸時灰色に(一)下面に紅色あるは雄成鳥にして長く飼養せば漸時灰色に(一)下面の灰紅兩色は雄成鳥の同種二色の現象による場合。

氏の幼鳥)のものは幼鳥に限らる、こごは恐らくなきこごで四)下面灰色のものに老鳥あるこごは確實なるも紅色(川口色が老鳥ごなるに從て紅色の度を磨すや否やは不明。從て幼鳥の灰(三)幼鳥にも下面灰紅兩色ありや否やは不明。從て幼鳥の灰

するここが出來す變化を來たす者ご考へられるであらう。夫故の變型であるご見られる然し此紅色型は固定性が稍少ない爲めの變型であるご見られる然し此紅色型は固定性が稍少ない爲め相は想像を選くすればウソの下面灰紅兩色あるのは完全な同

諸君の調査せられんここを希望する。せらるこのである。此研究は一寸面白いここであるから地方の灰色型この差が至つて少ない程度のものさへあるここが屢觀察紅色にも種々程度があつて或者は真に紅色が多いのに又或者は

6 外側尾羽に白色の総斑のある個體が發見せられる。之れに關し 現象
こ思はれる。 であるのみか殆んど全部の尾羽には白斑があるのこ雌 は無論部分的白化現象の一例たるに 過ぎぬものであるが常に 北海道、伊豆、大和の三雌に此白斑あるものを所藏する。此斑 ものに此現象あるここを記述せられている。余も亦日光之雄 られる。例へば東京、越中立山及び九州の標本で二雄、二雌の 種類に於けるよりも日本産のものにあつては普通ではないが見 てスタイネゲル氏によるミウソ類の外側尾羽の白斑は北方の他 羽に此斑がある特徴を有してをるから部分的白變ごは相違した **稀れならざるのである。未だ中央尾羽迄も白變した例を知らな** (?) 左右對に生じてをる。 白化現象には對に生じる場合は寧ろ 次にウソの尾羽に就て一言すれば普通は一様の色であるが屢 因に雌にも上下兩面の色の濃淡あるこミを弦に報告して置く 但し臺灣産ウチダウソの場合は雄の中央尾羽の白 も中央尾 斑が明瞭



一一四 質疑者 東京 籾山徳太郎

前屬を採用すべきなり。 年號に發表せられしも後屬の方は屬の記載を缺くを以て年號に發表せられしも後屬の方は屬の記載を缺くを以て

問 一 コサギの學名は Egretta garzetta garzetta (L.) にて宜敷

答 Egretta Bp. (1830) は Herodias Boie (1892) のシノニム なるにより用ひられず。且つ Egretta の「タイプ」は を用ふるは不適當なり因で他の属 Garzetta Eaup (1829) を伸加すべきなり此屬の「タイプ」は即ち Garzetta garzetta なるが故なり。コサギの學名こしては Garzetta garzetta

garretta (L) が正當なり、

問二 チウサギの學名は、Mesophoya intermedia (Wagler) にて

答 質問通りにて然り。但し命名者は(Hasselt)の方可なり。

ardra 屬も有之何れを採るべきか御教示願度候。すべきか或はN. y. yriseus を採用すべきか尚又他に Nycti-四 ゴ井サギの學名こして Nycticorus n. nycticorus を採用

問

答 屬名こしては Nycticorax Rafin. (1815) を使用すべく Nyctiondea Swains. (1887) はそのシノニムなり。種名こしては nycticorax も grisea も共に 1766 年に發表せられしものなれごも前者は二三五頁にありて後者は二三九頁にあるが故にゴ井サギの學名は Nycticorax n. nycticorax (L.)

屬の鳥類なるべし從て其卵も亦最小なるべし。本邦内地答 現存鳥類中最小の種類は恐らく蜂鳥科の(Morostillon 小なるは如何(本邦産鳥類のみについて云ふも可なり) 五 質疑者 埼玉縣 高 野 利 治

産にしてはキクイタドキが最小にて雄成鳥の體量僅に一

間

ならざるべからずっ

**ター分あるに過ぎず、** 

六 A. R. Dugmore: — Bird Homes なる著述中にある 六 質疑者 | 秋田縣 | 戸仁部 富之助

問

Cowbird (Molothers ater (Bold.))なる鳥は本來他鳥の集に を卵し其卵は巢の底部へ隱し置く習性ある旨記載あり恰 を本邦産杜鵑類に大體類似の習性のやうに思はれ候、 該種は本邦には同屬又は同科の鳥ありや或は全く本邦に は類似の種なきや及び其習性は郭公等ご同一又は大同小 となり、 となりととなり、 となりとなり、 となり、 

答 質問の鳥類は米國特有のものにて杜鵑類ごは全く綠遠き種類なり。鳥撃上の位置は燕雀目中の亞米利加黃鳥科氏の研究せられし如く一雄一雌の側なき點に於て相異す氏の研究せられし如く一雄一雌の側なき點に於て相異するも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりき。鳥類中にて斯るも終にその記事を發見するを得ざりました。これは歐洲産郭公ごカウバートこはり、これは歌川産郭公ごカウバートこは

其數多しこ考へられ雌雄の關係は複雜せる多配制なりこ し他鳥の巢に産卵する點に於て相異せり。雄は雌に比し し嘴にてそれを他鳥の巢に入るれご後者は豫め撰み置き

日へり。 Major Bendire 氏によれば此種は九十一種類の 又 F. M. Bailey 氏によれば多配制中の一雌多雄制なりこ 他鳥の巢に産卵せりご云ひ而してその種類は啄木鳥科

科 此亞米利加蟲喰類は地上又は地上より八吋位の高さに營 を見ても如何に自己より小形の鳥巢を撰ぶかを知るべし 四分の一は電米利加蟲喰科のもの、巢内にありしこ云ふ 始ご百種の鳥類の巢内に此種の卵が發見せられたるも其 科 (Mniotiltidæ) の鳥類なり。Chapman によれば北米の 亞米利加鶲科 (Tyrannidæ) 亞米利加黃鳥科 (Icteridæ) 鶫 雀科、綠鳥科 (Vireonidæ) 鷦鷯科及び亞米利加蟲喰

問

福岡縣

安

部

幸

六

七 筑前の海岸に棲む鴫類中方言シャクナギご稱するもの

答 の學名及び和名御教示被下度候 質問の鷸類の方言は左記三種の總稱なり。即ち

學 名

名

シ

+

Numenius cyanopus Vieill. 木 標 ゥ 進 D 和 ク

件 こか又はチウシャクナギミか呼ばるてここあり。(以上七 右のホウロクシギは常にシャクナギミか又は特にダイシ ヤクナギミか呼ばるここごあり。他の二種はチウシャク Limosa lapponica baueri Naum. Phaopus phaopus variegatus (Scop.) 黑田長禮回答 チ 才 ゥ ホソリ シ + ク Ð シ シ +

南 洋 諸島產三新 鳥 類

Ixobrychus sinensis moorei Wetmore 中部カロリン群島産

巢するものなり。カウバ

ードの營巢せざる本能に關する

Globicera oceanica townsendi Wetmore.

水。 ナ 島 產

Myzomela rubrata dichromata Wetmore 島 産 (以上オーク本年一月號より)

つ時こして營巣するここさへありこ云ふ。

ゼ

ンチィナの

Molothrus badius にては常に自ら低卵し旦

の近似種中には一雄一雌制に進みしものもあり特にアル 諸説あるも尚は結論に到着せず。米國熱帶地方産の七種

-17

浦

二十四種

三十七個

個個



を神田淡路町多賀羅亭に於て開會し左の諸氏の出席あり ||第十二回總會 大正八年十一月十七日午後五時より秋期 (來會 總會

順

田子 籾山德太郎 精 勝彌 腦門 飯 內田清之助 儲 信軸 魁 小林 松永 林 保吉 安衛 桂助 伊藤 守 大岩 M 和貴 紀鹿 直

丘 淺次郎

り。午後九時半散會す、陳列標本左の如し。 洋採集に關する講演に移り一々實物標本に就きて詳細に說明あ 會場には別記標本類の陳刻をなし晚食後會員籾山徳太郎 氏の南

南洋諸島產鳥類 ク ボ ŀ ラ + + " 1 ク 島 13 島 產 廥 產 十三種 干二種 一十八種 粉山德太郎氏出品 十八八 三十七個 五十二個 個

> Ľ. 書 南洋諸島產鳥類 ヤ 其 小 オ -1}-類 コセウビン 寫 1 /Vr 4: 13 結 原 ゥ 珂问 1 (約百年前のもの Haleyon miyakoensis Kuroda [3 數 數 巢 産 游 府 庫 册 黑 11 **删黑田** [/4 庭点] 桶 FIF 桶 桶 File 長禮氏出品 信輔氏出品 信輔氏出品 標木 1. 一個 個

□評議員會 黑鶇 鶉卵斑紋變異標本十八個及其說明 チ 白變 7 十二月八日午後七時華族會館に於て鑑司、松平黑 標 木 ボ活物 雌五本趾一羽 [[6] 動物 近藤 黑田 内田清之助氏出品 學教室出 他喜氏 長體又出品 111

月英國鳥學會外國會員 (Foreign Momber B. O. U.)に叉大正八年 □英米兩國烏學會員推選 本會評議員無旧長禮氏は大正七年三

田の三評議員及内田幹事集會々務並會計上の打合せをなし大正

九年度の豫算を決議せり

米國鳥學會外國會員に推選せられたる旨夫々報知ありたる山。 せられ又本會幹事內田清之助氏は大正八年十一月の總會に於て 十一月米國烏學會外國會員(Corresponding Fellow A.O. U.)に推選

まるれば二圓五十錢の實費を以て頒布せらる、山。 なるも中央畜産會にて複製せるものは麹町内幸町の同會に申込 にして三色版及寫眞圖版三十五葉を添附せり。本書は元非賣品

の鳥類採集に從事せる會員籾山徳 太郎氏は其の採集品中色彩の美麗

□南洋鳥類の献上

過般南洋諸島



鳥 島 産 南 なる次のものを本剝製こして謹製

Monarches godefroyi ヤツプ島ルル産

雌雄

アフギヒタキ

大正八年四月採集

第洋 の上天覽に供せり上圖はその窓具 にして其種類次の如し

**蓮調製の筈なるを以て掲載を省略す**。 □入會 大正八年六月以來の入會者三十餘名あるも近々改正名 雄 ヤツプ島ルル産 大正八年四月採集

獵法の<br />
参考用<br />
こして<br />
標題の書籍を出版<br />
せり。 定せる狩獵鳥類に關し農商務技師内田清之助氏の解説せるもの ]狩獵鳥類圖解 農商務省農務局にては昨年改正せられたる狩 本書は同規則に規 □次號原稿締切期日

二六三

大正九年四月末日限

□會員堀井榮吉氏の計 長崎縣保安課技手堀井榮吉氏は本年一

られたるものなり ちれたるものなり ちれたるものなり でれたるものなり また にも渡航し鳥撃上有益なる資料を蒐集せり「鳥」第七號 (二回大正氏が鹿兒島高等農林學校助手たりし當時南洋諸島に (二回大正氏が鹿兒島高等農林學校助手たりし當時南洋諸島に (二回大正氏が鹿兒島高等農林學校助手たりし當時南洋諸島に (二回大正月十九月流行性感冒の爲め死去せらる誠に哀惜の情に堪へず、

Picus anohera horii Takatsukasa. カゴシマガラ(同一八年)

## 高一第八號 正 殿

「埼玉縣入間都產鳥類」正誤表

199	193	192	189	183	*	188	176	175	"	163	"	"	162	162	160	358	頁
13-14	10	ಲು	19	19	12	<b>x</b> 0	10	ĘĢ	14	œ	13	9	4-5	A	CJ	to.	fŝ
(括孤内の總てを除く)	Flico	Grarhophasianus	河原の精高く	和命●	壁・上	Micropus pacifica pacinea	弧より出し學名の前に置く	即有斑一個	数少しく減ずる・	<b>胞</b> 度部	意味・	減ぜる	なるべし	少数のものは	(括弧内の總でを除く)	観察をよのする	誤
	Falco	Graphophasiamus	稍高く	和名。	崖o 上	opus pasifica pacij	D)	即ち変而に自珠一個	数著しく減するの	胸度部	意味。	減ずる	あるべし	* C	)	なったか	rti.

## 日本鳥學會規則

第 一條 本會ハ日本鳥學會ト稱

第 一條 木會 ノ事務所ハ東京帝國大學理學部動物學教室內 三置

第三條 本會ノ目的左 如

鳥 類二趣味 j 有 ス ル モ ノ ゝ 懇親 ラ計 ル

コ

ŀ

鳥類ニ關スル學術ノ 進步 ラ促スコ

鳥類愛護 ノ思想ヲ普及セシメ鳥類ノ保護增殖ヲ計ル

第四條 本會ハ前條 ブ目 的ラ 達スル為

メ評議會ノ决議ヲ經テ隨

時種

タノ事業ラ

ナカス

當分一年二三回雜誌「鳥」ヲ出 版スルコ

臨時出版物ラ 刊行ス ルコ

每 時ニ鳥類ニ 年春秋一 關 回會合シ鳥類ニ關 ス ル圖書標本其他 ス ル講演談 ノ展覧會ヲ催 話 **ラナシ** 同

本會々員ラ分チテ甲種會員ト乙種會員ノニト 鳥學的探檢ヲ舉 ス

行ス

ル

コ

第五條

甲種會員ハ會費トシテーケ年金三圓 乙種會員ハ會費トシテーケ年金一圓 五十 納ム 錢 ジラ納 ル コ ムル

第六條 甲種會員 雜誌 鳥及臨 時 出版 物 臨時出版物ハ定價 **ラ** 配 布

ŀ

乙種會員ニハ雜誌「鳥」ラ配布ス、

第七條 ルヲ得

ヲ限リ

無代配布ス其他ハ定價

ノ三割引ヲ以

テ

湖讀

本會二入會 セ ン

۲

欲 ス ル

Ŧ ノハ

住

所氏名職業ヲ記

載

退會ハ評議員會

本會

三申

込ムべ

シ但シ甲種會員

ノ決 議 E

第九條 第八條 本會二會頭壹名 本會評議員會ハ會頭幹事及と會員 コラ置

ノ瓦

選

3

ル

評議員

若干名(甲種會員)ヲ以テ組織ス

東京帝國 大學理學部動物學教室內

### 鳥 學 會

役

員

理

學博士 飯

島

田 清 2 助 魁

內

飯 塚

評 幹 會

議

員 事 頭

FI

遊博士

丘 淺 次 郎 啓

理學博士

黑 田 長 禮 公

僑

鷹

司

信

輔

平 賴 孝

子

簡

松

Dr. Ernst J. O. Hartert stated that the length of wing in males from the island of Guam measures 118–131 mm. (usually 125–128 mm.); the birds from the island of Saipan have higher bill and wings measure 122–133 mm; these two birds can not be separated from each other even subspecifically. The birds from Pelew and from Ruk Islands have a trifle shorter wing. Wiglesworth also found that the difference between the western and eastern birds are as follows:

"Examples from Uap are bigger than those of Ualan, but are otherwise similar."

It was with Mr. N. Kuroda's help that enabled me to do this work for which my best thanks are due. It is with pleasure that I dedicate the subspecies in honor of him.

252	Yap Is., Caroline	20/VI	mm. 200	mm. 24	mm. 9	mm. 115	mm. 79.5	mm. 29	ð juv	T. Momi- yama
269	22	22/VI	209.5	24	9	103	72.5	30	juv.	"
158	,,	10/VI	208	24.5	9.5	112	79.5	28.5	우 juv.	,,
174	,,	12/VI	217	24	8.5	116.5	71	30	juv.	,,
190	,,,	13/VI	159.5	19		97	50	24	Toung	,,
18	Saipan, Markunna	$5/\mathrm{V}$	229	24	10.5	127.5	88.4	30.5	ad.	99 '
5	,,	4/V	214.5	24	9.5	125	85.5	33.5	juv.	,,
6	2 >	,,	218.5	24.5	10	125	84	32.5	juv.	,,
20	,,	5/V	229	23,5	9.5	122.5	86	31	juv.	,,
19	,,	,,	225.5	23	9.5	121	82.2	30	우 juv	,,

Remarks. - The figures in gothic type are according to dried specimens.

Differential measurements of the typical subspecies and the new subspecies may be tabulated as follows:—

Subsp.	Loc.	Sex (ad.)	Depth of bill at base	Culmen	Wing
	Yap	3 ↑ s	mm. 10-10.5	25.5-27 mm.	119-128
A. k <b>i</b> ttlitzi kurodai	*	4 Q s	9-10	25-26.5	119.5-122.5
	Saipan	3 <b>☆</b> s	10.5 (only one)	24-25 (only two)	127.5 -133† (only two)
	Wolea	1 🌣	9	23	125.5
	Ruk	3 🏞 s	9-9.3	23-24	124-125,5
	IUK .	2 🗣 s	8.5 -9.5	23 - 23.5	119.5-120
A. kittlitzi kittlitzi	Ponená	3 ∱ s	7.5-10+	23 -25.6†	128.8-133†
	Ponapé Kusaie	1 우	9	23.3	116.8
		1 9	9	21.4	118

<sup>†</sup> mark is an exception.

It seems probable that the distribution of this new form is restricted to Yap Is., in the western group of Caroline Islands and the Saipan Is., one of the Marianne chain.

### DESCRIPTION OF A NEW SUBSPECIES OF APLONIS FROM THE ISLANDS OF THE WESTERN MICRONESIA.

BY

### TOKUTARO MOMIYAMA, M.O.S.J.

Aplonis kittlitzi kurodai, subsp. nov.

Tasch & Hartlaub) from Kusaie (Ualan), Ponapé, Truk (Ruk, Hogolu) and Wolea (Ulie, Oleai) in Caroline Islands, more especially by the higher bill; distinguished from it by much longer dimensions of exposed culmen and wing. Total length of body 232 mm., exposed culmen 26 mm., depth of bill at base 10.5 mm., wing 128 mm., tail 89 mm., tarsus 32.5 mm.

The type specimen from Yap Island, one of the western Caroline Islands: June 22, 1919. It was collected by myself, and preserved in my collection (sp. no. 268).

Other specimens of the subspecies examined measure:—

Momiyama's Collection from Pacific Isls. Sp. No.	Locality	Date (1919)	Total length	Culmen	Depth of bill at base	Wing	Ta J	Tarsas	Sex & Ago	Measured by:
209	Yap Is., Caroline	14, VI	mm. 227	mm. 25.5	mm. 10.5	и m. 123	mm. 85.5	mm. 28.5	ad.	T. Momi- yama
305	22	4/VII	211.3	27	10	119	83.5	30	ad.	,,
199	**	$14/\nabla \mathbf{I}$	221.5	25	9.5	119.5	81	28	P ad.	,,
220	,,	17, VI	226.5	26.5	10	122.5	87	29.5	우 a·l.	,,
251	**	20, V1	214.5	26	9,5	120	80	30	우 ad.	21
300	,,	29/VI	206	25	9	120.5	83.5	29.5	우 ad.	,,

### 投稿及質問規定

(一)鳥類の習性、「渡り」、方言等に關し廣く各地方會員の投稿を

(二)旣揭原稿は返戾せず、但し挿畵に使用せる寫眞及び圖畵は

希望により返戻すべし

(三)原稿は紙の表文を使用し一行、二十五字詰に認められたし、

[四] 挿畵は寫真以外のものは墨汁にて認められたし 假字は平假字を用る動物名及び外國語は片假字ミす

(五)原稿は東京赤坂區福吉町黑田長禮氏宛郵送せられたし

(六)本會は鳥類に關する質疑に應答す、質問の事項は返信料封

入東京帝國大學理學部動物學教室内本會宛郵送せられたし

(七)質問解答は 一般讀者に有益なり三認むるものは本誌に掲載

發

賣所

十 軒 店 町東京日本橋區

するも其他は質疑者に直接解答するものこす

大正九年四月 + 日 印刷

定

價

金參拾

五

錢

大正九年四 月十 四 日 1發行

載轉禁

印 東 **京市日** 刷 本 橋 圃 兜

木 F

發編

行輯

者兼

東

**小京市日** 

本 橋

品

兜

町

番

地

憲

胂 谷 番 地 次 郎

東 刷 京市目 所 本 橋 區 東京印刷株式會社 兜 町 地

印

發行 所

動物學教室內帝國大學理學部

日 本 鳥學會

振替口座東京六五九九番

振替口座東京一〇七番 華 房

### □錄目物行刊時臨會學鳥本日□

第八篇に於ける稿千鳥類の「渡り」理學出 黒 田 長 禮 著	第七篇解滿鳥類一斑	第二八篇 臺灣鳥類の習性理學士 黒 田 長 禮 著	<b>无五篇</b>	第四篇世界の雁と鵠	第三篇世界の鴨	一篇海產保護	一篇內場
定 質 近 版 二	定價一圓五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	定寫原 價 與色 四 折	定價 金州五コロタイプ版	郵定原色版四枚 金金	絕版	郵定原 稅價色 四四版	絕
五錢 郵稅六錢	十	1	五錢一郵稅四錢	寫真版五枚附 錢 閩		三 十 枚 銭銭附	版

房 華 裳 爾店軒十區橋本品 所 捌 賣

### 稀 斯 新 の有

本

編

は

種

類

0

識

别

最

困

難

な

3

鷸

.

千

鳥

類

Charadriidae

0)

全世

界に産す

3

もの二百三十

t

種

類

理 學 士 黑 田 長 禮 先 生 著

最 新

ŦIJ

正揷三 一色版 倍版 百五 總 五寫 這 版 五

圓個葉

寫 生 圖 15 最 雄 能 な 3 横 山 慶 次 郎 畵 佰 0) 筆 1= 成 h + 葉約 ハナ 種 0) 邦 產 種 を圖 本 文

項

1=

亘

b

其

他

分

布

表

.

學名索

引等

を附

錄

T

添

附

せ

h

圖

版

は

鳥

類

捕

書に

は

内

外

種

0

寫眞、

寫

生

圖等

百

五

+

圖

を

插

え

せ

h

備

L

總

論

T

は

本

科

鳥

類

0)

形

態

習

性

•

渡

b

分

類

法

.

쨣

考

文書

等

を

記

沭

1

3

事

述

L

特

1

本

邦

産

の

種

類

K 就

きて

は

最

詳述

世

I)

尙

各

亞

科

ょ

b

亚

種

1:

至

3

迄

細

密

な

3

索

引

r

其.

r

說

せ

3

B

0

1

T

何

n

Ł

各

種

1-

就

3

7

雌

雄

.

夏冬

羽

0 老

幼

0)

記載

及

CK

分

布

習

性

等

を記

一千局本話電 七百京東替振 發店書房華裳

橋本日京東 町 庙 軒 十

H

水

鳥學會員

籾

Ш

德

太

郎

著

大

Theoniar Instit

### 告豫編九第物行刊時臨會 學鳥本

俟

T

我

南

洋

0)

鳥

1=

關

す

3

缺

<

~

か

らざる文籍

で

あ

h

ます。

本

書

は

本

會

甲

種

會

員

1

は

無代

配

布

乙種

一會員

には規

定

0

割

引

B

以

て配

布

します

か

6

豫

8)

御

申

込を

願

ひます。

IJ 島

> IE 九 年六月下 旬 發

定 菊

Ξ 色 版 價 版 漬 紙 Ξ 葉 數 圓 寫 半 百 眞 數 稅 版  $\equiv$ 

頁

般

定

T

試

Z

種 ます 祭 5 本 あ を三 ñ b 書 33 ま は 12 うす。 棄 寫眞 本會 性 結 1= 0 果 收 版 觀 8 内 臨 察竝 記述 は著者 容 め 時 T は TI あ 新 L 昨 行 ります。 撮 12 夏 物 亚 影 種 本 第 B 0 會 九 0) 0) 生 發 員 で、 編 一態寫真 本 表 籾 書 筝 主 Ш E 德 T 1: は 雜 三葉 太 目 加 誌 7 郎 下 ~ - |-T 君 即 力 鳥」に 以 數 から 刷 口 進 個 約 F: IJ 揭載 諸 华 ン 備 島 群 歲 rh 色 温 せ 15 0 0 5 其他 版 鳥 日 6 は 類 n 0 U) 12 諸 T で 小 旣 鷹 林 知 島 我 重 0) 南 司 種 大 三八 黑 鳥 洋諸 全部 凡 類 六 田 寫 1= 月 兩 島 0) FI! 生 H 就 に島 末 題 0 錄 7 頃 1: 函 分 類 から 出 0) 洋 添 類 採 版 鳥類 えて 題 集を 0) tim 文 1:

岩 並 町店軒十區橋本日 捌 番七百京 東

0)

岩

あ

- [ ^

數

相

### 省編纂 狩 獵 鳥 類 圖 解

定價貳圓五拾錢、送料八錢本文百四十頁裝積優美寫眞版圖版三十四枚解麗三色版二枚

て調査 學界並 改正 鳥學の参考書こして缺くべからざるの ろ 助 è と為 一狩獵法に據 0 な に せ り狩獵 5 狩獵界の遺憾 ろ を思 n た 3 家 7 る狩獵鳥類の分類形態習性等 本會 本圖 0 好侶件た 解は蓋 は とす 請 3 る所 て之を上梓 ろ ì を得ば幸 本 な 邦に り面 みな 於け して農商務省が多年 な し汎 5 3 b 此 3 ず狩獵界に を詳にした 世に提供 の種資料として唯一 關係 せんとす若 るも の日 あ 0 未だ 子 ろ 士 ٤ し學術 勞費 のものにして あらざ 0 必 獲 2 を 研 3 を 究の 投じ は 我

中 央 畜

會

振替口座東京三一四五九番電話芝(四八四四番八番

### "TORI" THE AVES

### BULLETIN OF THE ORNITHOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

Vol. II. No. 9.

### Frontispiece:

A favorite nesting-place of the plumed egret (Haneda, vicinity of Tokyo).

### Contents:

Notes on and descriptions of the Flower-peckers of Formosa. By  $N.\ Kuroda.$ 

On some birds from the Quelpart Island, Corea. By T. Mori.

On the sexual differences of *Pseudotadorna cristata* Kuroda. By N. Kuroda.

Notes on Chelidon rustica gutturalis and C. daurica nipalensis. By Y. Kanetsune.

Description of a New Subspecies of *Aplonis* from the western Micronesia. By T. Momiyama.

History of aviculture. By H. Araki.

Miscellaneous notes.

Queries and Answers.

Proceeding of the Society.



### 鳥

第

八

號

行發月七年八正大 會學鳥本日





埼玉縣入間郡產鳥類

ン」運動の回顧

内

П

TH

助

話

四國地方に於けるツバメ類の「渡り」並びに習性等に就て………………・複

网 1

]]]

都黑

口用用用

郎郎吉郎

(ili

孫 甚 治 三保

### 鳥 第 卷 第 Л 號 目 次

### 繪

新聞

刑

京城附近に於ける主なる鳥類の「渡り」に就 法

札

件件 (黑田 長禮回答 今は昔鶴に舞を教へしふる事……

鳥

類

籾

[[]

部

Ш

彌

木

助

治

H

太

郎

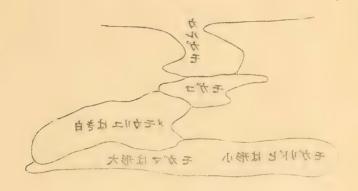
纂.....



村他本宗太佳

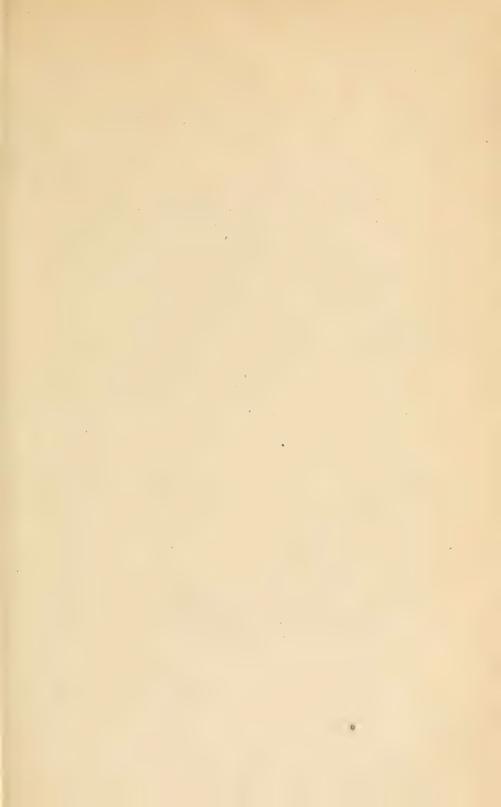
重郎 樹







集群禽水上水下坂宅三町麴京東 影撮日六月一年七正大 (陽原開新日朝京東)





### 月六年八正 號 第

而して同氏が樺太島にて採集せられたる標品

尚同館には有名なるブラキストンの集蒐

籾

Щ

德

太

郎

卷二第

鳥

物調查報告」(大正三年三月)中に二一三の疑種ありたり、 きに到れり、 をなさんごせし余には目的の種類の全部をだに見出する事能はずして尚若干の種は他日に譲るの止むな 標本を初め幾多の珍奇なる種も尠からず所藏せられありたれごも旅中の寸暇を以て一部の疑問種の調査 田信利氏の好意に依り村田氏採集の標品を檢する事を得たり、 は多分札幌博物館に所藏せらる、處ならんご思ひて昨夏同博物館所在地に赴きたる際同館を訪じ會員岡 故村田庄次郎氏が邦領樺太に於ける明治四十三年及大正元年兩度の採集物を記載せられたる「樺太動 本篇を草するに當り黑田理學士は教示の勞を取られ且貴重なる圖書を貸與せられ又岡田信利氏は博物 マミジロ 札幌博物館所藏樺太產鳥類數種に就て 今弦には同館に於て調查し得たる數種を村田氏の報告ご對照して其結果を掲げんごす。 Cichloselys sibiricus davisoni (Hume)

館所藏標本の調査に多大の便宜を與へられたる等の兩好意を深く感謝する所なり

U

の欄に「本島に産するものは普通種三色彩上異る所あるに依り本州産

大正元年八月東海岸樫保」こあ

行發

り即ち記載に依る時は樺太産のマミジロは本州産のものCichloselys sibiricus davisoni (Home)ご異るものと の亞種ごせらる(中略)採集地明治四十三年六月喜美內山道及び轟山道、 樺太動 物調查報告三頁マモジ

四

品中のマミジロ各部の測定表を左に記さんに wildricus に於ては下腹中央は大部分白色にして durisoni は下腹に小白部あるか又は全く之を缺くにあり(以上雄) 札幌博物館所 如く見受く(但し學名に於ては變更せずして前掲亞種名を記されたり)。近似亞種シベリアマモジロ Calibrium allirium (Part) は ハルテルト氏に依る時は前亞種に換りて同島に分布せらるかごも思はるれど樺太に産すごは特記し居らず、而して兩亞種の相

##	Ī	ata.	.le		,		.,				
標		*9	*	*7	<u>~</u>	ಲಾ	*	లు	to.	je r	番號
標		*	神			春睡	1		- 1)1	*	禁
標		*	*		*		$\Rightarrow$	亘	*		神
標		南			档		鉪		411		- Elm
標		亲	辯		Z	Z	Σ		奉	影	训
標		26/VIII,大正		3	10/VI, IJJ 4	16/VIII,明	10/VI, IJJ 4	则	E E	26/VI, 大正	採集年月
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		<u> </u>	3		<u> </u>	5	43	42	41	<u> </u> ಫು	П
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· ·	19	21	20	19	19	21	19, 5	20 5	20.5 mi (about)	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		112	116	121. 5	118	119. 5	121.5	120	120	125	黨
標		69	74	78	78	92	91	74	76	92. 5	阳
が (できる) (からない) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を		25	27	26. 5	24	26	27	27	27	26	
	-	Juv.	<del>1</del> 0	10	10	juv.	=0	ju▼.	juv.	- ≅ →	
说 同同同同同同国										数	1111
地 三		皿	I	回	I	三	画	I	画		Si Si
										Ξ	老

注 同館所藏標品中には無番號のもの多し上記番號は便宜上測定者が附せしにあり尚採集年月日の如きも種々の様式を以て記さる例せば 26-6 --15,9.22.1909,23ud.Sep. 三 42等の如し、かくるものは一致せしめて上記の如く變更せり

8.9の各標品は雌鳥及幼羽のものなれば左に餘の四雄の標品の腹部の羽色を記さん \*印あるは村田氏報告中のものご採集地、採集日全く一致するものなり恐らく同一標品ご推定するも誤あらざるべし而して 367

	*			番
5	4,	2	1	號
樺	樺	尻	札	採
內一	太			
西棚	君	矢		集
內	內	临	幌	地
Juv.	Ad.	Juv.	Ad.	成幼
幼羽より成羽へ更變中のもの、下腹中央に小白部あり。	成羽のもの、下腹中部に小白部あり。	幼羽より成羽へ更變中のもの、中腹部以下中央には白色羽多し。	成務のもの、下腹中央に小白部あり。	33

物館のもの、如く幼羽より成羽へ變更中のもの三認むこも差支へあらざるべし。 幼鳥にして全部成鳥ミならざるものミ記さる、純然たる幼羽のものにて下腹に白斑ある時は内地産のものミは異なるも恐らく札幌博 こして報告し下腹中央の羽毛の中部に白斑あり、下尾筒は羽端白きも sibirious よりその巾狭しご記述す、而して同氏の標本は三個共 く疑あり、 上記の事實に依りて樺太産のものは全く内地産のものご同一なる事確實ごなりたり、(寧ろ尻矢崎にて獲られたる②の標品に少し こは後日尚調査の上報告する事こなさん)レーンベルグ氏も樺太産のものを Gioldoselys(Oreocincla)silirica darisoni(Home)

# シマセンニウ Locustella ochotensis (MIDD.)

海岸鵜城、北名好」。札幌博物館所藏の村田氏の樺太にて採集せられたる標品は尚幾多ありたるもの、如かりしも余は左の四個のみに の亞種なるが如きも未だ疑問に屬す(中略)採集地 『樺太動物調査報告』一二頁シマセンニウの項に下の如く記せり「樺太に産するものは淡色にして下面は殆ど純白色なり恐らく木種 明治四十三年六月灣內、留多加、貝塚、東海岸相濱、小田寒、大正元年九月西

			-	
4	ယ	Γ'n	<b>-</b>	<b>作</b> 跳
春			***	禁
*			*	V-4
妇		ī	A	禁
河	Ā		~	地
大正			18/1	採集
元年月日		:	VI,	1
トナシ			明 43	Э
~				=
12	14	14	<del></del>	贱
	12-	2.	mm	亭
	_			
62	63	66	68	45.39
r.	55	0.	<i>J</i> .	照
	Δ.	50	ėn.	
41.5	49	õ	53	16
23	23	21	1.0 55	100
				<b>F</b>
	→		İ	基
i				禁
			兹	III
三	回	Ξ		100
			Ξ	大

尚上記四標品の附箋に記されたる鳥名並に色彩を記せば

4	3	2	1	番號
ナシ	ナシ	141	142	調査」番號物
シ マ セ ン ニ <b>ウ</b>	シマセンニウシマセンニウ	Locustella certhiola (Pall.) ?	シロハラシマセンニウ	鳥附箋記名載
下面は淡黄色、上胸部は稍濃色の横斷線を認む。	同上。	同上。	下面は殆んど白色。	色

(?印あるも) certhiola こ ochotensis こは前種は上面に明なる縱斑あるに反し後種は不判明なる縱斑あるか又は一樣にして縱斑を認め ざるを相違點
こなす。レーンベルグ氏は樺太産こして Locustella pleshei Tacz. E L. ochotensis (Middle) この二種を記述し居れごもハル ハラシャセンニウなる新秤を附せられしものはシャセンニウ成鳥に他ならず、尚 Locustella certhiola (PALL.) ご附せられしもあれご 以上の如く種々なる鳥名を以て記しあれごも全く同一種にしてシマセンニウミ認む、下面の色彩を異にせるは成幼の差にしてシロ

の獲られたる事を記載し居れり、pleskei なるものが異種なる時は樺太産シマセンニウを二分すべき必要あるべきも 村田氏採集標品 ラルト氏に依る時は右二種は同一種なるべしご謂ふ(前名には?印あるも)タイヤー及バングス兩氏に依れば同く樺太にて ochotensis 中のシロハラシマセンニウミシマセンニウミの區別はそれミは全く關係なきものミ認む、

### ヘキンヒガラ Parus ater pekinensis DAVII

には和名をヒガラご記しあるもペキンヒガラご改むべく種名は其儘にて可なれご命名者は Serbohm にはあらずして David こなす 書には「本島に産するものは其の羽色に於て支那産の一變種なるが如し」こあり同島産のものはレーンベルグ氏、タイヤー及バング ス兩氏に依るも Parus ater pekinensis Davro なるもの、如ければ村田氏採集のものも同亞種三認むるも誤りあらざるべし、 べきものなり、ペキンヒガラはヒガラに比し頭羽長くして十六粍若くはそれ以上あるを違點こなす。 因に本亞種は樺太以外の邦領内にては獲られたる事なけれごも旅順にては獲られたるの報告あり。 一棒太動物調査報告」一七頁にヒガラなる和名を以て記載せられあるものは札幌博物館所藏標本中より遂に見出す事を得ざりき、同 尚同書

## ッパメ Chelidon rustica gutturalis (Scop.)

中右の記載三同一なるもの三思はる、標本の測定表を左に掲ぐ 島に於ては極めて稀に見る鳥にして從來捕獲せしを聞かず。採集地 「樺太動物調査報告」三七一三八頁ツバメの項に「樺太に産するものは本邦南部に産するものミ著色上少しく異り歐洲産に近し、本 明治四十三年六月平野。」こあり、而して札幌博物館所藏標品

解レスト	**
۲ ۲ ۲	無
7 T Y	书
ಲ	烘
31/1/ 明	無
更	用
43	Я
	ш
1:	
14 mm.	пþ
1.	햻
114	海线
73	馬
	弄
	雄
70	題
	所
E	- h

而して色彩並に尾長に依り雌成鳥ご認む、村田氏報告に記さる、もの、採集年月ご本標品ごは一箇月の差あるもそは村田氏が便宜上

記すべき筈なればなり。 五月三十一日を次月分へ編入せしものなるべしご推考す、如何ごなれば六月採集せしもの、以前尚一羽を獲たるなれば採集。月を並

こせば或は兩亞種間に於ける雜種こも認むべきものならん歟 tetorm こなすべき程のものにあらず依て authoralis ご同定し置く事ごせり。 乍併今後同島に於て純然たる rustice の 獲らる、事あり **粍にして胸部の黒帶の完全なるに對し後亞種は鴽長一一○!一二○粍にして胸部の黒帶の中斷せられ居るにあり。札幌博物館所職棒** 太産のツバメは翼長に於ては疑なき getterally なるも胸部の黑帯は中斷せられずして連續せる點は reason に近し、これご intermedia ョウロッパツバメ (Chelidon rustica rustica (L.)) ピツバメ (Ch. rustica gulturalis (Scor.)) ごの相違點は前亞種は翼長一二〇十一二七

## ヲナガフクロウ Surnia ulula pallasi Bur.

の勘察加にて採集せるものなりごす、左に兩標品各部の測定表を掲 「樺太動物調查報告」中に村田氏が初めて邦産鳥類ミして記載せられたる種にして同氏は該報告中に和 名 をラナガフクロミ附せら しが前記の如く余が變更せり。札幌博物館には本亞種の標本二個を所藏す一は村田氏の樺太にて採集せられしもの、 他は報効義會

	2707	2943	札幌博物館標本希號
	夢	華	株
	××		無
	tin .	*	Jil.
	11/XI, 明 42	12/IX, 年不明	探集年月日
The state of the s	19	19 mm.	- 明 - 昨
	26	25	會合線
the state of the s	236. 5	218. 5	遊
	179. 5	182	E
	21	20. 5	96 Bit
			華
		滋	jij jij
	臣		污
		Ξ	華

察加東海岸ペトロパウロスキイにて採集せる由を記述す。但し S. alula doliata (PALL.) ごして報告す。 右二標品は各部の長さ殆んど等しく又羽色に於ては全く同じ、 して記されしがそは will の誤植なるべし而して余は其兇種なる S. willing pallasi Born. こなす方可なるべしご信ず。クラーク氏は勘 村田氏は樺太にて採集せられしものを報告中には Surnia ulnla (L.)'D

と『日本鳥類圖説』中和名とを並記すべし 以上にて調査し得たる数種の記載は終りたるも『樺太動物調査報告』中の和名に就て少しく記さん。該報告中には新稱九種を算す、左に該新稱

	_	=	Ξ	四	Ŧī.	六	セ	八	九
1	マダ	ア	ユキ	: :	チナナ	ラプ	スッ	カラ	<i>р</i>
	ラ	カ チ	t	$\mathcal{F}_{s}$	か	ラ	x	フ	ラ
	セン	カケ	バリ	ゲラ	フク	ド	フク	トラ	イテ
į	ニウ	ス			П	フク	П	イテ	ゥ
	9					D D		ゥ	
1			•		*	*	*		
	~	力	ツ	m.		カ		オ	カ
	キノ	ラフ	メナ	F <sub>e</sub> コ		ラフ		ボラ	マバ
	七	۱۰ -	か	ゲー		ኑ 		オー	ネコ
	ンニ	カケ	ホ	ラ		フク		テウ	ライ
	ウ	ス	5"/ D			П ウ			テウ
	新	(新				(新		<b>新</b>	(新
	稱	稱)				稱)		稱)	和稱)

テウは死名となし以後は Lagopus L. albusのみに用ふべく(九)クロライテウなる和名は Lyrurus tetrix (L.)にも附せられ居るを以て Tetrao falcipennis Harrl. に附せられたるクロライテウなる和名は死名となし事らカマパネライテウを用ふべし(五)チナかフクロはチナがフクロウと改め(七)ス からず(八)カラフトライテウは他にLagopus lagopus albus(Gm.) にも附せられ居るものなれば Tetrao virogallus の方に附せられたるカラフトライ のものは死名となして再用なさしめたくなきものあり即ち(三)ユキヒバリは雲雀科と類縁遠きものなるにもかくはらず該和名を併用するは好まし ドメフクロも共にスドメフクロウと改稱せん。

即ち表中和名の下に●印を附したるものは死名となし今後一切用ひざる事とし※印あるは改め用ふべき事と爲したき希望なり。

## 京城附近に於ける主なる鳥類の『渡り』に就て

田 保

黑 都

田

1 =

弧

見ざる月にして縱線ある部分は其種類の滯在期なること、知られたし。 附せし番號は「鮮満鳥類一斑」中の「朝鮮鳥類目錄」の番號三一致せしめたり。又各種類の欄にありて縱線なき部分は共種類を全く 京城附近に渡來する主なる種類に就て其「渡り」を調査せしに左表の如き結果を得たり、因て兹に紹介せんごす。但し表中各種に

								號番	55
220	212	210	209	206	185	183	109		第
ピン	キセ	チウ	口上	<b>キ</b>	カハ	マ	オポ	鳥	
ズ	キレ	ヒバ	パ	A	k	セウ	18	名月月	表
オ	1	1)	1)	+	3	ア	ン		京
		1	T					1	城
								2	龍
			_					3	Щ
-	<u> </u>	-						4	地
		-	_		-			5	方
									鳥
	_		-				_	6	類
			_			ļ	_	7	渡
			_					8	來
						1		9	期
								10	か春
				1				11	又秋
								12	は二回渡地
	集は未だ見ざれども黄嘌の幼鳥は時々發見す降近に響動する	右	到る所の麥田及原野中に營巢す盡鳥附近多し	多からず未だ春期の臨波せるものは見ず	溪谷の崖中間の土穴中に巻巢す	蹄に関係	中所々に鳴撃を聞く 中所々に鳴撃を聞く 記される言葉中に整算でナービ		に留まらず通過するものなるや他日の研究を要す。来すべきものにして一回のみ見しものに對しては少なきため

274	272	769	267	266	262	255	254	$\frac{251}{251^{1}}/\frac{2}{2}$	243	242	241	240	239	237	236	228
ソテ	:/:	ムキ	7	ウァ	方	1	N	ノシ	ア	ツハ	ツ	1	*	A	# 7	ቴ
サウ	クイ	3/	4	グウ	ポョ	F,	))	ゴ	カ	ケッグ	グ	ラツ	ホ	ギ	₽. 3	3
ザン	タダ	クマ	シク	イセ	シキ	タ	ピタ	7,	^	クショ	"	ク゛	ıν	7	タジ	۴
イミ	+	ヒュ	E	スン	y	+	+	* 7	ラ	ミウ	3	3	Ŋ	+	キロ	. 1)
1						1										
		-														
!_						- -				-						
	-														1	
				1												
	-				T							-	-			
													-			
														-		
					·											
					1											
	***************************************		-	•												I
-						- -										
										<b>!</b> -						
	も昨異年			少し	な龍く山	景福		先二に五	獵期の		を大以群				に府内	
	例				夏別	福宮内に於て營巣ゼ		來一は	刻		以て柏及其の以群少し多くして				營巣せるを見しことあり 内の森林にも營巣マ中學校庭内桃	
	付申				地地の	15		鳴比	期		及多				る林	
	表に記				も棲息營巣する地の叢中に見る	於て		く二三較的多	見		共のし				見見	
	記城				營中に	營組		三多十く	する		附近に三三				し営巣	
	中學後		,		すりて	せる			1		三見十				とずわ出	
	庭				12 1.	to		群をなすことあり	あ		3 3				り學	
	の松				12.原	見た	' i	すこだて	甚		7s 4j				校庭	ĺ
	林口				追伊	v)		とはあり	だ少		嚴実				内排	
	當				が川鬼			りの思想	しま	ì	中				ユ	
	良良				ず陽			光りの	初		11				ユスラの	
	林日當り良き所に四				比比		i	弱百き花	初期發見することあり甚だ少し春期は未だ見ず		り嚴寒中には眞柏の質を食する				り畑	
	12				L			き所な	だ見		9 gir				の一般	
	· 5				しては甚だ少			かがむりむ	ず		たか				畑の繁茂せる	
	羽 見				起だ			しは			良す				3	
	3				少			軒			る				tļa	

318	314	12	309	308	299	294	293	292	290	239	287	286	283	282	281	275
7	1	12 2	4	3	<i>y</i>	コテ	293 E	7	2:10 3/	キテ	201	7	483 E	202 E	+	210
			D	ヤマ	ゥ	カヴ	か	マ	ジ	マウ	₹"	ホカ		レン	レン	
1	ス		۲"	カケ	テ	12	73'	-h`	ウ カ	ハセ	ウ カ	ラモ		ジャ	ジャ	パ
y	カ	×	Ŋ	ス	ウ	ラン	ラ	ラ	ラ	リン	ラ	ズ	ズ	ク	2	×
				Checolicoms												
									-		-					
							-									
			-		-			1								
-			-  -		_				-							
									-							
															100 700 10 0	
																W-74-0
												ĺ.				
							and the second			ill U			ļ		-	
			府									衣	府			此期
			府内の殿宙の軒に營集することあり									<b>巻期未だ當地方にて見ず</b>	內所			此期最も雨鳥の影は三日
			殿宙									だ當	4 1-			もの雨諺
			の証			a l						地方	々に營巣す			鳥の三
			に									にて	す			
			集									見ず				か 見るなり
			3									9				な来
			٤													HEL
			あり													56 ()
																九月
																11
																州
																をいた。
																局
			,													8

34	32	29	$^{111}_{114}27$ $^{114}_{115}$	$\begin{array}{c} 16 \\ 22 \end{array}$	4	號番	第
ク	ゥ	1	ツコ	アダ	力	鳥	
, D	ミーアー		カルノ	ナイ	イツ	名	表
か。	イ		ルノ	ササ	ブ	月	京
モ	サ	+	類リ	ギギ	1)		二 仁
	,	-				1	線
			-			2	及漢
ı		_	1			3	江附
		-	-			4	近
				-	-	5	の主
						6	15
						7	る鳥
			-			8	類
					-	 9	渡來
			A	-		10	期
_	1	-					水
		- 1			-		原安山
	-					12	山山
	ことあり	二月中句連川郡南面に於て	時々見ることあり、人材を見る丹頂は臨津江渓江の。			備	郡海岸は本表より約五日早渡
	なり時としては数百の群をなす	たり異例なり	地平野に四五十の群をなる。			考	し牙山灣一體は約二週間早し

	-	of the contract of						
21	1	336	332	331	330	328	324	319 321
E	カ	=/	カ	ホミ	ホシ	ホテ	ス	力マ
	ン	マ	ラア	ホ	赤口	水ウ		2 2
1	ム	ノジ	ナ	シャ	ジハ	ジセ	ズ	ラウセセ
1)	1)	7	3"	ㅁマ	ロラ	ロン	×	セッン
	1					1		
	_							
					-	_ _		
	The state of the s	-						
	District of the last							
	_	1	1					
	200	·				-	-  -	-
_					-	-	-	_
	Dates in	-	-	-	-			
	Canada and	-		2	ļ		-  -	
	AND THE PROPERTY OF THE PROPER	- N		Constitution			-	
	200				-			Date Date And Date An
	T. Carrier	-		'	-	-		
	ä						-	
趾の			は山頭種	Ē.				をテウ
21	2		胸口					るセ
所に	. '		に含	Ì				近 カ
營巢	ザウ		() Z	5				に夢巣
ぜ	: E		黑色の	-				巢七
した	バコリ		1/20	)	}			すりるは
を見	, (;		少九	1				が大ご群
たり	: 占 [	1	味が	3,				とか
	少す。	P.,	あ卵る升	ES .				しなっ
	l	- 1	61:	Į				夏
	盲	5	のほあし	1				期に
	2		1) 7	2			}	時
	T	ř	12 1	5				セ
	し方	<u> </u>	る世で君	t				雄
	方では	3	1	1				
	0	)	2	句 P				羽伴
	5	1	3	<b></b>				3.
-								

128	126	66	63	5 9 6 1 6 2	57.	_54	52	47 51	46	45	44	42	40
3	ケ	<i>&gt;&gt;</i>	サカ	E	7	かア	チ	コマ	١ -	チ	ハシ	ハキ	ホ
ヤコ		ク	カッ	シク	カ゛	カッ	₹/	かか	モエ	ナガ	F,	ジン	シハ
F		テ	ラか	E		7	F"	73 /3	カ*	· //*	カ゛	7	ジ
IJ	IJ	ゥ	V	類	ン	モシ	1)	毛毛	モ	モ	Æ	0 0	n
				4				_ _					
	. ,										_ 4		
			The state of the s		1								
-								-				-	
			-										
							1						
	1		4	1									mary case
}	- -		C. C	- -			<u>.</u> J				-	- -	-
		_ _	Eq.	_1_									1
		i											
		数二	化波	么	旌				こ年	池			
		百月の野	些 <b>人</b>	各種	渡來も早し				年々三月	渡來はウミアイサの次に來るが如			
		好を報	会を企	کی کی	早早				切月	ウ			
		すの数	せし	न रेट	į				十六	3			٠
		とあれる	とくい	可なり多し					日	1			
		雅年	り行の	多					頃是	サの			
		時結	後期						日頃最も多し一	次			
		路位置	進な	1					<i>多</i>	1C 385			
		常に成	せるは						_	3			
		定是是	未が減						群	カ <sup>3</sup>			
		るをを	見少す						積	ĩ.			
		以て知り	正.			i			列一				
		公 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 に に に に に に に に に に に に に	年四						111				
		数首の群をなすことあり飛來時間路筋密に一定なるを以て容易に排ふることを得 近月中旬頃龍山鐵橋下淺瀬年を鈴水せざる駿��見みを何とす駿朔は三月下旬四月上旬にて	<b>に毕人参を会せしこともり其後は注意せるも米だ見ず</b> 近来は他に比し近そく地種の協切となれば他は減少す大正二年四月上毎同日に三羽を掛し						餘に豆				
		るとし	何同						Τţ				
		を四と	===						沙洲				
		上旬	和						飛行す				
1		15	{E						る				

## 法學士 川 口 孫 治 郞

即ちッ、ドリの毎年の啼き始めは、他の同類よりも著しく早い。而してホトトギスは蕃殖期の酣なる頃には場所を交替しつくも晝夜 を分たず啼くが、ツ、ドリもクワツコウも夜は啼かない。 を聞く。その後、約三週許も過ぎて、漸くクワッコウの幽邃な響を耳にする。ホトトギスは之こ前後し、寧ろ少し後れて啼き始むる。 飛彈の高山附近では、每年、遅櫻の花の未だ謝し去らず、杏の花の尚ほ真盛りの四月の末つ方、早やツ、ドリの軟らかきポンく

合に其聲が强大には響かぬ。又そのボン~~の止んでゐる間に折々、グチュ~~~~三響く低聲を發する。 てのみ發せらる
、。容易に人を近づけないが、常に去來する樹の近くに隱れて待つてゐるご、割合に近距離で聽かる
、。 特定ツ、ドリの徘徊する區域は、概ね一定してゐるが隨分廣い。道筋は概ね峰續きである。殊に獨特のポンく)は峰の梢近くに於 近距離の割

粗林孤木に來てゐるここが少くない。而して此場合には割合に人を避けない。粗雜な觀察眼には動も すればエッサイごても見誤ら れさうである。 發聲する際は前述の如く峰近くで而かも容易に人を近づけない位、<br />
警戒してゐるが、食を漁る際には、意外にも沈默のまで山裾の

け還つたりしてゐる。雌のごまつた樹に、雄が追ひつきごまつた時、頻りに例のグチュノーノーくしこ相呼應する。程なく復た逊け である。 端が著しく下がつてゐる。就中それが雌に著しい。クワッコウ及びホトトギスが雌を盛に追ふのは、少くこも二週間あまり後のここ る。復た追ふ。之を半日も反覆する。斯くて雙方ごも非常に疲れしもの、如く、飛翔力甚しく鈍ぶり、枝にごまりし際にも兩翼の末 五月中旬頃、日中に盛に、雌を追ふ。追はる、雌は迯け廻りながらも遠く去らない。向ひの峰の梢などを指して迯けて行つたり迯



圖四廿第

(面背)

め、又逸早く其聲を收むる、 暫くは續く。即ちツ、ドリは、 ウの聲も漸く収まる。ホトトギスは其後倘ほ

逸早く啼き始

うになる。其後十日許を經る間に、クワッ 六月に入るこ、ツ・ドリの聲が聞こえぬや

別株の梢に現はる。銃聲については全く無經 不明こなる。靜察五分餘、意外にも再び近傍の 二葉の飛散りしのみにて、低く逸して其所在 た下りては戻るを確認し、遂に忍びて遙に隔 間に餌を認めては颯ご下り、直に梢に戻り復 りしが、斯日、觀察者は先づ彼の姿を認め、 に
寄に降り來るこ
こに
心付き、
注意觀察中な はれしを獲たものである。先是彼が時々附近 大八賀村字三福寺なる山裾の畑の桑の梢に現 せる實體は、大正六年五月十二日午前十時半 てたま、發射せしに、下腹部の小さき羽毛 所掲挿圖の第世三圖、第世四圖に表裏を示 H

験の如し。膝を没する泥の冷たき小溝を潜行する狙撃者の接近を覺りて、僅に一町許を距る山田の岸なる高さ二間餘の杭の上にごま る。狙ひ兹に定まり、資傷のま、を入手した。圖の眼の尚ほ張れるは、斃れしより僅に十數分後の撮影なるが爲である。實測左の如し。

翼長六寸七分、尾長五寸二分、嘴峰八分、跗蹠六分。

尾羽の各白斑の、ホトトギスに比して、著しく小さきここ、就中、中央なる兩羽の白斑は、 末端の二個を除きたる他が皆羽軸の外

側に微小に存するのみなること、共に注意に値す。

腹部の黑横條斑の幅はホトトギスのそれ三大差なし。

念の爲に右解剖せし結果、雄なるを確かむ

一挿圖第廿五圖は、 同月十八日、同郡宮村山林中にて、何故にや辛うじて數間を飛びて人を避け得るまでに、疲勞困憊せしを、里人



面 下)

の排獲して飼養しつ、ありしを、大江浩君の盡力にて貰受くる 

翼長六寸六分、尾長五寸一分 嘴峰七分二厘、跗蹠五分六厘。 總體、前實例よりも蒼黑色遙に鈍ぶく、稍淡灰褐色を帶び、

念の爲に右解剖の結果、雌なるを確かむ。

且つ腹部の黑横條斑至つて細、五厘を越えず。

本例について更に注意を惹きしは、寫真に見らる、如く其口

狀を目撃し、其何故に斯くなりし乎、を解するに苦しむ。或は雄に追はれて物に衝突して吐血せし乎。否、吐血するまでに衝突せば 着きるたりこあり。 **吻に近き羽毛に血塊の大豆大の黑化したるが固着しゐたりしここである。捕獲者の言ふこころに據れば捕獲當時** 一週間も生存する筈なし。或は雄に追はれに追はれし、丈けにて吐血し、爲に疲勢困憊して、人に生擒せらる、に至りし乎。 ホトトギス吐血説については拙著「杜鵑研究」頁九四乃至一○二に、彼此解釋したれども、今ッ、ドリに就き、此現 より生々しく凝り

因に云ふ、圖の腹部のいたく瘠せてみゆるは、生擒後約一週間許飼養せられし中、餌食の量及び質が彼の自然の要求に合せざりし

爲なるべきここいふ迄もなし、

其後

# 四國地方に於けるツバメ類の『渡り』並びに習性等に就て

榎 本 佳 樹

なるにより大なる誤なかるべしご信ず、尚不備誤謬等の點に就ては自己將來の研究ご諸賢の高教ごに待つ處あらんごす。 し余の觀察には詳細なる統計的記錄を伴はざるを以て不確實なる點あるを発れざるも前後を辿じ少くも二十年間の實見に基くもの アカツバメよりも早きが如し。因 て 左に同地方に於ける兩種渡來及飛去時の狀況並びに其他二三の件に就て少しく述べんごす。但 早しこ斷定し得ざるべきも余が永年住居せし四國地方(主こして香川、徳島兩縣下)にての觀察によればツバメの方渡來飛去共にコシ に反するものこの二説あり、之は兩種共我國の大部分に互り渡來するものなるが以て精密なる調査を遂げたる上にあらざれば何れが 我國に於けるツバメミコシアカツバメの渡來及飛去の時期に關する從來の諸說には前者の方 渡來及飛去 共に早し三するもの三之

#### 一、ッバメに就て

初めて何人もツバメの渡來を知るここで成るなり、而して三月中旬には著しく其數を增し下旬に至らば殆ど大部分渡來し終り、四月 るも其後逐次到着し且漸次喧噪ごなりて 或は雌雄空中に相戯れ或は電線、樹木、屋上等に止まりて 特異の囀聲を發するに至れば弦に けなく其年初めての燕を見て最早寒さも甚しかるまじこ寒がりの人安堵するを常ごす、斯くて三月上旬には極めて少数にして靜な に入りて渡來するものは甚少く同月中旬以後には渡來するもの極めて稀なるが如し。 早き柳の新芽少しく緑を帯び畑の麥も稍伸 び てヒバリは空に囀るも高山雪を冠して西北の風尙寒き三月上旬思ひが

ざるなり、斯く去りたる後には極めて少數の幼鳥残留するここありて是等は大抵十月上旬に去るも時ごして同下旬迄目撃するここ 其去るや渡來の時の如く少數づゝにあらずして多數一時に於てし多くの場合に 於て黃昏迄大群を目撃せしに翌曉には最早其姿を見 八月中旬頃より群集し始め九月初に至れば一群の鳥數頗る夥多ごなり同月上旬より中旬末の間に於て去る。而して

#### 一、コシアカツバメに就て

月初迄も之を見るここあり。 本種は前種に比すれば残留數比較的多 くして十月下旬乃至十一月中旬頃迄之を見尙極めて少數のものは同月下旬、時ごしては十二 る、斯くなれば最早出發期に近づきたるものにして九月中旬乃至同月末迄の間に於て前種の如く一夜の間に其姿を没するなり、但し の渡來を終るが如し、而して本種はツバメに比すれば一時の渡來數多きもの、如く初めて之を見る日には到る處にて之れに遭遇す。 飛去の時期 八月末頃より集合し始め九月中旬頃に至れば其數頗る多大ミなり屢一三丁間の複行電線上に隙間なく占居するを見 渡來の時期 - ツバメの初渡來より約一ケ月半乃至二ケ月を經たる四月未乃至五月上旬に至り漸く本種來り同月中には殆んど全部

#### 、兩種差異の點に就て

々識別するを得べし。 白を呈し翼裏面の暗黑なるここにより、又コシアカツバメは腰に顯著なる赤褐色部あり腹面及翼裏面は淡赤褐を呈するここにより 羽色の差異 之は多くの人の熟知する處なるが少しく距離を隔つる時で雖ツバメは腰に赤褐色無く背で一樣の黑色にして腹面純

は屢樹木に止れどもコシアカツバメの樹木に止れるを見しここなし、い 築するここ多けれどもコシアカツバメは戸締内に營巢せるを見たるこミ無し。(e) コシアカツバメの巣は下方より之を支ふるもの無 行中翼を張りたるま、翔る時間に於てはコシアカツバメの方ツバメよりも遙かに 長し。又ツバメは屢電光形に飛ぶもコシアカツバ りこし殊更に小形の棚を造り與ふる家少からずって き位置に造りツバメの巢は多少之を支ふるものある場所に於てするを異なりこす(徳島地方にてはツバメの營巢するは一家の吉兆な メは斯るこご無し。 コシアカツバメは斯の如きここなし、又コシアカツバメは著しく高空に翔るここ多けれどもツバメには斯る場合比較的少し。 心飛 習性上の差異 右の外尚兩種間に於ける差異の點多々あるべきも他日一層研究の後に讓るここでせり (3) ツバメの飛ぶ平均高度はコシアカツバメのそれよりも低し、即ちツバメは地面に接近して飛ぶここ多け () コシアカツバメは田舎に少く都會地に多けれどもツバメには斯る差異少し。 (1) ツバメの幼鳥はコシアカツバ 兩種は全く鳴聲を異にす。 メの幼鳥よりも外側尾羽の發達遅し。(2) ツバ ツバメは屋内 れども

## 埼玉縣入間郡產鳥類

籾 山 徳 太 郎

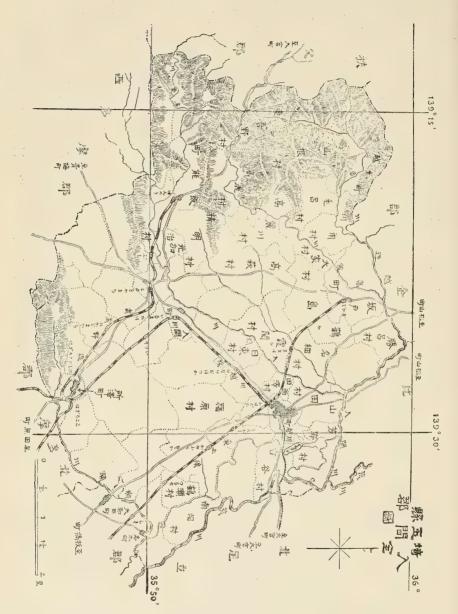
村

宗

附記せるに止めたり、掲載せる種數は全部にて百三十二に及びたれど尚幾多の掲載洩れのものもあるべく<br />
又掲載せる種にも充分な **る觀察の足らざるもの等あり、其等は尚今後觀察を續行して(殊に不充分なりし東部地方の) 他日改めて追加せん事を弦に約す。** ざるもの等を明かに分ち説明を附したり、郡内各地にて聞きたる諸種の分布、習性等も各種の説明中に記入せり、而して産する事始 こなりたるを入手せるもの、本郡産なる標本を見たるも入手する事を得ざりしもの、採集若くは人手する事を得ず只觀察せしに過ぎ 集するあたはざりしものは標本にても入手する樣勉めたり而して掲載せる各種に就ても今回の採集に掛るもの、採集せざりしも標本 らの觀察をものすを得たり,採集地並に觀察地は殆んど高麗村附近に限らるゝも叉數日づゝの各所に於ける觀察 を も加へ尚可成採 んど確實なりこ思はる、種にして且産する事ある由を聞きたる種にても活物死物若くは標本羽毛を檢する事あたはざり 大正六年二月初旬より翌七年十二月下旬に到るの間埼玉縣入間郡地方に於て斷續的に行ひたる鳥類採集の傍各種に 就て差少なが

附近には稀に海鳥の飛來するの事質あり(該沼は最近海面なる東京灣隅田川河口に到るの里程尚十數里あり然れども該沼附近に飛來 入間川、越邊川、高麗川等の諸川の灌漑便にして豐饒なる水田地方其大半を占む(後記三川は下流地方のみ)故に木郡を分ちて東部 は諸種の水棲鳥類の好繁殖場たり即ち該沼にて疑なく繁殖をなすものにはカイツブリ、カルガモ、バン、オホヨシキリ等あり、 過ぎざれど水底淺くして慈姑、萍蓬草、マコモ等茂生し其他幾多の水草類極めて多く加ふるに淡水産魚虫類の繁殖も亦夥し故に夏季 て東部の水田地方は各種の水棲鳥の群集地たり加ふるに東部に伊佐沼なる一池沼 あり、長徑約十二町短徑二十三町周圍約一里弱に 並に東北部の水田地方、西部の山地々方、東南部及中部の平野地方の三大別をなす事を得、西部の山地は各種の夏鳥の好蕃殖場にし 本郡の地勢の概略を述ぶれば西は有名なる秩父山地に接し東南部より中部に掛け武藏野の一端を容す、東部並に東北部には荒川、





5

北

<del>1</del>23

したる海鳥は隅田川河口 カモメ等にありこす(此海鳥の渡來に就ての愚見は動物學雜誌二十九卷六月號に掲け置きたればと一覽)。 東京灣内等にては見るを得ざるもの尠しこせず、即ちシロアジサシ、 アカ ラネ い 々 ſ r37 ナジロ フ

大正六年度及七年度の諸觀察を比較するに一般に七年度の方、夏鳥の渡來多かりしは確實なるもの、如し、 ~~~

平均六日間にして特に後年度に於ては五月初旬以來九月末日迄は他用の爲專ら野村に全任せる處なりとす、野村は該地に在住し籾山のなすあたは ざりし間か補せしにあり今左に籾山の該郡下に出張なしたる年月を記し此間を明瞭にせ 籾山が該地に於て行ひたる觀察は六年度に八回、七年度に四回出張したるに過ぎず而して六年度に於ては各回平均七日弱七年度にありては各回

大正六年二月九日着發、 一月三日、十一月十九日——十二月五日、十二月十五日——同廿五日 四月五日 ·同十八日、四月廿四日 ——五月二日、 五月十日 -同廿四日、六月十一日 一同十二日、十月世 日

- | -

大正七年一月卅一日-——二月七日、二月十二日——同廿日、 四月廿七日 五月三日、九月三十日 - 十月三日

(ヒかシアがノ)山根(ヤマネ)毛呂(モロ)川角(カハカド)大家(オホヤ)鶴ヶ島(ツルがシャ)勝呂(スグロ)の諸村並に川越(カハゴイ) 所澤(トコロ シ)山田(ヤマダ)芳野(ヨシノ)古谷(フルヤ)南畑(ナンバタ)鶴瀬(ツルセ)福原(フクハラ)日東(ニツトウ)元加治(モトカザ)精明(セイメイ)東吾野 ハ)飯能(ハンノウ)入間川(イルマガハ)坂戸(サカド)越生(オゴセ)の諸町、加ふるに荒川(アラカハ)入間川(イルマガハ)越邊川(オツペガハ)高麗 觀察地名並に採集地名を擧ぐれば下の如し、高麗(コマ)高麗川(コマガハ)高萩(タカハギ)霞ヶ隅(カスミガセキ)田面澤(タモザハ) 名細(ナグワ

たる內田獸醫學士、埼玉縣知事岡田忠彦兩氏の好意を厚く鳴謝する處なり、各種蒐集其他に多大の助力を附與せられし高麗村在住諸 本篇を草するに當りて各種の援助を與へられたる黑田理學士の好意に對し衷心感謝に堪へず、尚採集に際して諸種の便宜を計られ

川(コマガハ)飯能川(ハンノウガハ)等の諸河川等となす。

以下各種に就きて記述すべし

君の勞を謝す。(籾山記す)

番號の頭に※印あるは採集若くは入手せる處の種並に亞種名にして他は然らざるものとす。

1) Cynchranus yessensis (SWINH.) ロ ら ロッ

#### 方言 ジョーリン (川越町附近

本郡の東境荒川堤の叢間に冬間普通に見らる、所のものなりされど次種に比し尠きもの、如し。

(2) Cynchramus schæniclus pyrrhulinus (SW1NH.) | 木ポジコリン

方言 ジョーリン (川越町附近)

は幼羽のものを見る事多し、 前種ご混じて同所に見受くる所のものなり本種の方多きもの ~如し兩種共に雄鳥成羽のもの即ちナベカブリは尠くして雌羽若く 川越町の捕鳥家は同地附近にて冬間本種を多数捕獲する由

**%(3)** Emberiza sulphurata T.&S.

飯能町附近(六年十月)にて捕獲せられたる二羽を入手せり同町内にて飼養鳥をも見たり高麗村地内にも渡來する事ある由を聞け

ご未だ目撃せる事なし一般に尠きものなるが如し。

Emberiza rustica PALL. カシラダカ

カシワダカ、カシワドリ(共に高麗村) タホ、ジロ(川越町

明かならざれご十一月初中兩旬内なるもの、如し、高麗村にては主こして山地にのみ見るも越生町及び飯能町にては桑畑にても見受 高麗村 (六年十一月廿二日)にて二羽、越生町 (六年十二月廿四日) 高麗峠 (同月廿八日)にて各一羽を採集す、本種の渡來期は

けたり。

%(5) Emberiza variabilis Temm.

クロジ

アラシトト (川越町――アラジの誤りにあらず同町にては次種は同じくアラジと稱す)

留捿するものと如けれご未だ卵雛を發見せし事なし七年九月廿五日高麗村地内 なる新堀釜淵に二羽の渡來を見たるも以後山地其他 近にて獲られりご云ふ標本を見たり、高麗村新堀山にては四月世五日(大正七年)に初めて見、以後は普通に見受けたり夏中を通じて (七年四月廿五日、五月二日)にて三羽を採集せり越生町上野山(六年十二月廿四日)にて二羽を目撃す、川 越町にて同 一町附

- に一影だにもなし。因に川越附近にては冬間見受くるものなる由
- ※(6) Emberiza spodocephala personata Temm. ▶ ₱ 5

ものなれごも四月下旬以後は蕃殖の爲山地に入る、高麗村の山地にては五月にも尚見受けたり恐らく少數のものは留りて蕃殖するな (六年十二月一日、廿二日、廿三日、七年二月六日、四月廿二日)にて五羽を採集す。冬間は本郡内の各所に最も普通なる

※(7) Emberiza cioides ciopsis Bonapt. 本 ・ い ロ

構巢し内部に帶青白色若くは微紅白色の地色に暗褐色の線條を有する卵(稀には暗色の斑紋あり)を四―五個稀には六個を産す、晩 ものなれご(深山には全く見ざる處のものなり)夏季は稍其數を減ぜるもの、如く見ゆ、各所の灌木茅藪等に茅葉、 九日四個。 期蕃殖例こして十月一日 (六年二月九日、六月十二日、七年二月十四日)にて五羽を採集せり尚同所にて數回採卵せり (六年四月廿七日 同三十日二個。五月六日四個。同十二日五個。同十七日三個。同十八日五個。同十九日二個。)本郡内各所に極めて普通の (大正七年) 尚構巢中のものを見たり。 草根等を用ひて 個個 同比

※(8) Emberiza fucuta fucuta PALL. ホ トアカ

方言 タホヽジロ (川越町 ――カシラダカにも同稱ありされど本種な意味する事多し)

芳野村 (年月不明)産の一標品を川越町にて入手せり、川越町附近にては冬間は稀ならず、本種は本郡西部地方にては見たる事な

\*\*(9) Passer montana saturatus Stein.

し

の屋上に構築する時は葺屋材料を掻撥し被害尠なからず本種は稀に晩秋構巢材料を選搬するの事質あり、蕃殖の川意にあらざる事は 郡内到る所の田畑人家附近にては極めて普通のものなり各所の屋上、檐下、樹洞、橋材の間隙等に營巢し三月下旬以後産卵す、農家

確實なる處なれば或は嚴寒中巢内保温の 為修繕をなすにはあらざる 敷

からざるもの、如し。

のなり川越町にて同町附近にて獲られたる雄雌二羽の標本を見たり郡内の各所に籠飼せられ居るものを見る事あり 一般に其數は多 高麗村新堀山(六年二月九日)にて雄鳥一羽を目撃せり以後二一三回特有のPoi Poi を聞きたり同村内にてはあまり多からざるも

はあらざる歟、記して識者の御高数を仰ぎ度し。 實なり、かくる現象は他の類似種マシコの類(Urayus)にも見らると處なり恐らく飼料の變化並に運動等の野生時代と多少の差異あるが原因なるに は胞腹部灰色にして老鳥になるに從ひ紅色の度を増すものかと考ふる處なり、されど胸腹部の紅色なるものも籠飼越年する時は灰色と變するは確 別すべきものあり川口法學士に依る時は前者は老鳥にして後者は幼鳥なりとの説明ありたれど(動物學雜誌二十九卷二二頁)余は是な反對に幼鳥 胸腹部の微紅若くは淡紅色を帶べるテリウソ(豐後方言)アカウソ、ソウデレ(長府方言)ヒウソ(若柳方言)ホンテル(函館方言)等稱するものとの二 本亞種の雄島は胸腹部の灰色なるもの即ちホ、デリ(豐後方言)ホウデレ(長府方言)チウテル(函館方言)ホ、アカ、ニホヒウソなるものと

%(11) Chloris sinica minor T.&S. J カ ハラヒ

カ ハラヒワ、 カハラッピワ

に杉樹を好めご松林中にも構築せざるなきにしもあらず、籠飼せらる、ものを見る事あり。 高麗川村 [月中下旬より 一番づくごなり蕃殖時は稍山地へ入るもの~如く數少しく減ずる處なり本亞種は本郡内各地にて蕃殖す營菓する (七年二月五日)にて一羽高麗村(七年二月六日)にて三羽を採集せり、高麗村附近にては年を通じて見るも冬間は群居

%(12) Chloris sinica kawarahiba Temm. オ

ダイコ

ワ

(川越町)

又は前 亜種と共に カ

ハラヒ

ホカハラヒワ

該標本は少しく疑あるも本亞種ご認むべきものなるべし各部の測定左の如し、嘴峯一二粍、嘴高一○粍、翼長八○粍、尾長四八●五粍 越 一町附近にては冬間(一一二月頃)は前亞種ご共に捕獲せらるこもの多き由、 同町にて雌 一羽(五年一月?)の標本を購入せり

跗蹠一丘●五粍、因に本亞種は本郡西部にては未だ見たる事なく東部に於ても前亞種に比し炒きもの、如し、

(13) Acouthis spinus (L.) ト シャ ワ

方言

※(14) Fringilla montifringilla L. ア ト リ

方言 アートリ (入間川附近)

高麗村新堀山(六年十二月十八日)に於て雕一羽を採集せり同地附近にては甚だ珍らしきものゝ一なりされど入間川町附近の入間

川河原には極めて普通なるものへ由。

※(15) Uragus sibirica sanguinolenta (T.&S.) くりゃかり

言 マシコ(川越町、高麗村)マヒコ(高麗村)

年一月?)産の一標品を入手せり。郡内にて間々籠飼せらるゝものありこ,一般に多からざるものなるが如し。 高麗村地内の山地にて捕獲せらる、事ある由、川越町にて探集地不明の――されざ本郡内産の 雌雄二羽の標本を見、毛呂村(五

(16)? Loxia currirostra albicentris Swinh. シロハライスカヤ

方言ィス、

なるべしご想はるくを以て前記學名を揚ぐ。 高麗村(六年五月十二日、同月下旬)に少群をなしつ、飛來せるを目撃せりイスカなるか本亞種なるか詳ならざれども大概本亞種

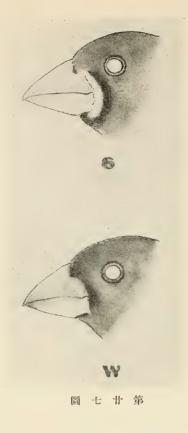
※(17) Eophona melanula migratoria HART. コイカル

方言 シマイカル (高麗村、飯能町)

高麗村新堀野口 (六年十月世九日)にて雌一羽捕獲せられ後余の入手せる處こなり約一筒年間飼養を續行せり該鳥はイカルの媒鳥

gho-gho gujuguju kpiz-kpiz, Piyū-kyot-kyto gho-gho 等を普通に鳴けども三月下旬より(飼養鳥に於ける結果なれば野外にても同じご は斷言するを得ず)イカルの如く Tsukiy-hoshi-hii ミ聽かる、囀音をも發す、されご前述の各鳴聲に比し甚だ稀なり、常て飼鳥商よ 於て捕獲せられたるを聞かざる程のものなりご、飼養の結果左の事質を識るを得たり即ち本亞種雌鳥の鳴聲は Piiyū-tchoro-chuiihi にて篠に掛かりたるものなり 而して同所にて約十五年以前本亞種雄鳥一羽捕獲せられし事あるのみにて前後二回以外には本郡内に

コイカル雌鳥口邊夏冬の變化



を現出するも(第廿七圖s)九月以後に到る時は消滅

で<br />
變じ口邊に各一線の三日月型の白色部並に<br />
黑色部

―四月に到れば嘴に接する口邊の羽毛は白色及黑色

雄鳥のみに於て「鶉鳴き」は聴く事を得べき歟、三

り本種は「鶉鳴」きをなすものなりご聞きたる事あり

しが籾山の飼養せるものはか、る事なし或は本種の

※(18) Гориона personatus personatus (T.&S.) 1 л г

羽の變異なるべし。

ず(第廿七圖W)此は恐らく本亞種雌鳥に於ける夏冬

し只他の部に比し稍幾分薄黑き色彩を呈せるに過ぎ

方言 エ・コホシイ(高麗村――前掲和名と共に並び用ふ)

群をなして渡來する折は多く高狹を用ひて捕獲し籠飼するもの稀ならず、方言の出所は鳴聲に依りたるものなり。 高麗村(六年五月十四日)にて一羽を採集せり同所にては十一月下旬より五月中旬に至るの間は少數のものは普通に見らる秋期小

方言 マメブチ(高麗村)Pホウネンスドメ(高麗川村)※(19) Coccothraustes coccothraustes japonicus (T.&S.) メ

月廿一日高麗村地内にて初めて四羽を見たり以後は普通に群居せるものを目撃せり而して七年四月廿三日同村新堀山 に て一羽を見 鶴ヶ島村(六年十一月廿六日)にて二羽、高麗村(六年十二月一日、廿一日、七年二月四日)にて三羽を採集せり、六年度には十一

しは最晩例ごなす、冬間は郡内各地に稀ならず。

※(20) Zosterops palpebrosa japonicus T.&S. ✓ ♡ □

部地方の山地にても構築するものあるも多くは隣群秩父方面へ移行するもの、如し、而して多く樫の木に構築するを見る、 高麗村(六年十二月十八日、二十日)にて二羽を採集す、初秋より晩春に到るの間各所に稀ならず以後は蕃殖の爲山地に入る、西

を以て捕獲し籠飼せらる、もの郡を通じて尠からず。

\*\*(21) Spodiopsar cineraceus (Temm.)

部の耕地附近に於ては極めて普通のものなれ ぎ も西部の山地方面にては極めて稀なるもの、如上高麗村地内にては未だ見たる事な 大家村(七年二月十六日)にて二羽を採集す、川越町、 芳野村、所澤町、飯能町、高麗川村等にて目撃せり、本郡東北部東部東南

※(22) Cyanopica cyanus japonica Parrot. → →

し、東部及び東南部地方にては恐らく蕃殖するものあるべしご信ず。

り翌世九日同所にて一羽、九月に入りてより同じく高麗村地内にて本種の聲を聞く本種は西部に於て冬間は全 く見る事を得ざるも 古谷村(七年二月)にて採集せられたりご云ふ標本一羽を購入せり、七年八月廿八日高麗村地内の桑畑にて本種三羽を初めて見た

※(23) Garrulus glandarius japonicus T.&S.

り、九月下旬以後より四月下旬に到るの間各地に稀ならず高麗村附近にては五月上旬に到るも尚少數のものを見る事あり、 (六年四月七日、十日、十一月廿八日、七年二月一日、三月三日)にて五羽、高麗峠(七年十月三十一日)にて一羽を採集せ

ものは隣郡秩父方面にて蕃殖するならんも少數は本郡内にても構築する事あるべし。本種は秋季栗の實等を畑の一隅其他に埋め置

※(24) Corvus crone orientalis Evers.

ハシボソガラス

ホソガラス(川越町)又は單に カラス

近き雛一羽採集、以上は皆高麗村に於ける觀察なりごす)最早産卵日ごして七年四月中旬採卵せる事あるを聞きたり。本種は郡下到 る所に多く各所にて蕃殖す夏季は散棲するも冬間は大群をなして山林に棲所を定む、冬季中は桑畑或は麥畑に見る事多し、 採集、七年四月廿三日雛三羽 高麗村(六年五月十二日、七年二月五日)にて成鳥二羽を採集す尚雛卵も數回發見せり(六年五月十二日巢出後一一二日の雛一羽 - 孵化後約一週間經過-及卵一個、同月廿九日常日孵化の雛三羽、 孵化途中の卵一個、 五月十三日巢出

(25) Corrus macrorhynchos japonensis Bonapt

ハシブトガラス

ハシブト (川越町) 叉は單に カラス

川越町 層多きものなるが如し然れごも一般に前種に比して尠き事は疑を容れず、高麗村地内にても蕃殖するものあるが如し。 、飯能町、所澤町、高麗村等にて見たり高麗村地内にては極めて尠きものなれご飯能町附近には稍多く所澤町附近にては尙

(26) Regulus regulus japonensis Blakist. キクイタッキ

方言 コ ガラ (高麗村

麗峠、飯能町等にて見たり 晩秋より冬間は稀ならず他のカラ類ご混群し居る事多し四十雀科中最も遅く出で最も早く去る處のものなり、高麗村、 精明村、高

附記 最近の分類に從ひ菊戴亞科(Reguline)な四十雀科(Paride)中に加ふる方可なるべしと信ず。

(27) Acredula candatı trivirgata (T.&S.) 工

ナ

ガ

コガラ、ラナガ(共に高麗村後者は甚だ稀に)

高麗村、精明村、飯能町、芳野村、鷁ヶ島村、越生町其他各所にて見たり十月初旬より四月下旬に到るの間各所に稀ならず多く他

九尺餘なる横枝の基近き個所に細き樹苔、軟き蘇類等を蝴蛛の絲並に昆虫幼虫の繭糸を以て固着せしめありて一見木瘤の如し面 のカラ類ご混群せる事多けれご春期は本種のみの大群を見る事あり、高麗村新堀山(七年五月二日)にて一葉を養見せら松樹の地上 1

て内部には各種の鳥類の羽毛を集めありたり左に其鳥名並に羽毛の別を記さん、

ゴ井サギ成鳥 腹羽八

マド 1) 雌 上脊羽二、胸羽六、脇羽二、

ヤマシギ

雨覆羽一、腰羽一、

オ 木 コノハヅク 頭羽一、肩羽八、脊羽二、三刻風切羽一、腹羽二—三、

トラツグミ

٢

3

1.

Đ

U

1) 肩羽一、 胸羽七、 腰羽二、 下腹羽四、脊羽二、腰羽二、三列風切羽二、 腹羽二、

胸羽二、脇羽五、

腹羽九、

ハラ 脊羽及腰羽十三、腹羽約二十、三列風切羽二、雨覆羽(?) 三、

シベフカラ 次列風切羽二、大雨覆羽一、尾羽三、

ケス 脊羽、腰羽並に腹羽四-五十、三<u>列風切羽一、次</u>列雨覆羽三、

カシラダカ 脇羽二、腰羽三、

カ

ク D 次列風切羽三、

尙種名の詳かならざるもの中 には

繁亞科(?) 脊羽 一、腹羽一、

不明鳥A(小型の梟鴟類?) 初列風切羽三、

同 В 下尾筒羽(?)一、

 $\mathbb{C}$ 肩羽二、腹羽三、下尾筒羽(?)一、

同

卵無し、 ヅク、 のものは總て余等が該山中にて目撃せるもの、みなり、而して該巢の製作者ー即ちエナガは構巣に用する羽毛は總て該山中に於て蒐 以上は構巢材料中の羽毛の全部にして十枚以上を見たる鳥種名を多きものより掲ぐればカケス、シロハラ、 羽、腰羽等の多きは各種の鳥類の羽繕ひ等に依りて脱落せしものなるを證するに足るべければ、因に該巢は一部を破壞せられ内部に 集せるものなるべく且全部を拾得せしならんこ考察す如何こな れば其羽毛中に頭部頸部並に上脊部のもの尠くして腹面のもの及翼 るもの、如く松林中の地上に在りたるものにして該時の構巢材料も前記のものご略同じくして細き樹苔、軟なる蘇類、細き杉皮(數 本)、羊齒類の新芽(一本)、枯松葉(一本)等に左の諸鳥の羽毛を用ひありたり ヒヨドリ、 信同山 (六年四月九日)にて本種の巢なるべしご思はる<br />
てものを一個拾得したる事あり該巢は構巣半なりしものを墜された ヤマドリの順こなる、構巢材料こなりたる諸羽毛の持主即ち各種の鳥類は皆該地に普通にして別記せ トラツグミ オホ る數種以外 コノハ

ゴ井サキ成鳥 脊羽三、腹羽三、

キジバト腹羽一、

シロハラ腰羽三、

**・ラジ 初列羽切羽二、** 

アカ

パケス

腹羽三、

クロジ(?) 風切羽及尾羽六、

種名不詳鳥羽 二種各一、

以上にてエナガの構巢材料に關する大略は終り た り而して此如く夥しき鳥羽を内部材料こして使用するは該種の産卵數の多き事ご

大いに關係あるべき事ミ信ず。

※(28) Parus ater insularis Hellmaye ヒ カ

5

方言 コガラ(高麗村)又は誤りて シェフカラ

類ミ(殊にシ、フカラ)混群し居る事多し。 月三日高麗村にて見たるは最早日にして六年四月九日高麗峠にて見たるは最晩例なりごす。夏季は全く 見る 事を得ず常に他のカラ 旬以後より山地に普通に見受けらる、處のものにして去期も稍早く四月上旬以後は見へず、本種『渡り』の最早晩例ごして七年十 高麗村(六年十二月一日)にて一羽を採集せり、高麗村、飯能町、越生町、精明村等にて見たり、本種は前種より稍遅れて十一月初

※(29) Purus rarius rarius T.&S. ヤマガラ

鶴ヶ島村、霞ヶ陽村、飯能町、精明村等にても見たり。 ならず而してあまり大群をなさずして敷羽のもの、他のカラ類(主こしてシャフカラ、ヒガラ、エナガ)の群中に混じ見る事多し、 く去期は前種より一旬程遅れ四月中旬以後なるが如し本種も前種ご同じく平地にあまり多からざる處のものなれごも山地にては稀 高麗村(六年四月十一日、十二月十七日)にて二羽を採集す同地にては本種の渡來期は詳かならざれご前種より稍違るくもの 如如

※(30) Parus major minor T.&S. シ 、 フ カ ラ

方言 チンチガラ(高麗村――甚だ稀に)

所に構築する事稀ならず盛夏中一時山地に入るも初秋に到れば再び何所にても見る事を得,高麗村(六年五月一日)にて桑株の空洞 高麗村(六年五月二日、十二月十八日)にて四羽を採集せり本種は郡内到る所に極めて普通のものにして四一五月頃樹洞其他の暗

※(31) Sittle europea amurensis Swinh. コジフカラ

中に二卵を産せしを發見せり産卵途中なるもの、如し、高麗村新堀山にて純白なるものを見し事あり。

高麗村 (六年二月九日)にて一羽を採集せり冬間山地附近にてエナガミ混群せるを見る事あるも多からざるもの、如し、

\*\*(32) Lanius lucephalus (T.&S.) + ×

所にて雛卵を數回採集せり(六年五月一日巢立間近の雛六羽、七年四月六日抱卵半以上を經過せる六卵二四月二十一日抱卵後約十日 (六年四月九日、五月二十二日)にて二羽を採集す五月二十二日に採集せしものは巣出後約一箇月以内のものなりき、 尙同

るも少数のものは留捿す、大正七年度に於ける本種初鳴日は二月十四日にして構巢に着手せる最早者を目撃せるは三月二十一日なり 經過七卵) 木郡内到る所に極めて普通のものにして三月中旬以後雜木茅薂等に架巢し蕃殖を營む盛夏の候に到れば著しく其數を減ず

%(33) Bombycilla japonica (Sieb.)

ヒレンジャク

飯能町、川越町等にても殆んご同期に群來するものある由 高麗村(七年三月十七日)にて一羽採集す同地に於ける最早渡來日は三月十五日(大正七年)なりき約一旬程にして見ざるに到れり

**%**(34) Eombycilla garrulus garrulus (L.)

りご七年三月前種より稍遅れて高麗村附近にも群來せり。 日東村 (五年四月)にて獲られたる標本一個を川越にて購求せり川越町附近にも渡來するものある由なれご前種に比し尠きものな

\*(35) Ferierocotus einereus Lafres サンセウクト

郡内にて蕃殖するものあるべし。 もの、渡來を見以後暫くは稀ならざりき其後一時見へずなりしも八月十七日本年生の幼鳥のみよりな る一群を目撃せり。恐らく本 高麗村新堀山 (七年四月二十四日)にて三羽を採集せり、 同地にては大正六年度には一羽も見ざりしが翌七年四月二十三日最初の

Hirundo urbica dasypus (Bonapt.) 1 ハラバ

R 高麗村(六年四月八日)にて一羽を採集せり同日初めて小群の渡來を見たるも以後は一影だに無し恐らく「渡り」の途路なりしなら

**%(37)** Chelidon rustica gutturalis (Scop.) "

ク

中春より中秋に到るの間特に深き山地を除きたる地に極めて普通のものにして屋内に營巣する事は諸地皆同じ高麗村新堀に於け

も藍類の「渡り」は多く早朝到着せし地に一日を過ごし夕刻より再び旅程を續くるものなる事を推察するに難からす 月下旬以後は南下しつ、あるもの非常に多く高麗村に在住せるものは九月未に全く渡去りたる も 十月十五日高麗村を通過せるもの 度には四月四日に二羽渡來翌々六日には到着數二十羽以上を算せり、大正六年度の去期は詳かならざりしも七年度の觀察に依 を去期の最晩例ごなす、九月下旬同地に純白のもの一羽飛來せるも一日にして見へずなりたり本例並に前記ィ る觀察を記せば大正六年度には四月六日一羽のもの渡來し翌七日には二羽三なり三日目 八日)には尚多くの もの到着せり大正七年 ハツバ × (1) 例に照して れば儿

38(38) Troglodytes troglodytes jumigatus Temm. ~ > + .

方言 モソッチョ、モソッチョイ、モソヌスモ、 *,* ' カッチョ カ (皆共に高麗村 -後四者は稀に)

度には十一月十五日なりき(高麗村) 去期は詳かならざれごも三月中なるが如し、川越町附近にて獲られたりご云ふ標本を同町にて 見たり芳野村、 一(六年十二月一日)にて二羽を採集す十一月中旬以後は各地に稀ならず渡來の最早日は大正六年度には上一月上九日翌七年 越生町、 飯能町其他にても渡來日は略同期なるものと如し、本種は本郡西部の山地にて蕃殖する事あるべし、

(39) Cinclus pallasi pallasi TEMM. カハガラス

方言 カーガラス (高麗村)とカンガラス(同所)

堀山附近にては未だ見たる事なし。 清流(六年二月)の小川にて獲られしもの一羽を見たり同所にては冬間に稀に見受けらる、處のものなる由約半里を隔つ新

※(40) Acanthopneuste occipitalis coronata (T.&S.) センタイ

方言 ムシクヒ(高麗村)メボソ(飯能町、高麗村)

林中に稀ならず大正六年度の渡來最早例は五月十一日の一羽にして翌七年度は四月二十日の二羽なりごす(高麗村)六月中旬以後迄 は特異の轉聲を聞く事を得恐らく本郡内にて蕃殖するものあるべし、去期は詳かならず本種は他の蟲喰類ご異りたる囀聲を發するを (六年五月十六日、世三日、六月十二日、七年四月廿四日、五月二日)にて五羽を採集せり四-五月の候渡來し以後各所の

piyo-jiyi ミ囀づる事あり(一例のみ) 以て外見及習性は酷似するも囀聲に依る時は決して誤る事なし普通に pichan pichan-jiyi 三聞このる囀聲をなすも稀には piyo piyo

因に相模足柄上郡玄倉附近にては本種の方言をウシツビと稱す噂言より採りたるものなりと云ふ。

※(41) Cisticola cisticola brunneiceps T.&S. セーツ

カ

に水田地方に移行し可なり多数を見る冬間はあまり見當らざれごも少数のものは留棲するもの、如し。 よりは hiy hiy hiy hiy 若くは dja dja dja clia こ鳴きつ、構巢地附近の上空を汲上飛行をなす、夏中は畑地附近に散棲すれごも秋季 年六月一日より四日迄に四卵を産せし一例を識るのみ該時のものは路畔の尺餘なるバタグサ(方言)の草株中に草根を蜘蛛糸を以て 子を集めたるものなりき一般に細き草根は必らず使用せられ居るを見る他に莎草科の花穂等も用ふる事多し、木種は蕃殖期に入りて 絡めたるものなり同月十二日小麥畑に發見せる構巢中のものは小麥莖の中途に細き草根及菊科に屬するもの(タンボトの類?)の種 高麗村(六年六月十二日、十二月一日)にて二羽を採集す好んで小麥畑に營巢するも茅簸雜草等にも構巢する事あり産卵期ごして六

※(42) Horeites cantans cantans (T.&S.)

ウグヒス

方言 チャッチャ、バカッチョ(共に高麗村――秋季のみの呼稱なり)

は五月上旬なり。 Ш 1地へ入る但し山地へ入りてより蕃殖を營むものもあり大正七年度の最早渡來日は十一月世七日にして初鳴日は三月九日、産卵初日 高麗村(七年一月十日、三月五日)にて二羽を採集せり晩秋より郡内各地に稀ならず高麗村附近にては五―六月の候産卿育雛し後

43) Acrocephalus arundinaceus orientalis (T.&S.)

オホヨシキリ

方言 ヨシキリ

ある由本種は西部の山地附近にては全く見る事を得ざるものなり。 (六年六月)にて目撃せり初夏の候芳野村伊佐沼にて蕃殖するもの多しご云ふ坂戸町附近なる越邊川堤にても蕃殖するもの

(44) Prunella rubidus (T.&S.) カ ヤ

1).

方言カヤ、カヤモグリ(共に高麗村)オホサベイ (川越町

り飯能町にて籠飼せらるヽもの二―三を目撃す吾野村附近の山地 よ り出づるものなる由、西部の山地には産するもあまりをからざ 高麗村新堀山 (七年四月廿二日)にて疑なき本種の囀聲を聞きたり川越町にて山根村にて採集せられたりご云ふ二羽の標本を見た

\*(45) Pratine la torquata stejnegeri Parrot

ピ タ

近にては此他には見たる事も聞きたる事もなし西部にては恐らく偶然に渡來するものこ認む べきなるべしされご東部の水田地方に は晋通に見る事を得べしこ信す。 高麗川村(六年四月十三日)にて夏羽のもの一羽を採集せり該時のものは高麗川の岸邊の茅簸に棲止し居りたるものにして山地附

Tarsiger c\_anurus (Pall.)

ル ij Ľ タ

|方言|| バカスカシ(飯能町)バカッチ』、バカヤロー、バカ(皆共に高麗村――後二者は稀に用ひらる~に過ぎず)

平地には尠きものなるが如し、 村に飛來せるものを識るのみ,去期は六年度には四月十四日,七年度には四月十九日の二例あり,木種は氷種に比し山地に多くして **ず夏季は隣郡秩父方面に移行するも木郡内にても少數のものは蕃殖する事あるべし渡來最早例ごし て大正七年十一月十七日に高麗** 高麗村(六年二月九日、四月十四日、十一月十九日、十二月一日)にて四羽を採集す、晩秋より中春に到るの間郡内各地に稀なら

\*(47) Phanicurus aurorea aurorea (Pall.)

ジヤウビタキ

方言 ダンゴショイ(飯能町、高麗村)ヒッカチ(高麗村)

稍早く十月廿八日(大正七年)頃にして去期は詳かならざれご前種に比し稍遲るくものく如し夏季は隣郡秩父地方へ移行するも少數 (六年二月九日、七年一月廿日、二月六日)にて三羽を採集せり冬間は郡内各地に極めて普通のものなり、渡來期は前種より

鳴くは同じけれご本種は又hy hy なる遠距離に響く清澄なる聲を發するに反し前種は gran こ聞のる鈍き濁音を發するに過ぎす。 せずされご翼面に注意せば一目判明する事を得べし本種に於ては所謂ダンゴシ"イ即ち白班一個を認め得ればなり鳴聲もkata-kataこ のものは本郡内の山地に殘留し蕃殖を營むものと如し、本種三前種三の雌は近似し居りて遠距離より觀察する時は誤る事なきを保

3) Icoturus akahige (Temm.)

コマドリ

季は山地附近にては見聞する事あれごもあまり多からざるものゝ如し、川越町、飯能町等にて籠飼せらるゝものを見たり、 精明村附近の山地(六年六月十二日)及び高麗村新堀山(七年四月廿九日)の兩回本種の特有なる囀聲を聞きたるを最早例ごなす夏

尚本郡内にコルリ(Larvivora eyane (PALL.))も産する由なれど目撃せる事無きを以て確言する事あたはず。

※(49) Turdus cardis TEMM. クロック

羽を目撃せり前後兩回以外に見たる事なし恐らく「渡り」の途路のものたるべし、されど隣郡秩父には極めて普通なる由 高麗村(六年五月二日)にて雄鳥一羽を採集す同所新堀山(七年四月廿五日)にて梟鴟類の餌食ごなりたるらしき個體分散せる雄鳥

((50) Turdus pallidus Gm. シロハラ

方言 シロッパラ、チョウマン(共に高麗村)

高麗村(七年一月廿日、三月四日)にて二羽を採集せり、來去期は詳かならず秋季は見たる事なく春季は少數のものを見る事を得

※(51) Turdus chrysolaus Temm. ▶

アカハラ

方言 アカッパラ、コノハッカへシ(共に高麗村)

程多からざれざも前種よりは明かに多し初鳴期は四月三十日(大正七年)を識るのみ本種の囀聲の一節は kyoro kyoron tse tse ご聞 の而して最初の二音は非常に遠隔の地に達する程のものにして後の二音は小音にしてムクドリの聲に類似すれで も該鳥程濁音なら (七年一月廿日)にて一羽、高麗村(七年一月廿二日、五月二日)にて二羽を採集す冬季より春季に掛けて稀ならずツグミ

を興ふ、夏季は見たる事なし。 ず木種は前種ご共に未明時に農家の藁屋根に發生する所の昆蟲の蛹(幼虫?)を喰はんごて屋上に集り藁を搔掘して炒からざる被害

%(52) Turdus naumanni Temm

ハチジャウッグミ

方言 アカツグモ (川越町

111 (年月不明)にて獲られたる標本一個を川越町にて購入せり同町附近にても甚だ稀に獲らる。事あるに過ぎずご、此都を通

じて一般に稀少なるものなるべし。

%(53) Turdus eunomus Temm

ツ ゲ

方言 チョウ

かならざれど十月十五日に旣に渡來せるものあり四月三十日(大正七年) に見たるは最晩例なりこす(高麗村 高麗村(六年十一月三十日、十二月廿三日、七年一月十日)にて三羽を採集す冬間は郡内各地に極めて普通のものなり來去期は詳

ム中に Turdus fuscata VIBILL, 1808 として附せられたるものあるな以て Dusky Thrush (ツグミ)の方には Turdus cummus Team. 1831 な用ふべ 本種の學名は從來 T. fuscatus PALL., 1827を用ひたるも最近の學說に從ふ時は該名は Cicliffermania fuscata (Mecking-Thrush) コシノニ

きものなりと謂ふ(Ibis, V.I. VI, 1918, p. 238

¾(54) Geocichla dauma aureus (Holandre) ŀ ラ ツ

7

方言 ヒョーソウ(高麗村)

3 (55) Cyanoptila cyanomelana (Tenm.) オ ホ ル 1)

高麗村(七年三月三日)にて一羽を採集す同所附近にては晩秋より初春に到るの間稀に見る所のものなり夏季は全く見る事なし。

1)

高麗村新堀山(六年五月廿日、六月六日、七年五月一日)にて三羽を採集せり夏季は西部の山地附近に稀ならず四月上旬以後渡來

するもの、如し、本種は本郡内にて蕃殖する事確實なるべきも余等は未だ巢卵を發見せし事なし。 あり飯能町附近は高麗村より稍早きもの、如く四月十日頃 (大正七年)雄鳥渡來せりご聞く一般に鶲類の雌鳥は雄鳥より遅れて渡來 するも去期は詳かならず高麗村に於ける渡來最早日は六年度には五月一日、七年度には四月廿四日の兩回各一羽の雄鳥を目撃せるに

**Ж**(56) Zunt.opygia narcissina narcissina (Темм.) + 'U д

方言 オーシンツク(金) バカッチョ(♀)(共に高麗村)

で喰ふ少数のものは本郡内にて蕃殖するなるべし。 渡來し夏季は一時見えずなるも秋季再び見る事を得、渡來最早日こして四月十四日(大正六年) 一雄鳥の鳴聲を聞きたるこ四月世二 るご尙又發音の少しく異りて二音目の shin の他の音に比し稍大音なる點に依りて區別する事を得、木種は又秋季山椒の實を好 ん け鳴くこの二樣にあり後者は蟬類中のツクツクボウシ (Cosmopsatiria opalijera) の聲に類似し殆んご誤る程なるも 季節の早きに過ぐ の渡來後は山地附近到る所に彼の特種の聲を聞く即ち piyo piyo piyo z續け鳴くこ尚他に o-shin-tsuk - tsuk o-shin-tsuk を續 日(大正七年) に同じく一雄鳥の鳴聲を聞きたる二例あるのみ十一月廿四日(大正六年)一雄鳥を見たるは去期の最晩例なりごす本種 高麗村(六年五月十一日――十五日、十月廿五日,七年四月廿五日、廿九日)にて六羽を採集す、西部の山地附近には四月中下旬

(57) Alseonax latinostris (Raffles)

コサメヒタキ

方言 バカッチョ (飯能町)

目撃せり恐らく同日渡來せるものなるべし本郡内にて蕃殖の有無詳かならず。 見たる雄一羽ミ四月世三日(大正七年)に見たる二羽ミを識る飯能町にては稍之より早きものゝ如く四月世一日 (大正七年)に二羽を 中春の候渡來し山地附近に暫し見る事を得れざも夏季は見えずなる高麗村に於ける渡來最早例ごしては四月廿九日(大正六年)に

‰(58) Tchitrea atrocaudata owstoni (Jouy)

サンクッウテウ

方言 サンコドリ(高麗村――稀に)

三例あるのみ、 <u>鴨聲を聞く事を得れご旬日ならずして由地附近に移行し蕃苑を營む雛の孵育後間も無く山中深く入るもの こ如し高麗村に於ける渡</u> 來最早日は五月廿四日(大正六年)に雄鳥一羽を見たるご五月十九日(大正七年)雄鳥一羽三六月四日(大正七年 **高麗村新堀山(六年五月廿四日、六月廿九日、七年五月十九日)にて長尾の雄鳥三羽を採集せり、** 飯能町にては稍早く大正七年度には五月上旬渡來を見たる由、高麗村附近の山地に ては六月上旬以後構築する 中春渡來し各所の林中に特 雌鳥 打を日 撃せる

落葉樹に構巣せる實例(高麗村 サンクワウテウの単



圖 第



九

常綠樹に構巣せる實例 サンクワウテウの廢菓 (高麗村

卵を産したる一例を識るのみ營巣材料 樹何れにも見る事を得(第世八圖 面より見る時は一見樹瘤の如し の繭糸等を以て纒絡す、 き外部には樹苔を蜘蛛系其他昆虫幼虫 形を構し内部に棕櫚の毛、 は檜の樹皮を細く割きたるものにて巣 午前に完成五日 得(第七九阊)、産卵例こして六年七月 稀ならざるが如く間々廢巣を見る事を こして檜杉等の常絲樹及樫其 二日午前九時 より構築に着手し同 より九日に至る間 外面若くは下 他 の落葉 )構巢樹 一高度 12 114

は不定にして四尺以上二丈四十五尺に達する事あり「本朝食鑑」に巢を營む事鞠の如く綴るに馬尾を以てす口を兩端に聞きて長尾を をなせるものにして兩端に巢口を開かず只他鳥に最も多く見らる、形狀のもの、みなり、雌鳥の抱卵中求餌の為に巢内より出づるや して自由ならしむ一方より入て一方に出る其性慧敏なりこあれども余等の發見せるもの、中にはか、る もの無く皆球形に近き杯狀

雄鳥の一時之に代りて抱卵をなし居るを見る事あり雛の巢立後は間も無く附近に見えずなる。

\(\cdot\)(59) Hypsipetes amaurotis amaurotis (Temm.) t 3 F.

13

ヒョー・ヒョード

せり夏季は隣郡秩父地方に移行するものゝ如し渡來最早日こして十月三日(大正七年)を識るのみ。 村附近の山地にては少數の蕃殖するものあるべく五月一日(大正六年)及五月二日(大正七年)の兩度食餌を運ぶ雌雄のものを目撃 高麗村(六年二月九日,四月十二日,四月十五日)にて三羽を採集せり中秋より中春に到るの間各地に極めて普通のものたり高麗

Anthus spinoletta japonicus T.&S

タ 'n 1)

六年)頃なるべし。 勝呂村等にて見たり本種は十月中下旬以後郡内各地の河邊、水田等に極めて普通のもの た り去期は詳かならざれご五月一日(大正 高麗村 (六年四月九日、十一月廿一日)にて二羽を採集す尙他に高麗川村、毛呂村、越生町、飯能町、 川越町、芳野村、坂戸町、

ヒバリの類

りしものなれば前述の事質のみを弦に附記するに止めたり。 .F. |面灰鼠色/喉部黒味を帯びしものにして下面の色彩、飛翔時の鳴聲、飛行の狀態其他はタヒパリと殆ど同じ、異種なるべしと想考すれども採集せざ 飯能町中山(七年四月廿一日)にて疑なき本屬のもの一羽を目墜せり乾きたる田面を歩し居るを敷間内に近接し尙双眼鏡を用ひて觀察せしに體の

Anthus trivialis maculatus Jerdon

1)

ヤマヒバリ、ヤマスドメ(共に高麗村――稀に)

(大正七年) 二羽を見たる事あり恐らく西部の山地にては少數のもの、蕃殖を營む事はあり得べしこ信ず、初鳴日こして四月廿五日 のなるが如し森林中には稀ならず殊に松樹林を好むが 如し去期は前種より尙遲れ五月上中旬頃なれご高麗新堀山にては六月十七日 高麗村(七年二月十四日)にて一羽を採集す飯能町、精明村等にても見たり本種の渡來期は詳かならざれごも前種より稍遲るこも

(大正七年)を識るのみ。

(62) Motaeilla alba lugens Kittlitz

ハクセキレイ

ては恐らく冬間少數のものを見る事あるべし。 高麗村高麗川河原 (六年十月三十日)にて幼羽のもの一羽を目撃せり西部に严ては該時以外に本亞種を見たる事なしてれご東部に

※(63) Motacilla grandis Sнакре

グロセキレイ

セ

發見せり(六年四月三十日孵化後約十日の雛二羽無精卵一個在中の一葉、五月九日四卵在中の一葉、同十一日孵出後約五日の雛 原の石間、蛇籠、橋材の間隙等に藁、檜皮、棕櫚の毛.毛髪其他の諸物を以て構築し三一六卵を産す、高麗川河原に於て数囘卵雛を 高麗村(七年一月廿日、二月七日)にて二羽の成鳥を採集せり郡内各地の河邊に極めて普通のものにして四季を通じて定住せり河 /i.

在中の一巢、同十二日六卵在中の一巢、同廿一日四卵在中の一巢、七年六月四日二卵在中の一巢——最後のものは産卵途中のものなるべ

し)入間川原、越邊川原等にても蕃殖するものある由。

※(64) Budyles cinerea melanope (PALL.) + + + + 1

☆言 前種と共に單に セキレイ 又はケツフリオカメ(高麗村)

種の雄鳥は三月下旬に到る時は喉部黑色に變す而して腹面の黄色の濃度も増加す。 卵ある一葉の二例あるのみ前例は非常に珍らしき事にて村落中の緊道に面したる杉の籬外地上四尺程の個所に營みたるものなり、本 こは育雛上必然の手段たる べし、卵巢の發見日こして六年四月廿七日完成に近き廢巢一個を籬内より同五月六日農家の屋上より六 村、川越町、芳野村其他にても目撃せり郡内各地の水邊に極めて普通のものたり四-- 六月、屋上、水邊等に構築すれごも就中農家の藁 屋根に椀大の窩を穿ちて營巢する事最も多し蕃殖期には人家稠密せる所に多く見受くれご該期を過ぐれば其附近に暫し見えずなる (六年四月八日、五月廿一日、七年五月二日)にて四羽を採集せり、飯能町、精明村、元加治村、高萩村、坂戸町、高麗川

附記 本亞種の學名を從來 B. boarda melanope = Motacilla boarda mianope PALL. を用ひたるも最近の學說に從ふ時は Motacilla boarda なる

名は Motacilla flava 群に用ふべきものにして Grey wagtail(キセキレイの原種)はM. ci erec Tonstan, 1771 を用ふべしと謂ふ (Ibis, Vol.VI.p. 235) 依て其亞種たるキセキレイの學名も前掲の如く變更せり。

※(65) Alauda arvensis japonica T. &S. ン 、

高麗村(六年六月十一日)にて一羽を採集す郡内各所の耕地(殊に平野に於ける)荒野、河原の草生地等に極めて普通のものにし

中に於て囀ずるは旣知の事實なれごも稀には河原、畑等の地上若くは桑株上に棲りて囀り居る事あり、郡内各所に籠飼せらるてもの 部に巢端の地表ご平面ごなる程度に構するも晩期のものは麥莖の地表より稍高き個所に構巢する事ある を見る、 化後約一週間經過の一雛:無精卵三個在中の一巢ミの二例あるのみ、小愛畑に營巢するものにあ り ては初期のものは多く麥株の根 勘からず。 て四月上中旬小麥畑、荒野の叢間等に營巢産卵す、卵雛を發見せしは六年四月廿七日抱卵半を過ぎたる一腹四卵ご七年四月廿一日 本種雄鳥は多く空

366) Picus awokera awokera Temm.

アラゲラ

に比して最も尠きものなるべし。 川越町にて本郡産のもの一羽の標本を購入せり高麗村地内にても獲たるもの ある由なれご余等は未だ見たる事なし、他のケラ類

367) Iyngipicus kizuki seebohmi Hargitt

コゲラ

キネズミ、オケラ (共に高麗村・ 雨ながら甚だ稀に用ひらる~に過ぎず)

等かの關係あるにはあらざる歟
こ想考す。 れざるものなるが如くか、る特種のものはヤマガラ、タケガラス等あり皆共に啄木性の鳥類たる を以て或は啄木性ご聽神經ごは何 のものにして來去期等も極めて不確實のものたり、一般にケラ類の通有性たる双棲は本種に於て特に著しく每回必らず雄雌 のを見受く未だ單獨のものを見たる事なし、 高麗村新堀山(六年十二月三日、七年一月廿日、二月十四日)にて五羽を採集せり西部の山地附近にても晩秋より冬間稀に見る所 ケラ類中最も普通のものにして主ごして蟻を食し居る事多し、一般にケラ類は銃聲を恐 一羽のも

3. (68) Dryobates leucotos subcirris Stein.

オホアカゲラ

る事ある由なれど本種なるか次種なるか詳かならず 高麗村山口山 (六年十二月二日)にて雄幼羽のもの一羽を採集せり、頭部紅色にして體黑白斑なるケラ類は田地附近にては間々見

(69) Dryobates m tjor japonicus (Seeb.) アカ

ざれごも前種にはあらずして本種らしく見受けられたり、恐らく誤りあらざるべしこ信す。 高麗村(七年三月十九日)にて雄雌二羽を目撃せり、高麗川村平澤山(七年二月廿日)にて見たる一羽は遠かりしかば斷言するを得

附記 本郡内にてはケラ類を一般にキツ、キ又は單にケラと稱する事多し。

乃言 カリガネ

該鳥を空間高く投げ上ぐる時は平常に復し活氣に飛び去るを見る即ち高所の高木に棲止場所を撰ぶの原因も此邊より出づるものな の場所は大凡一定し居れり即ち峯上若くは壁上にある所のあまり細枝の繁生せざる高木にして多くは老松なり木種及次種は誤て地 東上"武藏野兩鐵道沿線附近等にて目撃せり,晴天にも見るも曇りたる日には殊に多数のもの、群飛する實例あり,本種の休止する 近の室中を飛翔し居たるも翌朝は一影だにも無き奇現象を目撃せる 實例あり四月下旬以後五月中旬に至るの間多數を見受くれご以 四月十七日一羽を目撃せるこの二例あるのみ六年四月廿九日午後二時高麗村に數十のもの一列こなりて渡來し忽ち散開し て 終日附 上に下降するが如き事ある時は再び飛翔するの困難なるもの x 如し稀に山中の地上に匍匐し飛び得ざるものあるを見るかょる時は 後は一時見えずなる九月下旬以後十月中旬の間再見受くれご後は全く見るを得ざるに到る。 春秋の兩季中は空中を飛翔し居るものを郡内各地にて見らる、所なり高麗村、高麗川村、飯能町、川越町、霞ヶ關村、芳野村其他

(71) Chatura candacuta candacuta (LATH.) ハリチアマツバメ

### ハリラツバメ(川越町)、カリガネ

ドリは疑なく前種の方言なり す事勘くして數羽以上十數羽位の群を見る事多し(前種は往々五一六十羽若くは其以上の群をなす事あり)本種は前種より低空を飛 行する事多く頭上數尺を羽音鋭く過ぐる事ありカザキリなる方言は前種にはあらで本種に附せられしにはあらざる歟、されごカザ れ十一月廿六日(大正六年)高麗村を通過せる一群を最晚例こなす十月下旬より十一月中旬に到るの間稀ならざる も前種程大群をな 高麗村、飯能町、川越町、霞ヶ關村等にて見たり本種の來期は詳かならざるも五月下旬に目撃せし事あり去期は前種より一箇月遅

※(72) Caprimulgus indicus jotaka T.&S. 3 タ

るのみ、 こ發聲する事あり是を「ヨタカの呻き」ご謂ふ。來去期早晚例ごしては五月十七日及十一月廿一日(六年度高麗村に於ける觀察)を識 中、屋上等に棲りて gyoro gyoro gyoro z續け鳴く高麗村附近にては「ヨタカが味噌を擂る」ご稱す尚山中等にて晝間 gun gun ならず晝間は森林中に潜み薄暮より夜間に掛け田畑、村落附近に出現し、盛に昆虫類を探食す本種は叉毛虫をも喰ふ ものゝ如し、林 高麗村(六年六月九日、同十二日、十一月廿一日)にて三羽、精明村(六年六月十二日)にて一羽を採集せり、夏季は郡内各地に稀 本郡内にて蕃殖するなるべし三信ずれご未だ卵雛を登見せし事なし。

- Asio flammeus flammeus (Pontoppidan) コ
- ŀ ラ フ

方言 トラミ・ヅク(川越町 兩種を混稱す)

ご聞く。 川越町にて同地附近にて獲られたりご謂ふ兩種の標本を見たり、後者は高麗村地内にも産するもの、如し、一般に前種の方稀なり

Strix uralensis japonica (Clark) エゾフクロウ(新稱

本州産フクロウは二亞種
こなす方可なるべし、一は北海道及び本州北部に産するものにして從來和命無きを以て新にエゾフクロウ

年前同村新堀にて産卵育雛せし事ある由因に次種は高麗村にては未だ見たる事なし。 飯能町にて見、越生町上野にて獲たる標品一羽を同所にて見たり高麗村にては間々見る所のものにし て夜間鳴聲を聞く事稀ならず數 郡は南北兩亞種の分布境界地なるもの、如し而して次亞種より本亞種――エゾフクロウの方普通のものなり、東吾野産の標品一個を こ命名せり、他は本州中部以南に分布するものにして舊和名を其儘用ふる事ごせり本郡内には上記兩亞種を産する事確實なり即ち本

(76) S. i.e uralensis hondoensis (Clark)

フクロウ

方言 ゴヘイ (越生町) フクロ (共に前亞種と混稱す)

感あり本郡内にては前亞種より餘程尠きものなるが如し。 越生町上野にて同所附近にて獲られたりご謂ふ標品一羽を檢するを得たり前亞種に比し一體に赤味を帶び體型少しく小型なるの

\*\*(77) Ninox scutul.tta scutulata (Raffles)

アヲバヅク

方言 **ヲクッポ、** ボウツク(共に高麗村――後者は稀に用ひらるとに過ぎず)ヨシコ(越生町)アラバミ・ヅク(川越町

甚だ稀に)

七年四月廿三日夜最初の發聲を聞きたり恐らく同日若くは其前日に渡來せしならん、高麗村地内にては間々蕃殖するものある由 (六年五月廿日)にて一羽を採集す西部山地附近にては晩春より初夏に掛けて本種の鳴聲を聞く事殆んご何夜なり同所にて

0 兩鳴聲に各別の方言ありて異種と認むるもの多し余等も同じく異種ならんと想像すれども後者は何種に宛つべきやな斷言するに難し、記して識者 に兹にポーポードリ(高麗村方言)なるものありアチバヅクの渡來の前後より發酵する所にして異種なりとも謂ひ又同種なりとも聞く高麗村にては 「御垂教を乞ふ因にボーボードリなるものは其名の如く poo po と二節づゝ鳴くもあまり長く引かずして二節にて約一秒に満たざるものなり。 アサバックの鳴聲は ockpo ockpo と輕く聞ゆるものにして越生町の方言に accent か付し語尾を稍引き延したるが如きものなり、然る

※(78) Otus bakkamorna semitorques T.&S

オホコノハヅク

近にては夜間に間々彼の kin-kirini, gia及び nya ā nya ā を聞く事あり後者は冬間のみに聞く所のものなり、恐らく本郡内にて蕃 高麗村(七年二月十八日)にて一羽を採集せり本郡内各所に稀ならざるものゝ如けれど夜鳥なるを以てあまりに目撃せず高麗村附

殖するものあるべし。

ク (Otus japonicus japonicus T.AS.) なる事は殆んど疑なきも未見のものなるを以て玆に附記するに止めたり。 川越町附近にては稀に前種よりも小型なる虹彩の淡黄色なるヅクの類の獲らる~事ある由而して方言をコヅクと稱すと、該種はコノハヅ

※(79) Ceryle lugubris lugubris (GM.)

→ 
ト

ヤマセミ

見たる事なし飯能町にては同町附近飯能川(年不明一月)産なる一標品を見たり越生町附近にも産する由而して何れも冬間のみに見 高麗村なる高麗川(七年十二月廿四日)にて一羽を採集せり同地に同月廿二日初めて渡來せるものにして該鳥以外に同種のものを カノコショウビン(川越町、 飯能町、 越生町

らるでものなりご云ふ。

※(80) Alcedo ispida bengalens's GM.

カハセミ

ヒョービン、ショウビン、ソナ(皆共に高麗村――後二者は稀に用ひらるに過ぎず)

さの巢坑を掘る巢孔の直徑約二寸五分、坑道の構造は孔口より約一尺五寸程は稍上方に向ひ其以上は少しく下方に傾斜し五寸餘にし なる四卵、六月廿日同じく新鮮なる四卵)本種は蕃殖期に入るや河流に面せる土壁、或は山腹の土壁、堤防等に二尺五寸乃至三尺の深 入間川、越邊川、高麗川、伊佐沼其他其所の水邊に極めて普通のものたり各所に於て蕃殖するもの、如く高麗川村、元加治村等にて こなして産卵するを常ごす間々異例ありて直孔ごなさずるもの、魚骨を敷かざるもの等もあるが如し。巣坑は毎年新に掘るものなる も本種の巢穴を目撃し飯能町、越生町、川越町、芳野村等にて蕃殖したる事實を聞き高麗村にては採卵せり(七年五月廿四日に新鮮 て廣所に達す該個所は徑五寸內外にして高さも坑道に比し倍以上あり此中央に魚骨の綿狀こなりたるよのを少しく敷き內部を窩狀 高麗村なる高麗川(六年十一月廿一日、十二月一日――廿一日)にて六羽、芳野村伊佐沼(六年十一月一日)にて一羽を採集す、荒川

利するやは詳かにせず、本種の雌雄間の區別點は下嘴に橙赤部あるが雌鳥にして雄鳥は上嘴ご同色なり對比する時は頭部の斑紋、 が如く雄雌交々作業に從事するを見る。倘真巢坑の附近に偽巢坑並に作業初日程度の門所をも多數に見受くる處なるも如何なる事に 面其他の色彩等にても判別に難からず。 15

紅白色を呈し内容を除きたる時は光澤ある陶白色(Chinese White) となる 附記 『本邦産鳥類の巢と卵』には本種の卵色を光澤ある白色と記しあれども恐らくそは殼色なるべく内容のある新鮮なる卵の色彩は光澤ある微

Haleyon coromanda major T.&S ア カ セ

ゥ

方言 トウガラシセウビン (越生町、川越町) ミヅホシドリ

りご謂ふ一標本を見たり越生町附近の山地にても夏季稀に見る事ある山 高麗村 (六年七月)にて數回目撃せり山地及溪間等に出現するも甚だ稀なり同村内にて夜間上藏の白壁下に陸死し居りたるものな

Cuculus opiatus opiatus Gould

ッ

高麗村 (六年五月廿一日) 方言 ムシバミ (高麗村――稀に)ポーポー (飯能町 - 七年四月廿四日)にて二羽を採集せり霞ヶ閼村にても見たる事あり四月下旬以後渡來し各所の林中に特

のにして音調は高からざれごも中々美音なりき余等は杜鵑類の囀音を發する事あるを初めて識りたるなり 有なる 引 ワウテウの如くに kōi kōi こ發し次いで鷄科のオホルリ若くはサメヒタキの如き聲にて續け末に到りてはアラジの囀聲に極似せるも 日(大正七年)を識れど去期ご終鳴期ご同日なるやは断言する事を得す、七年度の渡來最早日に本種の囀聲を聞きたり最初はサンク bonを聞く事を得、渡來最早日ごして四月廿四日(大正七年)を識るのみ初鳴期は渡來日ご同じかるべく終鳴期 は十月

Cuculus canorus telephoniis Heine

2 コ

方言 カツボウ(高麗村)?クイキ(高麗村――方言?)

五月上中旬以後は郡内各所の林中に本種の鳴聲を聞く事を得、大正六年度には五月十四日最早渡來者あり翌七年は數日早かりしも

の、如し本種の渡來は夜間なるべく每例未明より初聲を聞く、高麗村地内モズの構巢する事多き所に本種の盛に出没するを見るを以

て恐らく同所附近に産卵する事あるべしこ想考す二羽(恐らく雌雄なるべし)の従列飛行をも間々目撃する所なり。

なさしむと、而して鶯巢なりやと反問せしに鶯巢に容るとは杜鵑なりと謂ひしかばクイキなるものはクックコウ、ツヽドリ何れかのものたるべし。 方言中に記したるクイキなるものに就て村老より左の如く聞きたり即ち該種は巣を營む事なくして他鳥の巢内に産し以て他鳥をして育雛

(84) Cuculus intermedius intermedius Vahl

赤 ŀ ギ

ボトツッキッチョ(高麗村、 入間川村)ボトツッキッタ、ラヤフコウドリ、ホッチ"(後三者は稀に用ひらる)

五日夜にして翌七年度は五月十八日夜なりミす恐らく渡來日は之に伴はざるべし、本郡内にて本種の卵錐を獲たるものあるを聞か 四月中旬以後稀に本種の鳴聲を聞く事あり西部の山地附近にては晝間も聞く事を得、高麗村に於ける大正六年度の初鳴日は四月十

Streptopelia turtur orientalis (Lath.) +

15

ŀ

ざれご西部山地附近に親不孝鳥なる方言あるより推考すれば或は産卵するものもあるが如し。

r (本種に對しドバトをドバと稱す)

羽若くは一羽のものを見る事多し、高麗村にて蕃殖する事ある由西部山地附近にては蕃殖するもの尠からざるべし。 鶴ヶ島村(六年十一月廿六日)高麗村(七年二月十三日)にて各一羽を採集せり本郡内到る所に稀ならずされご群棲する事なく二

Sterna sinensis GM

コ

ア

:7

カモメ (芳野村伊佐沼) アイサシ (川越町

(明治四十二年四月)にて獲られたる一標品を川越町にて購入す、同沼附近には四一五月の候群來する事ある由

**%(87)** Gygis albo kittlitzi Hartert

シ U ア ジ サ

芳野村伊佐沿 Chroicocephalus ridibundus ridibundus (L.) (明 完治四十年五月で)にて獲られし一標品を川越町にて購求せり。

ユ ŋ カ モ

#### カ モ メ(荒川附近、川越町

大正六年十月一日暴雨後の増水せる高麗川(高麗村新堀)に本種三羽飛來せるを見たり西部にては該時以外に日聡せる事なし東境

\*\*(89) Rostratula capensis capensis (L.) タ

なる荒川附近にては間々下流方面より飛來せるを見る。

大家村(七年二月七日)にて一羽を採集す、川越町にて同地附近にて獲られたる一標品を見たり、水田地方には稀ならざるべし。

**%**(90) Scolopax rusticola rusticola L ヤ

ギ

雑木林等に見るもあまり多からざるもの、如し、高麗村地内にて雑木林中より飛出し雑木の細枝へ一時棲止せし を見たる事あり管 て籾山は相模に於て杉の横枝に棲れる本種を見し事ありかってる例は他の本邦産なる田鶴亞科(Scolopa anve)に於ては全く見る事な 高麗村(七年二月一日)にて一羽を採集す越生町(六年十二月世四日)、高麗川村等の山地にても目撃せり、冬間は郡内各所の山地、

**%**(91) Neospilura solit ria jrponica (Bonapt.) ア ラ し

くは單獨のものへ山間の水田附近に下れるを見るも稀には平地の水田、川岸等にても見る事あり、採集せる二羽は共に雄鳥にして尾 (六年十一月廿九日) 高麗川村 (七年二月一日)にて各一羽を採集せり西部山地附近にては冬間少数のものを見る事あり多

初 は各世枚なり兩鳥の測定を記せば

至長二九九、三○一、嘴峯七○、七四、爨一五二•五、一四七、尾七一、六八、跗蹠二九•五、三二粍なりごす。

3 (92) Gallinago gallinago un clavus Hodas

タ

り鳴」の季節に殊に多し、 芳野村伊佐沼(六年十一月一日)にて一羽を採集せり同所附近にては冬間稀ならず高麗川村多和目の水田にても目撃せり兩所は、歸 東部の水田地方は何所にても珍しからざるべし。

%(93)Heteropygia acuminata (Horsfield)

> ウ 5



りな大同個 斜はの方右どれゆ見く 如ののもるあ小大に卵 注

せり 同町附近にては小川、 水田等に稀ならざる由

.]]]

越町附近(六年十月三十一日

じにて獲られたる一

一羽を同一

町にて

求

\*\*(94) Tringoides hypoteucus (L.)

ても春秋兩季に獲らる、事ある由、恐らく「渡り」の途路に立寄るに 群を目撃せしが其後全く見たる事なし川越町附近、 高麗村高麗川河原(六年四月六日)にて一羽を採集す該時 入間 +" は三 河原等に 羽

速かならずして稍緩なり。 飛行し下降するやセキレ 過ぎざるべし、 本種は川流に沿ひて pi-pi-pi-pi を續け十數音鳴きつ~ ィ類の如く尾を上下すれごも其振り方は彼程

**%**(95) Egialitis placidus (GRAY)

方言 カハチ(高麗村、 飯能 III 1 カ 坂戸 ル

チ

F.

1)

同九日 上旬なり 採集せり、 り産卵し五月中旬に到るも尚卵を見る事あれご多くは四月中旬 のものにして蕃殖するもの尠からず、 二月)にて十六羽、 高麗村高麗川附近(六年四月、五月、六月、 雛 卵雛を數回採集せり(六年四月世六日) 本種は越邊、 七年四月廿日四卵)河原の梢高き砂地に徑三寸深る一寸程 坂戸町越邊川河原(六年十一月世五日)にて一 入間、 高麗、 高麗河原にては四 飯能の諸川の河原に極め + 巡 月 盯 卵、五月上旬 十二月、 月 千月 前 T 五月 後 普 33 七年 卵 通

. 縮め鳥體に觸るくも尙石の如し、人之を指端にて撮む時初 め て兩脚を動かし逃走せん事を企つ舊に復せしむるや再び石の如く掌上 なり河原に見受くる處にして雛の成育するに到て數羽の一群こなり秋季よりは田畑に下降する事多し、而して常に地上に停止する時 に置くも尚同じ又、指端を以て瞋覆せしむるや反巓舊復「起上りこほし」に似たり、本種は四季定住せるものにして夏季は一番づ、こ の幼鳥の色彩はコチドリ幼鳥に極似す而して該幼鳥は孵化後間も無く砂上及礫間を疾走するに到る他物の近接せるを識るや頭脚を あり産卵個所の附近に同形なる凹所を數多見受くるも同一の親鳥の所作にして産卵以外に如何なる必要ある や了解に苦しむ、綿羽 の杯狀の凹所を造り産卵す附近に細かき小砂礫ある事もあれご特に小砂礫を敷くが如き事無し稀には二三の藁を横たふるを見る事

(96) Charadrius dominicus fulvus Gm.

ムナグニロ

方言 アイグロ(川越町)

川越町附近(六年十月三十一日)にて獲られたるもの多數を同町にて見たり聞く所に依れば春秋兩季には同町附近の水田中に群來

するもの稀ならざる由。

**%(97)** Vanellus vanellus ( L. )

nellus (F.)

クロケリ(川越町) ケツグロ(高麗村、高麗川村)

日、十一月一日)にても二羽以上數羽の群を目撃せり一村老に依れば高麗村にては毎年春秋の兩季にのみ見受くるものなりご謂ふ。 東部及東北部の水田附近にては冬間大群を見る事ありて往々百羽以上を算する事あり、高麗川村、高麗村(六年五月十九日、同世一 川越町(六年十一月二日)大家村(七年二月十六日)にて各一羽を採集す芳野村(大正五年十月下旬)産の一標品を購入せり、本郡

Ж(98) Microsarcops cinereus (Вгутн)

1)

### 方言 シロケリ

芳野村(大正元年)産の一標品を川越町にて購入せり、川越町附近(七年十二月中旬)にて獲られし死鳥一羽を東京魚河岸にて見

たり、川越町にて聞く所に依れば前種に比し甚だ稀なるもの、由。

(Glottis nebularia (Gunner)) 等の獲らる~事あり、又「歸り鴫」の季節には大久保村、南炯村附近の田面にキャウジョシギ(方言キョウジョウ) 附記 川越町附近にてはクサシギ(Helodromas ocrophus (L.))キアシ、ギ(Heteractitis incanus brevipes (VIEILI.))アチアシ、ギ(方言カネシギ)

(Arenaria interpres valuensis (BroxHAM))のムナかロと混じて見られ尙稀にはツルシギ (Tringa fusca (L.))をも見る事ありと川越町の捕鳥家よ

り聞きたるが實見せし事なきものなるを以て附記するに止めたり。

(99) Gallinula chloropus parvifrons Beyth

ノギ

川越町四ツ谷(六年十一月二日)の水田中にて數羽を目撃せり、晩春初夏の候には同地附近及芳野村伊佐沼にて蕃殖するもの尠か

%(100) Porzana fusca erythrothorax T.&S.

らざる由

ヒク井ナ

方言 ク井ナ(芳野村、高麗村) グイナ(高麗村)

高麗村(七年八月三日)にて一卵を採集す稻株に架巢せるものなり恐らく産卵途中のものたるべし、同村内(年不明七月2八月2)

にて獲たりご謂ふ一標品を見たり、芳野村伊佐沼にては夏季蕃殖するもの尠からざる由

X(101) Rallus aquaticus indicus (Въттн)

ク井ナ

高麗川村(七年二月三日)にて一羽を採集す、高麗村附近にても小溝の岸邊等に本種らしき足跡を見る事稀ならず東部水田地方に

は冬間極めて普通のものなりこ。

\*\*(102) Coturnix coturnix japonica T.&S.

ウッショ

高麗村(六年十二月十八日)にて一羽を採集せり、同村内にては河原の叢間、水田附近、山腹の草生地等に極めて少數のものを見

は秋季より冬季に掛けかなり普通のものなりご聞く、來去期は詳かならず、恐らく本郡内にては蕃殖せざるべし。 るに過ぎす越生町上野山(六年十二月廿四日)にても一羽を見たり同地にてもあまり多からざる山、而して川角村、 川越町附近にて

※(103) Grarhophasianus soemmerringi seintillans (Gould)

ヤマドリ

方言 ヤマキジ(高麗村――甚だ稀に)

り、本郡西部及南部(?)の山地には稀ならず四月下旬以後前記各所にて蕃殖するもの尠からざるべし、高麗村の山地にて採卵せる數 |越生町上野山(六年十二月廿四日)にて一羽を採集し、山根村(大正元年三月)東吾野村(大正七年二月?)兩所産の二標品を購入せ

例あり

長徑 四八粍、短徑 三五粍、大正六年四月下旬 高麗村清流にて一卵

長徑 四六―四七粍、短徑 三四・五―三五・五粍大正七年四月廿九日 高麗村新堀にて六卵

同 年五月一日 高麗村山口にて六卵

長徑 四七—四八粍、短徑 三五•五—三六粍、

而して上述のものは共に産卵途中なるべし一日一卵ミして計算する時は産卵初日は四月廿四日若くは其前日たるべし依りて考察す るに本郡内に於ける本種の産卵は四月下旬以後なるべく雛の孵化期は五月下旬以後ならん歟

産するものは多く該型なるべし、即ち本郡はヤマドリ類に於てもフクロウ類ご同じく南北兩型を見るの地なり共に南方型の尠きも亦 たり而して十餘個の標本中ウスアカヤマドリミ認めらるくもの飯能町矢颪、高麗村地内兩所産の二標品のみ、「恐らく南部 本郡南部を一部の鳥類 郡内各所にて本種の標本を檢したる 結果本郡内には黑田理學士の分類せられたるウスアカヤマドリごヤマドリごの兩型を認め得 (或は哺乳類も然るか?)に於ける南北兩型の分布境界線の通ぜるを工證するに足るべし の山地に

附記 本種は從來雉屬(Phasianus)に編入せられしものなるが上記の屬—鶺雉屬 (Craphophasianus)として分つ方可なるべしと信ず即ち本

屬の雄鳥は腰羽の簑狀ならざる事、頭部に耳狀羽を全く認めざる事等を以て雉屬との差異點となすにあり。

\*\*(I04) Phasianus versico!or versicolor Vieill.

キジ

地中には全く見ざる所もあるべし、本郡内にて疑ひ無く蕃殖す。 飯能町其他各所にて多數を見たり、本種は前種の如くに山地のみに偏せずして郡内全部に廣く分布するもの、如し されご西部の山 より飛出せる一雌鳥を目撃せるも明に本種なりミは斷言し難し、越生町附近、飯能町等にも産する由標本ごなりたるものは川越町、 |高萩村(六年十一月一日)にて本種雄島の尾羽を採集す、大家村(七年一月)にても獲られし事あるを聞く高麗村にて畑中の雑木林

Ж(105) Falco aesaton insignis (Сьавь)

コチョウゲンボウ

芳野村(大正五年十二月)産の一標品を川越町にて購求、高麗村新堀山(六年二月九日)にても目撃せる事あり。

(106) Fhleo tinnumentus japonica T. &S.

チョウゲンボウ

近にても本種らしき鷹類を數回目撃せり、川越町附近にても稀に獲らる、事ある由。 飯能町(七年四月廿七日)の桑畑に下降し居りたるもの一羽は疑なく本種なるべく(該鳥は脊部は明に淡栗色なりき)尙高麗村附

(107) Falco peregrinus calidus LATH.

ハヤブサ

名細村平塚(年月不明)にて獲られたる一標品を川越町にて見たり。

恐らくチゴハヤブサ(Fulco subbuteo jakutensis Bor.)なるべしと信ずれど見たる事なきか以て附記するに止めたり(該種はチョウゲンボウ、コチ 川越町にて聞きたる所に依れば山根村附近の山地にてハヤブサに極似せる小型の懸類の獲らるく事あり方言ヤマハヤブサと称すと、そは

ョウゲンポウ雨種とは全く異ると謂ふ)。

Milvus ater melanotis (T. & S.)

トビ

方言 トンビ、トービ(共に甚だ稀)

高麗村、飯能町等にて飛翔せるものを見る事あるも次種に比して炒きものゝ如し川越町附近にも見る事ありご謂ふ。

(109) Buteo buteo plumipes Hodgs.

ノスリ

高麗村にては四季稀ならず川越町にて同地附近にて獲られたる本種の標品四-五を見たり、恐らく木帯内にて蕃殖する事あ 方言 マグソッタカ(高麗村、川越町、越生町

ر ن

(110) Spizaetus nipalensis Hodgs.

マタカ

方言 クマダカ(越生町――稀に)

なるべし、因に秩父郡内にては間々見受るものなる由。 |高麗村新堀山(六年六月)にて一羽を目撃せり、越生町上野山にても稀に見る所のものなりご聞く隣郡秩父山地より飛來するもの

(111) Haliaëtus allicillus brooksi (Hume)

**ラジロワシ** 

鶴瀨村(六年十二月十一日或は十二日?)にて獲られたる幼羽の雄の一標品を川越町にて見たり、各部の測定左の如し 嘴峯四六●五、會合線六八、翼長六○三、尾長三一九●五、跗蹠八一粍(該標品は翼を張れる本製なれば翼長は確實ごは言ひ難し)。

(112) Accipiter nisus nisus (L.)

方言 ハヤブサ(飯能町――誤稱)

1

タ

カ

高麗村にて數回目撃せり、 飯能町、川越町等にて標本並に剝皮をかなり多數に見受けたり本郡産鷹類中のノスリに次ぐの種たるべ

し、恐らく蕃殖するものもあり得べし三信す。

(113) ? Astur palumbarius (L.)

オホタカ?

を得たり即ち胸腹部に細き鷹斑を無數に見受けたるに依り且體型の前種より餘程大なりし等を以て木種なるべしこ想察す。 |高麗村高岡山(七年五月二日)にて本種らしき一羽の鷹類を目撃せり甚だ低く前方より飛び來りしかば色彩はかなり悉しく見る事

川越町附近にて獲られたる一標品を同町にて見たり、秋季は同地附近の水田上を飛翔し居るものを見る事稀ならざる由、西部にて

は未だ目撃せる事なし。

(115) Anserin

ガ 類

を得ざれごも恐らくマガン(Anser albifrons (Scor.))及びヒシクヒ屬(Melanonyx)の兩種を含めるならんこ考察する所なり。 高麗村、芳野村等にては秋冬の候高空を雁行し過ぐる群を間々見受くれご末だ下降せる事あるを識らず、遠き爲種名を決定する事

(116) Ex galericulata (L.)

ヲ ドリ

方言 ラシ、ラシガモ(共に前掲種名と併びてかなり廣く分布せらると方言なり)

飯能町飯能川にて獲られたる雄鳥の一標品を同町にて見、川越町附近の産なる雌雄の標品を川越町にて見たり大家村、霞ヶ廟村等

にても獲られたる事ありご。

(117) Anas zonorhycha Swinh

カ ル ガ E

デガモ (芳野村伊佐沼)?ガリ (同所

芳野村伊佐沼(六年六月中旬、十一月一日及二日)にて見たり、夏季は同沼にて蕃殖するもの尠からざる由

(118) Anas platyrhynchos platyrhynchos L

ガ Ŧ

方言 アラクビ、ホンガモ(稀に)

前記兩所にて捕獲せられたるもの多き由、而して冬間は鴨類中最も多きものなり。 芳野村伊佐沼及川越町四谷 (六年十一月一日及二日)にて數羽づ、を見受けたり、川越町にて賣買せらる、所の前種並びに本種は

(119) Nettion crecca crecca (L.)

コ ガ

高麗村にては冬間稀に山中の小池、高麗川の深淵等に見る事あり、川越町附近にては冬間は普通なるもの、由。

(120) Dalila acuta (L.) ナ ナ ガ

方言

ガ (川越町)

|霞ヶ關村(六年十一月一日)にて雄雌二羽の飛翔せるを目撃せり、川越町附近にても獲らる、事稀ならずご聞く。

(121) Spatula chyprata (L.)

D ガ

川越町附近の産なる本種雄鳥の一標品を同町にて見る。

はトモエがモ(Nettion form sa(Grorger))なるべくアカッシラはヒドリかモ(Mareca pendope (L))なるべし然るに最後者ヨシアカなるものは何種 附記 川越町にて聞きたる所に依れば同町附近にてはアジ、アカッシラ、ヨシアカ(共に同町方言)なる鴨類の獲らるく事ある由、而してアジ

(122) Botaurus stellaris stellaris (L.)

サ カ ノゴ 井 の鴨を指すものか詳かならず、前述のものも産する事は確實なるべきも見ざるものなれば玆に附記するに止む。

佇立し居りたるなりご、嘗て籾山も神奈川縣下にてかてる姿型をなし居るものを見たる事あり該時のものは周圍の蘆葦の風に從ひて 南畑村東大久保(大正六年十二月)にて獲られして謂ふ一標品を川越町にて見たり、該鳥は採集時盧生地内にて嘴端を上窓に向け

動搖するに擬して同じく嘴端並に頭頸部を動かし居りたり。

%(123) Ardetta sinensis (Gm.)

3 井

芳野村伊佐沼 (六年十一月一日)にて幼羽のもの一羽を採集す、 同所及川越町四谷(六年十一月一日及二日)にて少數づくを日撃せ

り、恐らく伊佐沼にては蕃殖するなるべし、

(124) Butorides javanica amurensis (Schrenck) サ J`

高麗村(七年五月二日)田面澤村(七年十月一日)にて各一羽を目撃せり、 川越町附近にては稀ならざる由恐らく本郡内にて蕃殖す

るものあらん

X(125) Gorsakius goisagi (Temm.)

3 מ 井

フ、 鳴音を調査すべく登山し下の如き結果を得たり、川口法學士高著『ビッテルン?』(大正六年)に記載せられたる本種の鳴音はウォ 水田間の小溝等に間々見る事ありご謂ふ。 高麗村新堀山(七年四月廿七日)にて一羽を採集す、川角村(大正五年四月)産の一標品を川越町より購求・ ウォーフミあれごも余等の聞きたるは bhon-gha bhon-gha を五六聲繰り返へし鳴くを聞きしのみ、ウォーフなる音を一回 高麗村の山地にては四月十日(大正七年) 最早渡來者を目撃せり、 同月廿四日夜間 川越町附近にては夏季 ₹

山腹の地上を歩み居るもの(高麗村)ミグゴキ雑鳥



の姿整(高麗村)地上六尺程の横枝に棲止し觀察者に警戒せるミソコヰ雄鳥



間、 か? なる位の程度なりき、 にして小 如くにして響きあり、 たるを以て川口氏の聞かれたるウォ 後に到りて雄成鳥なる事確實こなり 聞かず而して余等の聞きたるものは ものを目撃せり檜の密林中なる溪間 して非常に大聲 ーラなるは雌の鳴音にはあらざりし 新堀山(高麗村)にて雄雌 水量甚だ尠 雄 鳥の鳴音の ・キジバト く兩岸は稍緩勾配な 恰も鼓の大音 同月世 の引音の ghu は喉音に は引 - 33 九日畫

0 る草生地及水濕地にてミ、 塊 (樹上より一個所にのみ墜泄せしに依り地上にて塊ごなる)並に鷺類に多く見る所の自葉色を呈せるものごを混じ居れり恐らく 脚部等所々に散布せられ又該鳥の棲架ご覺しき樹下には排泄物を尠からず見受く排泄物は極めて良く消化したる粘土 ズ、 カニの類等の多き所に數日間を過ごせしもの、如く該鳥の食餌ごなりし残物ご認めらる、所のカニ 狀

殖するものあるべしご想察すれごも未だ廢巢だに發見する事を得す。 粘土狀のものはミ、ズを食したる。時のものたるべく白堊色のものはカニ類其他のもので消化残物たるべしご考察す,  $\Box$ 氏 一の調査せられたるミゾゴ井 (所謂ビッテルンで)の野生時の食餌ご全く一致せる所なりご謂ふべし、本種は恐らく本都内にて蕃 上述の點は川

※(126) Nycticorax nycticorax nycticorax (L) コー井 サ

方言 ゴイッツッギ(高麗村)アバカサギ(芳野村伊佐沼

所に極めて普通のものにして薄暮、月夜、暁明等に飛鳴を聞く事稀ならず、闇夜はあまりに鳴かざるものと如しされご全く聞かざるに はあらず比較的炒き事は確實なり)恐らく本郡内にて蕃殖するもの尠からざるべし。 (六年四月十四日、十一月廿二日——廿七日、十二月廿日)にて六羽を採集せり、高麗川村、 飯能町、 川越町其他

(127) Ardea cinerva jouyi CLARK P + +

9 本郡内には多からざるものへ如し。 (六年十一月十四日及十七日)に雄雌二羽のもの飛來せり該時以外には見たる事なし、芳野村産の一標品を用越町にて見た

(128) Garzetta garzetta garzetta (L.)

+"

方言 シラサギ

田面に下降せるを見たり、芳野村伊佐沼にては夏季は非常に多くして獵期開始頃 (十月中旬) 迄は普通に見得れご開獵後は殆んど姿 (六年五月十五日)高麗村(六年十一月中旬)にて各回雄雌二羽のものを目撃せり、古谷村(六年六月中旬)にては多数群集し

(Washer))に相當すべくクロハシ・コサギの廟名稱は前掲種 Garzetta g. garzetta の老幼の差なるべ - 而してセカゼカサギ即ちアマサギ (Bibileus 附記 イ等ある由、ダイサギなるものは恐らくコモ・ジロ (Herodias alba t moriensis (Cov.))なるべくチウダイサギはチウサギ (Mesopho)s mts media 川越町にて聞きたる處に依れば同地附近に飛來する白色なる鷺類はダイサギ、チウダイサギ、クロハシ、コサギ、セウゼウサギ 一名イツ

を見ざるに到る由、而して蕃殖場は芳野村鴨田なる禁獵區内なりご謂ふ

Phalacrocorax SP

ゥ 0 類

ウド IJ (高麗村)

るべきも毎回遠距離より觀望せしに過ぎざれば種名を明言する事あたはず、 る由なれば或は該地にて蕃殖するものあらん歟、カハツ (Ph. carb) sinensis (Shaw & Nopp.)) シマツ (Ph. capillatus (T.&S.)) 兩種中な 大家村(六年八月)高麗村(七年八月六日及八日)兩村共に高麗川にて目撃せり西部山地附近にては夏季のみ見受くる所のものな

\*\*(130) Phaëthon rubricauda Boddart

アカラネツタイテウ

たり。 芳野村伊佐沼(明治四十年五月)に暴風の折一羽を獲、而して該鳥より抜きたりご謂ふ中央尾羽一枚を川越町小牧某氏より贈られ

**%**(131) Fulmarus glaciaris glupischa Stejn.

ハナジロフルマカモメ

第 誌二十九卷六月號にあり)。 雨等の事なかりしこ、本島内に於て本種の獲られたる事は之を以て嚆矢こなす(詳細は動物學雜 當時の模樣を聞くに該鳥は單獨にて河流に降り居りたるものなる由、而して採集日の以前に暴風 山田村なる入間川(大正七年一月十二日(?))にて獲られたる一標品を川越町より購求す、採集

Щ 田村産 ナジロフルマカモ

Ξ

#

(132) Tachybaptus fuviatilis fluviatilis (Tonst.)

カイツブリ

モグリッチョ(高麗村

圖 沼にては四季を通じて見受くるものなりこ聞く恐らく同沼にて蕃殖するものあるは疑なき處なる 撃せり、高麗村高麗川には稀に來る事ある由にて同川にて獲られしご謂ふ一標品を見たり、伊佐 芳野村伊佐沼及鴨田(六年十一月一日及二日)坂戸町附近越邊川(六年十一月廿五日) 等にて日

べし

らるてもの稀ならざれば籠鳥の逸したるものご看做す方可なるべし即ち左記の種なり 附記 以上の各種の他に尚一種木郡内にて採集せられたるあり、されざ本邦産鳥類にあらざるの種なるは確實にして各所に範飼せ

¾ Platycereus elejans (GM.)

**籠飼に依りて當然成るべき摩損等は尠しも見る事を得す。** 

アカクサインコ

福原村中臺(大正六年十月廿二日)にて狩獵家に依り獲られたる一標品を川越町より購求す、翼尾完全なるものにして共に先端に

除き置く事ごせり。 より推考すれば木郡内に往時は渡來せるものもありたるは疑なき處なるも現今にては恐らく渡來する事あらざるべしご信じ弦には の東京上野帝室博物館に所藏せらる、を識る(帝國博物館 A8660)されご同館の標本には採集年月等明記無く且標本も大分古き事等 以上にて今回調査せる大略を終りたれご嘗て本郡内入間川にて採集せられたるクロトキ(l'antalus melanocopha'is Civena)の一標品

# イッパイサギに就て(本號一九八一一九九頁參照)

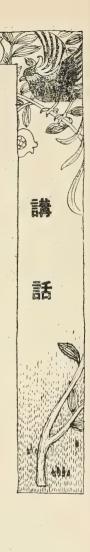
なり、 種頂に長毛なき者をダイサギと云、白鶴子なり、又尋常の鷺に大小あり、人なる者をシマメグリ本華と云、一名がラリサギョ上形人にして胴黑色 小なる者をコサギ同じと云、形小にして脚黄色なり、最小なる者を一盃サギ金蟹と云、肉少く催一盃に滿べきなり、一種アマサギは一名猩猩 サ

|州ナハシロサギ、形常鷺より微小く、頭頂黄赤色、後には白色に變ず、是臨柱雜識に、有1黃毛1如5鷺、背有1黃毛1と云ものなり

#"

插

(古事類苑動物部六一四頁より)



## 「ラージュボン」運動の回顧

獸醫學士 内田清之助譯

て掲載することとせり dub n Movement を摘譯したりしものなるが 現況を知らんとせば最近の報告に依りて本編を増補するの必要あること勿論なれども 左に掲ぐる所は数年前必要ありて Report of the National Association of Audubon Society 1904 中の一編 History of the Au-により不本意ながら一二の補註を加へたる外凡て舊稿の儘何等訂正を施さず玆に掲ぐることとせり 但し此報告は十数年前の出版に係り其後「ナージュポン」協會の事業は益發展しつとあるを以て該協會の 米國に於ける鳥類保護運動の一端を知るに足るものあるを以て本誌の餘白を乞ふ 本誌が切期日の切迫せると且其暇なきと 讀者之を諒せられんことを

乞ふ

如き評論あるを以て知るを得べし曰く「我國に産する小禽類の保護問題は近年次第に公衆の注意を喚起するに至れり」ご 北米合衆國民は千八百八十三年頃旣に同國に鳥類濫獲の現象あるを認め之を憂慮したりしは當時の雜誌「森林三河川」誌上に左の 主商を得意にする剝製家は之が爲巨萬の燕を捕殺す」この記事を掲げたり **高數ヶ月後の同誌は『燕を保護せよ』なる論説中に『目下羽毛商は婦人帽裝飾の目 的に燕の翼羽及 胸毛を買入れつ、あるを以て羽** 

翌年即ち千八百八十四年には世人の鳥類濫獲に對し注目する傾向益顯著なるに至りしこご多數の新聞紙が次の標題の如き論說に其

紙面を割きし事實に徴し知るを得べし

法律を設けて合衆國産の鳴禽及食蟲鳥類の獵獲を禁止するの必要を論じ又「鳴禽類の減少」なる題下にはボストンの剝製 廣告して米國產鳥類を蒐集しつ、あるの事實を舉け且羽毛商の店頭には七十五仙の正札を附せる數百羽の黃 鳥を目 撃せるを記せり 例へば「小禽の保護」なる題下には數年來小禽の數の著しく减少せるの事實を指摘し或は「鳴禽の保護」「鳴禽の保存」等の題下には く我「ラージュボン」會の保 護により安 全に其生を送り繁殖し得たるものミす なる鳥類の大部は流行の犠牲たるに至れり今日吾人の目撃するアジサシ類は甞て無數に棲息せるもの、僅に一部の 敗残者にして 漸 アジサシ類の滅少も亦此時代より始まりたるものにてフロリダよりマサチユセツツに至る地方に於て盛に挿 獲され之が為め此優雅 商が頻に

亞米利加鳥學協會の事業

的を達すべきを論ぜり此提案は賛成せられ六名の委員より成れる委員會の設立を見るに至れり 類特に海岸に棲息するアジサシ類が羽毛商の為に捕殺せらる、を憂ひ其濫獲の統計が如何に驚くべきものなるかを指摘し北米の鳥 千八百八十四年七月三十日 類及其卵保護の目的を以て六名の委員を指命せん事を提議せり而して此委員會は他の斯の如き目的を有する諸協會ご提携して其目 紐育の亞米利加博物館に於て開 催せられたる亞米利加鳥學協會の第二回 年會にてブルースター氏は鳥

生物學課の設立

助は顏大にして遂に農務省より年々五千弗の補助を受る事こなり從て農務省は鳥學協會委員中其の事業を監視すべき職員を設くべ に對し鳥學上の問題に就きて之を補佐し尚必要なる事件を提議するの目的を以て一の委員會を設立せり此委員會が國家に對する補 きを要求し其結果千八百八十五年四月 鳥學協會委員會は直にメリアム氏を撰定し助手ごしてフェツシャー氏を任命せり 此 上述せる鳥學協會年會の結果は委員會の設立の外尙一の豫期せざりし良好なる結果を得たり即ち鳥學協會は合衆國會 及加奈太政府 新施設 は

今日合衆國農務省の一課ごして存する生物學課の端緒を開きたるものにして現任 課長はメリアム氏にして其墓下には現時合衆國に

次長(Acting chief in absence of chief) 以下十數人の技術官は何れも著明なる應用鳥學專門家にして北米鳥類の調査並に保護に關し 著名なる鳥學者數名を以て組織さる(註合衆國農務省生物課は其後漸次擴張せられ現今は生物調査局ご稱せられ局長(Biologi stChief)

多大の業績を擧けつへあり)

此農務省中の重要なる一課たる生物學課の事業は逐年其價値を認められ來れり而して其の事業は一面には教育的方面に活 1 よれるものなり る後之を採用す例へば「ラージュボン」會より發行せる教育用小冊子の如きは其主要部は生物學課の供給せる「鳥類食物の研究」に ジュボン」會は上述の關係により常に此生物學課こは密 接の關係を保持し來り其の重 要なる事業及考案は凡て生物學課に謀りた

初期の法規

の捕獲を禁ずる法律を布けり之恐らく鳥類に關する最初の法律なるべく之によりて獵鳥以外の鳥類は凡て保護せらる。に至れり ニュージャーシ州にては千八百八十五年旣にグリツグ氏によりて提出せられたる法案即夜鷹•鰺剌•鷗•鳴禽•食蟲鳥類

食用こしての鳴禽

せるニ 現時の市場にては鳴禽の發賣せらる、もの絶無にして叉州によりては獵鳥の發賣をも禁止せる所あり往時非常に多數の鳴禽を發賣 フクロウ等にして之等の鳥類は同市場十數軒の鳥店にて數百羽の多數に發賣せるを目 撃せりこ云ふ 此狀態は現今ご頗異る所にして 作れり之に依れば當市場に提供さる、非獵鳥は二十六種に達し其名稱は駒鳥の一種・ミソサ、イ科の二種・連雀一種・雀科八種・鳴・鳥 千八百八十五年センネット氏は「森林三河川」雑誌誌上に「市場の所見」三題しノーフォーク 市場にて發賣さる、非獵鳥の目 ユ | オルレ アンス市場の如きも現時は全く鳴禽の販賣を禁止せり之全くルジアナ州「ラージュボン」會の効績に歸すべきもの 錄

鳥類保護に關する亞米利加鳥學協會委員會

千八百八十五年十一月紐育に開會せる亞米利加鳥學協會總會に於て委員會長ブルースター氏は國產鳥類保護に關する委員會の決議

リアム博士の如きは此委員會の事 業は鳥學協會の爲すべき最急務に屬すべきを認 容せり鳥類保護事業の活動の第 して十六頁の冊子を出版せり此冊子は次で「亞米利加鳥學協會委員會報告第一號」こして十萬部以上を印刷せり此 書の内 容を樂れ しは千八百八十六年にして此年亞米利加鳥學會委員會は雜誌「理學」の發行者及人道會々長の補助を得て「理學」百六十號附錄に を報告せるが此報告は討議の結果 頗重要なる問題ご認められ飾羽用鳥類 捕殺に對する輿論を喚起するの必要あるここを議決せりメ 1(1) 中最旺盛なり

アレン 氏「現時の合衆國に於る鳥類濫殺に就て」

ば次の如し

ダッチャー氏「紐育市附近に於ける鳥類の濫殺に就て」

センネット

氏「食用こして鳥卵の濫獲」

チャプマン 氏「鳥類ミ婦人帽」

。 「鳥類に關する法規」

" 「鳥類の爲合衆國婦人に訴ふ」

られたるものにして其後此模範法規は種々實驗の結果改良增補せられたるも要之其根本義に至りては千八百八十六年初めて起草せ られたるものこ異る所なし 鳥類及其卵巢の保護に對する法規なる亞米利加鳥學協會模範法規ご稱するものは此小冊子によりて初めて其體を具へて世に公にせ

第一期「ラージュボン」會の設立

現今の「ラージュボン」會の前身たる第一期「ラージュボン」會の設立に關し予は茲に當時の雜誌「森林三河川」の論說 ボン會」(千八百八十六年發行)の一説を引用せん ーラージュ

「世人は鳥類の羽毛を裝飾用に用ふる風習の厭ふべき事を容易に認むる能はず法規は此未開なる風習を防止する力極めて少きものな

風の普及緩慢なりご雖遂には此目的を達するに至るものなり り然れごも若し公衆が此風習の厭ふべきを感ずるに至れば自然速に此惡風を一洗するに至るべく此個人的盡力は甚遲緩にして其良

に力めたり氏は繪畫に堪能にして鳥類の畫及其習性に關する著述を公にして專愛鳥の念を普及せしめたり 十九世紀の前半ジョン●ジエームス●ラージュボン氏なる人あり多大の努力を以て國民に合衆國産鳥類に關する智識を普及せしむる

せんごす本會は何人ご雖鳥の保護の爲力を致さんごする者の入會を歡迎す而して其目的こする所は 今弦に設立せんごする野生鳥類及其卵の保 護を目的ごせる會に命名するに當り氏の名を冠して『ラージュボン』會なる名 稱を以て

一、食用以外の野生鳥類の捕殺を防止し

二、凡ての野生鳥類卵巢の捕獲を禁止し

三、装飾用ミして羽毛の使用を防止す

助 以て其地方に汎布する為に本會發行の回報其他の印刷物を配布すべし、本會の事業は凡て亞米利加島學協會委員會の計畫せる所を補 にして此精神を普及せしむる爲吾人の事業を補助せん三欲する者は各地に特 別なる支 會を設立し得べし而して此支會には無代價を するものこす

度本會設立の報傳はるや各地より歡迎の辭を『森林三河川』雜誌社に向け發 送するもの頗多かりき 千八百八十六年末には ユボン」會は會員一萬六千人を有するに至れり

「ラージュボン」雑誌

要を充すに足らず今や之か特別の機關雜誌發行の機運に際會せり 「ラージュボン」 個人的の應答或回報等の方法は爾來『ラージュボン』會の用ゐし手 段なるも其運動事業等の增 加するに從ひ之等の方法は到底其必 雜誌は初めて千八百八十七年一月鳥類保護の機關雑誌こして發行せられたり同 年同月の「森林三河川」

此「ラージュポン」雑誌は「森林ミ河川」雑誌發行者により出版され代價は一ケ年五十仙の少額に過ず而して 本誌の内容は 教育的

の讀物及趣味ある鳥類に關する讀物を掲載し又每號 ラージュボン 氏の原畫を複刻せる著名なる鳥類の圖版及其種の解訟を載せ及ヲ ジュボン氏の傅說其他鳥類の經濟上の關係及小兒の讀物たる通俗的鳥談を掲ぐ

此年五月には「ラージュボン」會は會員の數約三萬人に及び七月末には三萬六千人八月に至りては約三萬八千四百人に達せり

第一期「ラージュボン」運動の衰運

き盡力にも係らず都人は依然こして其衣服を飾るに羽毛を用ふるを止めず婦人の髪飾は從來の如く小禽の諸部を使用し無數 規は遺憾なく發布せられ之に關する學會は設立せられ會員は極力鳥類羽毛の裝飾川に用ふるの悪智を打破せんご力めたり以上の如 ジュボン」會の從來實施し來りたる事業の價値を少からず減少するもの三云ふべし」 の遺骸を婦人の頭上に認むるを得べし斯の如き狀態は「ラージュボン」會役員に對し打撃を與ふるものにして羽毛商の復興は「ラー 説には次の如き評論あるを見る「本誌上に於て吾人は屢小禽の挿殺の如何に憂ふべきものなるかを細論せり又鳥類保護に關する諸法 は紐育に於ては法規の禁止あるにも係らす多數の鳴禽類が其春期移住期に際して捕 殺せらる、の事實を報ぜり 又同誌十一月號の論 千八百八十八年に至り鳥類保護事業の大勢は急速に衰微し此問題に留意せる出版物漸く滅かするに至れり當時の「森林ミ河川」雜誌 の鳥類

即同會年會は千八百八十八年第六次會を開き逐年開會し來れり三雖會議は頗振はず只僅少の報告あるに止り千八百九十二年及九十 も中絶の非運に會せり又一方に亞米利加鳥學協會の事業を見るに之又「ラージュボン」會ご同樣此時代に於て最 も僅に十二年の短生涯を以て終滅せざるを得ざるに至れり ジュボン」雑誌も亦再刊行する能はず鳥類保護の事業は全く絶望の淵に沈み、甞て千八百八十三年希望に充ちて計畫せられし木事業 を裝飾用に供する風俗は往時ご等しく流行し法律の制裁も其發布當時ご等しく些の効力なく加之「テージュボン」管は減亡し「ラー 九十五年 三年の二回は何等の報告さへなし九十四年の總會には有名なるチャップマン氏會頭ごなり翌年十一月開催せられしも此年即千八百 千八百八十八年十二月『ラージュボン』雑誌は第二卷の末冊を出版して廢 刊するの止むなきに至れり 從て其鳥類保護に對する事業 末には鳥類保護問題最沈滯を極め第一期活動の終期ご簿すべき時代に達せり。亞米利加鳥學協會々員は其光明を失ひ、羽毛 不振の肽 況にあり

今此鳥類保護運動が上述せる如き悲運に會せるの原因を考ふるに恐らく次の如き諸因に依れるものなるべし

- 一、此運動は單一に一學會により着手せられたる事
- 此運動に要する費用は全く他の目的に設立せられたる公會の負擔たりし事
- 本運動の範圍は他の補助なき個人或公會の事業こしては餘りに弘大なりし事
- 加之當時にありては之を補助すべき法律及保護機關缺亡せる等の諸因によれる事明也 本會の事業運動及其費用は全國諸州の協同的事業たるか或多數の人々の密附に俟つに非ざれば到底行はれざる事

第二期即現在の「ラージュボン」會の起原

はペンシルバニア州にして之等を始めごして急速の勢を以て漸次 各州に及び現今にては三十七ケの「ラージュボン」會の設 立を見 鳥類保護の第二期の活動は千八百九十六年一月マサチュセッツ州に於て一「ラージュボン」會の設立せるに始まる之に次ぎて起りし れ又「ラージュボン」會の模範法規の行はる、所實に二十八州の多きに達せり るに至れり之等の「ラージュボン」會は漸次良好の發達を遂け合衆國各州の狩獵規則を整一ならしめんごする目 的は漸次到達せら

而して之等の「ラージュボン」會は何れも獵期の短縮春獵の禁止獵烏輸出及販賣の禁止等合衆國内に於る獵鳥の減少を防 あらゆる方法を講じつくあり

第二十卷發行)に達し合衆國內各州立「ラージュボン」會の間に鳥學上の新事實鳥類保護の方法手段等を交換すべき機關こなり各 尙上述の 「ラージュボン」 會の事業を補助する事多大なるは鳥題雑誌 「バードローア」の 發刊ごす此雑誌は現今第七卷 (大正八年

州會の關係を密接ならしめ同時に官廳三學會若くは會員三の連絡の機關たるものなり

テーヤー氏資金

にアボット、テーヤー氏は此警戒すべき事質を愛鳥家に訴へ繁殖期に於る海鳥の保護及此目的に從事する保護人の費用こして用ふる 千九百年の頃に至り世俗は再鷗、鰺刺等を装飾に使用する流行盛こなり羽毛商の供給は其需要を充す能はざるの盛況に達せり此時代

十四人を見るに至れ 資金を募集せり氏は逐年此事業の為に熱心に盡力し其結果は年ご共に見るべきものあり現に昨歳此事業に從 事する保護人全國に三

聯合委員會の設立

千九百年十一月鳥類保護運動を獎勵し其効果をして一層大ならしめん爲各州の「ナージュボン」會聯合協議會をケンブリッチに於て 開會せり此時指名せられたる委員會は千九百一年十一月紐育に於て開會せる會議に於て次の各項を報告せり

各州「テージュボン」會は聯合組織こなす事なく各獨立を維持し置く事

二、然れごも其効果をして一層大ならしむる目的を以て各州の「ラージュボン」會凡て一致の歩調を取るが爲次の方法を講ずる事 各州「ラージュポン」會は亞米利加「ラージュボン」會聯合委員會ご稱する委員會に一人の委員を指命する事

四 各州委員は各州會に於て協議すべき事項を生じたるこきは委員會に於て有 利なりご認めたるこきは其州會を 代表建議し得べき

事

五、年々商議會を開催する事

千九百 與 へ其他鳥獸保護官、 一年以來聯合委員會は新 狩獵諸法規及一般教育的事業を獎勵し加之各州會相互に意志交換の機關たらしむるに努力しつ、あ 「ラージュボン」會の設立を獎勵し且 基礎確立せざる新設「ラージュボン」會に對して保護 奨励を

千九百三年より中央會委員會は教育的の目的を以て挿圖入冊子の連續出版を開始せり

らん 以上を以て「ラージュボン」
會報告の大要を紹介せるが次に尚参考の爲千九百十三年度に於ける同會會計報告を掲け以て本稿を終

千九百十三年度中央「ラージュボン」協會支出表 ------一、八〇七 二一

アラスカ鳥類保護費

一、一九〇九〇

	雜 費 通信			<b>停給及旅費</b>	及に關する諸費 鳥類愛護思想普			白鷺保護費			
				旅費::		、闘する諸費				: 護	
計 四〇、七三三 〇六		事務所借賃一、二六〇	信費	四三五三		雜費	幻燈に關する諸費一、〇八一	講話費	(印刷費/ 有益鳥圖譜、教育用册子等 )		費
0	五八	00	四二	四	-E	五三	六五	00	五六	七八	<u></u>

## 黄鳥九州に來るか (「鳥」六號六六頁參照)

本へ見へる、先年薩州山川湊の邊に大松。とまり居て、松虫を取喰しな見たる也、何れも九州。渡る鳥なり、能く心掛くべし」(同八一六頁より) 異にして、大さ伯勞の如し、全身黃色、目は紅色を帶び、目の通り頸をめぐりて黑し……」(古事類苑動物部八一五頁より)「此鳥さへ宜敷……間々日 「此鳥東國には來らず、筑前領蛇島に稀に來る、此島は朝鮮に近き地故なり、又薩州夜久島にもあり、桑椹熟する時のみ早朝に來る、柴鶺鴒とはアログラ



### 大分縣八坂地方の鳥類

#### 上 忝治

八坂地方は縣の東北に位置し西南には近く鹿鳴越、遠く由布、八坂地方は縣の東北に位置し西南には近く鹿鳴越、遠く由布、沙多方、岩屋の諸連山によりて北風を遮ぎらる、然して村の中央を貫流する八坂川の流域のみ僅かに平坦部を形成し其他はす央を貫流する八坂川の流域のみ僅かに平坦部を形成し其他はすべて丘峻起伏、豊州線鐵道は此村の一端を通ずご雖も地勢は終べて丘峻起伏、豊州線鐵道は此村の一端を通ずご雖も地勢は終れて丘峻起伏、豊州線鐵道は此村の一端を通ずご雖も地勢は終れて丘崎村ご稱せざるべからず。

青科、漆樹科、荳科、薔薇科、樟科、殼斗科、楊柳科、松杉科ば、忍冬科、茜草科、木犀科、石南科、胡顏子科、山茶科、冬類鬱蒼ミして景色疎野ならず、今山林の普通なる植物を擧ぐれ類鬱を見いて景色疎野ならず、今山林の普通なる植物を擧ぐれ

等の果實に於ける、其他の花蜜に於ける鳥類の生息に幾分の關等の人種、冬青科の數種、漆樹科のハゼ、薔薇科のノイバラ、等にして忍冬科のニンドウ、茜草科のクチナシ、胡顏子科のグ

係あるなるべし。

今左に貧しき觀察を以て該地方に最も普通に目撃し得べき種シ類及マツケムシ等を排食するを見るを得べし。

### 1. Passer montanus

類に就きて順序もなく述べんこす

が爲にや一兵圍位の竹の三節位なるに一節に一ヶ宛孔を穿ちた營巢は多く人家の軒端なるがため草葺にては其軒屋根を損す是共此期以後螟蛾及其幼虫を食する事、尚宅地附近の果樹の害虫共の期の後螟蛾及其幼虫を食する事、尚宅地附近の果樹の害虫

るものを軒に挿し以て巣の代用に供せるを或る山間部にて見た

り、町家にてはコシアカツバメの巣を奪ふと猛烈なるものあり、

極めて多産、林野にては常にメジロミ混じて群遊す、好みて毛

此地方にて多数蕃殖

す、方俗本種をシジウカラミ呼ぶ事あり。 虫類を食ふ、森林益鳥の尤たるものなり、

シジウカラ

Chloris sinica minor

コカハラヒワ

方言單にヒワミ呼ぶ、好みてゲンゲ、スドメノテツボウの繁茂

င့္စ Emberiza cioides ciopsis ホヽジロ せる田圃に遊ぶ、晩春松林にて囀づるこご頻なり、

多數產す、終日囀りて止まず。

Emberiza personata

ア

ラ

多産ならず、冬雪の日屢庭園、 軒下等に來る。

5. Pyrrhula pyrrhula griseiventris ゥ

春秋の二季山野に鳴聲を聞けごも人里に近づくこご尠なし。

Zosterops japonica ジ

をなして遊飛す、サカキの果實を嗜食す、常にエナガミ倶に遊 夥多産す、椿、梅、等の花粉媒助者なり、 冬季より春季には群

7 Spodiopsar cineraceus

ぶ、蕃殖期には深山に入る、

ムクド

Corvus macrorhynchos japonensis シブトガラス

00

Corvus frugilegus pastinator

ミヤマガラス

極めて稀れなり。

10. Acredula caudata trivirgata エ

ナ

ガ

普通なり。 14. 13. 12. 11. Parus major minor Parus ater insularis

٢ ガ 5

Lanius bucephalus モ ズ

Lanius cristatus superciliosus アカモズ

モズば當地にて蕃殖す、モーズミ發音す。

5 Hirundo rustica gutturalis "

16. Hirundo daurica nipalensis コシアカ クツバ

渡來期に就ては予の日誌によれは左の如し、但しツバメ種なり。 なる物なれごも近年漸く廢れたり、愛護の點より見て惜むべし、 て枝張りたる竹を數本立つるは本種の為には好適の休息場所ご 雛すれ共三回は確かならず、彼の農家が苗代田に鳥おごしこし 前種は戸毎に來りコシアカツバメは町家に多し、普通二回は育

三月二十五日

(明治四十一年)

三月十九日

三月

+ 日

明治四十四年 明治四十二年)

三月二十三日 (明治四十五年)

三月十七日 (大 Œ. 二年

三月十一日 大 iΕ 三年

三月二十二日 大 Œ 四 年)

同種が去期の近づく頃こなれば屢高空にて旋回飛翔を試み而し ば記錄なけれ共確言し得べし、去期はコシアカツバメの方晩し 然してコシアカツバメは本種より数日後れて來るを常こす、こ

て何日こもなく影を失ふに至る。

コシアカツバメは該地方にてイワツバ メト呼ぶっ

方言ミソチウミ呼ぶ、普通なり。

17. Troglodytes fumigates

ミソサザイ

Regulus regulus japonensis キクイタダキ

極めて稀なり。

18

Horeites cantans

ウグイス

普通なり、メジロミ倶に遊ぶを見受く、六月に入れば鳴聲絕ゆ。

Turdus fuscatus ツ

十二月に入りて普通見るを得べし、二月の候多數群をなして麥 間に現はる 21. Turdus chrysolaus アカハラ

稀に認め得。

秋季現はれ來る忍冬の果實ウドの果實等を好みて食ぶ展鵙に逐 Ruticilla aurorea ジャウビタキ、方言ヒニカチー

はる。

23.

Tarsiger cyanurus

ル

リビタキ

2 Hemichelidon sibirica サ メビタキ

25. Cyanoptila cyanomenlana オホル

1)

大正七年四月下旬里の小供幼鳥を挿へ來る

秋より春にかけて人里近く來る、好みて椿の花密を吸ふ、晴雨 を論ぜず拂曉よりキィーノーご終日啼く、往々囀るこごあり。 Hypsipetes amaurotis amaurotis ヨド

27. Anthus maculatus

Ľ

ンズ井 17

28

, Motacilla alba lugens

ハ

セ

丰 + t キレ

1

1

Motacilla boarula melanope

大正七年度は九月十七日初めて見受く

Motaeillal alba japonica

セクロ セキ

31. Anthus spinoletta japonieus タヒ

1)

に在る螟蟲、二毛作用にては鋤き出されたる螟蟲、稻象虫の幼蟲 晩秋より群をなして刈取たる稻田に來る、一毛作田にては刈株

Alauda arvensis japonica Ł 1)

蕃殖期は四月より五月が最も普通なり、主ミして麥田に構築す

こそあれ天氣清朗の日中空に懸れる囀聲は四季こも聞かざるこ 田植に際し雛の未だ巢立し得ぬ巢も往々あり、程度に繁疎の差

こなし。

ಬ Lyngipicus kızuki kizuki キウシウコゲラ

本科のものは尙他に産すべきも目撃にては確かめ得ず。

Cypselus pacificus アマツバメ

本種は南端村地方にて飛翔せるを見たるのみ。

春筍夏曉頻りに鳴きて諸鳥の膽を奪ふ、殊に夏月は朝疾く草刈 Caprimulgus indicus jotaka 3 タ カ

の子の眠りを覺すこご限りなし。

Strix uralensis fuscescens キウシウフクロウ

呼ぶ、其鳴聲を「コゾウトケトケ(又はトーケトーケ)小僧疾く 冬より夏にかけて鳴聲を聞く一種悽愴の味を覺ゆ、方言小僧ご

Haleyon pileata

ヤマセウビン

來い疾く來い」ミ譯し鳴聲甚だしき時は人死すご云ひ傳ふ。

38 Alcedo bengalensis

カハセミ

共にショビンご稱す。

39. Cuculus optatus

ポンポン鳥ご呼ぶ。

ツツドリ

木 1

Cuculus poliocephalus

40

41. Turtur orientalis

丰

ジ

ŀ

トギス

42. Sphenocercus sieboldi 7 ヲバト

43, Scolopax rusticola t マシギ

44. Ægialitis dubia curonicus コ チド

八坂川の下流部に普通なり、 Haematopus ostralegus osculans コチドリの頻りに鳴くや哀愁の感 ミヤコド

を强からしむ、(編輯者曰くミャコドリも普通なるや)

46. Porzana fusca erythrothorax

ヒクヒ

夏曉鳴く事頻りなり、方言クロドリミ呼ぶ、蓋し雛の羽毛黑け

47. Coturnix coturnix japonica ゥ

ヅ

ラ

ればなり。

數に於て尠なけれ共山野に稀ならず。

國東地方に近づくに從つて多く產す、未だ充分の觀察は成し得 48 Phasianus versicolor

ず三雖も白色の眉線を缺く事は確かなるが如し。

賈二百匁、

他の

一羽は此より

Phasianus scintillans

ヤマドリ

往年到る處に産したりしも近年優獲盛んなるため深山にて稀れ の耳疾に賞川さる、 に獲るここあるのみ、因に本種の尾羽の黑燒したるものは小兒 

Phasianus soemmerringi

此地方にて近年兄る事なし。

アカヤマドリ

Accipiter virgatus gularis

"

9

('ygnus musicus

Milvus ater melanotis

オ ホ ハクテウ

1

て十四 大正 に掲げて一般人に觀覽せしめし三云ふ、予の見たるものは次に こなき珍奇のものにして、衆人歎賞す由つて同氏は暫らく街頭 告げたるものあり、同氏は内三羽を射獲す、未だ會て見たるこ 八年一月二十日午後四時頃八坂村の北端に在る楢雑 |五羽游泳しつ、あるを發見して同村の銃獵家工藤力氏に 笥 池に

張七尺六寸、 色は園眼部に及ぶ、脚は全部黑色、附蹠三寸七分、中趾の長さ五 で黑色、其より基部は黄褐色、 羽毛全部乳白色、體長 嘴蜂三寸四分, 「嘴端より尾羽の末端まで)五尺、翼の擴 上嘴は嘴端より鼻孔の少し基部ま 下嘴の下面は黄褐色、 而して同

記す一羽のみなりき。

事賞つてなく唯稀れに群をなしたる大鳥上室を翔けるを日撃す 内 寸四分を算したり、當時の體重 川の下流部下河原の淵湛に二羽游べるを見たるものありし。 話合へりこぞ、同日は北風吹き荒みて天候險悪、 れたるや知らず、此頃の事にてや海濱の漁夫等も眼近く見たる 一羽は少しく大きく一羽は少しく小さかりきこ云へり、 る事あれ共クルークルーミの鳴聲を聞き襲かご思惟し居たりご 降りて温度は華氏四十度以下を指せり、一月二十六日は八坂 一羽は同村矢守熊次氏藏す三、然して他二羽ば如何に始末さ 午前中は雪さ

近きを以て諸種の水禽類、海産鳥類等數多常棲又は渡來するも 人も肯定せざるべからざる事なりごす。大正八年二月七日記す 唯銃獵の發達に作れて大形獵鳥類が逐年數に於て減少するは何 のあるべきも此方面に就きて知る處無ければ後日に譲らんこす 在するが故に隨處小なる池沼あり、加ふるに八坂川の河 先づ普通目睹し得べきものは上記の如し、 然して山 峽に耕地散 口部に

Podicipes fluviatidis philippensis

カ

イツ

再び種子島の鳥類に就きて

浣 木 彦 助

あり、 子村國上の大田なる田圃に、真那鶴四羽の餌をあさるを見し者 偽類は一昨年の冬期に本島の北部にて、 大隅海峡を擁する北種 の實況を明白にし得たれば、訂正又は補遺の意味を以て密稿す 其地に認められる特殊の鳥を紹介したるが、更に精確なる近年 「鳥」第六號に於て「種子島の鶴及び附近の二三鳥類」 ミ題し、 数十羽位なりご云ふ。 し僅に千五百羽位を出入す。又鴨を保護する爲め鷹を驅除す其 る時は十萬位ご觀察すごの事、 を託したる處、九月下旬に渡り翌年二月下旬に去り、集合した こして鴨類にて、同村平山尋常小學校長今井田喜之助氏に調査 るを教示されたり、此種は大隅の佐多岬地方までも分布され居 西海岸なる阿高磯の小沙漠に來るものは、多く鸛なるもの、如 るを報じ來りぬ。莖永寶滿池に於けるは他の水禽を混するも主 し。旣報に姬鶉ごせるは黑田長禮先生に因りて、印度三斑鶉な し其数は旣報の如く、一一二羽つ、散在するに過ぎず。中種子村 南種子村莖永の田閘にも毎年、同種の渡るを例ごす、併 一獵期の捕獲は一夜百羽内外ご

### 鷸・千鳥類の方言其他

籾山德太郎

黑田理學士高著「鷸•千鳥類圖說」 に掲げ洩れの方言ニー三を

左に記す。

東京市場ではアラアシ、ギをカネシギご謂ひッルシギをアカ 東京市場ではアカベネシギご呼ぶ、武州川越にもカネシギご謂 アン、ギ双はアカベネシギご呼ぶ、武州川越にもカネシギご謂 アン、ギに類似して居る點から出た語だご云ふ事はすぐ解る、アシ、ギに類似して居る點から出た語だご云ふ事はすぐ解る、アシ、ギに類似して居る點から出た語だご云ふ事はすぐ解る、アシ、ギに類似して居る點から出た語だご云ふ事はすぐ解る、アシ、ギに類似して居る點から出た語だご云ふ事はすぐ解る、アシギ、ラグロシギ等も一所にくるめてツルシギなぞご呼んで居る、トウネンの事はマメシギご謂ふ、露語では一般に誤類で居る、トウネンの事はマメシギご謂ふ、露語では一般に誤類で居る、トウネンの如きものを ボルショイ (大きい) クリークごがソリハシ、ギのみには特にペソチニクご云ふ語がばかり呼ぶがソリハシ、ギのみには特にペソチニクご云ふ語がばかり呼ぶがソリハシ、ギのみには特にペソチニクご云ふ語がある露語に暗い余には語原の所は詳でない。

ある語ださうで余は土地の古老から聞き識つた、下總松戸附近武藏國入間郡高麗村ではタゲリをケッグロミ呼ぶ、古くから

恐らくそれはアオシギだらうご思はれるけれど實物に接した事 猫家のヤブシギ に呼んで居るものもヤマシギを指したものらし ではヤマシギの事をボッタシギご謂ふ、北海道の凾館附近の狩 がないから断言する事は出來兼ねる。 る鷸類ださうでタシギでもなければヤマシギでもないこ云ふ、 こ春先一終績の頃草藪の附近等から飛び出して空高く舞ひ上り い、尚同地でカミナリシギミ呼ぶものがある、話を聞いて見る ゴロノーノーミ間のる様な音を發して急轉直下的の降り方をす

つて居る)。川越附近でテウセンシギミ謂ふのは 確こは 解らな 郡のカハラバンミ同じ語原であらう(後者は鶴・千鳥類圖説に載 いけれごイソシギを指したものかご思はれる。 印旛沼附近ではクサシギの事をカハラシギご謂ふ、武州比企

含まれて居て面白いこ思ふ。 の所では通用しない語らしい東都の都鳥對、京の加茂川千鳥は 調べもせずに捌いて仕舞ふらしい、京都ではイカルチドリをカ 若くはイカルチドリを誤つて居る事か多い標本商もそれを其儘 Ŧ 方の見るに對する一方の聞くのであつて其間に兩地の人情も ガハチドリミも呼ぶ東京隅田川に於ける都鳥の如きもので他 東京市場でメダイチドリミ呼んで居るものは多くシロチドリ

#### 鳥類名 質索

腸

Ш

뉆

歌人間で回く廓公とは何故で答で曰く鳴聲より來る Kakko. て左のノチトを作る漸次補綴せんと欲するなり く先入主となる予電如何ともする能はず日く鵬は何で鵄は らば差支無かるべし曰く「センニウ」とは何ぞ 答に窮して目 Kuckuk, Cuckoo, Cuckow 何ぞ三足島、四十陵、五位は如何と悲だ煩し即ち古書を探し 荷くもカクコウと發音する字な

〇ヒシクヒ ○ガン ひご云ふは俗説ならん カリ(日本書紀)ク 大雁(古今著聞集) 鴻(木草) 菱を食ふにより菱喰 口 オト リの伊勢守良陸記 i — HIE

()カモ (藏玉集)青頭雞(萬葉) カモ(日本書紀) マガモ(藻鹽草)コ アラクビ(雄のみ) モ(萬葉) ハタカカモ(雌の 青羽鳥

み)=武家調味故實

○コガモ 小鴨(鷹百首) 刁鴨(本草

(土佐日記) 葦鴨(萬葉

○オナガガモ

沉鳥(正字通) タカベ(倭名類聚鈔) (萬葉)

〇ス、カモ ○アシカモ ス、(八雲御抄) 海中にありて群り鳴く聲鈴の如

しこ云ふ意義より來る

○アイザ アヂサ(藻鹽草) アヂ(萬葉) 秋紗、秋沙(萬葉及八雲

御抄

- ○ラシドリーラシ(萬葉) 鸂鶫(本草) 紫鴛鴦(本草) 鴛鴦は紫
- ○ウ クロトリ(土佐日記) 鸕鷀(木草) 鵜(續日本紀日本殿異
- ○シギ シギ(三代實錄)鷸(本草)田鳥(和名鈔)鴫(大和風土
- 靈異記) ○クヒナークヒナ(日本書紀)(本草和名) 秧雞(本草) 鷍(日本
- □バンに充つ)骨頂(百鳥圖)オホバ 黒鳥(和名抄) クロトリ(倭名類聚鈔) 田雞(臺灣府志
- ○チドリ 千鳥(萬葉) 水喜鵲 オホチドリに充つ(百鳥圖) 繣
- 〇セキレイ 鶺鴒(毛詩鳥獸考) ニハクナグリ(和名鈔、本草和

- (新撰萬葉集)(言塵集)イシクナキ(家中竹馬記)稻負鳥集)ムキマキ鳥(言塵集)イシクナキ(家中竹馬記)稻負鳥トツキオシヘトリ(日本紀私記)(八雲御抄)イシタヽキ(言塵と) ニハタヽキ(木草類編夫木集) ツツナハセ鳥(八雲御抄)
- ○トキ 紅鶲(本草) トキ(和名抄) (新撰字鏡) (曾我物語) 式)タウ(トウ)(新撰字鏡)朱鷺(禽經)唐の鳥(御隨身三上記) は(本草) トキ 和名抄) (林花鳥(日本書紀) 鴇(延喜
- 〇コサギ 小鷺(鷹百首)
- ○ダイサギ 大鷺(鷹百首) 白鶴子(本草)
- ○アマサギ(藻鹽草)黄毛(臨柱雑識)アマ(八雲御抄)
- ○青鷺 (續日本紀) 青莊(本草) ミトサギ(倭名類聚鈔) 蒼鷺
- 桑略記)護田鳥(本草)○ミゾゴイ 方目(本草) オスメドリ(和名類聚鈔) 臼女鳥(扶て捕に就しは神妙なりごて五位を授けて放つ延喜帝神仙苑に幸して六位を召して排へしむ鳥の宣示に從ひ延喜帝神仙苑に幸して六位を召して排へしむ鳥の宣示に從ひのゴイサギ 旋目(本草) イヒ(倭名類聚鈔) 五位(平家物語)
- ○カサ・ギ (和名類聚鈔)鵲(詩經)韓國鳥(塵添壒囊鈔)

○カハセミ 撰字鏡)ソニトリ(古事記)セラヒ(源氏秘抄)少微(塵添壒嚢 鈔)ソナ(言塵集)カホョ鳥(言塵集 ソヒ(和名類聚鈔) 魚狗(本草魚唐禽經) ソニ(新

〇ヤマセミ 水乞鳥(夫木集) 狹衣(散木集) 翡翠(木草)

〇ホト、ギス 源平盛衰記)霍公島(萬葉) 鷗鷦鳥(和名類聚鈔) シテノタオ サ(源氏物語) 時鳥(和泉風上記) 沓手鳥(江談抄) 靴の代金 ホト、キス(萬葉 和名抄 トキノ鳥(八雲御抄) 字鏡等)杜鵑 (木草

の意 ご云ふ意なり神話的の長物語あり クモ鳥、ユウカケ鳥、 七鳥、早苗鳥、玉サカ鳥、鏡暮鳥、メヅラ鳥、ウツタ鳥、サ トドリ(塵添壒嚢鈔) 橘鳥(藏玉集) タラサ鳥(藻鹽草)田の長 五露鳥、草ツク鳥、賤鳥、田歌鳥、タソガレ鳥、イモ ウナヒコ鳥(皆、藻鹽草) 廓公(新撰字 水

(楊雄傳註

鏡)子規(紫桃軒雑綴)子雋、蜀魂(神話的のもの) 鶗鴂、買銃

〇キッツキ さんが爲に來る)列鳥(爾雅) 都盧(爾雅) タクミ鳥(藻鹽草 啄木鳥(本草) テラツ、キ(物部守屋の幽靈寺を滅

○カシドリ 〇ヤマドリ 專當沙汰文 鶴雉( (本草) 山鳥(萬葉) 亥子之鳥、節料鳥(安東郡

〇佛法僧鳥(扶桑略記) 佛法僧(赤染衛門集

○ミサゴ (和名類聚抄) 鶚(本草)カクカノトリ(日本紀私記 LL 新撰字鏡) LL MA (和名抄) 覺賀島(日本紀私記) 稿(大平

iC

〇ハヤブサ O ワシ シ(和名鈔 鵬(和名抄) 鷲(本草) 「真鳥(仙覺萬葉集註釋) オホワ 隼(通雅) 鴨(言塵集) 速總(古事記) .7 ハサカ ~

鳥(藻鹽草)

晨風(本草) 小貎 兒鷂

〇コノリ

雄なり

〇ハイタカ. ハシタカ 욂(爾雅註) コノリの雌なり

()タカ 膤 (木草) クチ(日本紀

〇オホタカ 大鷹(言塵集) 雌なり 11 シタカ(鷹百首) 大黑(萬

葉)白鷹(大和木草

今は昔鶴に舞を教へしふる事

爲 Ξ

森

百ごせ餘り古の事なりごか、慶尙北道慶州郡茜面に李某ご名の る者ありけり。或日一羽の鶴を排へ來て、奇しき法もて、之に

羽振おかしく、巧みに舞を演ぜしこなん。 止らせて笛もて之を試みけるに、溫突の内ミ少しもかはらず、 て三月餘りも經ぬる後、鶴を溫突の外に連れ出し、丸太の上に 笛手の心のまてに誘はれて、其が翼を動かすに至りぬ。かくし 後には其が調のまにまに、或は高く或は低く、疾くもゆるくも を合せて吹立てければ、鶴も何時しか其の音調に慣らされて、 りけり。季某は得たりご笛取出し、翼の動きに應じつく、調子 哀れの鶴は、絶え間もあらず羽はたきて、苦しき平衡を保つな 事
ミ
て
、
ミ
も
す
れ
ば
前
に
の
め
ら
ん
ミ
し
、
後
に
よ
ろ
け
ん
ミ
し
て
、 て豫て用意の大丸太の上に飛上りぬ。然るに轉がり安き丸太の 焚きつけて熱く温突を熱したりければ、鶴は熱さに得堪へずし 得ざらしめ、次ひで此れを溫突の中に追入れぬ。軈て下より薪 其が風切羽の主なるものを左右各兩三枚宛切取りて、飛ぶ事を 舞ふ事を教へたりてふ奇談あり。今其の方法を傳へ聞くに、先づ

### 4 クドリミウヅラの交接卵か

籾 Щ 德 太 郎

淺草區内の一飼鳥商に好く馴れた子飼のムクドリが一羽愛養

受精も行ほれるらしい飼主も是を一奇こして此事を方々に話し されて居つた此鳥は人語や其他の物真似なごも二十三語は知つ 附近を飛び廻るこか聞 で居るけれご終るや直に特有の喧騒な聲を發しながら一頻り其 實驗して見たかつたけれご何しろ唯一の卵を第一回の實驗に供 八厘)短徑一九・七粍(六分四厘)重量一匁五分五厘でムタドリの つた一羽きりしかないさうだ、そうして又交接の時、雌は靜か は未だ聞かない。面白い事には此雌鳥即ちムクドリの相雄はた して仕舞つたのだから今の所其事は立消 に適當な温度を興ふる時は完全に孵化するかどうかご云ふ事も て内部を檢した處卵黃の上部に胚を確實に見出した、此樣な卵 初産の卵ごして普通程度ご認められる、更に卵殻を静かに開 を取りよせて見た處外殼は美しき藍青色、長徑二六・五粍(八分 日に一卵を産した三云ふ事を再び聞くに及んで好奇心から其卵 たその話が聞き傳つた時珍らしい事こは思つたが更に一月十九 春偶然の機會から同家に飼つてある雄鶉ご配合させた處外見上 て居り籠から外へも遊びに出せる程のものださうな、それを今 への次第、其後の産卵

附記 鮮の時より重量の軽減せしやは計り難し。 卵の計量日は産後 週間を經たる廿六日なりしかば新



一一十一 質疑者 東京 粉山德太郎

に候や。 | Juviatilis philippensis, C. f. Juviatilis の何れを用ふべきもの ー カィッブリの學名は Colymbus rujcolis philippensis, C.

問

Tunst. を用ふる方正常なるべく、臺灣産のものには、C. Lunilippensis Bonnat. を使用すべきなるべし。但し多くの夏羽の標本を比較するに非らざれば本州産は前者のみなるか又は臺灣産ご同一のものあるや否や決し難し。カイツブリの屬名を他のものご區別せんごせば Tachybaptus Reichenb. (1849) を用ふるも可なり。

にて候や。 ではハイタカごの區別點何所に有之候や、命名者は何人のはハイタカごの區別點何所に有之候や、命名者は何人では、イル、melunoschistos なるも一、ハイタカは decipiter nisus nisus (L.) に候や又は他の亞二 ハイタカは decipiter nisus nisus (L.) に候や又は他の亞

問

答 日本産のものには エミnistas (L.) を用ふべきなり。而 1893, p. 625) の學名を有するものあり常陸國にて獲られ し雌なるが淡灰色に富むご云ふ。此學名の正否は充分調 也 世 されば決し難し。 A. n. melanoschistas Hume はヒマミセ 地方に主産する種類にて臺灣にては恐らく稀れなるべし。ハイタカごの區別は上面著しく暗色なること、特に 雌に於て翼 長く一〇一一〇五吋 あり ハイタカにては雌 の 翼九・五吋あるに過ぎず。 學者によりては 黒髪種なりこ ここひ又は別種或は別亞種なりこせり。恐らく亞種こして分つ方正しかるべし。

答 前名の方可、學者によりては二つに區別せぬ人あり。の何れを用ふべきものに候や。 コリカモメは Larus r. ridibandus L., L. r. capistratus Tenna.

問

問 五 コゲラの「タイプ」は北海道のものに候や本州のものに答 C.i. intermelius Vahl にて正し。

候や。

こあり即ち某型は明瞭ならず本州及び北海道の兩者を意答 Hargitt (1884)によれば "In insulis Nippon et Yezo dictis"

門 六 邦産のビンズイは Anthus t. maculatus Jerdon にて宜敷候

ム」なり。共に A. trivials が基型なり。 Pipastes Kaup (1829) は Antius Bechst. (1807) の「シノニ答 本邦のビンズイは質問の學名通りにて可なり。

t Chelidon の屬の「タイプ」は何種にて候。Harando のMの「タイプ」に共に年號も御教示願上候。 Chelidon を用ひて Chelidon の屬の「タイプ」は何種にて候。Harando の屬

問

問

答。Chelidon の屬の「タイブ」は C. rustica なり。質問の兩

屬の「タイプ」ご年號ごは左記の如し。 Type Hirundo Linn. (1758)...............H. wrbica

別ひざるべからず。何んこなれば Hirundo L. (1758) は凡ッバメに Hirundo を用ふるこせばイハッバメにもこれをっているに Tustica

に非らざりしを Forster (1817) が始めてツバメ類に Chulidom (1817) を用ひイハツバメ類に Hirando L (1758) を用ひれるが故なり。因に Chelidon Boie (1822) が屢々イハツバメ類に 用ひたるが故なり。因に Chelidon Boie (1822) が屢々イハツバメ類に 用ひられ居るここは 誤りにして 1817年にハツバメ類に 用ひられ居るここは 誤りにして 1817年にMoore (1854) の存在を認むるこせば Hirando nip ilens's (Moore) にのみ使用すべきなり。

屬こなすの必要なかるべし。三種を同屬こしてオホモズ 然れごもチゴモズミモズミを又はモズミアカモズミを同然れごもチゴモズミモズミを又はモズミアカモズミを同 なり分 とが より分

凡て最古の Lanius 屬に編入する方穩當なりこす。 て他は之に次ぐ古き Emmoctonus Boie (1826) を使用する類のみを分れんごせば Lanius L. (1766) を用ふべし而し

ものに候や。 問 九 カャクドリは Accentor, Purnella 何れの屬名を採るべき

間

り度御願ひ申上候

のに候や兩屬の年號をも合せて御教示願度候。 サーノビタキ Pratincola, Staticola 何れの屬名を用ふべきも

如し。 答一ノビタキの屬名は Pratincula なり。兩屬の年號は左の一

Type Saxicola Beehst. (1802) .......S. oenanthe Pratincola Koch (1816) ......P. ruletra

十一 ノジコは Euspie ごして別ちても宜敷く候や。年號は前名の方早きも「タイプ」は大に相違す

間

答

ブジュの屬名は Emberies にして Euspies を用ふるこ

びずっ

斑あり其他は夏羽ミ同様にして只下面に淡紅色を帯び眼先き及び後頭に少しく鼠色を有し耳羽には黑灰色の一

脚趾共夏羽の場合よりも美赤色にして暗色を帶

冬羽――頭には夏羽に見る如き黒褐色の部分全くなく、

sulpharata T. & S. を基型ごせる屬名なごが如し、してその「タイプ」は Spiza americana なり、他に Find riza にを得ず。 Ei piza Bp. (1832) は Spiza の「シノニム」に

十二 ユリカモメの成鳥ミ幼鳥この羽色明細に御指導相成十二 質疑者 岐阜縣 柳 原 要 二

答本種は夏羽三冬羽三によりて相違す。通常善人の日撃 するは冬羽の場合多し左に兩者の記載をすべし 夏羽――頭は帶褐黑色 又は珈琲褐色、翁は淡銀灰色、圍眼部、上下尾筒、尾及び全下面は純白なり。但し下面には 然紅色を帶ぶ。初列風切は白色にして外側羽は先端黑色 は黑色なり。 吹列風切は銀灰色にして外側羽は先端黑色 なり。 嘴、 脹瞼の縁、 脚及び趾は暗濃紅色。 虹彩は暗褐色なり。 雌は一般に雄より小形なり。

いった。 いっ、 が列風切の外瓣にはなほ幼鳥の黑色を存す。頭部の黑 り。初列風切の外瓣にはなほ幼鳥の黑色を存す。頭部の黑 此時にありて成鳥よりも黑色を含新たなる初列風切も生 此時にありて成鳥よりも黑色を含新たなる初列風切も生 がるなりご云ふ説あり。實際効期の羽衣の持續期間は斯 するなりご云ふ説あり。實際効期の羽衣の持續期間は斯 するなりご云ふ説あり。實際効期の羽衣の持續期間は斯 するなりご云ふ説あり。實際効期の羽衣の持續期間は斯 でる立は生殖を始めぬものなり。(以上黑田長禮回答)

のにては十二月頃には白色ミ變するを常ごす。



□第十一回總會 大岩 橋學士會假會館に於て開會し左の諸君の出席あり。(來會順 田 黑 岡 子 田 H 紀鹿 信利 勝 長 禮 彌 鷹司 丘 森田淳 本年五月廿八日午後五時より春季總會を神田 淺次郎 信 輔 永 大久保忠春 內田清之助 井 靖 飯 松永安衛 菊池米太郎 塚 啓

時半散會す。陳列標本左の如し。 內田幹事の會計報告を了り會則の變更を議し(別項參照)午後九會場には觸科及鳩鴿科鳥類標本並書籍圖畫の陳列あり、晚食後

鳩	鴻	喬島	為局	
鴿	鴒	升	科	
科	科			
鳥	鳥	鳥	鳥	
類	類	類	類	
<u>+</u>	二十七	+	七十五	種類
十· 五.	=======================================	- - Ii.	百干一	個數
動物學教室	黑田長禮氏	動物學教室	黑田長禮氏	出品者

鷸千鳥類寫生圖十葉	アヒル異常卵(赤色)	キンケイ異常卵	ミカドキジ幼鳥其他	カケス變り	カケス變り	シジュウカラ變種	エナガ變種
			=			_	_
							A
黑田長禮氏	黑田長禮氏	黑田長禮氏	菊池米太郎氏	内田清之助氏	熊谷三郎氏	黑田長禮氏	動物學教室

Kracheninnikow 裕 Histoire et Description de Kamtchatka

別項記載の如く春期總會の際左の如く本會會則 七七〇年發行 岡田信利氏

第四條 第一項

一部の變更を議決せり。

□會則の變更

年 三回雜誌 『鳥』を出版すること

第五條 本會々員を分ちて甲種會員乙種會員の一こす

甲種會員は會費ごして一ケ年金三圓を納むるこご

第六條 乙種會員は會費こして一ケ年金一園五十錢を納むるここ 甲種會員には雑誌『鳥』臨時刊行物を配布す 臨時刊行物は定價一圓

乙種會員には雑誌『鳥』を配布す

を限り無代配布す 其他は定價の三割引が以て講讀するか

得

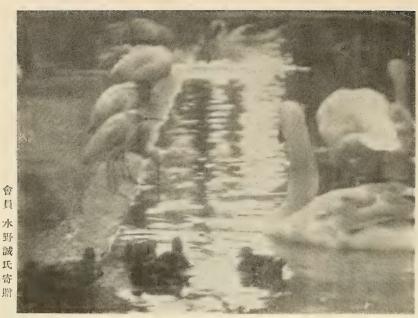
會費並寄附金額を以てしては支出に不足を生するに至りたる為 來りたるも近來印刷費の暴騰は底止する所を知らず到底從前 行し會費値上けは本年度より實行す。 を年三回に變更したるも右は一年間の總真數は從來三同 め右の會則の變更を必要こするに至りたり。尚雜誌の發行回數 ず年々支出の約二分一は數氏の特志家の密附金によりて償は は從來通り三十五錢ごす。雜誌發行回數の增加は來年度より實 て一冊の頁數約從來の三分二に減少する見込みなり 本會經費は從來會費竝書籍雜誌の賣上金を以て維持するに足ら 雜誌定價

結果雌雄二番を生擒したるを以て總督府にては再之が献上の爲 め同氏持参去月出京せられたり、 後總督府囑託菊池米太郎氏九名の生蕃を使用し採集に苦心せる ジ雄二羽を採集 口ミカドキジ再び献上せらる 兩陛下に献上せることは前號に報じたるが其 臺灣總督府にては昨秋ミカドキ

(前略)當シカゴ市は非常に寒冷の地にて零下十度以上に相成る る書信中左の如き面白き寫真及記事あり弦に掲載す。

□北米通信

在北米の會員水野誠氏より本會員某氏の許に達せ



集群の禽渉と禽水 圖四冊第 (Lincoln Park, Chicago, Jan. 1919)

きもの可有之候(中略) 以上澤山ごは思ひ申されず候が専門家より見候はで隨分珍らし は 冷 鳥は馴れ 公園、 も未其程度に達し不申雪も極めて少く御座候(中 由 の折柄に候得者動物は大部分屋内に蟄居致居申候多くの禽類 室内に區分して入れられ候が種類は上野動 博物館等に参り候リンコルン公園には動物園有之鴨や白 昨 年 一二月頃は積雪十尺以上にも達し候趣本年 しく池中を遊び廻り人の與ふる餌に集まり居候寒 小窓具はジャクソン公園にて栗鼠に南 华勿 略)日曜日には 園の ものより は幸に



鼠栗と氏野水 圖五冊第 (Jacson Park, Chicago)

費ひに集まり來りて中々可愛らしく御座候總數六十位に見受け 京豆を與べ居る圖に有之栗鼠は野飼ひご相成り人を見ては餌を

られ申候

**大**賀 荒 坂 **f**: 大 木 居 岩 井 木 É 辰 保 寬 紀 合 廳 子 重 暢 郎 東京府北豐島郡高田雜司ヶ谷 神戶市加納町二丁目 山梨縣廳內 朝鮮平壤府泉町三 熊本市人吉町天主公會內 大連市天神町 二區 *五*.

H 岩 廣島高等師範學校

池 藤

 $\Pi$ 

틥

世

高知縣幡多郡宿毛町丸島

香星敷

高

野 利 治 特玉縣大里郡吉岡村楊井八七八

轉

庭

軍

大 大 馬

塲

[7]

郛

剱

滿洲撫順小學校 朝鮮平壤步兵第七十 澤

保 īþî

名古屋市東區中市場町三ノ十八

七聯隊

鮮京城初音町二〇〇番地

內 田 清 之 助 共 著 富之 助 部

### 類の渡り及蕃殖期

定價一圓五十錢稅不要

東京動物學會發行

e/o Consulate of Japan, S. Michigan Ave. Chicago, U. S. A.

水 恭

野 ]1]

誠

鳥第七號「勘察加半島西海岸採集鳥類目錄」正誤表

頁	段	行	契	Ē
101.	and the state of t			
	(地圖の)	內(一部地方)	ポリシエツキイ川	ボリシエレツキイ川
	同上		コシエゴチアンスキイ川	コシエゴチヱンスキイ
102.	下.			
	{	測定表の内	番號 採集月日	番號 採集月日
			K.78 12/VII	K.78 10 VII
			K.88 19 VII	K.88 12/VII
103.	上	11.	A. P. Platyrhyneha,	A. P. Platyrhyncha,
104.	下.	3.	「帶暗綠色にして」の次に	L 次亜種の如く 「 を加ふ
, ,	, ,	13.	Anteriotringa,	Anteliotringa,
105	上	13.	· 磨損	摩損
, ,	下.	2.	島類目錄	。 鳥類目錄
, ,	,,	4.	dar kslate	dark slate
107.	下.	11.	脚淡紅色	脚は淡紅色
, ,	, ,	20.	行の最後のLth」は	the
108.	, ,	2.	L. calliops,	L. calliope,
, ,	, ,	5.	低度	。 程度

### 日本鳥學會規則

第 第 一條 木會 八日本鳥學會上稱 ノ事務所 八東京帝國大學理學部動物學教室內二置

第 條 鳥 凝ニ趣 ラ月 的左 沫 ラ有ス 如 ル Ŧ 懇 親 ラ計

/

ル

コ ŀ

ŀ 鳥類愛護 鳥類ニ關 1 ス 思想ヲ普及セ ル 學術 1 進步 シメ鳥類 ラ 促 ス 7 ノ保護増

殖ヲ計

ル

東

京帝

國

大學理學部

動物學教室

內

第四條 時種 本會ハ前條 々ノ事業ラナ 1 一目的ラ 達スル 爲メ評議會ノ 决議 ヲ經テ隨

當分 臨時出版物 年二三回雜誌「鳥」ラ出 ラ 刊行 ス ル コ ル コト

每年春秋 時二鳥類 闘 回會合 ス ル 圖書標本其 シ鳥類ニ 關 他 ノ展覧會ヲ催 ル講演談話 ヲナシ同

第五條 本會 鳥學的探檢 甲種會員ハ會費トシテーケ年金三圓 人員ラ分チテ甲種會員ト乙種會員 ラ舉行 7 ノニト 納 ル ス コ

ス

ル

J

甲種會員 乙種會員ハ會費トシテーケ年金 (三ハ雜誌「鳥」及臨時出版 物ラ 圓 折. 配 一一錢 布 ラ納 4 ル

第六條

乙種會員二八雜誌「鳥」ラ配布

ス、臨時出版物ハ定價

第七條 ル ラ

ラ限

1)

無代配布ス

其:

11

ハ定價!

割引

1,1

in His

得

本會二入會セント 本會二印込ムへ

、シ但里

種會員 ルモノハ住所

ノ入、

退會八部議員會 氏名職業ラ記載

決議 3

第八條 第九條 \_ 會頭壹名ヲ置

本會 若干名(甲種會員)ヲ以テ組織 評 議員會ハ會頭幹事及と會員

3

ル

議員

日 本鳥學會

役

員

理

學 博 Ŀ

飯 E

魁

內 田 擂 之 助

塚

啓

評 斡 會

議

員 事 丽

學博 學

士

鷹 [i] 信 輔

公

倒

理 理

丁博士:

压 飯

泛

次

郎

黑 松 沤 田 賴 長 禮 老

子

们

### 投稿及質問規定

(一)鳥類の習性、 渡り、 方言等に關し廣く各地方會員の投稿を

歡迎す

(二) 既揭原稿は返戻せず、 但し挿畵に使用せる寫真及び圖畵は

希望により返戻すべし

(三)原稿は紙の表文を使用し一行、二十五字語に認められたし、

假字は平假字を用る動物名及び外國語は片假字ごす

回 )挿畵は寫真以外のものは墨汁にて認められたし

(五)原稿は東京赤坂區福吉町黑田長禮氏宛郵送せられたし

(六)本會は鳥類に關する質疑に應答す、 入理科大學動物學教室内本會宛郵送せられたし 質問の事項は返信料封

(七)質問解答は 一般讀者に有益なりご認むるものは本誌に掲載

發

賣 所

するも其他は質疑者に直接解答するものこす

大正 八年七月十八日 印刷

定 價金參拾

Ŧî.

錢

大正八年七月廿一日發行

發編 東 京 行輯 市 者兼 日 本 橋 品 兜 町

番

地

木 F

憲

刷 神 谷 次

削

東

京市日

本

橋

嗣

兜

Mj.

番

帅

郎

載轉禁

東 刷 京市日 所 本 橋 區兜町 東京印刷株式會社 番 地

印

發行 所

動物學教室內帝國大學理學部 B

本鳥 學 會

振替口座東京六五九九番

十 軒 店 町東京日本橋區 裳 振替口座東京一〇七番 華 房

### 新の有稀界 斯

本

編

は

種

類

0

識

别

最

凩

難

な

3

鷸

7

鳥

類

Charadriidae

0)

全世

界

1:

產

1

3

B

0)

百

三 十

t

種

類

b

B

•

.

布

.

等

を

理 學 士 黑 田 長 禮 先 生 著

正揷

色版

五 百

> 葉 版

直

版

五

五 寫 總

圓個葉

最

新

刊

備 述 を L 圖 L 總 特 說 論 1= せ とし 本 3 邦 産 7 0 は の 1= 種 本 科 類 T に就きては 何 鳥 n 類 0) 各 形 態 種 最詳述せ 1= . 就 習 性 3 7 • ij 雌 渡 雄 h 尚 夏 各 久 分 亞 類 羽 科 法 ょ 老 h 參 幼 亞 考文書等 種 0) 記 1: 載 至 及 3 迄 び を記述す 分 舩 密 な 習 3 3 索引 41. 性 十三 を 具

一千局本話電 七百京東替振

插

畵

1

は

內

外

種

0

道道

寫

生

圖等

百

五

+

圖

を

捕

汉

せ

h

寫

版

は

鳥

縆

寫

生

圖

13

最

堪

能

な

3

横

Ш

慶

次

郎

畵

伯

0)

筆

1

成

h

+

葉

約

八

+

種

0)

邦

產

種

r

圖

本

項

1

日

h

其

他

分

布

表

學名索

引等

8

附

錄

٤

L

7

添

附

せ

行發店書房華裳

橋本日京東 町店軒十

### □錄目物行刊時臨會學鳥本日□

第八篇に於けるる一鳥類の渡	第七篇解滿鳥類一斑	第二十二年 一年 一年 平平 早年 半 黒 田 長 禮 著 田 長 禮 著	第五篇 郭公·香殖。 關 3 研究	第四篇世界の雁と鵠	二篇黑世界		第一篇期清之即著
定 價 七拾五錢 郵稅六錢 原色版一葉寫眞版 挿 畫 數 個	定價一圓五十錢郵稅十二錢原 色 版 口 繪 一 個	性 定價 四拾錢 郵稅四錢 寫 眞 挿 繪 數 個 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	定價金卅五錢 郵税四錢 写真 版 挿 畫數 個コロタイプ版一枚地圖一枚	郵 稅 金 八 錢 價 金 貳 圓	郵 稅 六 工 錢 定 價 七 十 五 錢	郵定原 色 四 十 錢錢附	絕 版

房華裳 電車 百京東普撮 所捌賣

### "TORI" THE AVES

### BULLETIN OF THE ORNITHOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

Vol. II. No. 8.

Frontispiece:

JUN 7 1920

A flock of Water-fowls on the outer moat of the Imperial Palace.

### Contents:

On some specimens of birds from Saghalin in the Sapporo Museum. By T. Momiyama.

On the migration of some common species of birds in the vicinity of Seoul, Corea. By Y. Kuroda and J. Miyakoda.

On the habits and sexual differences of the Himarayan cuckoo. By M. Kawaguchi.

Migration and habits of Swallows in Shikoku. By Y. Enomoto.

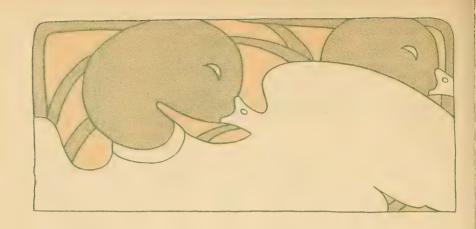
Notes on some birds from Iruma-gun, Prefect. Saitama. By T. Momiyama and M. Nomura.

History of the Audubon Movement. Translated by S. Uchida.

Miscellaneous notes.

Queries and Answers.

Proceedings of the Society.



### 鳥

第

七

號



行發月二十年七正大 會學鳥本日





徳川時代の薩摩に於け

る動物園

理

學.

1:

H 木

### 鳥 第 = 卷 第 t 號 目 次

故波江元吉君肖像 (口給第二圖

### 說

**濟洲島採集の主なる鳥類に就て(附、** カモメミサケイミに就て.....理

オホトウゾク

論

濟洲島產鳥類目錄

學

郎三禮

Ш

學

(di 太 郎

長 市民 助

ガンの下面變り..... 件 件 黑田長禮、 黑川義太郎、 下 郡 Ш

回答

質疑應答

五

雪中の農作物鳥害例

コシアカツバ

飼養鶉の

延卵

三雛

の體量

三に就

メの蕃殖.....

學

1

富

Z

助

家

木

### 故波江元吉君

為 來 1-病 波 盡 江 漸 摔 < 元 せ 吉 重 6 君 < 療 3 は 養 > 朗 治 其 所 效 尠 四 か + な 5 < Ŧī. 3 年 終 Ŧî. 1 9 L 月 本 本 年 が 近 會 Ŧī. 第 月 年 健 世 \_ 康 П 四 В ž 例 害 7/3 會 せ 1 石 於 6 ]1[ T 0) 12 攝 評 瓜; 養 議 1= 於 到 員 1 7 6 舉 3. 永 け 眠 3 せ 5 な 6 か 22 0 71 爾 ナニ L 來 0 3 本 今 會 誠 1= 春 O)

哀

惜

0

情

1

堪

え

ず

功 世 調 せ 1= 3 績 ŧ 四 3 查 沒 君 で to 年 所 1 頭 は = 傳 筝 枚 從 せ 明 2 1= 舉 事 5 + 治 ~ 於 せ 餘 1= れ 九 \$ け 遑 6 其 年 年 专 3 あ 間 間 東 n 0) 鳥 6 農 琿 京 L 3 類 す 0) 商 科 博 す 採 特 2 務 大 物 館 集 1= な 省 學 1 0) 大 5 0) 動 物 奉 如 和 ず 囇 ŧ 學 朗 東 託 職 本 治 京 1= 教 せ 6 邦 ナレ 動 よ 室 鳥 年 物 0 1= れ 學 沖 學 T あ 同 0) 鳥 + 繩 會 0 進 類 T  $\mathcal{F}_{1}$ 同 創 年 步 + ---立 0) 意 1 九 者 調 東 動 京 貢 年 0) 查 獻 几 \_\_\_ to 物 大 せ 學 內 學 + 人 3 務 特 1= 3 5 5 轉 年 省 1-L ぜ 伊 T 0) 脊 偉 孎 6 豆 椎 木 大 t 邦 託 動 72 1= 物 L 島 動 1 以 L ょ 1= 同 物 T 來 -11-學 0 關 逝 亦 华 界 T す 遠 對 鼠 3 去 1-1 類 1-馬 貢 研

其

同

獻

0)

郺

歪

今 左 に 同 君 0) 姓 to 有 す る 鳥 類 を 列 記 L 以 T 君 0) 追 憶 1 資 せ h す

1. Dryobates leucotos hamiyei Stejn.

ナミエゲラ(飯島博士、一八九一年)

D. namiyei Stejn., Proc. U. S. Nat. Mas., 1X, p. 116 (1886)

產地、南本州、四國、九州

2. Luscinia komadori namizei (Steja.)

(小川學士、一九〇五年) ホントウアカヒゲ(飯島博士、一八九一年、小川學士、一九〇八年)、ナミエアカヒゲ

Icotarus namiyei Stejn., Proc. U. S. Nat. Mus., IX, p. 645 (1886)

產地、沖繩本島

3. Chelidon javanies namiyei Stejn.

リウキウツバメ(飯島博士、一八九一年)

C. naniyei Stejn., prec. U. S. Nat. Mus., IX, p. 646 (1886)

產地、琉球諸島

4. Parus varius numiyei Kuroda

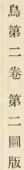
ナミエヤマガラ(黒田學士、一九一八年)

P. varius numiyei Kuroda. 動物學雜誌、第世卷、三一六頁、三二三頁、大正七年八月產地、伊豆新島

次に波江氏の遺せる論著を掲げ以て君の事業の一端を知るに便せん

13	12	11	10	9	8				7	6	5	4	3	2				1		著		
同	同	同	同	同	波江元			. [	上世 起四		同	同	同	同				波 江 元	-		4	動物
					吉			ì	告古				A					吉	î_	者	7	<b>學</b> 催
沖縄蝶類に就て	丹羽氏の質問に就て(鳥類に關するもの)	Dermestes 屬の雌雄の標徴	雨蛤に似て非なるもの	コキクがシラカハホリに就て	ペンタクライナス採集法				對馬採集日記	東京市民の食膳に供する動物に就て	蝉の發音器に就て	鶴に就て	伊豆諸島の鳥類	日本のマス類に就て				日本に移怠する蝙蝠の記	10000000000000000000000000000000000000	表	1	志曷載の分
七	七	五	五.	Ξ	Ξ	五	四	四	==	=			_		periodi named				•	卷數		
五.〇、	六七、	二四三、	二四三、	四四〇、	三八〇、	110、東北、11110、	四七九、	八六、三元九、四三七、	三宝、云西、	七二、三二七、四九〇、	四十、五二、	七三、	三元、三元、	二七〇、	101,	四八、五10、	量べ、三八、三八、	プヨーカカー	r.	頁數		
35	34	33	32	31	30	<b>2</b> 9	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14 波	著
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		江元吉	者
遠藤理學士留別海岸に狼魚	土佐の蜻蛉	四國產爬虫類及兩棲類	野鼠か驅除する一方法	ヤイロツグミ英彦山に來る	タカチホヘビの新産地	エゾイタチに就て	タカチポヘビに就て	三崎近傍のクルマエピ類	本邦産蛇類の學名に就て	ウシエビ	アルバトロース號を横須賀に	サクラエビ	アマガヘル雨蛤に就て	シラタエビ	トラフがヘル	ヨシヱビ	銃狐家に望む	アカシヱビ	モエビ	カウがヒピルの保護系	シバエビ	表
を捕ふ											に觀る記											題
五五	五.	五五	=======================================			<b>□</b>	0	九	ル	九	儿	八	八	八	八	八	八	八	七	七	t	卷數
四〇	二九七、	二八四、	ーせ、	三三六、	七二、	二九〇、	四四、	三七六、	三三七、	- 0-t;	五五、	三九五、	二六四、	三三八、	一八九、	五二、	10°	六八、	三七五、	三三四、	三三四	頁

		~ -			~-		~-	~~	40	40		_	10				4.0	4-		00	0.0		00 1	
	57																波:	41 大波	È				36 波	著
问	同	[6]	[百]	间	间	问	间	同	回	同	同		同	[ii]	同	间		上江 字元		[ii]	回	同	江元	
								- 4										一吉					吉	者
沖繩	沖繩	ハカ	小海	南米	ヒゲ	沖繩	ヤツ	アカ	函根	支那	香魚		臺灣	蝦蟇	斷片	白蟻	樺太	播磨	越中	南鳥	八重	三崎	高知	
産守	及在	バネズ	雀	八秘露	ナナが	及在	がシ	ツク	山椒	產變	の産		產	悪果し	鳥報	0	0)	產蛇	滑川	島産	山群	實驗	產爬	表
宮類	美大	ミの		の動	F	美大	ラ	シが	魚筑	鯉	卵場		毒蛇	て無	11.	,,,,		類に	附近	動物	島産	所船	<b>业</b>	
に就	島の	大群		物		島の		モ	波山		と食師			用のこ				就て	の動		カナ	小屋		
て	集	海を流				小獸			上に持		1114			長物物					物		マ ビ マ	中のよ		
	為類	渡る				類に就			棲息す					歟							屬の新	小蛇		
						て			,												和種紹			題
																					介			- (1)
四四	pg	四四	四四	四	Ξ				0	ō	=	=	Ö	九	九	八	八	-t	七	t	-6	六	六_	卷數
四四四	四	三六	一七	九九	五	四五	四二	四二	三九	三八	二六三	二六	型	五	显完	三〇	Ξ Ο	三八	二六		五七	四三三三	四二	Į
=	$\vec{\ }$	``	四		Ó	=			九	八八八	=	六、	豐富	Ħ.	3月178	-				八	7	=======================================	三	
													Ì		三									数
E3			,		16			-	7	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60		著
鼠族調	表		細菌	ムクル			表	1	i	72								64			61	60	59 波 江	著
族調	表	1	軍學	クドリ	· }		表	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	j j	_													波江元	著者
族調查第一報	表	1	菌學雜	クドリの磨	٠ <u>١</u>		表	1	Z E	同一南	同パパ	同	同	同	河沖	同	同	同白	同メ	同朝	同朝	同	波江元吉 神	
族調査第	表		菌學維志揭	カドリの	٠ <u>١</u>		表	点. 括 車	( X ( )	同南洋諸	同パラオ	同一庁蛇に	同ハンザ	同再び盲	同沖繩産	同一陸隅の	同とと	同白魚の	同メンゴ	同朝鮮産	同朝鮮の	同島、雪	波江元吉一種なり	
族調查第一報	表		菌學雜誌	クドリの磨	٠ <u>١</u>		表	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産	同パラオ石灰	同一宮蛇に就て	同ハンザキに	同再び盲蛇の	同沖繩產盲蛇	同 薩隅の爬虫	同・臺灣の黒肢	同白魚の屬種	同メンゴン姓	同朝鮮産メン	同朝鮮の爬虫	同一一一一一一一一一一	波江元吉 神郷群島な	者
族調查第一報	表		菌學雜誌渴載	クドリの磨	٠ <u>١</u>		表	点 事の	( X ( )	同南洋諸島	同パラオ石灰洞中	同   肓蛇に就て名和	同ハンザキ	同再び盲蛇の卵に	同神郷産盲蛇の産	同院隅の爬虫及雨	同臺灣の黑肢猴	同白魚の屬種	同メンゴン蛙の習	同朝鮮産メンゴン	同朝鮮の爬虫兩枝	同。一、一、雪中に羽蟲	波江元吉 神郷群島を通過	者
族調查第一報	装		菌學雑誌掲載の	クドリの磨	٠ <u>١</u>		表	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の	同パラオ石灰洞中の蝙	同   肓蛇に就て名和所長	同ハンザキに就	同再び盲蛇の卵	同神郷産盲蛇の産	同一陸隅の爬虫及雨	同臺灣の黒肢猴	同白魚の屬種檢	同メンゴン蛙の習性に	同朝鮮産メンゴン蛙に	同朝鮮の爬虫兩棲類	同能、雪中に羽蟲を驅	波江元吉 種なりや	者
族調查第一報	表		菌學雑誌掲載の	クドリの磨	٠ <u>١</u>	ij	表	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一	同パラオ石灰洞中の	同一盲蛇に就て名和所	同ハンザキに就	同再び盲蛇の卵に就	同神郷産盲蛇の産	同一陸隅の爬虫及兩棲	同臺灣の黒肢猴	同白魚の屬種檢	同メンゴン蛙の習性	同朝鮮産メンゴン蛙に	同朝鮮の爬虫兩棲類	同能、雪中に羽蟲を駆除す	波江元吉 種なりや	者
族調查第一報			菌學雑誌掲載の	クドリの磨	٠ <u>١</u>	ij		点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一	同パラオ石灰洞中の蝙	同   盲蛇に就て名和所長より	同ハンザキに就	同再び盲蛇の卵に就	同神郷産盲蛇の産	同一陸隅の爬虫及兩棲	同臺灣の黒肢猴	同白魚の屬種檢	同メンゴン蛙の習性に	同朝鮮産メンゴン蛙に就	同朝鮮の爬虫兩棲類	同能、雪中に羽蟲を驅除	波江元吉 種なりや	者表
族調查第一報	題		菌學雑誌掲載の	クドリの磨	٠ <u>١</u>	1.7	M	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一	同パラオ石灰洞中の蝙	同一盲蛇に就て名和所長より來	同ハンザキに就	同再び盲蛇の卵に就	同神郷産盲蛇の産	同一陸隅の爬虫及兩棲	同臺灣の黒肢猴	同白魚の屬種檢	同メンゴン蛙の習性に	同朝鮮産メンゴン蛙に就	同朝鮮の爬虫兩棲類	同。 は、雪中に羽蟲を驅除する	波江元吉 種なりや	者
族調査第一報告	題卷數		菌學雑誌掲載の	クドリの磨	٠ <u>١</u>		題	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一	同パラオ石灰洞中の蝙蝠	同	同ハンザキに就て二	同再び盲蛇の卵に就て二	同沖繩産盲蛇の産卵	同陸隅の爬虫及雨棲類	同臺灣の黑肢猴	同白魚の屬種檢索	同メンゴン蛙の習性に就て	同朝鮮産メンゴン蛙に就て二	同朝鮮の爬虫兩棲類	同館、雪中に羽蟲を驅除する歟	波江元吉 種なりや 神郷群島を通過する鷹類は果して何二	老
族調査第一報告	題		菌學雑誌掲載の	クドリの磨	, E	ĵ	M	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一種	同パラオ石灰洞中の蝙蝠ニモニ	同 盲蛇に就て名和所長より來信 二六 五	同ハンザキに就て二六五	同再び盲蛇の卵に就て二六四	同神郷産盲蛇の産卵ニホ四	同。薩隅の爬虫及兩棲類。二六	同臺灣の黑肢猴ニ六二	同自魚の屬種檢索ニ五五五	同メンゴン蛙の習性に就て二五五	同朝鮮産メンゴン蛙に就て二	同朝鮮の爬虫兩棲類	同館、雪中に羽蟲を駆除する戦ニエ	波 江元 吉 種なりや 沖縄群島を通過する勝類は果して何 二四 五	者表
族調査第一報告	題卷數號		菌學雑誌掲載の	クドリの磨色	E E E		題 卷数 號	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一種	同パラオ石灰洞中の蝙蝠ニモニ	同一一盲蛇に就て名和所長より來信一二六	同ハンザキに就て二六五	同再び盲蛇の卵に就て二六六	同神郷産盲蛇の産卵ニホ四	同陸隅の爬虫及雨棲類	高 臺灣の黑肢猴 二六	同自魚の屬種檢索ニ五五五	同 メンゴン蛙の習性に就て 二五 五三	同朝鮮産メンゴン蛙に就て二五五	同朝鮮の爬虫兩棲類ニ五五	同館、雪中に羽蟲を驅除する歟	波江元吉種なりや神郷群島を通過する應類は果して何二四	者表
族調查第一報告 ? 一	題 卷數 號數		菌學雑誌掲載の	クドリの磨色	£ .		題 卷数 號数	点 事の	( X ( )	同南洋諸島産蛇の一種	同パラオ石灰洞中の蝙蝠ニモニ	同 盲蛇に就て名和所長より來信 二六 五	同ハンザキに就て二六五	同再び盲蛇の卵に就て二六四	同神郷産盲蛇の産卵ニホ四	同陸隅の爬虫及兩棲類ニ六三三三	同臺灣の黑肢猴ニ六二	同自魚の屬種檢索ニ五五五	同メンゴン蛙の習性に就て二五五	同朝鮮産メンゴン蛙に就て二五四二	同朝鮮の爬虫兩棲類	同能、雪中に羽蟲を驅除する既二五一七	波 江元 吉 種なりや 沖縄群島を通過する鷹類は果して何 三四 元九	者表





像の君吉元江波故



論

說



### 第 卷二第 號 111 Ħ TE.

る間にありて九州平戸邊三略々緯度を同じくす

# 濟州島採集の主なる鳥類に就て

附

濟州島產鳥類目錄 理 學 士

森

濟州島は木浦を南に去る九十五浬の海中に孤立する大島にして面積百二十二方里其の地理學上の位置は

三十三度十二分より同三十三度三十四分に至り東經百二十六度八分より同百二十六度五十七分に至

田

爲 長 禮

前に戸 じ同氏は五月十五日京城出發木浦港より同島に渡り約四週間漢羅山南側椎茸小屋に立籠り専門に烏類の 唯河岸に其の昔影を認むるのみ、されご中腹には今尚濟州島森林三稱する落葉凋葉樹の美しき林を存す。 其の以後に屬する消火山にして絕頂に周園約一里よりなれる噴火口を有し夫れより山脈規則正しく四方 本島は地勢東西に延び南北に狭く略楕圓形をなし中央に海拔六千六百餘尺の漢羅山あり、 れしにより京城高等普通學校に於ても に緩斜し山麓に廣大なる裾野をなして海に入る、 田直太郎氏は此の森林中より黒田の新亞種三檢定せしシマシジウカラミイ、ジマメジロを採集さ 度同島に採集を試みんごし此度本校囑託 此の山麓に昔時美しき常緑潤葉樹の森林ありしも今は 高橋承造氏 第三紀若くは に出 張を命

探集をなし六月十二日歸京せり、同氏の採集物は全部にて九十三個三十種あり、今其の中主なるものにつき記載せんごす

1. Pitta nympha T. & S. ヤイロテウ

林中に其の鳴聲聞ゆ、其の鳴聲は二回連續して「カアヘイイ」「カアヘイイ」ご語尾を强く上げて發し多くは老樹の梢頭に止まりミソ +} ,ザイの如く體を振り乍ら調子を取る、地上に居るこきは鳴聲や發せず其の飛ぶや一直線にして早く直に其の影を失ふ、胃中には多 |形態は日本鳥類圖說下卷三七五頁の記載通り誠に美麗なる鳥なり、今が「渡り」の最好時期(五月二十八•九日ご見え彼方此方の森

Dryobates leucotos quelpartensis, subsp. nov. サイシウオホアカゲラ(新亞種・新稱

す。鼻孔は短毛にて僅に被はる、故常に外部より鼻孔を見るここを得、階峰三七、翼一四五、尾八九、 富み殆ご褐軟皮色を帶びざるここ、下尾筒は一層深赤色なるここ、上下兩面の白色部には著しき 黄褐色を帶び ざるここ等にありご し、體は多少小形なるここ、體色一般に暗色に富むここ、上面に白色少きここ、翼に於ける白斑は餘程小形なるここ、耳羽は白色に 基型標本は大正七年五月廿一日濟州島にありて京城高等普通學校の採集人高橋承造氏の採集せる雄成鳥なり。 南部北海道及び本州中部以北のオホアカゲラ (D. 1. subcirris Stejn.) ご一見同様なるも次の諸點にて識別するここを得べ **断蹠二二粍あり**。

左に今回の新亞種の全部の記載を附記せば、

く所は輻狹くなり中には切るこものあり頭上の羽毛は鼠色なれご其の先は何れも美麗なる鮮紅色なり 前額●耳羽●眼先き●眼の後上部は淡黄褐色にして後頸の兩側の黄白斑三耳羽三の間は黑色帶を以て境せらる、 されご後頭に續

上背は一様に黑色なるも下背は黄白色にして夫に大なる幅廣き黒色横斑を変の(第十圖参照)。

雨覆内側の一個は何れも黑色、中には其の次の羽も黑色のものあり其の他及び風切羽の斑紋は第十二個及び第十三圖の如し、 小翼羽・小雨覆は黑色、中雨覆は外側の二三は黑色、其の他は內外兩瓣共に大なる自色斑を有すれご黑色部の大さに達せず、大

下面 下嘴基部より後方に至る黑帶は耳羽後方にて二分し一は上行して頭の黑色部に達し一は下行して上胸にて左右殆んご相



■ 一十第 ラゲカアホオンセウテ



圆 ナ 第 ラゲカアホオ**ウ**シイサ

色殊に下方に至るに從ひ色濃厚こなり下

0)

兩脇)

黑色部の 幅狭くなる、

胸部の下部以下は紅

尾筒は

殊に

て黄白の縁を有す、此の羽毛下に至るに從ひ(腹部

腮は白、喉は淡黄白、胸部の羽毛は黑色にし

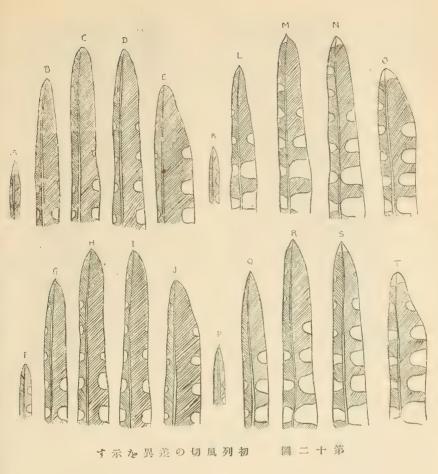
合す、

毛の斑紋は第十三周の如し。

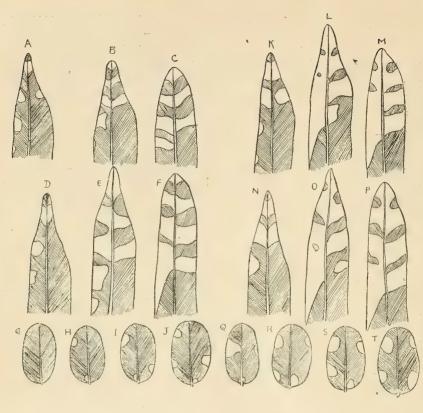
尾 中央の二對は全部黑色、第三、第四、第五對の羽紅し。

白斑を有するものあり第二對目の尾羽に二小 切羽共に白色斑大にして斑紋の敷も多し(アカゲラには に達するのみ(3)喉は白色、 後方に至る黑帶は耳羽後方にて二分すれご上行のも にして夫々微かなる細き横黑斑あり(3)下嘴基部より 比較するにラウセンオホアカゲラは(1)下背は純白色 今之をテウセンオホアカゲラ(D. C. uraleusis Malh.) こ シウオホアカゲラミの測定表を示す但し、印あるもの 黄褐色を帯ぶ(4 は後頭の黑色部に達せず下行のものは上胸の兩側に僅 特に胸側のものにありて著し(5)圖の加く尾羽、 )胸及腹の兩側の各羽毛の黑色斑幅 )左にテウセン 胸部の中央は擬白色に淡 オホア カゲラごサ 風 狹 0)

は基型標本なり(七八頁参照)。



は第三、第四及び第五羽、 依る、而してAFは第一羽、Bロは第二羽、ア にしてユー王は一標本、ヨーニは他の標本に A-J はサイシウオボアカゲラの初列風切羽 は共に第七羽を示す。 羽、Dは第六羽、Iは第五及び第六羽、E K-丁はテウセンオボアカゲラの初列風切に 0 Rは第三、第四及び第五羽、NSは第六羽、 る、而して玉 卫は第一羽、丘 してKーロは一標本、Vー工は他の標本に依 Tは第七羽を示す、Rの内離五白斑のもの 日は第三及び第四 心は第二羽、 IL .1



す示を異差の覆雨大び及羽尾

圖三十第

五對にして第一及び第二對は全部黑色なり。

Α

Dは第三對、

В

区口第四對CO

F

は第

A-Cは一標本、D

一下は他の一

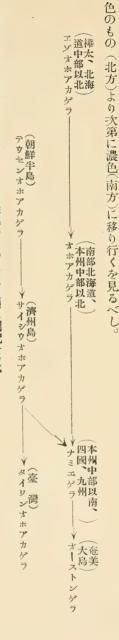
標本に依る

A-Fはサイシウオホアカゲラの尾羽にして

第一 K-Mは一標本、N-Pは他の一標本に依 K-Pはテウセンオホアカゲラの尾羽にして J ÷ G 小自點あり後標本にては全部黑色なり 本(K-M)に屬するものは内外瓣に一個宛の 五對にして第一對は全部黑色、第二對は前標 る、N Nは第三世、L Oは第四世、M -JはサイシウオボアカゲラQ-Tはテウ ンオホアカゲラの大雨覆にしてGQは内側 丁は白色部の最も多きものな示す。 33 H Rは同第二羽、I Sは同第三羽、 P は 第

														-			-		
九	. 八	ئا-	六	<i>I</i> I.	四	=======================================		*	四	Ξ			八六一	八八〇	1011	一二六一	三六九	七八三	番號
同	同	祠	同	同	同	同	同	同	同	同	同	京城高等普通學校	同	间	同	同	[ii]	李王職博物館	所藏
同	同	同	同	同	同	同	同	サイシウォホアカゲラ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	テウセンオホア カ ゲ ラ	亞種名
3	\$	4	9	9	우	<b>\$</b>	9	\$	4	8	9	우	4	9	4	9	\$:		雄雄
同六月八日	同六月六日	同一六月八日	同六月一日	同 同 二十八日	同同二十日	同同十八日	同同一同十八日	大正七年五月二十一日	大正四年五月二十一日	同	大正二年十月三日	四十三年六月一日	同一十月十九日	大正元年十二月十五日	大正三年三月二十日	大正三年九月 十 五 日	四十三年二月十六日		採集年月日
同	同	同	同	[i]	同	间	同	濟州島	黄海道延安	同	[11]	京畿道光陵	江原道江陵	京畿道光陵	黄海道谷山	金剛山山	京城		探集地
四四四	一三九	<u> </u>		四 五.	四四四		四二二	四五	四六	一四六	<u> </u>	<u></u> 玩.	79 20	五五二		Pri Pri	四		展長
八八八	八六	八九	八八八	14	八六	八六	八 -L	八九	九二	九三	八九	九六	八八八	九〇	1/4	八八八	TL Ti.	九三	尼尼
==				<u> </u>	<u></u>		=======================================			111		:: H		=======================================	1	•	21.00 21.00 21.00 21.00 21.00		8H:
四	三八	H 火	三六	::	=======================================	三八	三上	三七	三八	三九	1 · i	<u> </u>	三七	[ <sup>14</sup>	14	: : -C:	) i	(O.5)	咣

淡色なるも測定上(「鳥」第四號五頁参照 はオホ る。此亞種發見によりて本邦産オホアカゲラ類ミテウセンオホアカゲラミの連續を明に示すものなりミ云ふを得べし、即ち體色の淡 前記測定より見れば平均してテウセンオホアカゲラはサイシウオホアカゲラより翼、尾等に於て大なるを知る、以上の結果此新亞種 アカゲラごナミエゲラごの中間のものにして色彩上は前亞種に近さも體小にして「「鳥」第四號四頁參照)、後亞種よりは著しく )同大なりこ云ふを得べし。故にサイシウオホアカゲラはエゾオホアカゲラミ一見して相異



次に地方に關せず單に淡色のものより濃色のものに至る順に列記せば、

ゾ オ 赤 アカゲラシテウセンオホアカゲラシオホアカゲラシャ イシウオホアカゲラ→タイワ ン オ ホ アカゲラ→ナモエゲラ→

オーストンゲラ

3. Terpsiphone atrocaudata owstoni Jouy サンクワウテウ

次列風切羽の外瓣の縁朱紅色にして幅廣きこ、 日 えず多くは五分以内なるここによりて明かなり。 |本鳥類圖說下卷三九五頁の記載:一致し半島に産するキウシウサンクワウテウご比するに背面紫赤色にして半島産より赤味强く、 腹の白色部の範圍狹きご及び最外側尾羽 こ第二對目の尾羽この差大なるも八分を超 左に測定を記せば、

	番號
京城高等普通學校	所藏
キウシウ	æ
サンクワウ	種
テウ	名
\$	雌雄
大正	採
正二	集
年五月	年
	月
一十八日	日
京畿	採
道	集
<b>光</b> 陵	地
三寸一分五厘	翼長
七寸九分五厘	尾長
寸 九分 〇原	尾羽トノ差に
五分	跗蹠
五分四厘	嘴峰

七九

五	四	Ħ	=		E	
同	间	间	同	$[\vec{n}]$	[4]	同
同	同	同	同	サ	[6]	同
				<b>ک</b>	:	
				ŋ		
				ワ		
				ウニ		
				テックウ		
			-			
\$	\$	\$	· ·	8	8	*
同	同	同	同	间	大正	明治
					七年	다.
六月	六月	六月	同	五月	五月	五. 4:
八	六	五.		+		-t: 月
E	日	П		11	П	II
同	同	间	同	濟	[ii]	同
				孙		,
				$\int_{10j}^{t_{l}}$		
二九〇	二九〇	HOH	1100	三〇五	= 10	Ξ
九九の	つたこの	八〇	스 스 등	七00	九六	10六
	0	0	0	0	( )	0
Ţį.	pu O		八〇	五〇	199	1110
		四六二	四六	四八	五〇	Fi.
	五					

# 4. Xunthorygia narcissina zanthopygia (Hay) マミジロキピタキ

翼の白斑は雨覆のみならず内側三列風切の外辨にも及ぶここ普通のマミジロキビタキこ同じけれごも採集せる二個の中一個に眉斑 して二個共上胸兩側の黑色部多し、半島産のものにても稀れに眉斑後端に黄色を帶ぶるものあり、體の測定其他を表示すれば 幅廣く且つ其上緣三後端三に黃色あり(羽の基部は白色)又一個は眉斑幅廣けれども白色にして唯後方上顎に達する所は黃色なり、而

The state of the s																		-	
五〇	五〇		三五		三六			同	日	+	月二	35.	同	1					우
Ŧî.					=			同	六日	+	月二	五.	同	贵	2	9	後方		♦
四分	五分		二寸二分五厘	100	三分五厘	島	州	濟	日:	+	月二	年 五.	大正七	黄		緣	上	·	♦ '
m m	長	尾	長	翼	晔	 地	集	採	日	月	年	集	採	班			眉	雄	此

## 5, Horeites cantans cantans T.ds. ウグヒス

テウセンウグヒスミは(1)外形の稍小なるこミ(2)背面鶯色なるこミ(3)眉斑及下面灰白色なるこミ(4)脇は橄欖褐色に近し(5)初

### 表示すれば

No. of Concession, Name of Street, or other Persons, Name of Street, or ot						-														_
	八〇		1110	,	11110				同	日	-[-	六月		同	♦			同		_
	七五	0	11110		=======================================	島	***	₩i	濟	H	一十六	五月	七年	大正	\$	ス	ቴ	ウ ク゛		<u> </u>
	八〇	-اللم	二四五.		=======================================	里	凉	道清	京畿	П	十九	年六月	六	大正	o <del>,</del> 5-			同	=	2
	八八八		四〇			Ш	价	南	平	H	十六	年七月	五	大正	8			同		
	八分四厘	<b></b>	二寸分	五.屬	二寸三分	外	門	西大	京城	日	月二	年六	三	大正	\$	とス	ウ グ	テウセン		
赌	DA:	别	長	尾	翼 長		地	集	採		月日	年	集	採	雄雄	名	種	亚	號	

### Troglodytes troglodytes, subsp.

ミソサザイ類

切外辨の茶色斑紋幅狹くして色濃きこご等によりて異なる恐らく日本産ご同一なるべし。 ァウセンミソサザイミは(1)雨覆に於ける白斑の數極めて少く僅に中雨覆に三個づ、の白色斑 點を有するの みなるここ(2)初列風

	ミソ	テ ウ セ	亞
	サ	ン ミ ソ	種
Name of the last o	イ類	サッイ	名
	♦	\$	雌
			雄
	大正	大正	採
	七年	六年	集
	一六月	九月	年月
	二 日	二十月	日日
SOCIETY OF THE PROPERTY.	濟	京城	探
	州	西大	集
	島	門外	地
			翼
	一六五	八分	長
			尾
	$\stackrel{\textstyle}{\circ}_{\pi}$	三分	長
			III:
	五. 五.	五分五原	蹠
			꺳
	四〇	四分	썉

### -1 Fophona personata personata (T. & S.) イカ シレ

の色ご異なるここ(3)額は白斑を交へず純黑なるここ(4)腮の黑色部は極めて幅狹き(八厘位)ここ(5) 脚は淡黄色なるここにて區 ハシブトイカルごは(1)大雨覆内側三枚は白色に非ずして淡黄褐色なるこご又極めて大なるこご(2)三列風切は淡黄褐色にして背

### 別せらる、體の測定を表示すれば

,			
オ	2/	III.	
	プ		
カ	}	種	
	7		
N	カル	名	
		雌	
우	우		
		雄	
大正	大正	採	
七	大正七年	华	
年六	年一	华	
月	月	月	
日日	九日	П	
濟	京	探	
	城		
州	市	集	
Et.	場	地	
島	- 3 份		
		双	
三七〇	三十七分五原	長	
		16	
-t 五.	二寸 八分 五原	Æ	
		III	
00-	-L->	PA	
		17/13	
七五元	-La High	山作	

# 8. Alunda arvensis intermedia Sw. + ウヒバ

IJ

### 幼鳥の記載左の如し。

内方は黑色なり、下面淡褐色にして脇は暗褐色を呈し喉は淡黄褐色なり而して喉には微かなる褐色斑點のり胸は赤褐色の地に黒褐色 部の羽毛微に冠狀をなし先端何れも灰白色なり、顔には黄白色の眉斑あり、尾羽も黑褐色にして緑赤褐色最外尾羽白色なれごも内辨 背面黑褐色にして羽線兩側は赤褐色先は灰白色を呈す、風切羽も黑褐色にして外辨赤褐色なり而して先端は幅狭く灰白色なり、後頭 の総斑あり、 **嘴は上嘴褐色下嘴稍長し、脚は淡褐色なり。第一初刻風羽は幼鳥にては常に成鳥よりも長し。** 

チ	コ	蓝
ヷ	E	
ቴ		種
パ	パ	名
1)	Ŋ	有
<b>*</b>	1	雌
金 幼鳥		雄
大正	大豆	採
七	六	集
年五	年五月	年
月三	月二十	月
十日	日日	日
濟	平	採
州	安南道龍	集
島	部	地
		翼
二 九 〇	二寸九分二厘	長
		尾
1-1:0	二十二分	長
		311
八五	六分〇原	Dis
		門片
[25] 36.	三分八师	晔

後趾の爪はコヒバリは一分六厘なれごも濟州島のチウヒバリの幼鳥は三分八厘の長さや有す。

# 9. Parus major quelpartensis Kuroda シャシジウカラ

漢維 廣し、雌は雄に比し喉及び上胸の黑色部に金属性光輝多し。 山南側雑木中に多し、 其の鳴聲普通のシジウカラミ稍々異なり甚だ清喨なり、腹部中央の一黒縦斑は普通のシジウカラより幅

,						番
六	五.	四	Ξ			號
			g states			雌
\$	우	\$	♦	3	\$	雄
同	同	同	同	同	大正	採
					七年	集
는 기	五	六	六	六	五	年
月	月	月	月	月	月	月
-		_	=	プレ	= +	
日	干日	日	日	日	П	F
同	同	同	司	同	濟	採
					카니	集
					島	地
		<del>- 1</del>				翼
六九	六六	六八	六七	六五.	六ミ九ヌ	長
						尾
六四	五四	六五	六二	五二	五三九义	長
						跗
一 七	一七	一八八	八八	九	一点	
						꺳
_		 <u>=</u>	_			峰

10. Zosterops palpebrosa ifime Kuroda イイジャメジロ

漢羅山南側の雑木林に多く現時最も盛に鳴く、殊に小鳴きするこきに聲佳し、雄は下面淡黃褐色の地に中央縦に黄條通れり。

				番
	<b>Ξ</b>			號
				雌
	\$	8	\$	雄
	同	同	大正	採
			七年	集
	六	六	五.	年
	月	月	月二	月
	八日	日日	二十二月	自
	同	同	濟	採
			14	集
			島	地
				翼
	六二	六一	六八〇メ	長
				尾
	四五	四五	四三五文	長
Service Control				跗
	八八	一八	一門	庶
				嘴
		A		峰

# 11. Hgithalos caudatus trivirgatus (T. & S.) エナカ

島のものを A. caudata magna Clark こして呼ぶここを得ずハルテルト氏によればシマエナガのみにてmagna はその幼鳥なりご云ふ。 額淡赤褐色、頭上灰白色にして基部黑色なり、半島産ミ異なり嘴基部に起り眼の上部を經て頭側の黑色部に連なる黑帶は幅廣し。半

		香
=	_	號
		堆
2	<b>♦</b>	雄
同	大正	採
CHARLES AND A	-E	华
五	年六	年
月二	月	月
二十		
П	П	El
同	濟	採
	州	集
	Ei,	1112
		災
八五五		長
		尾
五五五	二寸六分〇厘	長
		3H.
四八八	五分〇軍	
		1993
三洲.	二分七厘	峰

12. Hyrsipetes amamotis amamotis (Temm.) um '-y

二 平 有 大豆类年七月二十四日 思報報	), 1 1	同	同	间	同	同	<b>t</b>	亞
こ 4 同 同 同	: :						3	
1 全 同 同 同 同	K*							種
二 字 同 元 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五							۴	作主
同一大工艺工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工							y	名
同一大工艺工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工								番
同								號
同一大工艺工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	<b>→</b>	Ŧi.	<u>pq</u>					此
正常生产 中四日 記録 韓	8	\$	우	\$	\$	8	8	
正常生产 中四日 記録 韓								雄
三十四日 記述 译	く同	同	同	间	同	大正	大正二	採
同以	i i 大	六	六	六	六	七年五	年五	集
同是資産	月二月二	月	月	月	月	月二十	月二十	年月
同是	9	九	七	九			八	日日
温度		日	日		— EI	H		9
		同	同	同	同	濟	京畿	採
並						州	道	集
<b>加</b>	H						光	
Ц						ļi rij	陵	地
1717 171	rt tiet	Tu T	turt	tert	Erct	firt	pu <sub>-</sub>	双
		五.〇		四四五	四三〇	四七〇	五分五年	長
								尾
四方			三八〇			四三〇	四寸	長
<u> </u>	<u>f. ()</u>		_O_				Fi. tqi	311
カラ	にも	六	六		セ	七	七分	Mi
-C 3	fi. <u>()</u>	八	八	0	<u> </u>	0	<u>O hic</u>	咿
九 元 五 (	100	破損	100	100	九六	100	一寸 〇分 五河	醉

ものは風切羽及中雨覆は暗褐色にして其の縁は自然に褪色せるのみなり、最後の二個の標本は疑ひなきエゾヒョドリ IL amaurotis 右表の如く忠南伽耶山産のものは他のものより小形にして次列風切羽の外癬の縁及び中雨覆の先端は茶褐色なり、光陵及濟州島産の leussoniにして前表のものは全部ヒョドリご見るべきものなり而して次列風切の外瓣其他に黄褐色あるは日本内地産のものにも往々

## 濟州島産鳥類目錄

- Garia septentrionalis (L.) トロ
- 2 ,, arcticus arcticus (L.) オホハム
- 3 ? Colymbus fluviatilis philippensis (Bonnat.) カイツブリ?
- 4 " nigricollis (Brehm) ハジロカイツブリ
- 5 cristatus (L.) カンムリカイツブリ
- 6 Phalaerocorax capillatus (T. & S.) シャツ、カハウ
- 7 pelagicus Pall. ヒメウ
- \*8 Demicgretta sacra (Gm.) Oロサギ
- 9 Hemigarzetta eulophotes (Swinhoe) カラシラサギ
- 10 Ardea cinerea jouni Clark P + +
- 11 As galericulatu (b.) Fory
- 12 Anas platyrhyncha platyrhyncha L. トカヤ
- 13 ,, zonorhyncha Swinhoe. カルガモ
- 14 Tudorna cornuta (S. G. Gm.) ツクシガモ
- 15 Casarea ratila (Pall.) アカツクシガモ

- Eunetta faleata (Georgi) ヨシガモ
- Nettion crecca crecca (L.) コガモ

16 17

- 18 Dufila acuta (L.) ラナガガモ
- 19 Spatula clypeata (L.) ハシビロガモ
- 20 Marreca penelope (L.) ヒドリガモ
- 1 Fuligula marila (L.) スドガモ
- 22 Clangula clangula clangula (L.) ホ・ジロガモ
- 23 Cosmonetta historionica (L.) シノリガモ
- Mergus merganser L. カハアイサ

24

serrator I. ウミアイサ

25

- 26 : albellus L. Early
- 27 Anser anser L. コマカリガネ
- 28 albifrons (Scop.) マガン、カリガネ
- 29 Cygnus bewicki Yarrel. ハクテウ
- Buteo buteo plumipes Hodgson / スリ
- Affinis atom malamatic T. S. 2
- 1 Milrus ater melanotis T. & S. + '2
- Fulco peregrinus calidus Latham ハヤブサ

03 12

- 33 Phasianas colchicus larpouri But. カウライキジ
- ಬ # Gras monachus Temm. ナベヅル
- ည္ Squaturola squatarola (I.) ダイヤン
- 36 Egialitis placida (Gray) イカルチドリ

ulexandrina dealbatus Swinhoe シロチドリ

00

23

- 38 Numenius cyanopus Vicilict ホウロクシギ
- 39 phaeopus variegatus (Scopoli) fortovit
- 40 Tringoids hypoteneus (L.) イソシギ
- Helodromas ochropus (I.) クサシギ
- 42 Tringa tenuirostris (Horsf.) サバシギ
- 400 Calidris lencophea lencophea (Vrosg) ッカシンデ
- Pelidna alpina sakhalina (Vieill.) ハマシギ
- £3 Gallinago gallinago (L.) タシギ
- 46 Scolopax rusticola rusticola L. ヤマシギ
- 47 Larus saundersi (Swinhoe) ヅグロカモメ
- 28 " canus h. カモメ
- 49 Synthliboramphus antiquus Gmelin ウミスシメ
- 50 Streptopelia turtur orientalis (Latham) もかに上

\* 51

Cuculus canorus telephonus Heine

クワクコウ

Eurystomus orientalis calonya Sharpe. Fy # by b

\* 52

\* 53

- Haleyon coromanda major (T. & S.) ミヤマシヤウビン
- \* 54 Cypselus pacificus (Latham) アトップメ
- \* 55 Dryobates lencotos quelpartensis, sudsp. nov. サイシウオ
- ホアカゲラ
- 56 Plyngipicus kizuki seebolini Hargitt コゲラア
- \* 57 Pitta nympha T. & S. ヤイロテウ、ヤイロツグミ
- \* 58 Alanda arrensis intermedia Swinhoe Foery
- 59 Anthus cervina (Pall.) ムネアカタヒバリ
- \* GO Hypsipetes amaurotis amaurotis (Temm.) ヒヨドリ
- × 61 Terpsiphone atrocaudata ovestoni Jony サンクワウテウ
- \* 62 Alseonax latirostnis (Raffles) コサメヒタキ

Xanthopygia narcissina zanthopygia (Hay) r & D + E & +

\* (3)

- \* 61 Muscicapa magimaki Temm. 4474
- \* 65 Cyanoptila cyanomelana (Temm.) Turdus naumanni Temm. ハチジャウツグミ オホルリ
- 67 pallidus Gmel. シロハラ

9

\* 68 Monticola solitalius philippensis (P. L. S. Müller)

イソヒヨドリ

- 69 Phoenicurus aurorea aurorea (Pall.) ジャウビタキ
- \*70 Horeites cantans cantans (T. & S.) ウグヒス
- \*71 Phylloscopus borealis lorealis(Blasius) コムシクヒ
- \*72 ,, occipital's coronatus (T. & S.)

センダイムシクヒ

- 73 Regulus regulus japonensis Blakiston + クイタンキ
- \*74 Troglodytes troglodytes, subsp. ミソサディの亞種
- \*75 Chelidon rustica gutturalis (Scopoli) ッパメ
- 76 Sitta europaea bedfordi Ogilvic-Grant アカハラキマハリ
- \*77 Parus major quelpartensis Kuroda シャシジウカラ
- \*78 " varius varius (T. & S.) ヤマガラ
- \*79 Aegithalos candatus trivirgatus (T. & S.) エナカ
- 80 Coreus macrorlynchos japonensis Bonapart. ハシブトガラス
- \*81 corone crientaris Eversm. ハシボソガラス
- 82 , frugilegus pastinator Gould シャマカラス
- \*83 Zosterops palpebrosa ijime Kuroda イイシャメジロ
- \*84 Eophona personata personata (T. & S.) イカル
- \*85 Chloris sinica minor (T. & S.) コカラハヒハ
- \*86 Passer montana saturatus Stejneger ス・メ

- \*87 Passer ratilans rutilans (Temm.) = ウナイス・メ
- \*88 Emberiza civides ijime Stejneger イ・ジャホ・シロ

田直太郎氏の採集にかくるものなり。の他は李王職博物館の所藏にして大正四年一月より四月迄に亘り戸の他は李王職博物館の所藏にして大正四年一月より四月迄に亘り戸備考 ※印は本校所藏にして多くは今回高橋承造氏の採葉にかくる、其

鳥は渡來せざるが如し。

ホアカゲラ、アカハラキマハリ及びシマシジウカラの三種なり。 常州島の島類は一般に朝鮮半島よりも對馬に近く例へばドリあり、湾州島の島類は一般に朝鮮半島よりも對馬に近く例へば井通にて半島にては 之れに 代ふるに テウセンカグヒス、シマエナ共通にて半島にでは 之れに 代ふるに テウセンカグヒス、シマエナサの如きは半島と共通のものなり、九州、對馬及び朝鮮半島に近く例へばウサンクワウテウを産し湾州島に本州と同一のサンクワウテウを産ウサンクワウテウを産し済州島に本州と同一のサンクワウテウを産ウサンクワウテウを産し済州島に本州と同一のサンクワウテウを産ウサンクワウテウを産し済州島に本州と同一のサンクワウテウを産ります。

Description of a New Subspecies of  $p_{ryobales}$  tenates from Quelpart Island.

By

Nagamichi Kuroda, Rigakushi

and

Tamezō Mori,

Teacher of the Natural History in the Seoul

Higher Common School.

# DRYOBATES LEUCOTOS QUELPARTENSIS,

subsp. nov

of southern Hokkaidō and the northern parts of Hondō, Japan, but rather smaller in size and darker in the coloration of whole body; upper parts less white; the white spots on wing feathers much smaller; ear-coverts whiter being more faintly tinged with brownish buff; under tail-coverts much deeper red; the white area on both upper and under surface much less fulvescent; nasal opening exposed faintly covered with some short hairs. Culmen 37mm., wing 145mm., tail 89mm., tarsus 22mm.

The type specimen is from Quelpart Island, one of the southern

STATE OF THE PROPERTY OF THE P

islands of Corea. It was collected by Mr. S. Takahashi, May 21, 1918, and is now preserved in the Secul Higher Common School.

Eight more specimens of the present subspecies were examined by us. They measured as follows. In 3%s: culmen 39-41mm, wing 139-144mm, tail 86-88mm, tarsus 22-23mm. long; and in 5%s: culmen 36 37mm, wing 140-145mm, tail 86-90mm, tarsus 22 23mm. long.

The new subspecies is obviously intermediate between D. l. subcirris and D. l. nuniyei of southern Hondō, Shikoku and Kinsiu. In the coloration of feathers it is much nearer to the former than to the latter, while in size it is distinctly smaller than subcirris but undistinguishable from nuniyei. It is decidedly distinct from D. l. leucotos, D. l. uralensis (=D. l. corensis) and D. l. liljordi.

# アラバヅクの蕃殖の觀察

# 法學士川 口 孫 治 郎

唯其中の一羽を育てるこいつて留保した者があつたさうなが、一向經驗のない男のこここて程なく猫にこられたご聞 なつてるたのを、附近の心なき男共が巢から持ち出して居つた。それを上西氏が見付けて其不心得を論して巢に返さしたのである。 る。更に聞けば、去十五日午後、内なる雛三羽が早や葡萄色の羽毛で體の大部分を蔽はるてまでに成育し、二三歩跳躍し得るやうに 大正七年七月廿一日川尻彌三次君よりの報によれば、高山町外、大八賀村漆垣内なる二宮神社境内に梟型の鳥が巢くつてゐるごあ

上を蔽へる一大老欅の地上三間許なる幹の一部の空洞内に在る。 滯留中の實驗者は其翌廿二日午後、共々觀察に行く。巢は境內東南隅に離れて特立せる、周圍十六尺餘、高約十間許、 地域百坪以

するに、洞内底部の一隅、稍凹んだ處に卵が横へられ其處で孵化したものらしい。 人を見て唯さへ圓い眼を一入見張つて警戒し示威する。周圍に構巢材料もなく、又それを敷いてゐたらしい痕跡をも止めない。熟祭 の入口は徑二尺許、內部は奥へ一尺五寸、橫幅三尺餘、下へ二尺で底になつてゐる。雛は二羽其一隅に蹲つてゐる。餘程成育して、 フルッーミ響く低き嫌忌の表示らしい叫を反覆する。此時始めてアラバヅクに相違ないここを確めた。愈々巢内觀察にかてる。空洞 處からか飛び來つて、實驗者の頭上僅に一尺許の空を掠めて翔ける。下から示威の發聲するこ、攻擊だけは止めて附近の枝にこまり 得ない。乃で巢内の實驗に著手する。三間梯子を立てかけ、之を登つて巢の入口に近くご、今まで一向に知れなかつた親鳥が突然何 其内部の觀察にかてる前、親鳥の日中の所在につきて確かめん三欲し、境内の木立、就中常綠樹の繁みを精察したが、遂に見出し

る用心の爲でもあらうが、羽毛殊に下から見た彼の腹部の羽毛の色彩が、欅の幹や枝や葉なごこの關係上、自づご保護色になつてる 此日の實驗で、彼親鳥は杉の密林よりも遙に明るい欅の枝の葉陰に日中靜止してゐるここが分つた。之は勿論巢に近づく敵に對す

るここ、從て慣れない敵には甚だ分り難く、動もすれば樹の瘤ぐらゐに看過されさうであるここで、寧ろ安全であるここも分つた。 世三日は陰曆六月十六日に當る。仍て月明を利用して徹夜觀察するこごにした。夜禽のこごとて從來あまり其智性か分明して居な 左記は其概要である

のにして頭部葡萄色に富み下面は比較的に自らみ從て黑楊縱斑稍鮮明に見ゆ。 午後四 一時觀察に着手す、 實驗の結果多少分明して來た。 今日は選早く、櫟の葉陰に靜止し居る親鳥を認む。熟察の後、他の一羽をも發見す。前者は前 後者は比較的稍小型にて頭部褐色に富み下面 日認めしも PURILLE STATE



島幼のケ

1, ない。 親鳥交互に巢に出入を始む。爾後頻繁に餌を運 午後六時 撃し來るものは、 ズ」を嫌つて反り身になつた瞬間を撮影す。(第十四間参照 は稍隔つた枝に全く無腐心の態で静止し、 ホッ 午後五時、 五十五分、 1 の聲す。 大型の親、 苦心惨憺の後、辛うじて雛の一羽の 觀察地點の背後の木立にて、始めて、ホッ 小型の親の聲である。 即ち推定の雌 毫厘の である Ŧ 午後七時、 身 同 動 小型の親 十分、 Mi

杉 再び親 の親鳥葉に入れば、他の親鳥下方に垂れし枝にこまる。見張番の如く見ゆる。此時、 |簡を透かし觀るに、鳥の動靜手にこる如く分明す。|同四十二分、親鳥、枝にこまり片脚にて立ち、他の片脚を繋げて趾にて、 チリー、 高の の醛頻りに起る。雛の口を開きて餌を求むる醛らし。形容に似も付かぬ細 1 ホッ ] を唯 回 反覆するを聞く。 十六夜の月漸く東にほのめく。 雙眼鏡にて北方觀 いやさしい聲である 察地點 -1 時 より、 半、 南 側 ユリー の方、 方の木立で

の働きは鈍拙なる人の手のそれよりも遙に巧に見受けらる。斯くて雛に哺するに適當なるものごする。彼の趾に獨特の粗き羽刺を有 脚める「トンボ」を攫み、再び之を嘴に啣みなほし、更に啣みたるま、を趾にてバサノ\ご音させながら「トンボ」の羽を扱く。其の脚

するは此扱きの作用をなす為であるらしいここも分つた。 斯くて第一回の哺給より旣に通じて二十回のそれに達した。時計を見るこ七時五十分を指してゐる。僅に五十分間に、兩雛の爲に

一十回、即ち各雛十回宛の哺給を受けてゐる。頻繁に過ぐるもの三思はる るのである。捕獲せらる、ものは、枝にぶら下がつて宿らんごし又は既に宿れる方言「オドリコトンボ」「シホカラトンボ」「チーチ 十二三間を一邊こせる立體的の空間のみで採取せらる。。採取の方法は、靜に枝にこまつて居て、見付け次第、飛んで行つて挿獲す 斯く兩親鳥が其雛に哺給した餌食は、決して之を地上から採取しない。全く巢の所在の欅の八方に擴がれる枝の範圍を核こして約

ーセミ」等其主なるもので、外に時々追つかけて空中で捕獲して歸るここちあるが、其時の獲物に前述以外の蟲もあるやうに認むれ

ごも、其何蟲なるかで確こ分らぬ。

中の無關心の態度ご全く反對に、突如敢然こして實驗者の雙眼鏡を狙つて攻撃し來り、額に其羽風を著しく感ぜしめた。巢に接近す る敵を攻撃する任務は、 同 + 午後八時半頃から親鳥の巢に出入する度數が段々鈍ぶり始めた。反比例に雛が頻りに鳴く。九時五十分頃より月益々明らかになる 五十五分兩親鳥同時に巢内に入る。程なく相次で出づ。其後、親鳥等各自枝に靜止して、餌を採取し哺給するここ著しく稀こなる。 時十分,川尻君歸り垣水君來る。此時實驗者は共に、欅の第一枝に靜止せる小型の親を距る三間半の下に接近したるに、 日中は雌親、夜中は雄親であつたのが妙である 彼は日

\$ に霧動き來る。溪の「カジカ」折々聞ゆ + 同 十五. 時十分頃 分「ヨタカ」の鳴聲溪向 「哺給ありし後、 約二十分毎位に餌を運ぶのみ。 ふの林よりす 同五十分頃より山際の水田に「カヘル」の「ケコ、ケコ」の聲全く歇む。 即ち四十分每ぐらるに一度哺給の計算こなる。 雛折女例 東北の山 一群を發

「日午前○時十分霧散じ月冴ゆ。ホッー、 ホッー、反覆三四回。一時半、雌親枝に止まりたるま、頻りに自己の毛なみを繕ひつ

てあるを認む。橡の質、觀察者の爪先なる地上に落つ。勃こして聲あり。四邊の寂寞を破る。二時三十五分、夜風の寒さを感ず。此

間、兩親鳥至く働かず。

外にも一雛、巢の入口に出現す。此時、兩親鳥狂へるが如く頻りに縱横に飛交ひ、時々近榜の枝に止まりて、低きぉ。 午前三時四十分頃より親鳥共漸く働き始む。同四時、四邊漸く明るく、月光を利用せずして觀察するを得るに至る。同十分聊か意

を發す。同十五分、雛始めて雌親のこまれる枝に移る。 しつて、右に雌親より、左に雄親より盛に哺を受けつて、時々チュリーくして鳴く。頓がて充足せして見え追求しなくなる。雄親「セ 如き勢にて哺給す。雛は恰も日本人の小兒が往々手にする玩具なる「張子の虎」の如く、其頭を8字型に右三左に滑らかに綏漫に動か 殺し、嵩を小さくして雛に哺す。雛遅々こして遂に之を受く。 ミ」を銜み來つて哺せんごするに、雛開口せず。雄親煩悶の態にて頓がて右側に轉じ、雕親に哺す。雌親之を受けて例の扱き方にて 此時以後、兩親鳥ごも巢内に殘れる他の一雛の頻りに鳴きつゝあるを毫も顧みず。唯この巢立せし雛のみに、左右より押寄するが

枝に移る。優に五六間を飛ぶ。懸倒十二分の間に頭部丈は正しく保ち、絶えず觀察者の方面に張目しつこありしは、憐れにも滑稽で 雛、程なく中心を失し傾倒せんごして他の枝に移らんご企て、復た過ち細き枝に倒まに懸垂す。十二分許の後、三度目に安全に他の 午前五時全く哺育を中止し、親鳥等は雛ご稍離れし更に高き枝に靜止し、其後少しも動かず。全く日中の休息に入つたのである。

立せるらし。哺給は夕方開始後當分の間ご、明け方停止前暫くの間ごに、殊に頻繁にて、真夜中には割合に少きものなるここをも確む。 廿四日午後七時頃より巢内に残れる一雛にも哺給す。廿五日午前四時半、其雛を圍みて混雑せるこご咋曉の例の如し。 數分前、巢

あ

うった。

巢立後一ヶ月を經た八月世八日頃、尚ほ欅を中心こして、親子連れ合つて每夜徘徊して居た。

因に云、此欅の卒洞には數年前矢張り同樣の鳥が巢くつて育つた三里人は云ふ。實驗者は、從來の經驗より推して、 に築くうここなからんも、來々年か其次ぎの年には多分、此アラバブクの系統をひきしもの來り菓くうならん三豫斷す。 來年には此處

# オホトウゾクカモメとサケイとに就て

學士黑

理

田

長

稱で示して居る。 故アラン、オーストン氏の List of Japanese Birds and Eggs from Hondo, Kiushu, Hokkaido, and the Loochoo and other Islands. 1908, 細な記事を發表せられた。予は此種類が一九〇八年以前に已に我國で捕獲されたここがある樣に思はれるものを見た。それは橫濱の P. 8. である。此目錄には日本以外のものは恐らく含まれては居らぬであらうご思ふのにオーストン氏はトウゾクカモメ類を左の名 「鳥」第二卷第六號一頁に鷹司理學士はオポトウゾクカモメ(Catharacta antarotica (Less.) が相模灣に於て採集せられたここに關し詳

(1) Stereorarius catarrhactes subsp.? (11) S. crepidatus (Baszs.) (11) S. parasiticus (Linn.)

(国) S. pomatorhinus(T.)

何 づれの種類を指すであらうかこ思つたので調べて見た處が鷹司氏の論文二頁にある Catheracta shua Brünn. のシノニムであるここが にオホトウゾクカモメの一標本が藏せられて居るのを見出した、然かもオーストンが寄贈したものならしく附箋には卅三年 七月下 聞かない。そうだこすればオーストンの種類は最早殆ご疑ひのないオホトウゾクカモメであろうご思つた。近頃動物學教室の標本中 こして記してある點は如何にもオーストンの種類が shua に似て居つたかを意味するのである。 勿論 shua が日本で獲られたここを 明こなつた。處がオホトウゾクカモメは此の屬ではあるが別種である。然しオーストンも純然たるものこ認めなかつたご見えsubsp.? る。(三)はシロハラトウゾクカモメ、(四)はトウゾクカモメ S. pomer intes(T.) であるここが容易に知られるが(一)の種類は我國の何 右の内(二)はクロトウゾクカモメ N. Fielwerk mi (Swainson) ご同であつて只 Bangs ごあるのは Banks の誤りであるここが直にわか 浦賀沖、オーストン氏ごあつた、即ち明治卅三年(一九○○年)に已に我國にて獲られたこごが明ごなつた。此標本の測定を記し

て見るご、嘴峰(露出せる)五一・五粍、翼三九一、尾一三八、跗蹠六五で少しも疑はしい點はない

このここで其名は外人に聞いた處が満洲の鳥だこ云ふたそうである。して横濱の方は剝製になつて居るこ云ふここ迄聞いた。此鳥は 東京の人に容易に撃たれた。其鳥を見る三大さは鳩位で足に全部毛が生へて居り雄の方は中々色々の色で美い鳥で尾は細長くあつた 目錄10頁に明に此種類の學名が記されてあるのを見出した。 叉内田満之助氏の話による三餘程以前に此種か相州酒匂で一羽捕獲せ ので横濱の寺岡直氏に問合せて見たが不幸にして心當がないご云ふ返事であつた。 それ故其儘にしてをいたがオーストンの前記 云ふ迄もなくサケイ(Syrrhoptes proudocus (Pall.))に相違あるまいこ思つた。横濱に若しあるならば見るここが出来るだらうこ思つた ふので、種々尋ねて見るご河原に歩いて居る間は兩翼を引摺つて居つたごのここで、二羽しかも雌雄が一方は横濱の外人に、他方は こすれば少なくこも此珍鳥が我國(朝鮮を除く)で二回然かも接近した地方で獲られた三云ふのは面白い事である られたこのここであるから恐らくオーストンの目録にあるのはその酒匂で排獲された爲めではなかろうか 次に過日相州馬入川で一船頭の談に一昨年頃十一月(頃)馬入の鐵橋の少し上流の河原で質に珍らしい外國の鳥が挿べられたご云 又船頭の言が事實である

には普通の方で奉天附近並びに關東州で獲られて居る。奉天では澤山に剝製になつて居るのを見た位ひである。 てある程である、只飯塚博士によつて朝鮮で當て獲られたここの報告があるのみである(動物學雜誌第世四卷、一〇三真參照)。満洲 因に此鳥は朝鮮でも少く稀れに獲られた位で朝鮮の季王家博物館所藏の鳥類目錄(大正七年四月)にも所有せざる種類の内

顯

والإن المراق والرائي والمراق و

# 沖繩及び奄美大島の採集鳥類

## 井 榮 吉

堀

淺學として一笑に付することなく先覺者の教導を賜はるを得ば仕合せに思ふ次第である 査には意外の時を費し未だ充分の整理は行き屆かぬのであるが其一部分なる鳥類だけでもと本紙の餘白に發表する次第である何卒誤の點ほ余の る。此約三十五日間千個近くの動物を採集して來たのであるが余の不熱心なことと淺學の上に參考書等に乏しい片田舎に居ることとて之等の調 余は昨大正六年七月九日鹿兒島を出發大島本島に約二十日を過ごし沖繩本島に約十五日を過ごし八月十四日一通りの採集を終つて歸つたのであ

に多少の相異がある如く思はれるので奄美大島と沖繩とを區別して之等を記載する次第である、名稱の上に※印を記したるは奄美大島と沖繩と である。然して之れまでの動物分布表には沖繩と奄美大島は共に琉球とせられ一地方と看做されて記載せられて居る樣であるが余の考では其間 偖て数の上から逃べるなちば百個近くの採集をしたのであるが其種類から云ふならば甚貧弱で沖縄では十種位、奄美大島からは二十種位のもの に共通の種類である。

## 奄美大島之部

I. Totanus hypoleucus (L.) 1 Y > 1

二三散在するを海岸に見るのみ然し一般に鷸の類は少なきが如し。

※ 2. Sterna dougalli gracilis (Gould) ~ コアジサシ

到處の海上に常に大群をなすを見る海岸の岩壁の斷崖の穴にも營巢育雛す七月には卵を採集するを得。

- 3. Turtur orientalis (Latham) + 5 % +
- 鳥民はカラバトご云ふ森林の間にて採集せらるこも多からず此島には繁殖し年を通じて見るこ云ふ。
- 4. Sphenocereus permagnus (Stejn.) リウキウアラバト
- 探集せらる、島民は青鳩又は尺八鳩三稱し排へて籠鳥こするもの多し容易に籠に馴れ得るも其性弱く飼ひ悪き鳥なりこ云ふ。 極めて普通にして又到處に小群を見るを得れご里には割合に少く深山にては容易に採集せらる、同島にて繁殖し年を通じて
- 5. Haleyon coromanda rufa Wal. リウキウアカセウビン
- 島民はアカゴロ又はコールミ云ふ多く山間の渓谷に早朝其鳴聲を聞く高地にては稍々普通なれごも里には極めて稀なり山間
- 6. Alvedo bengalensis Gm. カハセミ

に繁殖し年を通じて見らる、こ云ふ。

- 普通田圃の小流に見られ常に單獨に住む、年を通じて見らる、こ云ふ。
- 7. Dryobates leucotos ourstoni (Ogawa) オーストングラ
- 深山に入る時は稍々普通に見らる、種類なり早朝又は夕方には容易に採集せらる、深山に繁殖し年を通じて見らる、三云ふ。
- 6. Ingipicus kizuki nigrescens Saeb. リウキウコゲラ
- 深山に見らるくも多からず此地に繁殖し年を通じて見らるくご云ふ。
- 9 Hypsipetes amaurotis ogawae Hart 到處の森林中に大群をなすを見る十數羽採集せるも殆ご幼鳥のみなりしを以て見れば此島にて繁殖するなるべし島民は一般 アマミヒヨドリ
- Terpsiphone atrocaudata illea Bangs リウキウサンクワウテウ

ヒヨドリの類をヒウスミ云ふ

深山に稍々普通に見らる、種類なり余の採集したるものは凡て幼鳥のみなり、島民の語る所にては四月上旬頃破來し然も營

巢育雛 して九月頃去る三云ふ島民はズナガ三稱す長尾の意味なり三云ふ。

II. Muscicapa narcissina owstoni (Bangs) リウキウキビタキョ

六月世二日雌一羽を採集す。

※IR. Monticola solitarius philippensis (Müll.) イソヒヨドリ

海岸には稍々普通に小群をなすを見る容易に探集せらる、春季繁殖するもの、如し余は幼鳥をも探集せり。

13. Erithacus komadori Temm. アーカ ヒ ゲ

に當て、高く一聲吹く時は良く其音を慕ひ集る故容易にこめもちにて多く採集し得るなり。 籠鳥こなすが故に其繁殖時季に するには細竹の管の長さ二寸位の中央に穴を開き管の中にヨシの葉切れを入れ呼笛を作り笛の一端を指にて閉塞し一端を口 深山溪谷に極めて普通なり春季繁殖し年を通じて見らるここ云ふ、余の採集せるものは凡て幼鳥のみなり、鳥民の之れを採集

※14. Cisticola cisticola brunniceps (T. & S.) キ カ

は一日數十を捕らへ業こなす者ありご云ふ。

畑地の間に多く散棲し容易に採集せらる。

15. Hirundo javanica namiyei (Stejn.) リウキウツバメ

所々に散棲するを見るも多からず春季渡來營巢育雛し十月頃去るご云ふ。

16. Pericrocotus tegimae Stejn. リウキウサンセウクキ

深山に見らるこも多からず、本島にて繁殖するものこ如く余の採集せるものは幼鳥なり年を通じて棲息すご云ふ

17. ? Parus varius castaneoventris Gould タイワンヤマカラン

島民はヤマガラスミ云ふ山間に見らるても多からず春季繁殖し年を通じて棲息すミ云ふ。

※18. Parus major okinawae Hart. ラキナハガラ

所々に見らるとも多からず春季繁殖し年を通じて見らるとご云ふ島民はメスウマ三呼ぶ

19. Goreus macrorhynchus Ierailleanti Lesson. リウキウハシブトガラス

山地に小群を見る、本島にて繁殖するもの、如く採集せるものは幼鳥なり年を通じて見らる、三云ふ。

20. Garrulus lidthi Bonaparte ルリカケス

深山に普通なり常に小群をなし所々に鳴聲を聞く、余の採集せるものは幼鳥多し。春季生殖するならん日中は採集困難なる せらる。住用村を中心ごして最も多し、数年前迄は濫獲せられて其數減少したりしも其後保護したる故繁殖したりご云ふ島 も早朝又は夕方には稍採集し易し、杉箸を割りて其間にヨシの葉を挾み呼笛を作り吹く時は其音を慕ひ集來す故容易に採集

民はヒウサミ云ふ。

 $\chi_{c}$ Zosterops palpebrosa loochooensis Tristram こなし島民は一般にメジロをアラクサマミ云ふ。 到處に小群をなすを見る春季繁殖するものと如し。余は幼鳥を採集す、村童は附近の丘上に於て捕獲せるを數回見たり。節鳥 リウキウメジロ

## 沖繩島之部

furnix taigoor (Sykes) インドミフウヅラ

2. Gallinula chloropus parcifrons Blyth " >

幼鳥を到處に見たり。

沼地又は海岸の草間に普通に見らる余の採集せしものは凡て幼鳥なるを以て見れば本島に繁殖するならんか見童の捕獲せる

3. Charadrius cantianus dealbatus (Sur.) D P F F J

渚に散棲するを見るも多からず本島にて繁殖するならんか余の採集せるものは凡て幼鳥なりき。

※ 4. Sterna dougalli gracilis (Gould) スコアジャシ

れに集合する故容易に多數採集するを得年を通じて見又海岸の斷崖に營巢、育雛すご云ふ。 到處の海上に大群集をなすを見る鰹を漁するものは其群を見て鰹群のあるに揚所を知る便ごなす。一羽を射落す時は群島そ

S. Ninox scutulata (Ra角.) アラバヅク

森林に棲息し本島にて繁殖するもくの如く余の採集せるものは幼鳥にして種類の決定に困難なりき。

6. Hypsipetes annuvotis gryeri Stejneger リウキウヒョドリ

森林に群棲するを見る春季繁殖するならんか余の採集せるものは幼鳥のみなり。

※ 7. Monticola solitarius philippensis (Miller) イソヒヨドリ

海岸又は海岸近くの松林に此小群を見る本島にて繁殖するもの、如く採集せるものの中には幼鳥多し。

耕地殊に甘蔗畑の間に單獨に棲むを見る容易に採集せらる※8. Cisticola cisticola branniceps (T. & S.) セーツカ

※ 9. Parus major okinawae Hart. ラキナハガラ

森林に普通小群をなすを見るも多からず營巢繁殖するもの、如し。

※10. Zosterops pulpetrosa toochooensis Tristram リウキウメジロ

森林中に普通小群をなし花蜜を採るを見る稍々多く營菓、青雛するもの、如し。

驗場長農學士鳥原重夫、同場助手嘉忠義、諸氏の多大の援助こ便宜こを與へられたるに對し弦に深謝の意を表す。 此稿を脱するに當の此採集に於て沖繩縣技師小管件七郎、沖繩縣糖業試驗場長農學士兒玉潤一、同場技手新里利恒、

# 勘察加半島西海岸採集鳥類目錄

枞 Ц 德 太 郎

亞種

本目錄は本年六月中旬より八月下旬に亙り余が露領勘察加(Kamehatka)	utka) 西海	母岸の一部に於て採集せる鳥類標本全部の種名及亞
なりこす。		
而して今回の採集巡路及び日程下記の如し。		
大正七年六月 八 日 浦鹽丸にて函館港發	同	日 ヤウョンスキイ治
同 十 日 宗谷海峽通過		(四日間採集)
同 十四日 ポリシェレツキイ着	同	卅一日 同地後オジュロノイ治
同 十五日 同地發		(十八日間採集)
同 十六日 コシェゴチェンスキイ清初めて上陸	同	八月十八日 浦頭丸にてカジェロノイ發
(卅六日間採集)	同	日 コシェエゴチェンスキイ着後
同 七月廿二日 小汽艇にて同地發、ヤウェンスキイ着上陸	同	十九日 ボルシェレツキイ着上陸
(三日間採集)		(三日間探集)
同 廿五日 同地より陸路オジェロノイ間採集	同	廿二日 消願丸にてポルシェレツキイ發(歸航)

同

H

オジェロノイ着

侗

十七日 同地より陸路ヤウェンスキイ間採集

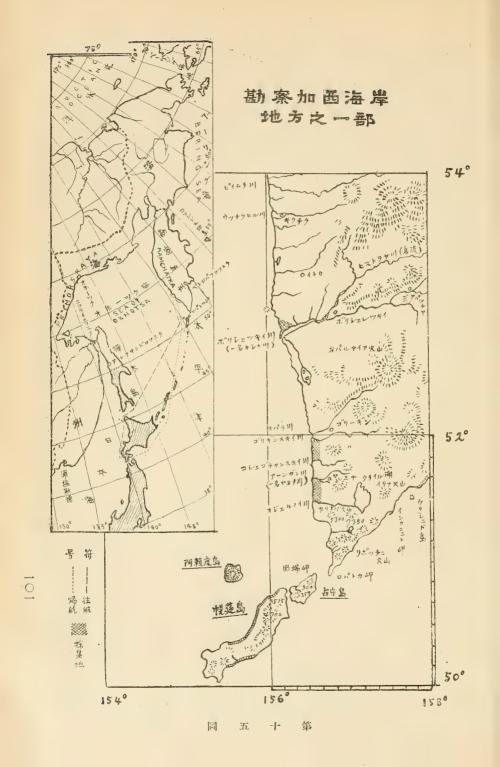
恫 同 同 P

小八日

函館港着(午前) 襟裳岬沖通過(午後) 擇提海峽通過

十七日 近日

(二日間採集)



採集に際し過勢を共にせられたる助手新谷島三君に感謝す。此各種類の分類に際し指導せられたる黑田理學士の好意を厚く鳴謝す。 此採集に於て五十四種類、合計二百〇八羽を得たり。各所に於て多大の便宜を與へられたる堤商會員諸氏に對し深謝の意を表す、尚 左に採集鳥類を各科に分ち採集地、月日、其他を細記すべし。但し採集地は僅々四十五個所に過ぎざれば略字を用ふ。即ちKはコシェゴチェンスキ Mitoginskii, Gはゴリーギンスキイ Gollyginskii なりとす。 イ Koshegochenskii, Y はヤウェンスキイ Yawenskii, O はオジェルノイ Ojernoi, B はポルシェレツキイ Bolshereitskii, M はミトギンスキイ

#### GAVIIDÆ

- (1) Gavia: septentrionalis (L.) & '2
- K. 1 ad., June. 16
- (2) Gavia sp. (? Gavia arcticus arcticus (L.) ) 大米之子。
  G. 1 young, Jane 23.

#### HUFFINIDÆ

- (3) Puffinus tenuirostris (Temm.) ハシボソミヅナギドリ K. 2 かs, & 2 かs?, June 20, 2 々s, July 12 & 16.

## 重量は匁なり、以下同斷)

- Fi	F	R	к		Я	1
.103	. 89	6	E1	4	٠. دن	番號
16/VII	$12/\mathrm{VII}$	3 9	3	3	20/VI	採集月日
34	32	32	31	30.5	31 5	赌峰
258	261	266	258	261	262	夏長
88	83	89	8 ±	86	81	尾長
49	51	50	50	48	51	野縣
101	122	97	92	94.5	92.5	量量
49	+0	<i>⇔</i>	↔ •>	<i>⇔</i>	$\Rightarrow$	推推
3	3	ž	33	:	规山	测定者

(4) Fulmarus glacialis glupischa Stejn. ハナジロフルマカモメ K.2 かs, July 9 & 10; 2 ♀s, July 8 & 12.

K	K.			伸
88	\$	67	51	100
16,	12	9	00	茶
IIA,	$\Pi\Lambda_j$	/ V II	IIΛ,	H
		<u> </u>		
ಐ	36	33	39 4	明 略
279	309	292	300	題
9 5	9	ĽŸ	Ō	प्रांग
113	121	121	124	国
<u>ئ</u>	12-	1	4	विष
4.0	O1	CR.	C71	墨
Ö0	51	53	50	1
139	153	139	180	画
- 39	<u>ين</u>	99	30	jeji
2ad.	\$ad.	ðad.	4 ad	華
id.	id.	.h.	ıd.	禁
33	,,	5	英	设置
	40	9	E	お出

疑はしく恐らく本亞種を誤認せしものなるべし。 尚フルマカモメが邦領海内にて獲られたるの記録あれごも頗る 此點はフルマカモメ(Englacial's L) ごは反對ごなる譯なり。 此點はフルマカモメ(Englacial's L) ごは反對ごなる譯なり。 此點はフルマカモメ(Englacial's L) ごは反對ごなる譯なり。

#### ANATIDÆ

(5) Merganser servator (L.) ウミアイサ

# K. 2 &s, June 18; 1 2, July 12.

- (6) Fuligula fuligula(L.) キンクロハジロ K. 2% s, June 17 & 18.
- (7) Marila marila (L.) ストカモ

K. 24 s, June 17 & July 14; 3 youngs, July 17;

B. 1 young, aug. 19.

(8) Dafila acuta (L.) ラナガジモ

K. 22 s, June 23 & July 12; 2 youngs, June 16 & 23.

(9) Mareca penelope (L.) ヒドリカモ

K. 1 4, June 29; 2 youngs, June 29 & July 4.

- (10) Anas platyrhyncha platyrhyncha L. ドカサ K.14, June 26; 5 youngs, June 16, 26 & July 19.
- (11) Melanonyx segetum serrirostris (Swinh.) ヒルクヒ K. 1 ad, June 26.

尾羽の數十六枚、齒の數廿四個。 翼長 447.5mm. 尾長147.5 mm (凡そ)跗蹠 80mm. 中趾爪共85mm. 本標品各部の測定次の如し、晄峰71.5mm. 下嘴の最厚部11.5mm.

注──本亜種並に其 Typeのものにても稀に尾羽の數の十八枚なる

FALCONIDÆ

# (12) Archibuteo lagopus, subsp.: ケアシノスリの類

B. 1 imm., captured on June, 1918.

して目下余の飼養を續行せるものなり。 ポルシェレツキイ堤商會 漁場員東井金造氏より寄贈せられし活物に

) ) ) ) ) が ) が の 後面は 蛇腹狀にあらずして 網狀なり。

# (13) Lagopus lagopus albus (Gm.) カラフトライテウ

K. 48 s, June 16, 21 & 23; 2\$ s, June 27 & July 7; 13 youngs, June 27—July 20; 8 eggs, June 21; O. 1 \$, Aug. 10; 1 imm.

Aug. 8.

0.46	K. 48	К. 11	K. 10	К. 9	K. 28	К. 8	番號
$8/\Omega$ III	7/VII	14/43	3	23'VI	$21/\mathrm{VI}$	$16/\nabla I$	採集月日
19	19	20	20	21	21	21#6	器器器
ço	10.5	11.5		12	12	12	秀基部 ノ高サ
156	185 5	188	203	197.5	197	191	劉東
70	119	106	125	126	120	126	馬杖
37.5	တ္တ	41	41.5	41.5	41.5	42	跗蹠
ð juv.	+0	10	<i>⇔</i>	→	<i>→</i>	$\Rightarrow$	雌雄:
9,	9.9	33	33	3	33	规山	測定者
	46 8/VIII 19 8 156 70	48 <sup>7</sup> /VII 19 10.5 1855 119 38 φ 46 <sup>8</sup> /VIII 19 8 156 70 37.5 & juv.	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	10 20 203 125 41.5 δ 11 27/VI 20 11.5 188 106 41 φ 48 7/VII 19 10.5 1855 119 83 φ 48 8/VIII 19 8 156 70 37.5 δ juv.	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	28 21/VI 21 12 197 120 41.5	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$

西は北アラスカを經て東部西比利亞に達す。黑田理學士所藏の北千因に Ligopus lagopus albas (Gm.) は北米のハドソン灣の西岸より

るや否やは目下の所にては不明なり。 L.rupestrisのGroup の方に近き様にも思ばる:由にて且つ勘察加のものとは全く相違せりと云ふ。故にカラフトライテウが千島に産するの一標品及び動物學数室の雌雄のものは Lagopus lagopus よりも

### CHARADRIIDÆ

- (14) Charadrius dominicus futeus Gm. ムナカロ B. 1 (sex.?), Aug. 22.
- (15) Ochthodremus mongola mongola (Pall.) メタイチドリ O. 2% s, July 25 & Aug. 2; 1 (Sex?), Aug. 2; 2 youngs, Aug. 7.
- (16) Numentus cyanopus Vicill. ホウロクシギ K. 1 冷nd, July 18.
- (17) Phaopus phoopus variegatus (Scop.) + ウシャクシギ

O. 1 \( \gamma^2 \), Aug. 2.

去りしならん。
此標本には淡色の頭央線全くなし恐らく生殖後の為め摩損し

- (18) Limosa limesa melanuroides (Genld) ラクロシギ K. 1 &ad., June 17; B. 1 や?, Aug. 19.
- (19) Terekia terek (Lath.) フラスシーギ O. 15, Aug. 14, 28 s?, Aug. 13 & 14, 2 ♀s, Aug. 14
- (20) Heteractitis incanus incanus (Gm.) メリケンキアシ・ギ

B. 1 & imm., Aug. 19.

四、中趾爪共三一耗あり。脚は豊暗絲黄色にして濃黄色ならず嘴翠三八、鼻溝の長さ一八・五、翼一五三、尾六三・五、 翡蹠三

- (21) Heteractitis ineanus brevipes (Vicill.) キトル・学
- 0. 44 s ad., Aug. 2 & 7.
- (22) Tringoides hypoteneus (L.) イソン等

O. 1 \$ imm., Aug. 14

(23) Phalaropus hyperboreus (L.) アカエリヒレアシ・ギ K. 2分 s ad., June 16 & 17; 1♀, June 16.

(24) Limonites minuta rujecollis (Pall.) トウネン

- K. 2  $\$  s, July 6 & 12; 4  $\$  s, July 6, 12 & 19, 0. 3 imm., Aug. 12–14; B. 1  $\$  , Aug. 21.
- (25) Anteriotringa tenuirostris (Horsfield) サベルギ K. 1 含 & 1 ♀, July 12; O. 1 ♀², Aug. 14.

(26) Pelidna alpina sakhalina (Vieill.) ストルキ

K. 3 rs, June 16 & July 6; 3 rs, June 16 & 24

りて明に P. c. alpina (L.) とは異る。 りて明に P. c. alpina (L.) とは異る。 りて明に P. c. alpina (L.) とは異る。

#### LARID?

- (27) Stercorarius crepidatus (Banks) クロトウゾクカモメ K. 3 %s, (1 black phase), June 19, July 4 & 14; 1 や, June 29:
- 木種成島の夏羽の下面は腮、喉及び前胸部及び腹部は帶黃白3, 1 %, Aug. 22.
- 色にして後胸部に幅横き灰鼠色の横帶あり。
- (23) Rissa tridactyla policaris Ridgw. ルコピカモメ K. 1 wing, July 8, Y. 1 含imm., July 23, 1 ♀, July 24: O. 1 ♀,
- (29) Chroicocephalus ridibundus (L.) ユリカモメ K. 3% s, July 2: 1♀, June 18.
- あるも翼、尾其他は磨損せる儘の冬羽のものなりき。七月二日に採集せし一雄成鳥は頭部は僅かに夏羽三變じつ~
- (30) Larus canus L. カモメ

K. 1 2ad., June 16

- (31) Larus marinus schistisagus Steja. オホセグロカモメ K. 1 ウad., July 15; 1 やimm., June 18;、O. 1々, Ang. 8. 内田氏著『海産保護鳥類圖説』及び『日本鳥類圖説』上巻の索引に依れば
- (A) 霧の色淡し……ホホセグロカモメ

- (B) 翁の色濃し……・セグロカモメ
- より抄録すれば とあれども誤りにて Saunders の英國博物館島類目録 Vol. XXV
- (A) Mantle sooty black to dar kslate-colour.....schistisagus

(B) Mantle blue-grey to dark pearl-grey......reger

- 回の採集品全部を schistisagus となすも恐らく誤りあらざるべし。 を見受く、而して極めて淡きものは正確なる L. argentatus wege ななるでし。今回採集せる二羽の成羽のものと内にも濃淡二様を認めなるべし。今回採集せる二羽の成羽のものと内にも濃淡二様を認めなるべし。中国採集せる二羽の成羽のものと内にも霧の色濃淡二様のものとあり。因に東京附近にて獲らるこものにも翕の色濃淡二様のものとあり。因に東京附近にて獲らるこものにも翕の色濃淡二様のものとあり。因に東京附近にて獲らるこものにも翕の色濃淡二様のものとあり。因に東京附近にて獲らるこものにも翕の色濃淡二様のものとあり。因に東京附近にて獲らることができません。
- (32) Sterna longipennis Nordm. アジサシ

あれごも活物若くは新しき死鳥にありては濃深紅色を呈す。|| 内田氏『日本鳥類圖説』上卷アジサシの項に脚色は黑き樣記し|| K. 1 %, June 16; 1 4, July 3.

- (33) Sterna paradisaa Brünnich キタアジサシ(新稱
- K. 1 \( 2 \), July 16; B. 1 \( 2 \) & 2 (Sex?), Aug. 20.

**蕃殖す、共に親鳥の哺育を受けつ、ある雛を目撃せり。なし、新舊兩世界の北部に産す。勘察加に於ては疑なく兩種共アジサシに極めて近きも嘴及び脚の朱紅色なるを以て誤る事** 

# 左に今回採集せるキタアジサシの各部の測定を掲ぐ。

B. 13	В. 12	В. 11	K.104	番號
3	3	20/VIII	16/VII	採集月日
354	326	352	33146	金黄
31.5	30.	3).	27.5	鸦峰
264	267	269	246	京
160	180	184	155	尼辰
15	15	16 š	16	14 14
•	10	٠-ر-	+0	堆堆
33	2.9	,,	数山	测定者

#### ALCIDÆ

# (34) Lunda cirrhata Pall. エトピリカ

Y. 1 2 ad., July 23

# (35) Uria lomeia arra (Pall.) ハシブトウモガラス(新稱)

K. 2 &s ad., July 12 & 18; 1 sex?, July 27; O. 1 \$, Aug. 13

		K	K	伸
0.62	К.	K.114	К. 89	號
Ο.62 13/ΥΠΠ 40.5	$27/\mathrm{VII}$	18/VII	$12/\mathrm{VII}$	坎非月日
40.5	4S.5	47	42.5	咣峰
11.5		16	15.5	帰基部の高さ
(憲35-5	227	229.5	215	減減減
46	60	55	53	尼東
35.5	39.5	38	39	秀鵬
56	69	61	1	上半年
10	.0	<b>→</b>	<i>⇔</i>	排排
23	3 *	9 9	数止	测定者

## (36) Simorhynchus eristatellus (Pall.) エトロフウミス・メ K. 1 4, July 18.

# (37) Synthliborhamphus antiquus (im. ウミスヤメ

N. 1 4al., June 18

# (38) Brachyrhamphus perdir(Pallas) マダラウモスドメ

果マダラウミスドメの幼鳥ご決したり。今英國博物館鳥類日錄なる故 B. marmoratus (Gm.) に等しき様なるも充分なる調査の决合回採集せし一標本は極めて小形にして測定上も亦各部分小路、1 young (sex?), Aug. 20.

XXVI,pp.592-593 を見るに幼期のもの、記載は次の如し

"Immulure. Resembles the adult in non-breeding plumage, but the feathers of the upper parts are narrowly margined at the extremity with whitish buff, and some of the feathers of the breast and belly are fringed with smoky-brown; the bill is much shorter than in the adult and measures 0.65 inch." (Ogilvic-Grant).

吋ごにて同一標本の測定を併記せり。り。只幼鳥なる為め測定上大に小形なるこご次表の如し。 粍ごなる帶自色斑を有するこごはマダラウミスマメの場合に一致せな回の標本は全く此記載ご一致せり且つ尾羽は黑色なるも小

8.304	212 <sub>M</sub>	金章
.0.65	16	発売 古田 ちる 早 る ち 本 で ち 本 で あ ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま
4.9	124	冠
1.99	22	馬
0.7	17.5	野川
1.1	23	中趾瓜共
0.18	4	中型の爪測定
	芝	測定者

事あり。近似の三種類の成島の相違點を記せば下記の如し。 事あり。近似の三種類の成島の相違點を記せば下記の如し。 をして勘察加にて見たる事を記し居るも採集せざりし故種名は決し をして勘察加にて見たる事を記し居るも採集せざりし故種名は決し 能從來我國にても B. marmoratus を見たりと記せり。シーボーム氏其 が必ず、近似の三種類の成島の相違點を記せば下記の如し。

- (A) Culmen from feathers on forehead to tip 0.65-0.95 inch; outer tail feathers brownish black.
- (A')Upper parts barred with rufous chestnut (breeding-plumage); culmen 0.65-0.7......narmoratus.
- (B) Culmen fom feathers on forehead to tip 0.4; outer tail-feathers white ....... brevirostris.

#### ALAUDIDÆ

(39) Alauda arvensis pekinensis Swinh. トキュニー K. 1 分, June 26; 2♀s, June 16 & 26; Y. 4分s, July 28 & 29, 1 ♀, July 29; O. 2♀s, July 25 & 27; 2 (sex?), July 25 & 31; B.

1 \$, Aug. 19

### MOTACILLIDÆ

(40) Budytes flavus simillima (Hart.) マミジロツメナガセキレ

4

は(札幌博物館所藏樺太産標品並に黑田氏所藏臺灣産標品に依る)眉 りて直に判別するを得、B. flavus flavus (L)と本題種とは極めて似 の煙黑色にして(キセキレイ幼鳥の脚淡紅色)後趾の爪長き事等に依 幼鳥に類似す、されどキセキレイ幼鳥より脊面の黄緑色に富む事、脚 し餘程赤味勝ちにして寧ろキセキレイ (B. loarula melanope(Pall.)) 線は反對に灰白色なり。——體の下面はツメナガセキレイ幼鳥に比 す。——ツメナガセキレイ(Budyles flavus tuivanus(Sw.))幼鳥に於て 本亞種幼島の色彩を述ぶれば眉線は白色ならずして帶黄乳酪色を呈 K. 28s, June 16 & 23; 1 4, July 17; B. 1 imm., Aug. 21 ropaulski (Petropavlovsk, Kamtschatka), especially in a br-併乍其分布上より見る時は本亞種と見る方正當なりと信ず。ハルテ 時は其何れなるか判別に苦む程なり(Hartert, Vög. Pal., p. 288.) たるものなれば幼 鳥に於ても殆んど等しくして記載のみより見る oad valley which makes inland from the large pond near th に関し "This bird was common in the lowland about Petscheinlich nur in Kamtschatka" 又クラーク氏に依れば本亞種 ルト氏も本亞種の蕃殖地を次の如くに記されたり "Brütet wahr-

town " (Clark, Proc. U. S. Nat. Mus., Vol. XXXVIII, p. 71, 1910) ~%す。

告せられたる事なきもの〜如し。本亜種は從來我領土内にては朝鮮及び満洲にて獲られたるのみな種なりき、恐らく北千島には渡り行くものもあり得べしと信ず。種なりき、恐らく北千島には渡り行くものもあり得べしと信ず。

(41) Motaeilla alba lugens Kittlitz スクセキンイ K.4 %s ad., June 16—July 7; 1♀ad., July 19; 4 ♀s imm., June 19—July 7; Y.1 %ad., July 28; 1 %imm., July 29.

(42) Anthus cervina (Pall.) ムネアカタヒバリ

K. 3 &s, June, 16, 3 \(\phi\s, \) July 14—19, 3 youngs, July 4, 6 eggs,

June 23; Y. 1 \(\phi\), July 28; 1 \(\phi\), July 27; 1 young, July 23;

O. 3 \(\phi\s, \) July 25 \(\pa\) Aug. 15 \(\pa\) 16; 1 \(\phi\), Aug. 16; 4 youngs, July 23—Aug. 5.

### MUSCICAPIDA

(43) Muscicapa mugimaki Temm. 《年》中 ·K. 1 ♀, Jane 19.

#### TURDIDAG

on." (Hartert, Vög. Pal., p. 738) 因に余が該地に於て觀察せる所

に依れば上陸當時(六月中旬)採集せる一羽の雌の喉部は自色なり

(44) Turdus obscurus Gm. マモチャジナイ

K. 1 &, June 16.

(45) Luscinia calliops (Pall.) In F

K. 2 &s, June 17 & 18; 3\$\$, June 16, July 14 & 19. 1 young,
July 14; O. 2\$\$, July 26.

今回採集せる五雌の内、四羽の喉部は各々其低度を異にすれど全も色ならずして雄島のそれの如く鮮紅色を呈し耳顎線、眉線其他の諸部雄島と異ならず、されど雌島に於ける紅色部は褪色せる如きても鮮紅色部と胸部暗色との間に些少の自色部を認め得れば鑑別すても鮮紅色部と胸部暗色との間に些少の自色部を認め得れば鑑別する事難からず。從來本種雌島の喉部は紅色ならずして自色なりと記載せられたるもの甚だ多くして(Scebohm, Cat. B. Brit. Mus., Vol. V, 1881, p. 306; Oatcs, Faun. Br. Ind. Birds, Vol. II, 1890, p. 102; Seebohm, Bls. Jap. Emp., 1890, pp. 52-53; Drcsser, Man. Part I, 1909, p. 553) 只ハルテルト氏のみは次の如く記されたり、Tart II, 1909, p. 553) 只ハルテルト氏のみは次の如く記されたり、中ad: Oberseite wie beim みad, der Superciliarstreif mehr rahmfarben. Kinn und Kehle weiss, meist mit fahlbraunen Spitzen-flecken, der obere Feil nicht selten rosenrot verwasch-

あらざるかと思はるくを以て記して後の研究を俟つ。 中部は紅色なるものく如く見受けたり。或は本種雌鳥の生殖羽には 雄一番づくのものを目撃せし事数回ありて毎時注意せしも皆雌鳥の 雄鳥を見るのみにして雌鳥に會せし事なし。七月中旬以後は雌 ものは見るのみにして雌鳥に會せし事なし。七月中旬以後は雌

も紅色を認む おおもの 所滅せる信濃産 唯一羽(十一月採集)の喉部は極めて淡き

#### SYLVIIDÆ

(46) Locustella lanceolata (Temm.) ドキノセンニウ

M. 1 9, June 14

(47) Locustella ochotensis (Midd.) ふトセンリウ K. 5 &s, June 16—July 18; O. 1 ♀, July 26; B. 1 ♀imm.,

Aug. 19.

B. 4 1	. 117	75	56	К. 55	K. 54 1	
$\frac{20}{VIII}$	18/VII	25/VI	$24/\mathrm{VI}$	33	16/γΙ	
12.5	12.5	13.5	13.5	13	14年	
66.5	71	72.5	69	69	72	
54.5	57.5	61	55	51	55	
24 5	23.5	23.5	24.5	23	23	
4, Juv.	· •>	0>	$\Rightarrow$	$\Rightarrow$	→	
2 2	33	33	9 9	33	類 山	

(48) Acanthopneuste borealis borealis (Blasius) ロムシクヒ

O. 1 &, July 26

### HIRUNDIDÆ

(49) Riparia riparia ijimae (Lönnb.) シャウドウツバメ

O. 4 youngs, Aug. 2.

#### SITTIDÆ

(50) Sitta europea albifrons Taczanow. シロピタヘキマハリ

B. 1 \$, Aug. 19.

曙峰一八•五、翼七八、尾四五、跗蹠一七•五粍あり。

(51) Pinicola enucleator kamtschathensis (Dybowski) キカ学ハト

0. 1 4, July 26

(52) Carpodacus\_erythrinus grebnitskii Stejn. アカトシコ

0. 1 \( \psi \), July 26.

(53) Chloris sinica kawarahiba (Temm.) オホカハラヒハ

O. 1 &, July 25; 1 \( \phi \), Aug. 3.

(51) Calcarius l'apponica coloratus Ridgw. ツメナカホ・ジロ K. 28s, June 16 & July 14: 3 年s, June 16 & July 19.

# 歐洲産鸛の「渡り」の本能

く一つの故郷から第 大きいのがある、其時は一羽一羽と後から續く様な事はなく、かなり廣い総隊を作つて飛行する、鵝の遷移に於て最も不思議な事は他の候島の る而して其一つの住地は北地方即ち我等の住する 中遊歴して或 行は頗る早く甚だ持續力がある、鸛の移住の時は一時間三十哩も飛び、斯く速力が早いのにも拘らず其除は數時間 (る場所から食物や適當な温度を持つた他の場所に出掛けるのではなくして二つの規則正しい定つた住地を持つているのが特徴で 二の故郷へと移住し各々の場所で一定期間を費す。 (獨逸)其他の一つは南地方即『エジプト』海岸である、 そして此隊は真直ぐに且つ規則正し も網

姓屋の屋翼に巣をかけた鸛は千哩もある『アフリカ』を数千の町や村の上を掠め飛んでそれで少も迷はず、一直線に彼の故郷にきて二度其巣を使 鸛の「渡り」の本能に付て奇異に感ずる事は必ず前年の故郷を再び見出し彼等が一邊造つた巢を修繕して之れに住ふ事で、田舎の穀 「! とか

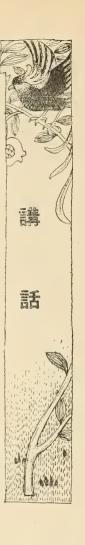
計の時刻と太陽の位置とを比較して行かればならぬ、それでも尚現在居る場所を敷理も遠く間違へる事が展々ある、然るに此鳥は殆ど信する事 するのである。 出來ない程の速力で突進し地上の眼界を遮る雲の上に高く此荒れ凄む空氣の海を貫いて飛びそれで迷ひもせず半年前造つて置いた屋翼に向て直 世界中の最大地理學者が最も善い地圖を備へても、そんなに容易に正しい道を見出す事は出來ないものである、航海者は注 意深く作

示して居る。 と云ふことは此鳥に「所有」と云ふ觀念の本性があつて此本性は神聖犯すべからざるものとして自然から享けたものらしいと云ふことを吾人に暗 一層不可解である彼等が移住の途中に於て数千の斯の如き巢があるにも拘はらず必然的に同じ一つの巣を自分の唯一の所有として之に一生涯住む 此事には本能 (はるものが支配するのである而して此本能なるものは其動物の保全、蕃殖、或は養育(自分を養ふことと)と直接の關係が無いので

るくのである。これに反して闖入者は權利の觀念を持たないので若し所有者を克服する事が出來ないと思ふと遁走を企てる。 までは争ひが止まぬ假令闘入者がずつと强くても本當の巢の所有者が遁げて行くのを未だ見た事がない自分の所有權を破棄するより、 で、然し本來の所有者がやつてくると其度に鸛の間にその巢の所有に付て喧嘩が始まる、其處で闖入者が遁走するか又は鬪爭者の一方が死で仕舞 極々稀には知らない鸛が他の巢に這入つてゐる事がある、そは恐らく此樣な例外の時で卽自分の巢が留守中禍により又放恣により破 吸壊され むしろ殺さ

に言及せざるを得ないのである。 次の事は未だ十分の説明も出來ず且つ來元如何なる事柄なるか全く分らぬ事ではあるが鵝の「渡り」に關しての觀察せられた一の特性を此の

象は甚だ不思議な事で動物界に於て此と比較する事が出來る様な似よりのものを見出さない。 然し寧ろ此れは弱々しい者や病氣の者で此旅行か共にする事が出來ずさなくとも殪れて仕舞う様な者も殺すのであるらしい。 くして除はたざちに飛揚し此處から去るのである。此變象を人は「裁判の日」と言ひ此内に何か不正行爲をした旣に對する裁判の一種と見做さる~。 鸛社會は普通野原におり其處で輪をつくり其真中に一二羽の鸛を置き嘴で鳴子の様な音を立て~輪の中の鸛の上に襲ひか~つて殺して仕舞ふ。か さて冬が近づいて鶴が旅行の準備が出來ると先づ總ての鶴は集つて國際となり、旅行を共同にするが爲め他の團體と合し此 ルンスタイン) 兎に角此謎の 除が遠く出 る前



#### 鶴 龜 長 說

理 學 土 黑

田

長

禮

やがて瑞祥の象徴に轉じた。それも近世にあつては、象徴的意義を以て、國民的一般趣味性に合致し、殆んご純シンボリカンボル はない。即ち前者は長壽の象徴たり、 本思想化してしまつたやうである。 めでたい事の例に、鶴龜ミか、松竹梅ミかを引合に出すのは、多く支那傳來の思想であつて、 後者はそれ等が、能く霜雪に堪ふるものだこいふので 徳操の象徴ごなり、 シンボル 日 本固 有の思想で

あ 6 鶴は千年龜は萬年ミいふ諺及び傳說の本源に溯つて見るこ、 又は萬年謂靈龜なご見えてゐる。 後世のものでは、 李浮丘伯の相鶴經にも鶴之多壽變止千六百年、形定體尚潔さある。龜については、 わが震龜、 神龜の年號も、龜を瑞祥の象徴ごする支那思想に 基い たもので 先づ鶴については、 古くは淮南子に鶴千歳極其游 廣五行

日

其の承和五年正月九日の條に、 記補に龜齡經萬歲、 この鶴龜長壽の思想の一部が、わが國文學にあらわれたものごしては、 平安朝のものでは、 土佐日記を舉けねばなるまい。

宇多の松原を行き過ぐ。その松の數いくそばく、幾千年經たりご知らず。もご每に波打ち寄せ、 枝毎に鶴ぞ飛び通ふ、 面白しご

兄るに堪へずして、舟人の詠める歌、

見彼せば松のうれごこに棲む鶴は千代のどちこぞ思ふべらなる。

御、葦鶴の語源ご頗る似たものがあるのも、一奇である。さすれば貰之の實見したのは恐らく鸛であつたのかもわからぬ、義經記にはップラメッ り視たるものならんこいつてゐる。鶴鳴九皐こいふ詩經の句から見るも、其の洲渚田隴の間に棲むものなるこごがわかる。即ちわが田 木ミいひ、李時珍も、鶴が樹に棲み木に巢ふここを認めて居ない。故に本朝食鑑は今古の畫工皆樹上の鶴を描くは恐らく是れ鸛を謬 たのであらう。こゝに注意しなければならぬこごは、鶴は決して樹上に棲まぬものである。李浮丘伯和鶴經は、鶴を以て、止不集林 白帖に鴾千歳棲於偃蓋松こあるを思ひ浮べざるを得ぬ。倭訓栞に「鶴は千年にして蓋松に安ず」こいつてゐるのは、この白帖から出 こいふのがある。所謂「千世の友」 こは、鶴に千年の壽あるこいふ想定を基礎ごしての造語である。しかし紀貫之の所見については、 これは龜割山の龜の萬却をこつて、鶴の千歳になぞらへて、龜鶴殿、ぞつけ奉の……………

ごある。<br />
謠曲鶴龜は

も一千年の齢を君に授け奉り、庭上に参向申しければ………… 龜は萬年の齡を經、鶴も千代をやかさぬらん。千代のためしの數々にく~何を引かまし姫小松の綠の龜も舞ひ遊べば、丹頂の鶴

こいつてゐる。<br />
徳川期に於ける史實及び文學<br />
三しては、<br />
倭訓栞に

寶永の主上、新内裏へ遷幸ならせ給ふ鳳輦の上はるかに鶴の舞かけりけるを諸臣千年のためしこぞ賀し物し添られける

**ミあつて、従一位前内大臣源通茂の歌を舉けてゐる。鶴御狩は「慕朝年中行事歌合」に** 

すべらきの千世のおものっためしこや鶴の御狩に君が出らむ

**こあつて、住例の一になつてゐた。近松巢林子は雪女五枚羽子板に** 御狩は、内、仙洞、東宮へ、参らせられんがために、御身づから狩に出させ給ふ也

やあらめでたや、こなたの御壽命申さば、鶴は千年龜は萬年、浦島太郎が八千歳

こた、へてゐる、鶴の千年ごいふこごは、單に文學上の弄語でなく、或は事實上、鶴は千年以上の壽を保つものご信ぜられて居たら しい。今この傳說の由來をも併せて記述しよう。即ち本朝食鑑の如きは

李浮丘伯之言不爲虛誕。本邦亦有此類矣。我神大君。〇鷹川 之養鶴、放在武野之田澤、經六七十年尚飛翔。

さいひ、又た

源二品の賴之放鶴、亦暨五六百年、來徃干駿遠之田澤。偶觀之者、謂、冀間有金札,記年號支千云。世以爲奇。

こつどけ、更に

實羽族之宗長、仙人之驥騏也哉。此鳥以千年之物、中華之人、不爲食品

ご結んである。<br />
山崎美成は三巻雑記に「賴朝卿放たまふ鶴」<br />
こいふ項を設け、

し頃、賴惟柔の此鶴を詠る詩を、石田醒齊がもこにて見たり。略この詩によりて、年來の疑ひ、一時にごけたり。世人のいひつ なし酔これらのここ、もしは後人の俗説によりて、傳會したるここにやこおもはれて、其實はいかにかあらん三疑をりしに、過 鎌倉由比が濱にて、頼朝卿の鶴を放たまふここ、世にあまねくいひ傳ふれご、 たへたるも、故なきにはあらず。 吾妻鏡をはじめ、正き記錄にかつて見えたるもの

ご述べてゐるのである。是に於て余は、賴杏坪の春草堂詩鈔を撿して、山崎美成の斥す所の詩を讀まんごするのである。

#### **壓** 鶴 吟

江州刺史田鶲獲。鶴繋金牌在其脚。題曰建久厶厶年。刺史視之忽嗟愕。爲營兆壙刻誌銘。爾來見鶴歛弓緞。因思鎌府全盛時。鶴 岡放鶴君臣樂。皆謂覇業盤石固、與鶴同結千年約。○以下 彦根武居士亨, 遐余遊湖北, 登某邱。有祠。 洞側有鶴墳。士亨曰、侯甞射一鶴。源右大將所放。感悼瘞之。余聞慘然作此。

文化年間江都往來所得こあるので、この瘞鶴吟は、文化年中の作であつたここがわかる。さて賴朝放鶴の事は、江戸砂子に、下澁谷 - ふのが、即ち杏坪の詩の前半であるが、この詩は鈔卷二に收錄する所のものである。詩鈔日錄によれば、卷一古 今體 四十四首

羽澤の來歴を記して、

だけで、直に鶴は千年の長壽を保ち得るものこは信じ得られぬ。 の壽を保てりこの口碑を是認するここは出來ない。で、鶴は千年龜は萬年こいつた所で。それは單に長壽の象徴的 意 義をあらはすで、尙更信用は出來ぬ。真面目一方の杏坪老は、こゝで一バイ食はされたのに相違ない。故に吾人は賴朝鶴を放ち、その鶴五六百年 來たこか、江州で彦根侯が獵獲したこかいふ口碑もアテにはならぬ。 况んやその 壓鶴 碑が支那のを 摸傚したら るらしい事が四、以上の理由で、頼朝が鶴を放つたこいふ事質を認めない限り、その鶴が五六百年後に及んで、駿遠の田澤に飛んで 出の記事は史料ごしては、全くいふにも足らぬものである。次に瘞鶴碑ごいふものは、支那にもあつて、それが支那傳襲の摸傚であ るここが二、放鶴の事質が、本朝食鑑、江戸砂子以外何等傍證的材料を發見し得ざるここが三、而して二書共に徳川時代の撰で、 ものである、それは吾妻鏡に何等所見なきここが一、頼朝卿真蹟日記影鈔本こいふものに放鶴のここあれご、それは後人の傷書であ 倉時代から生き長らへ、五百數十年の壽を保つてゐた譯になる。けれご吾人は鎌倉放鶴史實に就ては、多く信を措くに足らぬこする ら文化元年まで、六百十三年を經てゐるから、香坪の詩意に從ひ、その友人武居士亨の事へてゐた當時の彦根侯が獲た僞ごすれば、鎌 こいふ記事がある。果してさうであつたこすれば、放鶴は建久二年以前の事こしなければならぬが、よし建久二年こしても、 建久二年賴朝の飼鶴此所に來り、巢を作りしに因て、鶴澤三名け、其雛始て羽うつ所を羽澤ごいひ、其遊來る所を鶴谷ごいふ 1値にても同様である 1 い形 迹かあ る(い) 裥

するに當り、 くして、日本上古の思想でなく、全く支那思想の影響を受けていひ始めたものであるここを明にして、この稿を終る。尚ほ本稿を艸 の李邕が題畫の詩、及び月令廃義なごにある所のものであるが、これは今敢て詳說せぬここにする。兎に角、鶴龜松竹梅は、かくの如 鷦蠅ミ共に瑞祥の象徴ごなつてゐる松竹梅の出所をも、この際附記して置かう。蓋し松竹梅の出所は、高士奇の金鰲退食筆記、唐 古事類苑動物部の記事に資ふ所あるを斷つて置きたい。(大正七、一〇、一)

お むれてる 0) が世に千世をしめたるあしたづはすがたも聲ものごけか るたづのけ しきに L るき哉 干 红. す む ~ 3 宿 0) 油 水 りけ

翘

不

隆

T

6

# 徳川時代の薩摩に於ける動物園

荒 木 彦 助

年十 著者比野勘六の如きも、御鳥係の一人で藩主の旨を受け、鳥類に關する研究をしたものご認めて誤はありますまい。重豪より家臣河 は動物類に及び、城下なる鹿兒島郊外尾畔に、 あるから、公開されたものではなかつたでしやう。爰には管理の役人が居て、禽獸の手入をしましたのは勿論ですが、 る、夫は如何なる次第で求めたいから、なご、辯解して買入れの都合を付けられたやうになつて居ます。併し飼養場は太守の別邸 る、從て其費用も少からず傾注されたものご見え、書簡の殘つてるものには、今回斯く珍き鳥が長崎出島屋敷(外人居留地)に來て居 を得ます。情い事には注文狀に月日を記入してないので、何時ご明白に判斷は出來ませんが、 口轉へ發せる、鳥類購入の注文書を見れば、此動物園の規模ご、當時如何なる鳥類が市場に取扱れたかご云ふとをも、 書館の方では三二年(安永)であろうこの見解でしたが、兎に角其頃の事でありましたろう。 遠地に、文化の發達を招致した中年後の事でありましやう、夫であれば紀元二四四一年(天明 ねばならなかつた一事で觀れば、江戸語や風俗を採用し、あらゆる方面に巨財を浪費されて、善意に於ける薩州の開 て、一は尙武の舊習を、一は軟化した新傾向を文字に止めて居るのも、此時代でありまして、大金を鳥類に投ずるのを重臣に遠慮せ 薩摩藩主島津重豪ミ云つた人は、極て多方面に趣味を有され、流石の富裕な大藩も府庫を空乏に致したご傳へらる、 ・一月七日)より同九三年(天保四年一月十五日)までの人ですから、略見當は附けられます。賴山陽が入薩して、前後兵兒謠に 鳥獣の多数を飼養され、 また現代の小規模な動 )以降の事かごも思はれます。鹿兒島圖 此薩摩太守は紀元二四零五年(延享二 物園位はあつたでしやうかご思れ 镀即 其豪奢な嗜好 略、 彼飼鳥必要の 武技 推知する 遍

尾畔御飼鳥御注文狀

覺

_	á
_	4
mil.	-

一、白大應	一、うそ替り	一、野駒	一、さんかの五位	一、白きじ	一、小紫音呼	一、青海音呼	一、白雀	一、白牛	一、大りす	一、じや香猫	(此外大中小ごもに	但し是はジャガタニ	一、しやむろ鳩	一、かなりや	一、八哥島	九官	一、緋音呼	一、ばたん蝦夷	
一居	<u>→</u>	<del>-</del> 31	<u>_</u>	香	<u>_</u>	<u></u>	(不明)	一番	正	一番	何ぞ(三字不明)は、鳥有之族	但し是はジャガタラ鳩こ申て持渡し候やご存じ候	一番	一番	一番	一番	33	<del></del> 33	
一、極勝れ候大鷹	一、河原ひわ替り	一、清しろけら	一、黑つぐみ	ーおしむ	一、白香呼	一、緋音呼	一、青じ替り	但男計にても尤白牛無文	但し番にて候は、尚宜	一、山あらし	、此外大中小ごもに何ぞ(三字不明)はゝ鳥有之候はゝ見合せ持歸り國元鳥屋へ飼置候樣に)	恢		一、木國鳩	一、立家鴨	一、畫眉鳥	一、紅雀	一、青音呼	
一居	33	<del>-</del>	<del>-</del> 31	<u></u>	<u></u>	<del>-</del>	<del>-</del>	但男計にても尤白牛無之候はで何にても男牛二正		. 一	置候様に)			一番	五六羽	一番	一番	33	

は明になつて居ないやうです。(完)	ありますまいか、元來島津家の記錄は公	赤ヒゲ」鳥なごを收めてあつて、密に	れましたから、動物園が如何に始末されたかも不明です。隣域熊本藩の古老に聞きますこ、	れ、又何種が何程飼養されて居たかは、	す。既に普通の鳥は集められたから、か	此注文書にて隨分種類の多い事ご、特に	一、小よし 子飼能く啼き出すを	一、雁金	一、白駒	一、つぐみ替り	一、あをじ替り	一、島かけす	一、かはりせきれい	一、维
	開されませんの	熊本地方でも籠り	たかも不明です。	種類目錄がない	<b>均禽奇獸を</b> この希	に「色變」の諸鳥	<u>一</u> 羽	一番	一 羽。	<u>-</u>	<u></u>	<u></u> 羽	一刻	二居
	ありますまいか、元來島津家の記錄は公開されませんのこ、世間には古記錄なごの保存されたのがありませんので、	赤ヒゲ」鳥なごを收めて あつて、密に熊本地方でも籠鳥家は申受けられたこの話ですから、其没後或は上方等で處分したものでは	。隣域熊本藩の古老に聞きますご、島津	種類目錄がないので明白にする事は出來ません。其後に藩の財政整理が調	珍禽奇獸を三の希望でなかつたでしやうか、そして太守の購入の目的 が如	此注文書にて隨分種類の多い事ご、特に「色變」の諸鳥を求められたのが知られますご共に、二三の珍らしい、獸類の	一、雪白同うしろ	一、小鵤	一、おし	一、白雀	一、きく雲雀	一、頰赤替り	一、わたほうし頬白	一、かはりうそ
	いがありませんので、以上の事實の外	交後或は上方等で處分したものでは	島津家の参勤交代には、行列中の長持に	に藩の財政整理が調所某の手で行は	の購入の目的 が如何程までに 達せら	二三の珍らしい 獣類の種 類も見えま	<b>一</b> 羽	一番	一番	<del>-</del>	<u>→</u> ∄∄	<b>一</b> 图图	<del>一</del> 翻	₹ ₹

朝 あ け のこほ 3 波 間 1= 立 3 す る 33 音 も寒 きい け 0) むら 鳥

儀 門 院

廣



## 高野山の一年

榎 木 住 樹

#### ゴキサギ

回、其飛行方向は何れも南西に向ひ、又毎回ごも暗夜にして内前年九月中旬より同十月下旬迄に夜間鳴聲を聴きしこご約五

### ニーサンゴキ

二回は曇天なりし。

天の時もありしここ前種に同じ。回、飛翔方向は一回は西、他の二回は西南にして暗夜を擇び景回、飛翔方向は一回は西、他の二回は西南にして暗夜を擇び景が年九月中旬より同十月上旬迄に夜間鳴聲を聴きしここ約三

#### チウヒ

回のものは北方に飛行し、次のものは空中に舞ひ居たり。前年五月下旬及七月初旬に於て各一羽を見たるのみ、基第一

### 四 ハイタカ

前年十二月下 一羽のもの二羽の鳥ご空中にて筆闘せるを見

#### 五 イヌワシ

切は遂に十分に發達を遂げずして當地を去れり、又此幼鳥は屢り。後者は大さに於ては微かに成鳥に劣るのみなれごも初刻風が、八月下旬頃に至り一羽の幼鳥に思しきもの之に加るを見た前年五月上旬初のて二羽を見、其後屢高空に飛翔するを見し

許の飛翔をなして樹上の静止を燥り返すここ數次なりしが、漸 **單調のものなるも頗る遠距離に貫徹し殊に高空に在る時は** 3 ざるに至れり。 次北方に移り去りて遂に翌日より再び其雄大なる姿を見る能は 北部に在る一山頂の樹木に靜止し三羽のもの交々鳴聲を發し少 明瞭なり。當地を去りしは十月中旬にし天氣晴朗なる朝、當地 矢の如き速力を以てす。鳴聲は「ぴーよ」或は「ほいよ」 三聽の 他の點に移る爲め直線飛翔をなすの際は極めて迅速にして所謂 1 の最大限は當地の上方約八百メートル、即ち海拔約千七百メー 高き樅、杉等の経頂に坐止して鳴聲を發せり。目撃せし飛翔高度 ルにして、又其速度は翼を動かす時に於ては速かならざれご 翼を張りたるま、空中に大圏を描く時、殊に一點より遠き 一層 3

#### 六キ

ず。 當地よりも低き地點には少からざるも當部落附近には多から

#### 七ヤマド

と。 営部落附近の山地に棲息する由なれごも甚少數なるもの、如

### 八 イカルチドリ

て二三回之を見たり、而して又月明の夜に其鳴聲を聽きしここて周圍は殆んご全部山林なり)に於て一羽を見、其後同地に於咋年六月上旬當地學校の運動場(約五十間四方の平坦地にし

## 二三回ありたり。

| 聲を镀して飛翔するを見たの。 | 昨年五月上旬及六月上旬に於て各一回一羽のもの其特殊の鳴

### 一〇キアシ、ギ

を發して西南方に渡るを聴けり。

昨年九月上旬に於て一夜本種約三十羽三想像し得るもの鳴聲

### 一一 キジバト

頗る稀に之を見る。

#### 一二 アオバ

是亦多からざれご前種よりは稍多きもの、如し。

### 一三 ホト、ギス

数渡來蕃殖するものと如し。に入りては大に沈静となり八月には殆んご鳴聲を耳にせず。多に入りては大に沈静となり八月には殆んご鳴聲を耳にせず。五月上旬より鳴き始め同下旬より六月中旬迄最盛なり、七月

#### 一四ットドリ

息數前種に比すれば遙かに少きも敢て稀ならず。鳴聲を發する時期は前種ご大差なきも其終熄時期稍早し。棲

### 九 ブッポウソウ

之を聽く。 とを聽く。 の、鳴聲は月夜に之を發するここ多く六月上旬より九月上旬迄 の、鳴聲は月夜に之を發するここ多く六月上旬より九月上旬迄 の、鳴聲は月夜に之を發するここ多く六月上旬より九月上旬迄 の、鳴聲は月夜に之を發するここ多く六月上旬より、昨年の如

### 一六 カハセミ

季に於ては之を見す。
季に於ては之を見す。

## 一七 アカセウビン

、、」ご聽ゆ。當地にて繁殖するもの、加し、ざるも稍普通なり。鳴聲は「ヒヒヒヨロ、、、」或は「ヒヨロ、五月上旬より九月下旬迄の間森林中に之を見る、其數多から

### 一八フクモウ

月には鳴聲を耳にせざりし。通じて其聲を聽く。當地に蕃殖するものならんも只十二月及一通数なれごも本種こしては比較的多き方にして殆んご全年を

#### 一九 ヨタカ

時之を發す。

時之を發す。

中之を發す。

中之を發す。

中之を發す。

中之を發す。

中之を發す。

## 二〇 アマツバメ

五月中旬より十月下旬迄の間に屢之を見る。

### 一一 アヲゲラ

て蕃殖するもの、如し。 でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より一門では一月初日に一月初日に一月初日に一月でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴聲は一月初旬より十月下旬頃でも願る遠距離に達す、又清き鳴車は樹上に在るを書通こすれで表演するもの、如し。

### | | | | | | | | セグロセキレイ

ものゝ如きも未だ實驗し得ず。其他は本誌第四號に述べたる如餘り多からざるも極めて 普通にして溪流の 附近に 營巢 する

### 一四キセキレイ

巣蕃殖す。春季に於ける雄の鳴聲は甚美なり。喉の黑色部は四月多數ならざるも極めて普通にして溪流、溝渠等の岸邊にて營

#### 一五・ビンズイ

上旬頃より生じ七月中旬頃消滅す。

昨年九月下旬より十月中旬に亙り數羽を見たるのみ。

#### 二六 ヒヨドリ

るべし。其他昨年十月下旬約五六十の一群當地を通過し西南に少數なれごも四季を通じて棲息す、營巢、蕃殖するこご勿論な

### 一七オホルリ

渡るを見たり。

國地方のものこ鳴聲に於て少しく異りたる點あり。當地にて蕃稍多く四月下旬より七月下旬迄鳴聲を聽く。當地のものは四

殖す。

#### 二八 キビタキ

クツクボウシ」 三鳴くものあり、但し真のツクツクボウシご異稍多數棲息し五月上旬より七月上旬迄鳴聲を聽く。本種中「ツ

### り「シ」の音特に高大なり。

一一九、コサメビタキ

頗る稀にして昨年五月下旬より九月上旬に至るの間五回之を

#### 三〇ッグも

見しのみ。

十一月下旬より十二月下旬に至る間に南方に渡行する途中立寄十月下旬より翌年三月下旬迄棲息すれごも甚少數なり。但し

### る者少からず。

三一シャ

ハラ

より歸去時期迄美聲を發して囀る。少數渡來し十二月上旬より翌年五月上旬迄棲息す、四月中旬

### 三一ジャウビタキ

當地より、低き地點には少からざるも當地には甚稀なり。

### 三三・ウグヒス

候には低地に下り當地には極めて稀なり。當地にて蕃殖す。多數棲息すれごも十二月中旬より翌年二月下旬に亙る嚴寒の

#### 三四 メボ ソ

極めて少数渡來し五月上旬より六月下旬迄其聲を耳にす。

三 五 コル

少數棲息す、 昨年一月下旬より六月中旬に至る間に三回之を

三六・ツバメ

見しのみ。

春末より中秋に至る間屢之を見るも當地にて營巢するものは

稀にして多くは下方より飛び來るものなり。

コシアカツバメ

多數渡來し當地金堂及び大門等を主こし其他寺院の屋根裏に

營巢するもの多し。五月中旬頃より渡來し十月下旬迄滯 在す。

ミソサド

少數棲息蕃殖す。

三九 モヅ

は秋季多數渡來するものを待たずして幼鳥稍成育すれば直ちに し、而して三月上旬より再び少数のもの歸來し蕃殖するも是等 止まるも十二月中旬より翌年三月上旬に至る嚴寒の候には甚少 秋季渡來するもの稍多きも長く停止せずして去り只其一部は

去りて下界に到るものと如し

サンゼウクヒ

四月中旬より七月下旬迄其聲を耳にすれごも少數なり。

當地

にて蕃殖するものと如し、

四一ゴジフカラ

プキン、プキン」と聽ゆる清き高摩を發して鳴き時ごして喧噪な 稍多く極めて普通なり。「ツヰン、ツヰン、ツヰン或はブヰン、

り。佛閣等に参詣人の撒きたる米を啄むを見しここあり。

四一 シャフカラ

多數棲息し蕃殖すれごも十二月下旬より翌年二月上旬頃迄は

四三 ヒガラ 稍稀なり。

其鳴聲は長からざれごも美なり。 多數棲息し習性概して前種に同じ。當地にて屢く飼養せられ

四四四 ヤマガラ

述べたる如し

[H]

*h*.

エナガ

極

めて普通なれども嚴冬間には稀なり。其他は本誌第四號に

多數棲息番殖不 るも嚴冬間 稀少なるこご前數種に同じ。

ハシボソガラス

四季を通じて棲息し其數少からず。習性上他の有益鳥類の蕃

殖に有害なりご認むる點多し。

四七 カシド

較的稀なり。本種はヒヨドリ、モヅ、チウヒ、イヌワシ、カラ めて普通にして四季を通じて棲息すれども夏秋の候には比

フクロウ、ホ、ジロ等諸鳥類の擬聲を發し就中チウヒの

擬聲は最巧みなり。屢へ人家附近の樹木に來り又庭園にも下降

す。

四八 メジロ

めて稀なり、昨年六月下旬二回之を見しのみ、但し當地よ

0 も低き地點には普通なり。

四儿 キバシリ

通なれごも其數多からず、昨年七月中旬及九月上旬に於て

一回之を見しのみ。

Ŧi.

イカル

十一月中旬より十二月中旬に至る間北方より南方に渡る途中

五一 ベニマシコ

157

、數のもの立寄り暫時滯在す。

十二月初旬渡來し翌年五月上旬去る、其數多からず。鳴聲は

「ツーピー」ご聽の。

五二 カハラヒハ

にして蕃殖す。 十月下旬より翌年一月中旬迄は極めて稀なれごも其他は普通

五三 アト

南方に渡行の途中少數のもの立密り十二月中旬より翌年一月

上旬迄滯在す。

五.

昨年四月下旬より五月上旬迄に三回之を見たるも其數少し。

Ті. Б. 7

十月中旬より翌年五月下旬迄普通なれごも其数少し。

五六 ホヽジロ

旬に至る間は甚だ少し。蕃殖す。 四季を通じて極めて普通なれざも十二月下旬より翌年二月下

五七 アラジ

は屢へ人家の土間に來るこごあり。

十二月中旬より翌年五月上旬迄普通なり。

冬季積雪甚しき時

五八 スギメ

平地の如く多からざれごも稍普通なり。

### 旅順の雀と筑前の雀

脇山三彌

雀は人家近くに棲み煤煙の影響を受くるこミ特に多きが如し。 り。旅順附近は冬日は暖爐より出づる煤煙夥しく卒氣中に飛散 の雀は冬日に於ては一般に灰黑色を帶ぶ筑前の雀は羽色鮮麗な 差違を認めざれごも今年二月筑前博多に閑居するこここなり毎 ここ少きも已にミミゾクの如きも羽色の暗灰色に汚れたるを見 鴨類等の如く人家に近づかざるものには羽毛の煤煙に侵さる、 **査を經ざれば容易に斷定し得らるくものに非ず。旅順にて窓外** て活潑に跳飛するここは寒冷なる所にては不可能なるべしこ思 なるを見る、思ふに是れは氣溫の關係なるべきか盛んに囀鳴し る。倚又特に旅順の雀の擧動不活潑にして筑前の雀の大に活潑 し積雪は未だ営て純雪白色を呈せしこご無し。冬期寒冷なる時 るなり。もこより病中の觀察にて多少の誤謬もあるべきも旅順 日庭前に來り戯る、雀を見るに旅順の雀ご著しく變異あるを見 に雀の戯るこを見るここ少からざれざも筑前の雀の如く頭を長 はるてなり。凡そ寒地の鳥は皆然るものにや深く研究し且つ調 雀は極めて普通の鳥なるが故に何れの時何れの處にて見るも

るべし識者の教を待つものなり。に頸を短縮して寒冷に堪へざるが如き態を爲せるここ恰も人のに頸を短縮して寒冷に堪へざるが如き態を爲せるここ恰も人のに頸を短縮して寒冷に堪へざるが如き態を爲せるここ恰も人の

### コシアカツバメの蕃殖

理學士黑田長禮

り。余が本年夏季同地にて本種類の巣を見たる場所を記るせば、り。余が本年夏季同地にて本種類の巣を見たる場所を記るせば、り。余が本年夏季同地にて本種類の巣を見たる場所を記るせば、は四一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は四一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は四一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は四一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は四一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は配一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は配一五巢も連營せるあり。巣の外部の材料は普通燕の如く泥は配一五葉も連營せるあり。巣の外部の材料は普通によりでは材料至て少く單に最内部に少量の敷物内部の廣き巢にありては材料至て少く單に最内部に少量の敷物内部の廣き葉にありては材料至て少く單に最内部に少量の敷物内部の廣き葉にありては材料至て少く罩によりでは却つて内

にして第十七圖は後者なり。福岡地方にては同一の家にッバ 部の材料充満せるを見たり。巢の外觀も種々あり所謂徳利形を なせる真正のものあり又花瓣形のものもあり第十六圖 は 前 者



巢 0)

H 朝倉郡某町地方にては腰赤燕の方普通燕よりも多しこあり又余 ミコシアカツ バメの . 仁部兩氏著「鳥類の「渡り」及蕃殖期」五七頁によれば 兩者の營巣せるを見たるここなし。又内 福岡縣

> が聞きたる處によれば田川郡彦山村地方にも多少巢を見るここ ありご云ふ。

此コシアカツバメはツバメの如く人家の屋内に營巣するここ

如く主こして

は全くなきが

白壁に多し此



圖 + 第 カ 巢 " 7 故を以て繁營

く從て田舍に せる市町に多 は稀れなるが

壁或は塗り替 は直に營巣せ 如し叉新設の へたる壁等に

古き壁を好む

ざるなり幾分

如し、 が其壁を塗り替へし爲め昨今全く見ざるに至れり。 次に此種の「渡り」に關し讀者諸君の諸說を承はり度きここあ 例へば東京外務省の外壁には極めて多く棲息し營巣せし

L

にして三月――五月迄の間に見しここなし普通燕は三月下旬に 七日にして九月十二日迄見たり。 今回七月未——九月中旬迄滯在中始めて本種を見たるは七月世 早くも渡來す。 ごも余が東京にての觀察(不充分ながら)によれば自邸赤坂福吉 も余は前記岩村小學校の報告が正しきには非らざるかご考へ得 方ツバメより早く渡來し、早く去る三云ふ點に一致せり。然れご は他に多くの報告を列記せられしが何つれもコシアカツバ の始めに來る(岩村小學校には年々營巢す)」 こあり而して兩氏 來り九月始めに去る。トックリッバメ(コシアカツバメ)は五月 校よりの回答
こして
掲げられたる
一節は
「普通の
燕は三月未に 月世日迄は確に見たり。遅く迄留まるは幼鳥のみなるが如し。 しく減じ殆ご見ざるに至れり、東京府下にて本年はツバ バメを見しも(二春の觀察)コシアカツバメを見たるここなし。 町にてコシアカツバメの飛來せしを見たるは常に六月——九月 る點あり。勿論地方により多少父は大に相違するやも知れざれ り。即ち内田・仁部兩氏の前記著五七頁に岐阜縣惠那郡岩村小學 にコシアカツバメに關する面白き一節あり因て左に附加すべ 最近籾山氏が京都に赴きし際同氏より余に贈られたる書信中 又福岡市にありて余が春季四 ツバ メも九月十二日以 月初旬に數羽のツ 後は著 メは十 メの

の方が遅く去るものにやさ考へられ候以下略てはツバメは最早尠も見受け申さず候、やはりコシアカツバメカツバメ(三――四十羽近く)の飛廻り居るを見受け申候當地にカツバメ(二――四十羽近く)の飛廻り居るを見受け申候當地に

は余の許に報知あらんここを願ふ次第なり。に本會員諸君中にて此機會を得らるる方は觀察せられ内田氏又て觀察せし多くの結果を得ば容易に解决し得らるるこごなり故正類の渡來期、去期及び構巢期の調査は毎年營巢する家に就

### 雪中の農作物鳥害例

仁部富之助

時期なれごも、今冬の野外の狀態は上述の如くなれば恰も天興衆のま、雪を被り、本年二月下旬に至るも何時收め納れ得る兄衆のま、雪を被り、本年二月下旬に至るも何時收め納れ得る兄衆がは作物の乾燥收納に大困難を來し、遂ひに共期を失して乾農家は作物の乾燥收納に大困難を來し、遂ひに共期を失して乾農家は作物の乾燥收納に大困難を來し、遂ひに共期を失して乾農家は作物の乾燥收納に大困難を來し、遠ひに共期を失して乾

ドバ スゞメ ŀ 常に十數羽乃至數十羽群をなし、稻架に集ひ若しく 數十羽數百羽群集して稻や害す。彼等はカラスの如 6 6 ば大豆架に來る。但し附近に棲息するハトの數は自 らずして必ず嘴にて籾殻を破り去り米のみを攝る。 腹滿つれば樹間に返りて囀初め、其聲湧くが如し。 こも隱れ場こもし、室腹のこきは稻架まで出遊し、 ス く長時間稻架に停まるこごなく附近の樹林を根據 輕かる可きも一羽の攝取量はカラスに帯ぎ多かる 限りあるここなれば、被害の程度は前掲の いメの稻を喰ふ方法はカラスの如く籾のまてにあ 二種 圳

アトリ 本種は例年ならば冬季間の棲息甚だ少きも、本年はアトリ 本種は例年ならば冬季間の棲息甚だ少きも、本年は 大にす。而してスベメミアトリミは同一群にあり乍共にす。而してスベメミアトリミは同一群にあり にいふ様子も見えず。

乃至二割の被害こ見られたり。 至數十羽群をなし、主こして豆架に集り終日附近を至數十羽群をなし、主こして豆架に集り終日附近を

シ

こごあり。

り。蓋し稀有の現象たる可し。 山間の村落にありては、格別珍らしき事にあらざれ 世に出没し往々豆架を荒し其最も極端なるものは、 人の不在を窺ひ鷄のために散きたる餌を漁るを見たり。蓋し稀有の現象たる可し。

丰

## 飼養鶉の低卵と雛の體量ごに就て

鶉の家

余の飼養せる鶉は自ら無卵孵化せしむ(「鳥」三號廿六頁参照)

る事あり。八月世日迄は午後三時より三時半の間に於て計量せ

の六個を集中に残し置きたるに親鶉の態卵により八月五日未明本年は五月九日より産卵、中途一日休産七十一個産卵せり。最後

餇

餌は九月

「すの餌、

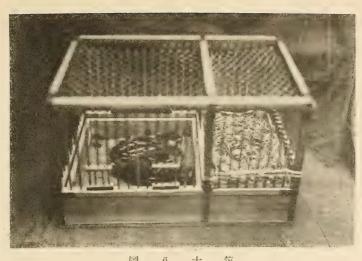
卵黄、

牛乳、

の外「蜘蛛

蚊、葉蟲」なご與ふ

0



■ 八 十 第 集 舞 親 の ラ ヅ ウ (影 撮 日 五 月 八)



圖 九 第 ---11-孵 日 親 0) ラ (影 撮 日 11. 月 -1-) Ŧi.

一二八

一十八日迄の錐の重量を計りしに左記の如きものを得たり

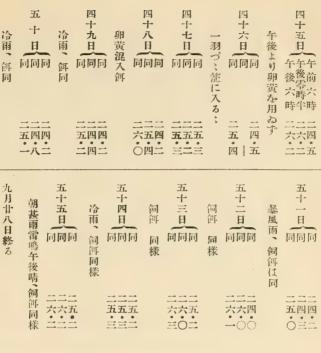
二二十十日日	十十九八日日	十七日 帯御として栗を加	#の肥立たざる中に親鳥産卵せるこごあり。	之迄の經驗に依れば巢引中親鳥	れり己れ先だちて餌をむさ親鳥は雛を慈まねやうにな	九八日日	七六	五四日日	三 二 日 日	野化當日 - M である
= -	_ 〇 九 	九一、東ふ	親鳥産卵せる	災引中親鳥に	て餌かむさ	四四五五一	三三九一	二 二 四 一	一一六六六	雅ごを示すな
二十六日	二十五日 て以後與ふる	二十三日二十三日	こここあり。	に動物性の者を多く	能に移せり	中一羽の雛死せり(發育の親鳥雛の毛をぬきて食す夜子の日	十三日	十二日	十 十 一 日 日	 あ 掲 で る
1六:三	ふることを得ず	は取りつくし一三・五	一一一多	く與ふる時は	依て親を別の	せり(發育のお・七	· 六	酸止す 五・三	五. 四三二	
二十四日	三十三日₹同同	三十二日同同	三十一日 午後零時少三十一日 午後零時少	除き著しく重くな六時には二三例外	後零時半には明に般に午前六時は最	とらせり其結果左の如く一.為めに以後三回計量するこ	<ul><li>おや午後なるやを知らむが中發育の盛なるは午前にあり、</li></ul>	タ類は夜	三二十九日	二十八日とありとあり
三三○	二二一 〇〇九 九九〇	mands mands broads	時半時 一一一 九八七 一七四	なれり。	重く午も軽く	左の如く一	を知らむがにおいて日	至りて休止す親鳥飼せず朝餌を與へ	一九。六六	四の紀えたるこ 一八・二
四十四日同同同	同同同	四十二日   同四十二日   同	天候不	四十一日	四 十 日 同同同	三十九日	三十八日	三十七日	三十六日	三十五日
二二二 六五五 二九〇	二二二 五五四 六九九	二二二 五五四 九〇九	良夜中より暴風二匹・九	三二三五三八八	二二二四四三八二六	二二二三三四二	二二三 四三二 一三四	三三	=====================================	三二二〇八十七六

森

繑

 $\equiv$ 

ガンの下面變り



變黒面下のシガマ 岡十二第

す如き下面殆ご全部黑變せる珍らしきものなり解剖の結果雄な朝鮮京城市場にて本年二月十三日に入手せしものは第世間に示

るこごを確めたり。

左に記す鳥類は本郷區内なる我家の窓より見たるもののみな

鶉

0

家

31 30 29

カ

ル

(同上方言マ

34 33 32

ァ 木 スジメ

アラジ 'n 5

(同上方) D

メジ 1

コ

ムクドリ

り。

タカ類 ガン類 ゴキサギ ど(方言トンピ 18 17 16 15 ıν 3 ア ") グラミ リビタキ 'n カ ハラ(同上) ハ ラ(シナイ (同上方言)

19 20 ウグヒス 1 ビ タキマ

ノスリ?

ŀ

23 22 ξ ソ ナサジ 1

24 ۲ ツ 18 レンジャク x

ア

ヲ

バッ

丰

ツッキ

木

٢

ŀ

ギス(壁のみ)

+ +

ジバ

ŀ

(同上方言)

21

4

3

ンクヒ類

7

3

27 26 シジウカラ シブトガラス

b +

3 セ

F 丰

1) v

1 類 ク

25

Ŧ

ズ

云ふ如くに聞こゆ。

「ホーホー」三云ふ如く鳴く、一羽又は二羽來り地上より六尺位

キツツキ類とこあるは鵯より少し大にし

毛の色はトビに似て一層大なりき。アラバヅクは夕刻又は晩に

て木に止りたるこころを見るここ能はず鳴聲「ヒークワクワ」こ

の枝に居るここあり。

右の内ノスリアは本年七月十二日暴風雨の節見たるものにて羽

朝氷ミけにけらしな氷の面に

やごる鳰ごものきてなくなり

水の上にあごはごまらぬ物なれご

しばしはみのる鳰のかよひぢ

景

樹

順

14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

牛 サ

Ľ ン

タキマ

28

1

クドリ

クワウテウ

Ξ

0)

餔

3

F 者 F

ŋ 0 ŋ

0) 雌

問

ヤ

ことす。

答

此

F

ij

は體小形にし

7

P

ゾ

E

ゾ

森

爲

喈 3

問

答 問 淡 **耗に達するも雌は** 1/1 く、 1 ヤ 1 鶴類の體量、 背の総青色も亦淡色なり。 小 П テウの生 咧 労数、 七粍位あるのみ。 卵 量 其他雄にありては翼一二〇 雌は下面の赤味 孵化日數及び「渡り」の大要 光又淡 (黑田 馬 Ų 庭 回 땑 答 の白 小 軍 3 色部 İ 市 0 色 分

答 に就て丹頂 鶴類に關する質疑事項に就て東京上野動物 鍋鶴及び真鶴の 失々の場合を御教示を乞ふっ 関の調査によ 12

ば左の如し

间	錙	真鶴	同	同	同	同	同	丹頂	名稱	鶴類
見同	四同	八明	五同	十同	廿同	月大	同	渡大	生	0)
島四	月四	月治三	日六	二日六	日四	一正		邊正 千二	华	IJEZ.
一十三年一	同十二二	購入	同年六	同年五	同年五	繁年		秋年献九	月	重
納月	年	求年	月	月	月	殖六		納月	H	
同	同	末			四	Ħ.	[ii]	思時未 へ四洋	年	
								リオー 位献	营企	
同	同	詳	浅	茂	展	陇		下常	[6] h	
九		世		$\stackrel{\rightharpoonup}{-}$	_		_	orna tours	riest	
	H	六	買		貫	貫	買	貫	田山	
Ti	八	百五	九	貫	せ	-[:	プレ	Dri		
	+	+	百		百	73	TI	百	J.	
目	П	П	H	目	目	H	П	El		
には同切明	こ残はた捕角	りは去風り	月同	二种	伸凡和	ドど称	か實羽科	平殆秤		
	伸翼ざる獲長 長風る由當	完り切り ②全あはD		分量の電	長三貴	性量量	呈端軸流	社ど量	備	
一分残る十	。切程に時	にり指一	1	一時	の開	宇す時	でだ初明	宁全時		
の翼こ四一風と年	新度で片	し一骨-		に風伸切	二種のも		開め原かたも			
の切眞片	はあ翔か	新の共力	1	長新	長菊	下新	ずる業	万長新	老	
長新鶴翼さ初にか	完りし損 全 能し	羽残に多		邻	さま		棒も変			
	1,00	20 2017		11.7			,, ,, , , ,			

因 記 記 秤量は大 JE. 华 t 頁 [JU] 日 施 行 又重 畫 -1-F 13

捨てたり。

數

丹頂 の動 卯 見聞に由る 及 八び真 鶴 0 產 明 數 は 必 ず 腹 1 個 こす は余 經は 驗眞 な鶴 きに も對 京し 都て

鍋

調に就

1

は

₹,

見聞

なし。

取去 腹 化 るこきは大 せしむるここあ 個 の産 驯 凡 を抱 温し 調 間 T 0 孵 後 更に 化 豫 第 定 日 回 數 を經 目 0 過 腹 t を産 るごき 明 其 し之を 驯 を

盆 聊 重 量

0

同大 同大 Œ Œ 卵 年 年 產 五四 同四 月月 月 生 四三 廿廿 月 + 八四 日日 日日 H 及 同 丹 個 IĮ 卵 卵 數 對 對 六七十十 六七 重 ++ 九二 八三 量 匆匆 匆匆

\_とし尙序雌雄こと後初る三卵 °にて後的ととれて産産も日の 注統日關なな或る卵卵の以秤 

八二 八 匆匆 勿

鄉 化 H 數

同大

IE

五

华

月

同四

廿廿

五二

日日

同

卵

對

六七

4-4-

大

Œ

年

四

月

11-

六

H

同

卵

個

六

7

满 十三日 にて 如 J: 0) B 數 がは只 丹頂ご真 鶴 對 す る實 驗ご見聞

彼

此

を綜合して考ふるに

間

遠

なき事

質な

0

ź

す

(黑川

義

太

剧

[11]

にして鍋 鶴に 就 7 は何等得 る所 無し 此 孵 化 日 数を系統的

玥

治二十 古く じたり は 卵ごに 3 世 た 1 亦 は 如 して伏巢せ E ば 對一 るも 鶴 きもも 產 あ 間 不 110 卵 新 0) 規 日 3 往 de 七年 劕 E 落 由 R = 四四 明 0 宿 產 0 4 0) 治 É 差 が て數 月月 1 3 す 俗 動 - 5 數 を生 に云 に當園 付 產 L ず + 物 3 B 干 十十 調查 驯 園 後 夜に入 直 四 ^ ~ Ħ, 更に四 方に一 ふ數 0) 個 す ず。 日 ち 日 FI E に伏 古老よ 乃至三 L るこご真鶴、 0) 0 朝朝 兰十 二十六年に同 御 たるに確固 珂 俗 6 產產 人の 巢 下 が 日 日 日 卵卵 思ひ 1を以て )+(滿 常 Ħ. の差を生ずるここあ 付 を經て次の + 0 9 相 1 日 知 るを例 Fi. ららざ 此 聊 H to 成 日 三三十十 唱 す 雄 0 る 丹 乃至思ひ 目 事 る間 こす 燉 L 兩 頂 \$ るが故に朝 ナニ 三三日日 て雌 數 る なり 孵 3 1= 性 卵 b 產 こなるこ云 3 起 1 れごも 化 しが 孕 は伏集す 雄 こ於て經驗 to 因 せ 出 0) 五五 產 る 兩 月月二二 Ł L 4 te なご稱 なす た 14 同 す 偶 り、又丹頂 0) 道 ここを 園 故に 3 產 産卵ミタ方の産 ++ る丹 ごなるここを信 0 五二 雌 に於て繁殖 ふここ ŧ b 後 日夕方 耳に 頂 を す 卵 0) ETE 0) な ろ 有 化 あ 日 真 は旣 場 對 對 す 日 0 0 間 す 孵孵 るこ 合 數 鶴 此 鶴 放 1 to 化化 明 因 7 任 共 ŧ, 頫 0

次に朝鮮京城動物園の調査によれば左の如し。

**丹頂の體量** 二貫二百四十九匁

但し大正五年十二月三十一日忠南瑞山郡泰安にて補獲せる

ものにして雌雄不明

淡青灰 色にして 所々淡 褐色の 汚斑あり(但し六月四日の長徑三寸五分、短徑一寸九分、重量四十四匁あり、色彩はに只一個にして親鳥は今尙其一個を溫め居れり卵の大さは大正七年五月十日に李王家動物園にて産卵せるものは前後

調

丹頂の渡來 (黄海道海州の調べ)

話によれば丹頂は年々秋十月末頃より渡來し翌年三月末に話れば丹頂は年々秋十月末頃より渡來し翌年三月末に

て三十羽餘の丹頂を捕獲せるこごあり(下郡山誠一回答)因に大正六年三月十五日より廿一日迄の間に同地にて罠に至り其影を沒するよしなり。

とに左の如き回答ありたり。 - 次に編輯者より質疑者に右の下郡山氏の調査の結果を報知せ

之御高覽に供し其の原因に付き重ねて御垂教仰ぎ度次第に御座治四十五年乃至大正三年に亙る間調査せる事實ご稍や異る處有左に下郡由氏御研発事項ご小生が岡田信利先生御指導の下に明

候。

真鶴の場合 四十四匁(一個の量)

一、卵量

李王家動物園飼養のものによる(下郡山氏報)

備考

のを六月四日秤量せしものなりご言ふ。
・
卵し六月四日に至り巢より墜落し石に當りて損したるものを六月四日に至り巢より墜落し石に當りて損したるものを六月四日秤量といる。

二、御参考迄に

ものなりき(馬庭軍市氏報)の通信を綜合するに何れも一貫七百匁より一貫八百匁のの通信を綜合するに何れも一貫七百匁より一貫八百匁の通信を綜合するに何れも一貫七百匁より一貫八百匁の通貨。 大正五年一月中本道巨濟島各地の沿岸十町內外の

次に質疑者より更に左の如き報告ありたり。

(一)採集 場年月 H 慶明 尚治 南四 |道陝川郡龍州面高品||十四年一月三十日 洞田地眞鶴

羽の體量 貫七百八十匁(實際秤量せるものなり)

最小は一貫六百

(三)渡來の場所 同同同陝 JII 郡陝川面陝川洞田地」 郡栗谷面文林里畑地 郡栗谷面文林里畑地

江に沿ひたる場所 竹

(四)渡來の種類 眞鶴 十一 羽群 の群を見ることあり。 稀には八、 九

頗る稀にして五、六羽を見るに過ぎず。

見るここなし。

(五)渡來の初期

明治四 年 一十三年 別 初 めて見たる

月

Ŧi.

H Ħ

Œ 四 + 元 四 年 年 + -月 月 + 五. H H

年 + 月十 六 H

同

大 同

同 四 Ξ Æ. 年 -1-月 + 八 H

同 同 同 六  $\mathcal{I}_{1}$ SE. 年 + ---+ 一月 一月二十 月二十 Ξ -H H E

以上は風聞にあらず實見の日なり漸次渡來期遅るが

如

(六)去 期 確知せるにあらざるも大正元年前 は二月初 月世 Ħ.

頃

目なりしつ

馬庭車市氏報

なりしが漸次早くなり大正七年は

行「ナベヅルは……・金剛山下……」ごあるは ては満三十三日を要するものなり。 四匁こあるは不完全のものと如し。 ては丹頂の卵六八乃至七三匁、 序なるが如 以上の 結果鶴類の體量は丹頂最も重く、 5 卵数にありては必ず一腹 眞鶴は五十匁五分位にして四 因に「鮮滿鳥類 孵化日数は丹頂こ真鶴三に 一個なり、 次は眞鶴、 7 ナ ヅ 珋 班87 ル 量に 鍋鶴 の誤 頁 あ 0) 順 Ŧī. + 0 0

の由につき訂正す。

鳥類一 斑」86頁によれ ば左の如し。

次に「渡り」の大要に關しては前

記

F

郡 ili

氏

の報告の外

鮮

滿

頃迄の間棲息すご云ふ。 鶴は木浦附近にては十一月下旬より三月下旬

丹頂、

鍋鶴、

眞

鶴 **叉内田清之助氏によれば鹿見島縣** 眞鶴、丹頂)年々十一月下旬より三月下旬迄の間に見るこ 出 水郡 阿久根村にては (鍋

双ドレッサー氏によれば丹頂の場合にありて"Is said to frequent the large open plains, and is a migrant in S. E. Siberia, arriving in the Ussuri country early in April and leaving in November" (Dresser),

因あるべし。(黑田長禮回答)
こさに前記の諸說一致するも馬庭氏の最近の報告によれば渡來こさに前記の諸說一致するも馬庭氏の最近の報告によれば渡來こうに前記の諸說一致するも馬庭氏の最近の報告によれば渡來

答本篇講話欄に詳細に記述したるものを見られたし。

質疑者 黑 田 長 禮

(黑田回答)

しに一腹十九個の多數の卵を産し候か、る例は稀れなるここ問 五、小生飼養の眞孔雀雄七歳に本年始めて雌四歳を配合せ

れば普通なり是迄一腹十九個の産卵は未だ聞きたる事なし答。真孔雀雕の十九個産卵は一腹ごしては頗る多産、二腹ごす

黑川義太郎回答



路町多賀羅亭に於て開會せり。出席者次の如し、來會順)□本會第九回總會 本年四月廿六日午後五時春期總會を神田淡

黑田 籾山德太郎 島 寬夫 長禮 魁 森田 大久保忠春 內田清之助 田子 松平 菊池米太郎 勝備 1/5 安衛 柱助 信輔

及出品點數次の如し。當日の出陳標本は啄木鳥科及蜂鳥科に屬するものにして出品者

黑 松 # 1  $\mathbb{H}$ 品 賴 長 孝氏 禮氏 者 蜂 二〇種 二七種 R. 利 啄木鳥科 四七種

動 物 學 教 宝

百

輔

E

二種

六種

四 種

噟 籾 山徳太郎氏より 1 カ ルチド IJ 卵 及 幼 鳥及其 他 し数點の 出

陳 右の外 あり い午後 九 時半散會

に秋期總會を開催 本會第 -回總會 せり、 十月七日午後五時より 當目 は世界風 邪 行の 神田淡路町多賀羅亭 爲め出席者意外

に少 数にて次の 十氏なりし。

鷹司 篤麿 信信輔 小林 籾山 飯 經太郎 桂助 魁 黑田 寺 岡 長禮 丘 淺次郎

る勘察加半島採集旅行談ありたり終つて内田幹事 會場には 別記」並に海雀科鶲科鳥類標本の陳刻ありて籾山氏より 會員籾山徳太郎氏の 今夏勘察加 半島に於ける採集品 すより 本年度 興味 あ

計の 報告を了し九時散會、 陳列標本次の如

벪

一察加半島產鳥類

Ŧi.

+

74 種

百

干五

點

籾

山德太郎氏

海雀科鳥類 六種 八 點 動 物 學 敎 字

三十二種 五種 十種 四十六點 --六點 五點 黑 動 黑 物  $\blacksquare$ 學 長 Ę 教室 禮氏 禮氏

鷄科鳥類

同

八色鳥科鳥類

八種

九點

黑

田

長

禮氏

才 ンケイヤマ 木 ŀ ガラ 函能產

ウ ブクク カ Ŧ メ(浦賀沖産

ヤマガラ、ナミエヤマガラ、オーストンガラニ 濕 點 點 黑 動 籾 111 物 徳太郎 學 長 教 正典 氏 正

生鳥の

献

臺灣總督府に

ては豫ねて同

一ミカドキジ

-11-第

し天魔に供せ

キジを生獲

んこの議あ

島特産の

こそカ

しが同

府

博物

館屬託菊池米

太郎

氏の苦心

る結果今回漸

獲に努めた

せる山 ξ く能高山に於て雄 カドキジは九月十六日及十九日の採集にして採集後一ヶ月餘 鷄 深山 竹鷄數羽 共 に献 捻し得たるを以て 上の為め上京せら 氏 は同 れたり 時に捕獲 右

第十二岡 ミカドキジを採集せる 菊池米太郎氏



歸臺後雌鳥の捕獲に努むべしこのここなり。 當なる雌鳥を配するを得ば充分蕃殖し得べき望あるを以て氏は を經過せるのみなるにも係らず善く馴れ比較的人を恐れず若適

三氏之に常らる、管なり、本會在京會員諸君には追て特待券を 送呈すべし。 の由にて其小禽部の審査は鷹司信輔、 九日迄六日間上野公園竹之臺陳列會内に於て家禽共進會を開催 同島共進會 中央畜産會にては例年の如く一月十四日より十 内田清之助、 黑田長禮

本會事務所宛豫め申込み置かれたし、 の運に至るべしご云ふ本會員には割引あるを以て入用の諸君は 遲刊せしが目下全部核了せられしを以て本誌發行の頃には發刊 □鷸·千鳥類圖說 黑田長禮氏著同書の刊行は豫定より非常に

期日大正八年二月末日限

□會計其他の件は東京理科大學動物學教室内本會苑のここ。

二人 TIN'

H. C. Oberhölser

U. S. National Museum, Washington, D. C.

十三

\_\_ -[-

Œ.

**然** 

**然**鴨

小歌•

十九九

「鶚は至つて多く」の下「鷹も少からず」を脱す

小鵬手

上去用リ门 A.sperciliosa sperciliosa A.superciliosa pelewensis

]轉 居 大澤

保

名古屋市東區中市場町三ノ十八

福岡縣若松市若松中學校 東京麻布區斧町三一

中尾 藤

春雄 常隆 于藏

木 田 沼

富田杉太郎

千葉縣木更津中學校 廣島市南竹屋町樋小路 京都御所御苑堺町門內官舍

蓮 和

薰

三井合名會社柔佛出張所巴盤阿護謨園

青森縣師範學校

£ PU

四百年の間に輯銘 輯錄

意鳥類の弦、鷹」の下に「と」を脱す 捕食殿は

捕食嚴禁

邦訓

邦順•

日本政時 日本現時

大儒碩學詮考 碩學に

四八

£.

다 1四

採取せしめざりした

桂長太郎 ざりしと

長與鼎 桂長次郎

長興鼎

長井靖吉

下二 下 下終行

三九

and the company of the contract of the contrac

口死

Ľ 水

野

誠

在北米

內田清之助 川口孫治郎

波江 元吉

六九

掲載

-12

Ä

ル論

別刷

ラ

阳己

乙種會員ニハ雜誌

鳥

」及ビ

動物學雜

問載

鳥類

#### 本鳥學會規 則

第 條 木會 ハ 本鳥學會 ŀ 稱

第 條 本會 事務所ハ東京帝國大學理科 大學動物學教 三置

第 條 木會 目 的 左 如

鳥 類 趣 味 ラ有 ス 22 Ŧ 狠 心親 チ 計 ル 3

鳥類 鳥類 恐爱護 關 ス 思想ヲ普及セシ ル 學 術 淮 步 ラ メ鳥 促 ス 類 J ノ保護

ル

本會 コ い前條 ٢ プ目 的 ラ達 ス ル 為 がメ評 護會ノ決議 増殖ラ計 ヲ經

第四 條 **時**種 當分 K ハノ事 年 学業ラ ナ 雜 能記 『鳥』ラ 8 ス ル J 1 テ随

鳥學的探檢 韶 時 每年春秋 Ξ 時 鳥類 刊行 物 一回 關 ラ夢 ラ出 自會合シ ス ル 行 版 圖書標 ス ス 鳥 ル ル 類 コ J 本其 = 關 他 ス ル 展覽會 講 演 催 ラ Ť シ 同

第五條 本會々員 甲種會員 グラ分 ハ會費 チテ甲 1 ・シテ -種會員 ケ年金貳圓 ト乙種會員 四治 グノーー 1 ラ ス 納 L

ル

議

員

乙種會員 コ ハ會費トシ テ ケ年金壹圓 貳拾 錢 チ 納 4 ル

コ

第六條

甲種會員ニ

ハ雑誌『鳥』、

臨時刊

行物及ビ動物學雜誌

祭 七條 木會 ラ得 三入 會 セ 1 欲

ヲ限

1) ス

無代配布

ス北

ハ定價

ノ三割引き 臨時刊

LÍ

テ講讀

城

(iii

關

ル

が論文ノ

別刷

チ

配布

議二 本會 3 申込ム ル シ但甲 ス 一種會員 ル Ŧ ノヽ 任 所 退會 氏名職 ハ部議會ノル

第八條 第 JL 干名(甲種會員)ラ以 本會 部議會 三會 頭 **党名幹** ハ會頭幹事及ビ會員 事壹名 テ組 ラ置 1 百 撰 3 ル 評議員若

東京理科大學動物 學教室內

役

員

評幹會 事頭

理學博

歐醫學 內 飯 田 清

理學博 學博 1 丘 塚 飯 浅 次 郎 浮 助

松 田 11 賴 長 信 輔

舉

子 T

### 投稿及質問規定

(一)鳥類の習性、 渡り、 方言等に關し廣く各地方會員の投稿を

(二) 既揭原稿は返戻せず、但し挿畵に使用せる寫真及び圖畵は

希望により返戻すべし

(三)原稿は紙の表文を使用し一行、二十五字詰に認められたし、

假字は平假字を用る動物名及び外國語は片假字ミす

回 )挿畵は寫真以外のものは墨汁にて認められたし

(五)原稿は東京赤坂區福吉町黑田長禮氏宛郵送せられたし

入理科大學動物學教室内本會宛郵送せられたし

(六)本會は鳥類に關する質疑に應答す、

(七)質問解答は一般讀者に有益なり 言認むるものは本誌に掲載

發

賣所

するも其他は質疑者に直接解答するものごす

大正 七年十二月二十七日印 刷

定 價 金 參 拾 五. 錢

大正七年十二月三十一日發行

發編 東 行輯 京 市

日

本

橋

區

兜

町

番

地

木

下

憲

市日 本 橋 EL. 神 兜 町二 谷 番 地 次 郎

即

刷 京

東

載轉禁

即 東 京市日 刷 所 本 橋 圖 東京印刷株 兜 町 番 地 式會社

發行所

質問の事項は返信料封

動物學教室內東京理科大學 B 本

鳥 學

會

振替口座東京六五九九番

華

十 軒 店 町東京日本橋區 裳 振替口座東京一〇七番

#### □錄目物行刊時臨會學鳥本日□

第學 第 第 理 仁 理 理 學 學 部 壁 學 ノン士 士 士 士 士 篇 篇 篇 篇 富 扁黑 扁 黑 黑 里 內 内 之 附臺田 111 東島 世 田 H 助 H H 菊池米 滿 清 清 荖 界 長 長 長 界 之 類 太郎。島禮 禮 漕 助 助 著 著 著 雁 著 著 著 圖 0 灣 鳥鳥 8 昌 0 習界 斑 鵠 鴨 說 說 定寫原 定寫原 定寫コ 郵定原 郵定原 郵定原 絕 價 價眞タ 色 價眞色 一眞色 稅價版 稅價版 稅價色 圓插版 金 兀 六七枚 拾插版 卅版プ 金金枚 四四版 十 畫 口 錢 Fi. 版 寫 寫 錢插-十具 八貳眞 版 郵十繪 枚 繪 郵 版 版 稅 郵畫地 税數 五五 税數圖 枚 十數一 Ŧî. 四 枚 枚 錢個個 錢個枚 錢個枚 錢圓附 錢錢附 金瓷金瓷图付

房 華 裳 蜀 草 草 京 東 華 撮 所 捌 賣

### 富清 之之 助助

郵定圖菊 價版 版 製 假 本 稅金葉 装 紙 出 揷數 不圓書百 來 五三三 +++ 要錢個頁

ざる努 未 務 本 家 ナご 邦 信 1 產 薦め グカの 鳥 賴 す 類 んとす 結 0 ~ 泛渡 き報 果、 りし並 3 此 告 所 0) 篇 以 公表 1 繁殖 成 な る。 せ h 5 期 材 n 1 料 72 就 は 3 T 精 は 8 選せら 聞 其 かっ 利 す 害 n 12 0) h 關 n 吾 す 調 人 3 杳 0 所 は 甚 廣 1 鄭重 L を 遺 夙 極 憾 1 とせ to 調 查 敢 3 せ 7 所 6 斯 な n 學 b 3, 0 3 同 今 ~ 好 B かっ 者 著 5 者等 並 ず 1 L 江 T 0) 湖 勘 而 0 か 籄 6 A

象學 る未 3 沓 表 的 刊 考察 行 を附して説 料 容 報 (一)緒 告(三)故 一各種 中 明 央氣象臺 す。 鳥類 小 觀 川三紀 測 繁殖 特 規約い かず 氏 鳥 全 期 學 0) T) 國 渡 事攻者 總 觀 よ b 察手 h 括 6 蒐 的 豆 記 調 期 集 査 節 せ 四 外 及氣象 と經 3 0 )著者 未 便 路 刊 を (二)各( 等 60 行 計 0 報 觀察 關 告 h t 種 係  $\subseteq$ は 鳥 手 )農商務 以 記 類 主要鳥類 五 上三章、 渡 りらの 省 旣 か 刊 約 項 期 信 全 To 節 國 賴 分 + す 地 0 方 種 統 3 0 廳 事 0) 計 寫 及 JU 的 足 生 大 + 3 研 究 林 圖 べ 品 8 並 總 署 插 數 1 其 + T 1 個 牛 h す 0) 能 記 0 蒐 詳 的 錄 集 細 氣

註意 本書 日本鳥學會會員ニハ本會ニ申込アレバー 人 册チ限リ定價金一圓ニテ頒布

大 正 t 年 四 月

#### 本

定 郵 及 價 稅

續下上 篇卷卷

金金金

四五五五 員員員

續 上下 篇 卷 郵 郵 税 稅 各 台內 台內 雄地 雄地 #-五二 五六 錢錢 錢錢

裝圖 FD 版 幀 刷 精 鮮 優 雅 巧麗

獸 理 庭 博 内 飯 H 島 清 魁 助 先 先 牛 核

> 廿版 四 九 + 六 枚 插 倍 枚 繪 美 寫 本 眞 原 色 版 個

著 閱



本書

二八本邦所産鳥類全部七百餘種チ

網羅

シ精密ナル

ル寫生圖

附

=/

4

其形態原產

地分布習性等ヲ詳說

本書二

掲グル

圖ハ原色版十 n

八枚寫真版二十

九枚插畫数十

鳥閩譜ト云フベシ

**サ以テ本書ハー** 

面ニ於テ現行法

(臺灣朝鮮モ各別ニ掲グ)ニ規定セル

保護鳥

類

切サ含メル完全ナル

保

精巧印刷裝釘ノ善美ト

八本邦出版界稀

三見

所

總論部ニハ鳥學研究上必要ナル事項

八凡

之ヲ解說シ本邦島學研究上ノ参考文書ハ委り之ヲ解題

個凡テ理科大學所藏標本ョ

1)

新二寫生

七

所

係

成完續正

番五五五京東替振

店書社醒警

町張尾座銀京東

#### 告豫行刊著新の有稀界斯

十二月下旬刊行

理

學

士

黑

長

禮

先

生

著

正插 色版 倍版 金 五 百 總 五 寫 直 版 圓個 葉

述 智 本 備 編 圖 L L 總 特 說 は 種 1 せ 論 本 3 とし 類 邦 0) 6 識 7 産 0) は 0 1 别 種 最 本 科 類 T 難 何 鳥 K な 就 類 n きて 0) 8 3 鷸 形 各 は 種 能 千 最 1 . 詳 鳥 習 就 きて 述 類 性 世 • ij 雌 渡 雄 h 尙 . Ĺ 夏冬 各 0 亞 分 0) 羽 類 科 全 法 ょ • 老 冊 h . ፠ 亞 界 幼 に産 考 0 種 文書 記 1 載 至 す 及 3 等 3 び を 迄 B Ō 記 分 細 = 密 布 述 百 す 75 . 三十 習 3 3 索 事 性 t 等 引 -を 種 8 具 類

0

Charadriidae

し本 文 一千局本話電 七百京東替振

捕

書

15

は

内

外

種

0)

寫

真

寫

4:

圖 等

首

五

+

を

插

入

世

h

版

は

鳥

類

寫

生

圖

1

最

摅

能

な

3

横

山

慶

次

鄎

書

伯

0)

筀

15

成

h

+

葉約

八

+

種

0)

邦

產

種

E

圖

項

12

耳

h

其

他

分

布

表

0

學

名索

引

等

to

附

錄

とし

T

添

附

せ

h

行發店書房華裳

橋本日京東 町店軒十 Contents:

A collection of hirds from Quelpart Is.

By Nagamichi Kuroda and T. Mori.

On the breeding habits of Ninox scutulata.

By M. Kawaguchi.

On <u>Catharacta antarctica</u> <u>a Syrrhaptes</u> <u>paradoxus</u>. By Nagamichi Kuroda. A collection of hirds from Okinawa and

A collection of hirds from Okinawa and Amami-Oshima. By E. Horii.

A list of birds collected in the western coasts of Kamtschatka. By T. Momiyama.

Frontizepiece: The late Mr. Namiye. Miscelaneous Notes.





#### 鳥

第

六

號

行發月五年七正大

會學鳥本日





#### 鳥 第 卷 第 六 號 目 次

海豹島に於けるウモガラス(日繪第一圖 版 : 山 f 將

江 カ 我 臺灣總督府殖產局採集鳥類目錄 4 .戸時代將軍家の狩獵(承前 カ 4 國にて初めて 「鳥學の コムリ バゲラの ツクシガモ Pseudotadorna cristata Kuroda 譴 | 捕獲せられし大盗賊鷗に就て…………… ) に就 理學學士士 理 埋 醫學 學 士 荒 黑內 木田<sup>川</sup> 谷 彦長之三 重 2 助禮助郎

類 11 獝 ブトイカルに就て(森爲三) メリカヒドリごミコアイ ン・ヒクヒ (籾山徳太郎) ナ類の新分類(理學士黑田長禮) 琉球産鳥類の方言(尚景) 美濃にて獲られしトキに就て(柳原要二) (理學士黑田長禮) コホリガモの最南分布例(籾山徳太郎) 下總印旛郡地方の鳥類方言(齊藤源) ア カ ツクシガモの「彼り」(獸醫學士內田 學 東京市内にて見 <u>J</u> 郎 長 清 たる鳥 埼玉 存 調 助

質疑應答 縣下に渡來せし

鶴群の眞相(籾山徳太郎

(理學士黑田長禮解答)

報

-

件

美

## 海豹島に於けるウミガラス(口繪解説)

### 子 勝 彌

田

去つて仕舞ふ。 毎年五月下旬頃から此鳥が集合し來り、八月頃迄に蕃殖育雛を終り、八月下旬頃島から飛 は腹白なごご呼ばれる。圖は海豹島に於けるウミガラス蕃殖塲の光景であるが、此島には ウミガラス Alca troile (L.) は樺太千島等に多數棲息する海鳥の一種で、俗にロベ ン鴨又

所があれば崖地へでも産卵するやうになつて來た。此島のウモガラス産卵地は草も土も無 ウミガラスが密集し、弦で産卵育錐する。近年は高臺丈で足りなくなつて少しでも平らな に産むだ卵を取去るご後から又新に産卵し、三腹位繰返して産卵する。雛は七月初めに孵 の二三個丈である。ウミガラスの卵は食用こして多數に採集されるが、此鳥も他の鳥の様 い岩の露出した所で、弦へ直かに産卵する。一腹の卵は多く四個であるが孵へるのは其中 つて居る、而して其中央には一條の道があつて此道路の兩側二十米突許を除く外は全部に 海豹島は長さ四百米突幅二十米突高さ五十呎許りの島で、其上部は一面に平たい高臺にな

習をやらせられる、斯くて八月下旬頃充分飛翔力が、發達する様になるこ親鳥こ共に全部 化し、七月下旬頃には親鳥に連れられて島の周圍の淺いラグーン様な所へ行つて游泳の練

て來るこ忽に啄き殺して仕舞ふ。鷗は斯様にウモガラスの蕃殖には有害な鳥であるが膃肭 棲息する鷗である、鷗はウモガラスの卵を盗み食ふのみならず鶵が崖から砂地の方へ落ち はごしごし海の中へ飛込んで逃げ去る。ウモガラスの蕃殖に最害のあるのは此島の砂地に が歩いたりなごしてウモガラスが騒ぎ出する、膃肭獸群は之を見て警戒し初め、牝獸や仔獸 海豹島は島の周圍が帶狀に砂地になつて居るが、此東側の方が有名な膃肭獸の蕃殖塲であ る、膃肭獸はウモガラスの群が崖の上で安靜にして居る間は安心してゐるが、崖の上を人 つて毎年七八千頭の膃肭獸が仔を育てる。ウミガラスは此膃肭獸ご密接の關係を持つて居

て居る時に、鷗が直ぐに飛んで來て臍帶を喰ひ切り丁度膃肭獸の産婆の樣な役目をするこ 獸に取つては甚有益な關係がある、それは膃肭獸が仔を産むで仔獸の臍帶が牝獸に附着し

こである。



ノ關係アル膃肭獸ノ群 左上圖ハ船中ニ飼養セ (右上圖下方ノ大形ノ動物ハうみがらすト密接 (田子滕彌氏原圖)



論

說

#### 號 六 第 卷二第

# 我國にて初めて捕獲せられし大盗賊鷗に就て

理 學 士 鷹 司 信

輔

發表を依頼せられたるに依り氏の好意を謝し之を記述せん。 大正六年の春松平頼孝氏は相模灣に於て海鳥採集をなし、珍らしき鷗を得られたり、今余に其の同定並に

**列風切の基部は白色にして、此部分は其巾廣く、翼を張れる時は一白帶を示す。但し初列風切第一** は可なり基部迄セピア色を呈す。翼の裏面及び腋羽は濃きセピア色なり。間肩部及び風切の羽軸は疑白色を は羽軸に沿ひ極めて不判明なる、翼端に向つて開ける中央総班を有す、尾羽及び大雨覆の極て基部、 尾筒にかけては漸時其色濃く下尾筒に於てはセピア色を呈す。其他の上部は濃きセピア色にして、間 呈し鮮なり。 記載 頭及體の下部は灰褐色、頸側、頸の後部及胸の側面には疑日の緣を有する羽を交の、下腹部より下 嘴は黑褐色、虹彩は暗褐色、脚は赤色を帶びたる黑色なり。 羽の外辨 及び初 肩部に

#### 大サ 但長は輝

番號	嘴峰	跗蹠	翼長	性
8370	4.8	6.4	39.5	ŝ
8512	4.7	6.6	40.5	3
8478	4.5	6.5	38.5	우
8513	4.5	6.3	40.0	우
8472	4.6	6.5	37.5	우
8474	4.6	62	39.5	우
2473	4.6	6.5	38.5	우
鷹司 所有	4.5	6.4	39.5	우

する所、並に江の島沖西方約二十町餘の所なり 採集地。江の島沖、西方六里程の所にて俗に「大山ガケ」ミ稱

しく今迄我國にては全く捕獲せられざる種類なり。故に之を「オホ ウゾクカモメ」ご新に稱する事ごせり。 本種は鷗科、 盗賊鷗亞科(Stercorarinae)に族する鳥にして、正

盗賊鷗亞科はさらに二屬に分つ、一つは形大にして容姿重々

即ち從前の總ての盗賊鷗 盗賊鷗屬 (Stercorarius) の種類に屬するものにて ご云ふっ racta)
ミ云ひ、後者は、 之を大盗賊鷗屬 (Catha 賊鷗の族する屬にして、 回江島沖に得られたる盗 尾羽をぬく。前者は、今 中央二枚の羽は長く他の にして、尾羽は長く特に 型をなす。他は中形の鳥 尾羽に優り、尾は鈍き楔 央二枚の羽は僅かに他の しく尾羽は長からず、中

鷗屬に下の四種を含ま Saunders 氏は、大盗賊

Catharacta skua

第

島サウスオクニー島 ランド群島ケルケーレン ド並に其の屬島ファ 濠洲及びニュージーラン

アランド及びウェッデル ers) サウスヴィクトリ 4. C. maccormicki (Saund-

海

は多少にかかはらず下部に赭 U Catharacta skua (Brunnich) 思はるれご、其の色彩を見る 得られたるものは、一兄 Catharacta skua(Brunnich)の如く 右の如くなるを以て、今回

(Brunnich)太西洋の北部

2. C. chileusis (Saunders) 及びハドソン海峡の沿岸

3. C. antarctica (Lesson) 南亞米利加大陸の南部

赤色を帶び、嘴は其の先端を除き濃灰色を帶びたり。之れ今回捕獲せる大盗賊鷗に見ざる所なり。

に付きて比較するに、其色彩に於ても大さに於ても略一致するを見る。今此の三個の標本の大さを示さば 叉先に白賴氏が南極探險に趣きて持ち歸りたる標本の一部にて理科大學の動物學教室にある南海産 (South Sea) の大盜賊鷗三個

四〇糎二 三九、六 三九、六 跗蹠 六、二 六、二 六、〇 嘴峰 五、二 五、〇 四、五

羽の未だ鞘の脱し切らざるものもあり。夫れ故翼長は、已記の表のものより完全せる新羽の時は長大なるべしこ思はる。 頸部甚しきは胸、腹部の各羽迄 wornout じて其先端は疑白色を呈し、中には初列風切の先端が褐色に變ぜるものもあり。 ca ミ同定するを可なりミ考へたり。但し、今回の標本は、換羽期のものにして、同期に於ける本屬の特徴を良く表し、其頭部、 以上の事及び Catalogue of the Birds in the British Museum. VolXXV を見るに、今回捕獲せられたる大盗賊鷗は Catharacta antarcti-

B. O. C. にも太平洋に於て得られたり三言及しあるなし。 does he know of its having been identified on that coast by any one 又 A.O.U. Check List 3rd ed. (1910) にも近年の Ibis 及び Bull. Biewee 及び Ridgway の共著なる、The Water Birds of North America にも Cooper 氏は下の如く云ひて、其の確證を否定せり。 British Museum に於ては之を否定し No confirmation of reported occurrence in the Fur Countries or on Pacific side ご伝への叉 Baard, On the coast of California, it certainly occurs very rarely if at all-as he has never seen it, nor met with it in local collections, nor 次に Catharacta skua は、Saunders 氏は、カリフェルニアに於て排獲せられたり三一時稱へしかご、Catalogue of the Birds in the

るを知る ペルー邊迄北上せるものあれご、其の色彩今回捕獲せられしもの三異り其下部甚だしく赭赤色を帶ぶるを以て、容易に本種たらざ 叉、勿論 Catharacta antarctica の北太平洋に産する記錄の未だあるを聞かず。Catharacta chilensis が南米の太平洋沿岸にも産し、

如上の事より考ふるに、今回の採集により北太平洋にて初めて Catharacta 屬の有るを知るに至れる次第にて、甚だ面白き事な

初を見出し、舟を近けしむるに、餘り舟を恐れざるもの<br />
ご見へて、一向に飛去らず捕獲し得たるを初め<br />
ごして、合計八個を得たる に海上風波强く日も亦没せんごせしを以て、此日は歸宅致候。翌日之を目的ごして大山ガケ(漁師方言)江ノ島西沖、 ノ島真鶴中間の沖位、江ノ島を去る西沖六里以上の海上にて單獨に飛來り、水凪鳥の群に突入して餌を得たる後海上に浮遊せる一 『始めて海上に此鳥を見たるは、本年五月二十三日にして、翼に白帶ある大形の鳥類なりしを以て、珍らしきものご存ぜしも 其習性に付き、松平氏より、採集當時の模樣を詳細に申し越されたる、文あれば今之を移さん。 即地圖上江

の當時瘡を受たるものは、時に海上に死し居るをも見受くる事有之候。大形の鳥類故、其飛ぶや甚だ遅きものに有之候 ドリ、アカアシミズナギドリ)をも迫害するも、尤小形なるハシボソミズナギドリを他より以上に目的ごする様子にして、 其以上の距離に鷗群の居るを見受け候。何れの水凪鳥(此當時海上にオホミズナギドリ、ハシボソミズナギドリ、 に非ざるか

三も思はれ

候。

此場合鷗の

盗賊鷗に

對するは、

少しく

水

瓜鳥

三違ひ

、斯様に

近くに

來るを

悦ば

ず、何時も

二三十間

或は 背部をつくき、翼を以てハタキ等す。以上の如き方法を爲す時は、御承知の通水凪鳥にのみならず鷺族等にても其飛翔力を强くす 居るも、群を爲せる水風鳥一向に平氣なるは面白き事に候。彼等に尤恐しき敵の近くに平氣に居る樣は、鷗よりも水風鳥の方愚か 盗賊鷗が水凪鳥に爲す一の求食方法なるべし。又餌を充分食せる後は水凪鳥の群の浮遊する極て近くの處に、 る為には勢ひ體力を輕減せざる可らず之が故に其胃中に存する食物をハキ出して飛ぶ事は彼等の一の習性なるを以て、之を知て大 るトウゾクカモメは、先其群中の一羽を追ひ、多くの塲合脚を以て鷹の如くに水凪鳥をつかみ、或はケリ、又は嘴を以て頸部或は 低く飛翔し群中に入ては何時も水凪鳥の上方に《常斯の如き直立飛翔を爲す事は普通のトウゾクカモメご異なる事なく、突撃せ 彼は何時も食を求むる爲水凪鳥を追ふに非ず。時三しては一の遊戯的に追廻す事も有之候。然し突撃を試むる時は、海面を極 或は其群の内に浮び 1 彼の迫害 ズナギ

に來り「セリ」を爲し水凪鳥の「ニギワイ」に依て斯様なる近き場所にて捕獲し得たるものに有之候 本に捕獲場所記入有之候通り、大山ガケのみには非ず江ノ島極近くにても捕獲致し候。之は、魚(イワシ、シコ)の海岸近く

他事なれごも、 此 「ニギワイ」又魚の「セリ」なる事は御承知もあるまじければ爰に一寸申上置候

すは、水凪鳥に多く見る様に有之候。之鷗よりも視力の强き爲か。「セリ」を見て群り來り、 ものにては無之候。此「セリ」を見て群る場合は鷗に多く、未だ「セリ」の海面に出でざる前海面上二三ヒロ位の所にあ る結果に有之候。但し鷗の塲合は未だ海上に多くの海雀アビの居る時なれば、「セリ」なるものは、必ずしも大形魚の爲にのみ起る 「セリ」こは、 魚群の海 面に持上り一の小山狀を爲すものを申候。之は「イワシ」等の群が他のサバ其他大形魚類に追 或は水中に或は水面 に 鳴きつく餌を求 る時 に群をな

尚大盗賊鷗の食餌の様は、 水凪鳥の口中より出たる魚類の水面に落たるを食するものにして、普通の盗賊鷗の如く、 或 は空中に むる様を「ニギワイ」ご申候

受止め、

或は水中に潜入りて食するには無之候

居候。 て水中に潜行し、 0 餘 群の來りたる時は、又一の普通の盜賊鷗を見る事を得ずして、此大盜賊鷗を發見致候なり。思ふに普通の盜賊鷗にては、 水凪鳥に於ては、 時、舟の上より見るに、只大形なる魚類の水中にある様に見え候。之は前に申候通り、 Ŧ る為に有之候。以上ごあり。 メ等が主なるものにして、オホトウゾクカモメは水風鳥を專らごして、其内にも小形なるハシボソミズナギドリを害する様に有 有樣をも見たる事有之候。斯樣なる次第故、普通のトウゾクカモメの餌を求むる爲に迫害せらる、鷗は、 り强きものなるべく、 當年多數の鷗を海上に見たる時は、普通の盜賊鷗のみにして、此大盜賊鷗を見ず。後鷗の海上に少くなりし時、偶然水風 尙水凪鳥の食を求むる様に付て申上候。 普通カモメにあっては、 普通のトウゾクカモ 今一つ鷗ご異なる動作を致候。之は浮遊せる 魚を捕食致候。 ウミネコに於てさへも幼鳥のみを追ひ廻す風の有之候て、ウミネコ以上のものには返て追ひ廻さるる メに有ては、二三の小群を爲すを見れごも、 餘りに魚の群多く水凪鳥の食を求むるに急なる時は、 傍に魚の群を見る時は、水上に飛上る事なく、其儘大に兩翼を張 水面上を飛びつつ魚を見る時は翼を疊みて水中に飛入るも、 本種、 オホトウゾクカモ 水風鳥の水中にあつて翼を張りつく魚を求む 舟及人を恐れず、 メは、 何時 舟の傍にて此動作を爲す モコビ も單獨の行動 カモ 水凪鳥は のみを致 高の大 1 1) 反對 カ

### 力 4 L IJ ツ クシ ガ Ŧ Pseudotadorna cristata Kuroda に就て

#### 灣醫學士 内 田 清 Z 助

弦に掲げた圖は松平(賴孝)子爵家に古くから藏せらる、『鳥づくし』の歌留多中の朝鮮鴛鴦ご云ふ名稱の一枚を復寫したもので

せられたものである。 云ふので頃日同氏から其復寫圖を寄 を除いて其他は誠に能く一致するこ 照)之こ比較して見る三頭部の色彩 こして發表されたカムムリックシガ 行物第七編に黑田理學士が新屬新種 は從來松平氏も何鳥であらふこ疑は されてゐるが併し此朝鮮鴛鴦の周丈 鳥の種類が識別出來る程精確に寫生 寫生圖ご想はるくもので夫々立麗に ある。此歌留多の繪は何れも實物の れて居たのであるが會々本會臨時刊 での圖が出づるに及んで(第三圖參



鴦ご云ふ事も一層此同定が確らしく らカムムリツ 生闘の鳥が雄で鮮満鳥類一斑 雌雄の差ミして考へるミ至極合理的 及び上胸の色彩の差違は丁度鴨類の 考へられるのである。然かも此頭部 度が認らめれ難いが原圖は着色圖で のものが雌ごして見る三丁度よく相 ガモに一致してゐる又名稱が朝鮮為 を除いて其他は全くカムムリックシ 頭部及び上胸が一様に暗色である點 思へる様な相違である。 此の挿畫は製版が不完全であるか クシガモごの類似の程 即ち此寫 の口繪

當する樣に思はれるのである、黑田氏の獲られた標本は雌雄不明のもので鮮滿鳥類一斑には假にな?こして記述されてある。

斯く朝鮮鴛鴦ミ云ふ名が古い歌留多に記してある所を以て見るこ之の記載も何か古書に載つて居るまいかご思はれたので二三探

載がある事が分つた。 名の鳥があつて次の如き記 ねて見た所が觀文禽譜に同 朝鮮をし鳥

羽ナシ 黑 ヲ帶脚亦同 色ニシテ黄赤ヲ帶尾黑 白毛アリ 享. カク眼邊白 3 シテ赤黄ラ帯 3 高須少將及多紀家藏ス ル 所 リ喉灰白背灰色黑ニ ク黑キ勝アリ 保ノ比舶來アリ今 嘴 ノ寫真ヲ見ルニ頂 ハ桃色ニシテ黄 雌 臆黑 ク嘴 八頂勝稍短 プル根 …ク腹灰 翅二碧 ツ ル 服 丰 下

1) "

圖 第

> ŧ コ

Ξ

リ明

大ニシテ脚高

7

ij ア ル

コ

V

モ叉鴛

v

カ傍ニ書シテ眞カ 亦此鳥ノ寫眞蔵ス

川モ 碧 黑ニシテ黃赤 リ喉白シ

ラ帯翅白

胸服及背灰

嘴脚雄

ŀ

一同ジ

讕

1)

集解 為ニ シト

ノ説ニ合ストイ

カラ

致して居つて此點は全く前 は黑田氏記載の分ご良く ノ根ョ ではあるが然も雌の記載に 『頂勝梢短カク眼邊白ク嘴 此記 リ喉白シ』
こあるの 載は勿論極く不完全

に松平氏所藏の歌留多から想像した事實を裏書きするものである。

ムリックシガモは右述た様に二百年前頃には朝鮮から數回舶來したものであつて當時にあつては左程稀なものでも無かつた

カム

-E

である。想像を逞くすれば或は此種類は何等かの原因によつて百數十年此方非常に其數を滅じ絶滅に傾いてゐる種類かもしれない。 是等の點は今後朝鮮の鴨に就いて深く注意して居たらば解決がつく事であらふ。 らしい、それが今日迄學界に知られてゐなかつたのは奇らしい事である、 鴨類の如き大形なしかも獵鳥にあつては特に不思議な事

### アカゲラの尾羽の斑點に就て

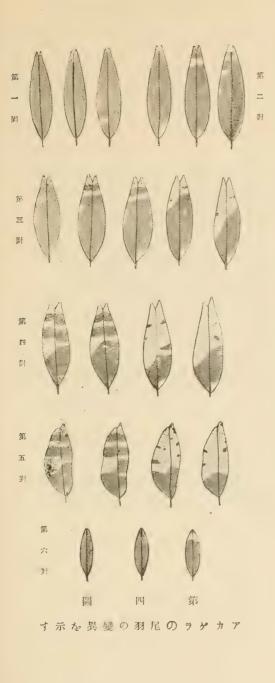
熊公

谷

=

郎

日本鳥類圖說にはアカゲラの尾羽第一對(中央二枚)には斑點な 全部黑色ミあれ共本年一月宮城縣栗原郡若柳地方にて採集せ



八

#### 第 圖 Ħ. る數羽のものには左記の如き斑點あり、 A C В A 外辨は黑色にて斑點なし内辨に三白斑 第

對

第一對以下の斑點左の如し

外辨及び内辨は全部黑色なり

外辨及び内辨の羽翰先端に一褐斑あり 一个 個は痕趾のみ)あり

對

外辨の先端に一褐斑あり内辨に一褐斑 外辨全部黑色にて斑點なし内辨の基部に一白班あり (先端に)及び一白斑

(基部に) あり

C 外辨に三褐斑あり内辨はBミ同し

В

第 對

A 外辨に三褐斑あり内辨に二褐斑 (先端に) 及一白斑(基部に)あり

一褐斑

(先端に)及二白斑あり (基部に斑點なし)

В

六 第 D C り内辨の白帶中に黑色の斑痕一あり外に二白斑及一斑痕あり Ċ. 外辨に三斑帶あり内辨に一 外辨に一 の斑點の融合せるもの 一褐斑あり内辨に一 一褐斑 外辨の白帶は辨の大部を占め中に黑色の 一白斑(基部に)外に二個の斑痕あり 斑痕

あ

E 外辨はDの擴大せるもの 第 [JU] 對 内辨はDの斑こ帶この融合せるもの

圖

A 端に)二白帶及一白斑(基部に)あり 外辨に一褐斑 (先端に) 二白帶あり (帶中に黑點あるあり) 内辨に一褐斑(先

九

外辨はAの加し内辨はAの如きも更に二白斑あり

В

- c Bの白帶の融合せるもの中に黑色の斑痕あり
- D 外辨はどの更に融合せるものにて黑色の斑痕なし内辨はどの如く自帶中に黑色の斑痕二あり

### 第五

- A 外辦に三白帶あり內辨に三白帶及二白斑あり(斑點の擴大して帯をなせるあり)
- В A の融合せるもの外辨の白帶は辨の大部を占め中に一黑斑あり(更に白帶中に二黑斑あるあり)内辨の自帶中に二乃至四

の黑斑あり外に基部に一白斑あり

第六對

A 外辨及内辨は黑色なり

B 外辦に一白斑あり内辦に斑なし

C 外辦に二白斑あり内辦に一白斑あり

地方にありて尾羽の全部白變せしもの生じその系統を引きて今日に至り此の如き一定せざる而白き斑點を現はすに至りしものなら **こは注意すべきここなるべし。本種の尾羽にありて上記の如く比較するこきは一こして同型のものあるなく實に變化多し思ふに此** 右は六個の標本 (但し内 一個の雄には斑點異常ならず)に就ての觀察なれば不完全なるべきも尾羽第一對 (中央)に斑點あるこ

(附記) 白き現象ご云ふべし。他の地方のアカゲラにも此種の實例尠からざるものなるや或は此地方に限れるものごすれば遺傳的白化現 アカゲラの尾羽にかかる變化あるは地方的變異こしては當然のここなれごも本例の如く同一地方産のものに見得るは甚面 んかっ

象にはあらざるか

(內田記

# 臺灣總督府殖產局採集鳥類目錄

歌醫學士 內 田 清 之 助

るのみならず今回初めて臺灣より報告さるべきものハシブトアジサシミタイワンオホセツカ(新稱)の二種あり。 る鳥類標本にして素木氏より其種類調査を依賴せられたる九十二種の目錄なりこす。此採集物中には數種の珍稀なる種類の含まる 本目錄は昨年五月より七月に渡り總督府農事試驗塲技師素木博士及博物館囑託菊池米太郎兩氏が臺灣島各地に於て採集せられた

理

學)

黑

田

長

禮

- Podicipes fluviatilis philippensis(Bonnat.) カイツブリ 水社 雄一、五月三十一日
- 2. Herodias garzetta (L.) コサギ 水社、雌一、五月三十一日
- 3. Bubuleus coromandus(Bodd.) アマサギ 潮州、雄一、六月七日
- Phoyx purpurea manillensis (Meyen) 45+++ 潮州 雌一、六月七日
- Ö Nycticorax nycticorax (L.) ゴヰサギ 水社、雄一、五月三十一日
- Ģ Butorides javanica javanica (Horsf.) ムメキ・竹井 樹仔脚、雄一、六月二十五日
- ٧. Ardetta cinnamomea (Gm.) リウキウョシゴキ 阿猴、雄一、五月三十日
- 8. Milvus ater govinda Sykes ヒメトンピ 南屏庄、雌一、六月四日
- 9. Gennæus swinhoii (Gould) サンケイ 採集地及び月日不明、雌一、
- Arboricola crudigularis (Sw.) ミヤマテッケイ 水山、 雌一、六月二十日
- 11. Bambusicola sonorivox Gould テツケイ 北山坑、雄一、五月二十二日

- Amaurornis phonicurus (Penn.) シロハラクヒナ 菜公店、雄一、六月二十七日
- 13. Gallinula chloropus (L.), subsp. バン 南屛庄、雌一、六月四日
- Egialitis cantiana dealbatus Sw. Doffi 新港、雄一、六月三十日
- 15. Glarcola pratincola maldivarum Lath. & Davies ツバメチドリ 新港、唯一、雄一、七月一日
- 16. Gelochelidon anglica (Montag.) ハシブトアジサシ 南屛庄、唯一、六月三十日

本種は臺灣にて今回始めて採集せられしものにて未だ邦文の記載なきにより左に簡單に記せば

基部は帶赤色のここあり。又脚にも赤味を帶ぶるものあり。虹彩は暗色なり。今回檢したるものの測定を記せば會合線五一柱(多少 り先端にはなし、外側初列風切の四枚の羽軸は白色なり。腮、喉、頸側及び體の下面は白色なり。嘴及び脚は黑色時ミして下嘴の ――頭頂及び上頸は光りある黑色、上面及び尾羽は真珠灰色にて外側尾羽は帶白色、外側初刻風切の内辦には明なる白縁あ

不完全)翼二六五、尾一○九●五、跗蹠三一、中趾瓜共二九●五、中央の尾羽ミ外側のものミの差三二●五あり。 本種はアジサシに極めて似たるも嘴の著しく太きここ、尾は翼の長さの二分の一よりも短きここ及び跗蹠は中趾爪共よりも長き

洲大陸にも達し且つ其地にありても蕃殖すご云ふ。 分布、歐洲、亞弗利加、亞細亞に分布し、後者にては蒙古及び満洲にも之れを見るを得、冬季緬甸、印度、セイロンに渡り又遙に滾

ここによりて直に區別せらる。

- 17. Sterna sinensis Gm. コアジサシ 新港、唯一、六月三十日
- 18. Turtur orientalis Lath. キジバト 龍眼林、雌雄不明、五月二十日
- 19. Turtur chinensis (Scop.) カノコバト 南屏庄、雄一、六月四日
- 20. Turtur lumilis (Temm.) ベニバト 水底寮、雌一、六月六日

21. Columba pulchricollis Hodgs.

タイワンジュヅカケバト

阿里山、雌一、六月二十二日

- 22. Sphenocercus sor rius Sw. タイワンアラバト 北山坑、雄一、五月世一日、雌一、五月世二日、菜公店、雌一、六月世七日
- 23. Cuculus optatus kelungensis Sw. タイワンツヽドリ(新稱) 北山坑、雌雄不明、五月二十三日
- 因に臺灣産のツ、ドリには此學名を用ふべきなり。
- 25. Alcedo ispida bengalensis Gm. カハセミ 阿猴、雄一、五月三日
- 26. Cypselus pacificus (Lath.) アマツバメ 山杉林、雄一、六月十一日
- 27. Cyanops nuchalis (Gould) カッキドリ 北山坑、雄一、五月二十二日
- 28. Dryobates lencotos insularis (Gould) タイワンオホアカゲラ 阿里山、雌一 六月二十一日
- 29. Iyngipicus scintilliceps kaleensis (Sw.) タイワンコゲラ 獅仔頭、一、五月二十八日 菜公店、雄一、六月二十五日
- 30. Gecinus tancola Gould タイワンヤマゲラ 阿里山、雄一、六月廿二日
- 31. Alauda gulgula sala Sw. タイワンヒバリ 高斤城、雄一、五月廿九日
- 32. Motacilla alba leucopsis Gould ホ、ジロセキレイ 新年庄、雄一、五月三十日 山杉林, 幼鳥一、六月十二日
- 33. Trochalopterum taiwanum (Sw.) ホイビイ 北山坑、雌雄不明一、五月二十一日
- 34. Trochalopterum morrisonianum Grant キンバネホイビイ 阿里山、雄一、六月廿三日
- Pomatorhinus musicus Sw. ヒメマルハシ 新年庄、雄一、五月三十日
- 36. Pomatorhinus erythrocnemis Gould トルハル 新年庄、雌一、六月一日
- 37. Alcippe morrisonia Sw. メジロチメドリ 北山坑、雄一、五月二十三日
- 38. Proparus formosanus Grant アリサンチメドリ 阿里山、雄一、六月二十 一日
- 39. Schoeniparus brunneus (Gould) チメドリ 北山坑、雌雄不明 、五月二十二日

- 40. Stachyrhidepsis precognitus (Sw.) ヅアカチメドリ 達邦社附近トッフャ蕃社、雄一、六月十八日
- 41. Malacias aurieularis Sw. そ、ジロチメドリ 十字路、雄一、六月二十日
- 42. Actinodala morrisoniana Grant ふドエリ 十字路、雄一、六月二十日
- 43. Yuhina brunneiceps Grant カンムリチメドリ 阿里山、雄一、六月二十一日
- 14. Herpornis tyrannulus Sw. アラチメドリ 獅仔頭、雌一、五月二十七日
- 45. Liociehla steeri Sw. ャプドリ 十字路、雌一、六月二十日
- 46. Suthora bulomachus Sw. ハシブトチメドリ 達邦社、雄一、六月十九日
- 47. Suthora morrisoniana Grant ニイタカハシブトチメドリ 阿里山、雄一、六月二十一日
- Picnonotus taivanus Styan クロガシラ 枋山、雄一、六月五日
- 49. Picnonotus sinensis formose Hart. シロカシラ 獅仔頭、雌雄不明一、五月二十七日
- 50. Spizixus cinereicapillus Sw. カヤノボリ 北山坑、雌一、五月廿三日
- 51. Hypsipetes nigerrimus Gould on em Fy 關仔嶺、雄一、六月十六日
- 52. Hemichelidon ferruginea Hodgs. ~ヤマレタキ 阿里山、雌一、六月二十一日

53. Cyornis hypersthrus (Blyth) マミジロヒタキ、ムネアカヒタキ

達邦社附近トッフャ蕃社、雄一、六月十八日

- 51. Cyornis vivida Sw. チャバラオホルリ 阿里山、雄一、六月二十二日
- 55. Hypothymis azurca (Bodd.) クロエリヒタキ 北山坑、雄一、五月二十三日
- 56. Cryptolopha fulvifacies (Sw.) ロシジロヒタキ 達邦社、雌雄不明一、六月十九日
- 57. Rhyacornis fuliginosus affinis (Grant) カハビタキ 十字路、雌一、雄一、六月二十日
- 58. Ianthia johnstonia Grant. アリサンヒタキ 阿里山、雌一、六月二十日、雄一、六月二十二日

- 59. Ianthia goodfellowi Grant キクチヒタキ 阿里山、雄一、六月二十一日
- 60. Notodela leucura montium (Sw.) コンヒタキ 阿里山、雄一、六月二十四日
- 61. Microcichla scouleri fortis Hart. シロクロヒタキ 達邦社、 雌一、六月十九日
- 62. Cisticola volitans (Sw.) タイワンセツカ 山杉林、雄一、六月十二日
- 63. Luseiniola luteoventris(Hodgs.) タイワンオホセツカ(新稱) 阿里山、雄一、六月廿一日

本種は臺灣にて始めて採集せられたる種類なり。

色なり。今回の標本の測定を記るせば嘴峯一二、翼五二、尾五五、跗蹠二〇粍あり。 下の下面の中央は白色。體側には帶鏽粘土色を有し下尾筒も同樣なるも羽緣淡色なり。上嘴は暗褐色、下嘴は淡帶黃色、虹彩は褐 背の羽毛には此色の縁あり。眉線は短かく鏽黃色の不判明のものを有す。頭側は鏽褐色にて耳羽の羽軸は淡色なり。腮、 記載 - 第一初列風切は第二羽の二分の一に等しきか或は少しく短かし、上面は鏽褐色にて橄欖色を帶び翼及び尾は暗褐色にて

分布ヒマラヤ地方の山地に主産し、支那の福建省にも達す。此種はヒマラヤ地方にては留鳥なるも亦「渡り」をなすここあるが如し。 故に今回臺灣にて獲られたるも亦疑はしきにあらず。

- 64. Horeites robustipes (Sw.) タイワンコウグヒス 達邦社、 雄一、六月十九日
- Horeites acanthizoides concolor Grant ミヤマウグヒス 阿里山 雌 一、六月二十二日
- Burnesia sonitans (Sw.) アラハウチワドリ 北山坑、雄一、五月廿三日
- 67. Troglodytes troglodytes taivanus Hart. アリサンミソサドイ(新稱) 阿里山、 雌雄不明一、六月二十二日
- 附記。 臺灣産のミソサドイには此學名を用ふべく而して此亞種の外にタカサゴミソサドイを産す。
- 68. Hirundo daurica striolata(T. & S.) オホコシアカツバメ 山杉林、雄一、六月十一日 圆潭仔、 雌一、 六月十日

テウセンショウドウツバメ

69. Cotile paludicola chinensis (Gray)

- 70. Pericrocotus griseigularis Gould ベニサンセウクヒ 北山坑、雌一、五月二十二日、新年庄、雄一、六月一日
- 71. Granealus rex pineti Sw. ラニサンセウクヒ 新年上,雌一、六月一日
- 72. Chaptia bramiana Sw. ヒメオーチウ 獅仔頭、雄一、五月二十六日
- 73. Buchanga atra (Herm.) オーチウ 店仔口、雌雄不明一、六月十四日
- 71. Lanius schach schach L. タカサゴモズ 新城、雄一、五月二十九日
- 75. Parus insperatus Sw. + バラシジウカラ 阿里山、雌一、六月二十三日
- 76. Ægithalus concinnus (Gould) ヅアカガラ 阿里山、雌一、六月二十四日
- 77. Oriolus indicus Jerd. カウライウクヒス 潮州、雄一、六月八日
- Munia punctulata topela Sw. シャキンパラ 山杉林、雄一、六月十一日
- 79. Uroloneha acuticanda squamicollis Sharpe ロシジロキンパラ 新城、雄一、五月二十九日
- 80. Corvus macrorhynchus levaillanti Less. リウキウハシブトガラス **嶺口、雌一、六月十三日**
- 81. Nucifraga owstoni Ingram タイワンタケガラス 阿里山、雌一、六月二十二日
- 82. Pica pica sericea Gould カサ、ギ 山杉林、雄一、六月十一日
- 83. Garrulus taivanus Gould タカサゴカケス 阿里山、雌一、六月廿四日
- 84. Urocissa cærulea Gould ヤマムスメ 獅仔頭、雌一、五月廿七日
- 85. Dendrocitta formosæ Sw. タイワンラナガドリ 新年庄、雄一、六月一日
- 86. Athiopsar cristatellus formosanus Hart. カアレン 嶺口、雄一、六月十三日
- 87. Zosterops palpebrosa simplex Sw. カメスシロ 88. Dicænm formosum Grant ハナドリ 北山坑、雌一、五月二十二日 南屏庄、雄一、六月四日

- 89. Carpodacus vinaceus formosanus Grant タカサゴマシコ 阿里山、雌一、雄一、六月二十二日
- 90. Phyrrhula arizana Grant アリサンウソ 阿里山、雄一、六月二十二日
- 91. Phyrrhula uchidai Kuroda 。 ウチタウソ 阿里山、雌一、六月二十一日
- Passer rutilans (Temm.) ニウナイス・メ 北山坑、雌一、雄一、五月二十一日

# 種子島の鶴及び附近の二三鳥類

木 彦 助

荒

其一部ごも云ふべき寶滿神社祠畔に神池あり、冬期には水田に飽食せし鴨、鴛鴦等の水禽無数に群棲す、夜間主ごして曉に去來する 樹ありて黑潮の暖流に沿ふて横はるは本島なり。近時本邦に珍寄なる鶴は尚ほ此小仙郷を見舞ふを忘れず、即ち其南部にて南種子 至り水禽群棲して人に驚かず實に一奇觀たるを失はず。村民稀に鴨を襲撃する鷹を望み其一蹴を待ちて大聲を發し、鷹の驚いて獲物 の態を爲しつ、あり、鷺鸞の群を離れて稀に丹頂以外の鶴類を見る、其數多からず一二羽に過ぎざるは遺憾なり。寶滿池は白晝に 方位の銃獵は勿論鳥橋の私獵も禁止す、故に野鳥は水田にあさり池上に游泳し、白鷺、其他五位鷺等まで漠々たる一大遊園に閑雅 者を捕獲する爲め池畔の松樹を利用し待網を張り、所得を村教育基金に蓄積す、因りて水禽を驚す事を絶對に禁止し、附近約一里 村莖永及中種子村西海岸の小沙漠に村人を驚す。前村にては特趣の鳥類保護法施行さる、即ち全島第一の水田一廓をなし約三百町 三町より十数町に亘る白沙の濱にて、幾多の溪流之を横りて海に入る所、人跡甚稀なれば瀕年鍋鶴を見たりご稱する者少らざりき。 を放棄するや落下し來るを拾得するあり、又林中に腹側より肝臓を食ひたる鴨を拾得するを聞く、中種子村の西岸長さ三里幅員二 大隅佐多岬角の東南十里を起頭こし延長約十八里幅員五里乃至二里半にして、其周圍三十六里最高峰四百米突、琉球人の笄及榕 全島到る所にオーストンガラ栖息す、俗稱スンくしピイミ云ふ蓋し鳴聲にちなみたるなり。其數甚だ多く人里近き人家の藪にも

營巢繁殖せり。

れあり。本島は駒鳥甚だ少く赤ヒゲ鳥ミ反對に北部は殆んご皆無にて却て南部に産す。 森林中には赤ヒゲ鳥を産す、北部に多く南部に少し、其保護法勵行されず法規弛みて飼鳥に供し山林の開墾ご相待ち稍減少の恐

産卵育雛を脅す如き結局に至りしに非ざるか、他日の研究を待たんご欲す。 りし島嶼も、種子島の漁民飛魚漁を開始し、 め蝮蛇 點三同名を附す、鶚の繁殖するも多し。。本島の原野に一尺內外の足を容る位の廢穴連續す、一般には往年藩主野猪を放飼したるが爲 爲し、土地至つて平垣所謂砥の如し、其西海岸の一大岩礁には鰺刺の群柄して繁殖するあり、 屬島馬毛島には稍多し。本島は母島より海上三里にして無住人の一島嶼、 梅雨の候に至れば鴉鳩俗稱黑鳩多く來る。又櫻花の時期には青鳩及び琉球青鳩亦少らず、姉鶉を産するも甚だ多らざるに似たり。 (頗る多し)を捕食せし蹟ご信ぜらる、も、恐らくば水凪鳥の舊時繁殖せし廢穴に非ずや、 漁期即ち鳥類繁殖期の梅雨頃より数百戸家族こもノー移住するを以て、 周廻も亦三里中央に一高地ありて四 俗稱ログヒ鳥即ち其鳴藍にて艪の支 襲には人類の去來至つて稀少な 方に緩勾配の傾斜を 自然に鳥類の

は漁民の所有にして中央部は東京故青木子爵令弟の所有牧塲たり。 蘇鐵三野芙蓉の小疎林一ヶ所ばかりなればなり。左れば鳥類も海鳥上記せる以外は鷗、鴨(少し)等三鴉、磯鵯、千鳥類に過ぎす は本島には雲雀至つて多し、是れ彼の可憐なる小歌斗の生存には必適の原野にて、全島二十町歩の松樹栽植林の外は一帯に茅

物の相雑れるありて、 要するに種子島は風土溫暖にして氷雪を見ず、大島、琉球等の如く炎暑亦た酷烈ならず、中和の地九州ミ琉球、大島等の特産動植 専門研究上には興味甚だ多きものあるべし。

巢産卵するを海岸の絶壁等に見る、鶚は至つて多く民家の養鷄を襲ふて被害少からず。本島は島津藩の密貿易塲にて洋人接待の狀を 系の島嶼温暖にして、 海拔六千八百尺を主峰に雲の如き幾多の山岳群立す、風氣稍寒冷にして鳥類も本土の山地ミ同一なり。只だ屬島口永良部島は火山 隣接島たる屋久島は種子島の西南十六海里に在れざも、周廻十八里の面積中沿海部に僅少の平地ある外は全く岡山重疊し、最高 小笠原、 琉球等の如き大蝙蝠を産す、雀三雉子を産せず併し雉子の絶滅は近年に圏せり三云ふ。

の最も美食こして漁獲する所なるが、 語る故老も尚は生存せり、 珍奇の動植物あらんか。記して専門家の研究に俟つ。 小活火山あり温泉ありて南海の一小樂土あり、温泉の海岸には非常に多數の永良部鰻群栖繁殖し、 インフアン、 ダラメ魚も多數に漁獲されつくあり、 九州本土の南島には尙ほ世に知られざる 村民

### 朝鮮鳥類の習性觀察

田保吉

黑

左に余の觀察せる朝鮮鳥類の習性に就て報告せんこす。(凡て大正六年の觀察

黃鳥 一十四日午前九時伊川郡邑内に於て美聲を聞く。 七月二十、二十一、二十二日及び八月三、四日每朝八時頃より江原道平康郡邑内の小丘栗松の混合森林内に於て美聲を聞く。

林にして紅松 二十五日午前十一 せるものならんも調査の期を得ざりき比較的從順にて彼の視線内に活歩して約四間の近距離に近づくここを得たり。 叢點在せる間に餌を求めて飛行せり雌は一箇の蟲(長さ約一寸大のもの)を得山腹の林に入り雄は其後を追て入りぬ。 の幅をなせる比較的平坦なる畑地、 (ホンスン) 時平康郡望日里(伊川郡界を距る一里平康郡西面玉洞を離る一里半)雌雄二羽實視同地方は潤葉樹赤松の混合 點在し山脈は大ならざれご険しき方なり街道の 荒蕪地の混にて臨津江上流 (連川を流る~支流の分支流) 兩側屛風の 如く併列せる其の中間約 の溪流、 彊にて柳、 冏 野ばら等灌木 より 範圍

一十七日、二十八日淮陽郡邑内郡廳狸の小丘濶葉樹林内に午前八、 九時頃啼聲を聞

二十八日午前十一時上初北面濶葉林内に啼聲を聞く。

京城附近に於ては五月下旬果川郡牛眠里に於て雌雄を視、 午前八、九時の頃に於て啼聲を聞き西凉里附近に於ては五月頃數回實

視せり。

京城内に於ては拙宅前面露國領事館内の「ボブラ」の森林内には每年八月上旬頃より九月上旬の間に於て午前 四時の頃毎日美聲を聞く答集其の他に付ての調査は立ち入るここを得ざるを以て遺憾ながら目的を達するここを得 八時頃より十時頃迄

以上質視の結果に依れば成育せる濶葉林の空氣の流通好良なる樹林を好むもの、如く又ホホジロ、メジ 木の頂き等に於て啼鳴するを見ず常に林の内より漏聞す且つ群集せるも視す一般雌雄相伴ふを實視す D 類等の如く展望良き樹

ならん。

らる可く但し数多ならざる可し。 江原道に於ける分布は以上の實視より察するに中央の鐵原、平康の荒原以外は潤葉樹所々に繁茂を見るを以て全道に於て發見せ

雛は京城に於ては六、七月頃高陽郡碧蹄里を離る二里高靈地方の山間よりブツポウソウの雛三共に往々持ち來るものあり。 七月二十、二十一、二十二日、八月三、四日及び九月十日江原道平康驛附近に於て滯在中灌木の繁茂中に於て實視、 但し

七、八月に於て二三羽(啼聲)九月に於ては一羽

所々に聞く午前十一時半玉洞 二十三日午前七時半平康を發し伊川に向ふ街道に於て高原二里の間に於ては聞かす高原を下り臨津江上流域に下れば兩側 せり郡界より伊川邑内は約三里夕刻こなりしを以て伊川郡内に於ては啼聲を聞かず。 (平康邑内より四里)着、二時間休息の後出簽望日里を過ぎ伊川郡界(五時)に進むに從ひ数も增 

二十四日伊川邑内に於て二羽の啼聲を聞く。

二十五 過ぎ望日里に入るに從ひ数を減ず。 日七時出發平康に向ふ復行約 一里にして溪谷に入れば至る所の山間、 及平地の灌木の茂に啼聲を聞く其數最も多く郡界を

二十六日午前十一時淮陽郡蘭谷面に於て一、三十七日淮陽郡邑内に於て二、上初北面溪谷に於て二、三、二十八日淮陽邑を發し高 以上の分布 は時間 の關係上斷定をなし得ざれごも實視の狀態に依れば伊川郡の溪谷最も多數にして他に視す。

原驛に至る郡界附近の山間に於て數箇所舊高原邑に於て一、啼聲を聞く。

金剛山の溪谷に於ては八月の頃至る所に啼聲を聞く由。

京城附近に於ては多からず「渡り」は四月及十月下旬十一月上旬の候實視す主こして野ばらの繁茂中に視、十月下旬の候之を排獲

し檢せしに成熟せる野ばらの實を食し居たり。

又内地産のもの水「アミ」をせしむる場合等發するかしましき鳴聲は時々聞けごも凡ての氣節に於て注意せしも未だ地鳴のチャッ 啼鳴は皆「ホーホケケ、キョ」こ高音乙音を發す谷渉りこ稱する「ケキョ」く~~くは時々發すれごも内地産に比しては劣なり、

チャ、~三云ふ聲を聞かず。

地方には比較的多しこ。

ニウナイス、メ 七月二十五日伊川郡平康郡の郡界の小丘を越し平康郡の望日里に下る數町の山間燕麥畑に於て約一 啄むを約三間の離にて實視せり同伴の伊川普通學校教員の談に依れば此の種の燕麥に對する被害は可なり大なりこのここにて同

ラナガ 十二月上旬全北全州郡所陽面、鎭安郡富貴面、 十二月下旬京畿道坡州部金谷里 (汶山驛を去る二里、積城に至る、 彊界の峠の溪流、 街道)の峠に於て約二十羽の群を實視す。 兩畔灌木芒の繁茂中に約三十の群を實視す。

兩所こも京畿道光陵の溪流畔こ等しき狀態なり但し森林地にあらず。

カハガラス 十二月中旬鎭安郡白雲面盤松里溪流に於て一羽捕獲す

十二月二十九日江原道平康郡北面回山里、 臨津江上流に於て氷點下約 二十度の氷上に於て淺瀬の氷結せざる間離より水中に潜人

し氷下に餌を求め元氣旺盛なる活動振を實視せり。

京畿道内に於ては山間の溪流に往々實視するも期節の關係なるか常に一羽なり

オホヨシキリ 一十六日夕、二十七日、二十八日朝、准陽郡邑内に於て麻田中最も數多にして晝夜の別なくかしましき啼鳴絕えず深夜床を出て 七月二十五日江原道平康郡西面望日里、伊川郡邑内に至る街道の麻の繁茂せる畑内に各所に啼鳴を聞く。

實見せしに麻頂及び附近の柳、ボプラの頂きに於て競鳴し夜の暗さを知らざるが如し但し群集をなさず。

ヅアカハシブトチメドリ 近き大群を實視したるここあ 三月下旬四月の頃梧柳洞素砂附近に約四五十の群をなすここあり又十二月下旬玻州郡金谷里に於て百に

だ發達せず他に比して甚しく羽色淡きものあり察するに此地方に於て營巢せざるや 七月二十三日江原道平康郡西面玉洞、望日里に於て約二三十の群を實視せり馬上なりし爲確視ならざれごも群中七八羽は羽毛未

マガモ 氣節に依り渡行せざる冬期に於て半土着性のもの

二十二、二十三日吉州郡邑內附近英北、 のに有らずして土着的にして晝は河畔に眠り夜間附近に出ずるが如し。 十一月二十一日正午咸北城津郡鶴中面に於て河川に沿ひ飛行せる五羽を視る午後五時吉州郡徳山面に於て十四、五羽河内に視る、 長白徳山の各面を貫通する河川内の各所に二三十の群を視る以上は海上より飛來せるも

て京城附近に於ても同一の狀態にあるもの所々に實視す。 十二月一日に於て江原道月井里附近河流の氷結せざる箇所に二三十の群所々に實視す秋期渡來後は春期迄上者的に棲むものにし

J ーガモ 京城附近は九月下旬より十二、三の小群を河川に視る但し秋期は十月下旬多し。

九月八日洗浦驛 (京元線)海秡二千尺の高原に於て午後五時三防方面より來り河流に下る二十餘の群を視たり捕獲はせざるも明

十二月一日月井里附近の河流に於て眞鴨三同じく半土着的の一群あり但し多からず。

ŀ モヱガモ 十一月十一日午前九時清津停車場に往く路中海岸磯上に五羽十五六間の離にて實視其他に於ては視

ノガン 二十三日吉州郡徳山面の荒蕪地の平野に於て約四五の群を視十二月三十日平康郡月井里驛近くにて約四 川郡邑內、富平平野、水原軍浦塲中間畑地、 は冬期には特に群をなす場所なり京畿道に於ては高陽郡蘭芝鳥、坡州郡の臨津江三漢江三合流地點平野 永登浦附近根據點なるが如し德亭驛より二里の平原にて時々實視すれごも四五羽の (荒蕪地)最も多く舊陽 十羽を視たり同所

京畿道に於ては海岸に近き平野(水田)に十一月及三、四月頃視るここあり。

十二月下旬大田驛を去る約二里の水田に於て二羽を捕獲し全北群山附近にて十二月中旬に一羽飛行せるを視しここあり。

ウミアイサー十二月十三日咸北會寧を去る一里圖門江畔稅關前の河流の氷結せざる所に於て一羽を視る。

十二月二十一、二十二、二十三日吉州郡を貰流する上記の河川に於て四五羽、二三羽の群を視たり。

京畿道に於ては京仁、京義兩線附近漢江流域約二里の間及海岸に近き水田の水満ちたる所に三月上旬他の鴨の渡來に先だちて數 十の群をなすここあり。

コクマルガラス(此種は往々内地の小鳥の大群中に二三混り居るこごあり)

たるここなし、京城附近に於ては他種の群に十二三羽混り居るここは時々實視す。 十二月二十三日吉州郡徳山面に於て二三百の大群ラ視、一彈を以て五羽を得たり全く同一種の群にして他地方にて曾つて實視し

ハシブトガラスは七八羽同所に於て視たり。

次に吉州郡及城津の附近は他の地方ご異なるここは雉の最も少きここにして地方人の話によれば先づ棲息せざるがごこく徃々二三 の群を視るのみこのここなり、如何の理由なるや地形其の他に於ては棲息に最も適するが如き場所も皆無の有様なり但し周圍の

咸鏡南、北道沿岸航海中實視

他の郡に入れば最も多く雀より多しこの話なり。

第一航 十一月八日午後十二時元山出帆十一日清津港着

元山は夜間なりし為視察なすここを得ず。

の)二羽飛行せり。灣口廣濶にして波靜かなり海は深からざるが如し。 九日午前七時西湖津入港、着港前二浬の沖に於てビロウドキンクロ?三羽浮游せり、一浬の灣口に於てヒメウ? (黑き小形のも

ビロウドキンクロ鴨二三十の群數箇所に視汽船の周圍に飛交せるを以て甲板上より發射して雄二、 して鼻孔附近に黑斑あり雄は小隆起あり足は全部桃色にして内二羽淡黑色斑あるものあり雄雌の形非常に大小あ 雌二を捕たり嘴は桃色

ハジロ二三十の群二ヶ所に見る(スドガモなりしか)

コホリガモ類雄雌二、

ヒメウァは灣內小島附近及礁磯に二三十群をなし灣內を飛行せり。

ウモネコ 及他のカモメ類十五六飛行せり。

午後十二時出帆なりし爲日沒前後鴨雁の飛行を注意せしも彎内に於ては增減なし又真鴨は氣節遅れし爲影も認めず只陸上四五羽 の雁成興方向 に飛行するを視しのみ上陸者の話によれば咸興附近に於て雁の二三十の群を二ヶ所に視たりこのここ。

午前十時出帆城津に向ふ直航なりし為沖を航海せしを以て水禽の影を見ず時々沿岸に接近せし傷所に於て、ビロウドキン 十日午前七時新浦入港ビロウドキンクロ、ハジロ類、小數及鵜類二三羽、ウミネコ、カモメ、 各三四羽にして西湖津に比し少し。 クロ

午後四時頃より天候險悪降雪風荒し午後六時城津に入港す。

**鵜類の影小數を見る** 

し由)午後十時出帆清津に向ふ天候益々荒く降雪甚しく常時八時間を要する航路なるに十六時間を費やせり 灣内に於てビロウドキンクロ?二鴨三鵜類四五を視しのみ(船員の話によれば前航海十月に於ては附近及灣内に真鴨の 群多かり

十一日午後二時清津入港曇天にして灣内は波靜かなりビロウドキンクロア く沿岸の各所に鴨、 カモメ等の小群飛行せるものを遠視せり但し真鴨は視ず。 コホリガモ三四の群数箇所に視り ウミネコ カュ モメ多

ウミス、メ上陸の際築港附近に於て雌雄二羽約五間の距離にて視る。

第二航 十八日午前十時清津出帆午後六時城津着。

灣内に於てビロ ウドキ 2 ク D ? ハ ジ ロ類の群は前三大差なし今回はコホリガモの四五羽の群を視たり往行は鰊漁期の初期なり

しも今回は盛期に入りし爲ウミネコ及カモメの數往行に比し激増せり出帆後約一浬の波靜かなる灣内に於ては以上の各種の影を

視たり外海に於ては二三のビロウドキンクロア を視し外他種を視ず。

城津港に於ては往航に視し鵜類及ウモネコ、 カ モ メの 外ビロウドキ ン ク П 5 二羽を視る。

第三航 一十三日午前十時城津出帆朝鮮郵船の沿岸航路に便

出帆後沿岸に於ては四五のウミネコ、 カモメ、鵜類の外二三ヶ所にゼロウドキンクロア 五六羽の

コオリガモ少しく渡來せりご(同地は明太魚の本塲にてや、漁期も盛期に向ひたりこのここ)

午前

一時海津港入津ビ

ロウド

・キン

クロ

?

四

五羽群、

コ

ホリガモ三羽を視る。

午後六時遮湖入港ゼロウドキ

ク

5

の鳴聲を聞

一十四日七時新昌入港小數の鵜類ビロウドキンクロア 一三十の群三四ケ所、 < 同 地人の話によれば コホリガモ他に比し最も多く十數羽の群所々に浮

は航海者等に於ては「アナター」」:鳴くこ云へごもアオーアオーアオー三前二聲は平音にして第三聲はオー三高く鳴ききるが (灣内廣く波靜にして水淺し) コホリガモは汽船近く十間以内の近距離に接近し潜水最も巧みにして同 種の 神睦 鳴聲

如く第三聲目にはオー三發する三共に頭を上にして背に着け反りかえりて口を聞きて發聲す。

ご各地の同漁期ごに就て往航に於て本場たる新浦は初期にして開始後二三日、 航海者及地方人の話によればコホリガモ渡來せば寒さも來り同時に咸南沿岸の第一の産物たる明 以北の各港に於ては往航は入港せざりしを以て不 太魚期に向 にる由、 實視せし結果

雌の鳴聲は抵音なりし爲聞きこるを得ざりき。 明なりしも歸路新昌遮浦地方は盛期、 新浦は未だ盛期ならずこのこごにて明太魚こコホリガモこは同一の季節に來るが如 午前九時新浦入港往行に比して大差なし但しコホリガモ四 九時元山入港往航歸航三共に夜間にして永興灣 五 の 群を二三視たり。

體は視察するここを得ざりき。

時半西湖津入港三時出帆、

往航ミ大差なし、

但

しコ

ホ

リガモの數は増加むり。

以 上三回の航海に於て海上に於ては真鴨は影を視す。



### 野外鳥學の 資料 (其二

士 石 井

理

學

重

美

常に樹上に棲息するか、或は飛翔しつ、食物を搜索し、又或る者(例へばカラス及びムクドリの如き)は時々地上

Ш

に降る。

す 猛禽の類。强大尖鋭にして彎曲せる嘴及び爪を有し、 嘴根に蠟膜あり。 特に脊椎動物の鮮肉若くは死肉或は大形の昆蟲類を捕食

 $\overline{A}A$ 眼の周圍に所謂毛圏(Schleier)を有せず。晝間活動す。

(a) 大形、 獰猛なる鳥、 皮膚裸出する處あり。死肉を食ふ。 ーーハゲワシの類(Tittur, Ciyps, ctc)

(b) が敏捷なる鷙鳥。 生肉を食ふ。——イヌワシの類(Aquila) クマタカの類(Spizarilus) チウヒの類(Circus)ノスリ

の類(Pateo)オホタカの類(Astar) ハチクマの類 (Permis) ハヤブサの類 (Valeo) 及び Circuitus 等

вв 猛禽(真正の)にあらず。 大なる眼の周圍に放射狀の毛圏あり。夜間活動す。 **嘴は時に猛禽類に於けるが如く彎曲するここあれご、** 嘴根に蠟膜無し。 ---フクロフ(Syrmium)及びゾク(Scops)の類

В

 $\mathbf{A}\mathbf{A}$ **嘴短く、口の幅廣し。連續飛翔しつく、或は可なり遠く隔りたる高き觀測所より飛降り來りて、** 食餌を排ふ。

- (a) 夜間食餌を捜索す。——ヨタカ(Caprinalgus)及び(Podargus)の類。
- (6) 晝間(時には薄暮)食餌を搜索す。
- (bb) (aa) 昆蟲を捕ふるにも連續飛翔しつ、之を爲す。——ツバメの類(Hirmido)及び Collocalia, Apres 等。 可なり遠く隔りたる高き觀測所より飛降り來りて食餌を捕ふ。——ブツボフソウの類(Eurystomus) 及び Macropterys ハチドリの類(Trochilus, etc. etc.)
- BB CC非常に小形なる阿米利加産の鳥。嘴長く、細く、花前に浮動騒鳴しつて花密を吸收す。 嘴長く且つ堅固なり。高き觀測所より食餌に飛掛れご、併しながら其觀測所こ食餌この間の距離は比較的に短し。 ーカ

セミの類(Alcedo) ハチクヒの類(Merops) 及び多くのモズの類(Lanius)等

- DD 樹木雑草の枝上にありて食物を搜索し、又時に地上に下る(食餌攝取の爲め)。
- (a) etc.) イスカの類(Loxia) マシコの類(Pinicola) ウソの類(Pyrrhula)サモア産の Didunculus 北米の Crotophaga(此類の者 は昆蟲を食ふ)及びアウムの類(Cacatna)Corythacolus, Cephalopterus, Rupicola, Crax 等。 上嘴は著しく屈曲し、 鉤の如くなりて下嘴の上に被ひ掛れり。 多くは植物性の食物を攝る。――インコの類 (Psittacus,
- (b) (aa) 上嘴は唯僅かに屈曲し、或は全く屈曲せず。從て鉤の如くなりて下嘴の上に被ひ掛るここなし。 個の小形なる卵を産み、他鳥をして之を孵化せしむ。——クワクコウの類(Cuentius, Cacomarkis, etc.) 特に普通嫌忌さるへ昆蟲、 例へば毛深き毛蟲或は顯著なる色彩を有する蟲なごを捕食す。而して 其の 間二日目每に 一
- (bb) の卵を産み、自ら之を孵化す。 比較的發見し易からざる、併しながら食物ミしては適當なる昆蟲、及び果實を食ふ。而して產卵期の間通常每日一個
- (B)  $(\alpha)$ 後方に向ふっ又尾羽は屢々剛直こなれり。——キッ、キの類(Picus, etc)キバシリの類(Certhia)及び Trichodroma 等。 攀木鳥。 植物の枝、梢、葉、花及び果實の上にて、或は皷翼しつ~、或は懸垂しつ~、或は又匍匐しつ~其食餌を搜索す。 趾端の爪を用ひて樹幹、壁面等を攀ぢ登り、尾羽を以て體を支ふ。四趾の中屢二趾は前方に向ひ、二趾は 時

に食餌搜索の爲め地上に降るここあれざ、餘り長くは其處に留らず。

- 全く、或は殆ご全く植物性の食物を攝取す。
- (i) 一種の分泌物を以て養はる。——ハトの類(Columba, etc).及び、Meyapelia等。 **嘴は先端硬けれご基部は軟く、鼻孔は辦狀物にて被はる。嗉囊及び胃は能く養達し、雛は最初嗉囊にて生する**
- (i i) Scythrops 等。及びカハラヒハの類 (Chloris), Calorus キンパラの類 (Junia)等の燕雀類も其處に屬す。 嘴の基部軟からず。鼻孔も辨狀物にては被はる、ここなし。—— Buceros, Rhyliceros, Bhamphastus, Pieroglossus,
- (BB) 處に屬す。 少くごも一部分は動物性の食物を攝る。殊に其の幼鳥は殆ご常に動物性の食餌にて養はる。大部分の悪雀類は此
- (i) 類(Fringilla) ホ、ジロの類(Emberiza) ャッガシラの類(Upupa) 及び Imetoceros 等。 食餌攝取の為め屢地上に降る。——カラスの類(Corous)ムクドリの類(Starmus)ツグミの類(Merule)アトリの
- (ii) 茎其他雜草の葉上にて食物を搜索す。——ヨシキリの類(Acrosephalus)セツカの類(Cisticola, 及び Calamophilus
- (iii) シクヒの類 (Phyllopmenste) 及び Capito等? 樹木の枝にて、特に飛行しつくある昆蟲を捕食す。サメビタキの類(Muscienpa)ジャウビタキの類(Mulicilla)ム
- (iv) 及び Necturinia ミツスヒの類 (Myzomela) 等。 細き桁、花なごにて食物を搜索す。――ヤマガラの類(Paras)モソサドイの類(Troglodylas)メジロの類(Zosterrys)
- (v) フウテウの類(Paradisia) 及び Sylvia 等。(完) 比較的太き枝にて食物を搜索すっし --カウライウグヒスの類(Oriolus)カサ、ギの類(Pica)カケスの類(Carrulus)

# 江戸時代將軍家の狩獵(承前)

永

井

碌

### 將軍家鶴御成の事

鶴御成は正しくは御進献鶴御成三稱するので尋常の遊獵三は自ら輕重ありて沿革もあり又鶴に關する事項もあるから爰に項を更 めて記す。

鶴御成の事 き之を綱差ミ稱して平生には農業をさせて皆な相應な生活を爲し得て居たから甚內の未孫は入新井村か羽田村に又源太郎の末孫は 十石七斗餘の土地を給附したるうへ兩人こも更に役抦に屬する手當金を給されしが是を初めこし各方面に亘りて數名の飼附 村の中にて開墾せし十二石五斗の土地ミ外に玉川洲一丁五畝歩餘を甚内には扶持方を廢めて其の代りに小松川村の中にて開墾地四 郎は六郷領不入斗村(今の荏原郡入新井村)に宅地家屋並に扶持方を給し後には本人の望みに據り源太郎には扶持方を減して羽田 加納甚內。 鶴は勿論鴈鴨白鳥類をも保護するやうになり享保元年には吉宗公の紀州に在られたころ鷹狩の御用を勤めて居た紀州領伊勢松坂の 小松川村に今尚存在する筈である 橋爪源太郎の兩人を江戸に呼寄せて鶴の飼ひ附けを命じ加納甚內は葛西領西小松川村(今の東葛飾郡小松川村) 鶴を捉るここも三代將軍の頃には野樓のものに鷹をかけたのだが八代將軍吉宗公の時遊獵の事を復興するこ同時に )橋 爪源

子孫は今以て中目黑邊に居る筈である 是よりして專ら綱差に鶴を飼附けさせ其の外鴈鴨をも飼附け後には鶉をも中目黑村の百姓權兵衛に命じて常に囮 して後には將軍は駒場邊に鶉狩りの時は權兵衞の手から豫め準備させるやうになつて鶉の權兵衛ごて同地方に知られるやうになり を飼はせたりなご

鶴御成の實例 左に記すは十四代將軍家茂公文久三年の例にして一日に四ツの鶴を獲られしは前代未聞なりこて當時吉兆か凶兆

料理店萬金の掃溜めへ隼が落ちて來て飢ミ寒さで震えてゐたここは筆者の實見する所である。 畑を登りてやがて影を潜めてしまつたが鷹は鳥に追れて逃惑ふもあり甚だしきは飢渇に迫つて掃溜に迷ひ込むもあり現に自由の てなく多年養ひ來つて鷹を追放したれば人間なら殿樣育ちにされた鶴三鷹は忽ちに餌食にはなれて中空に迷ひ鶴は其方此方の田 かミ老人連は世變なきやミ憂ひをも有つたくらゐで失より三年目の慶應二年には遂に狩獵の事を廢され鶴の飼附けを止めたのい

文久三年十四代將軍家茂公千住筋鶴御成 (随侍者等は代々大抵同一である)

御供揃ひ六つ半時(今の朝七時頃

島村菅苗。千住大橋を渡り掃除宿源長寺(中食所)に到る三十餘丁(此の間にて鶴の樣子を見合せ鷹を掛けて捉るので有る) 大手門より常磐橋本町通り兩國橋より乘船大川通り橋塲上り塲より上陸。汐入土手下通り小塚原町裏。 通新町裏 三三河

近きは五六間遠くも八九間位の位置まで人を寄せるなミに飼ひ馴らしてあつて此の鶴に對して將軍手つから鷹を掛け合せらる、わ けにて家茂公は手つから都合四つを獲られたのである。 此の時代飼附けて居るのは黒鶴にてニッ三ッ又は四ッつ、一群をなして居る之を代ミ唱へて凡そ十八九代より二十二三代で有つて

下品にして將軍獵獲の目的物は黑鶴に在るので又白きは白鶴三唱へ殆んご神扱ひにしたるこ三別項の如くで有る。 因みに禁中進献の鶴は勿論のここ想じて俗に鍋鶴と呼ぶ全身真黑の鶴て有つてたまくく真鶴に唱える灰色のものあるも是は一格

き又或る時は田の畔に休息なごしてひたすら鶴を馴染せて段々に近寄らせ思ふ通りの位置へ鶴を居附かせ日に三度づく一定の餌を らじ掛に紺木綿の手掛(略しで紺てんこいふ)にて頰冠りし肥楠三同じ擔桶に籾ミ立米を容れ全く農夫三同じやうな振して餌を蒔 て垣を作り其處を隱れ塲三して餌を遣りに行くのである其の仕方は餌時きの役の綱差又は見習ひの者が半纏に鮫小紋の股引脚件わ 水を落し鶴を誘ふて代つかせるに適當の位置を見定め籾米を蒔いて餌つかせやがて十一月中旬になるこ藁束にて掛稻の體裁に倣つ 有るから迂架迂架ごは降り立たない秋の末稻を刈り終りて田に耕夫の見えなくなりし頃より田さくりごて細い溝を田の中に作りて 鶴は秋の田の景色を見せて誘ひ客せ飼馴らす譯にて鶴も能く前年の事を忘れず同じ所へ來るので有るが怜悧な鳥で

將軍の手に入る<br />
ご自分の飼ひ附けた手柄を喜ぶ<br />
ご同時に多年飼ひ馴らした鶴に別れを惜み我子を失うたかの如く涙を流して悲歎す 吃度同一處へ來るのが多い左うなつて來る<br />
三飼附け人の方も可愛くなつて我子の如く思ひて飼ひ附け若し<br />
將軍家の御成りの時旨く 重ごし次は大森より六郷邊である。此の鶴のうちには十餘年も續いて來るのもありて代づく處即ち居りつくべき場所を忘れず年々 こいふ區域外に居るものは野鳥こ呼び斯くして飼ひ馴すもの年々十四五代乃至二十餘代あり小松川。龜有附近又は千住。橋塲邊を る者もある にも起させる手段こして鶴の邪魔にならないやうに餌を遣るここもある尤も鶴にも野鳥ご飼附鳥ごは別なり區域内のものを飼附鳥 鶴の邪魔をせぬやうにして又鴈鴨の類は鶴の餌を養りに來るここあり之も餌の有るここを鶴に知らせる便りごし且は安全の念を鶴 して遠くへ立ち去るここの有るからセリ鶴のうちでも馴らせそうな性の好いものは誘ひ寄せたり又は餌を與へたりして成る丈飼ひ て來るミセリ鶴三て飼ひ附け區域の外に居る鶴が飼ひ鶴の餌を荒らしに來る去り三て之を追ひ拂ふ三飼ひつけの鶴も不安の念を出 を寄せるなごに飼ひ馴らすのである十町も半道も離れる處に居る鶴をも此の手段で我が思ふ位置へ引寄せもするのである斯うなつ 與ふるのである鶴も追、馴れて末には餌蒔の擔桶を見れば慕ひ來るほごになる斯くていざ御成ごいふ峙には近きは四五間までも人

捉れるここはあるが一度鷹に掛られるのを引放して逃れ鶴は性質か荒くなり自分の餌の有り所を知つて居るゆるセリ鶴ごなつて餌 大抵は再び渡り來ないが例である又二つのものは一方が捉られる三一方はモウ渡り來ない又鷹に追はれる丈の鶴は再び鷹をかけて ておくのてある鍋や雁鴨の飼附けは十月中旬よりして翌年の三月中旬までて有る。 きるここなけれご畑に飼ひ馴らした鶴は兎角飽きるもので將軍家の御成が濟む三田の方へ誘ひ出して土地に飽きさせないやうにし を荒しに來れご如何に丹精しても元の通り飼ひ鶴には成らぬものである且又田面に飼附けた鶴は翌年春の末歸北する時まで塲に飽 鶴は性質怜悧なれば雛鳥附きのものにては雛手に入れは親鳥も屹度手に入れミ親鳥か先に手に入るミ殘りの鳥は手に入らぬのみか

雀叉は川狩りこなるご全くの遊獵なれば其の方面の社寺又は植木屋。名有る百姓(例之木下川の名主次郎兵衛の梅又は鑓井戸京兵 將軍家は鶴御成は進献こいふ大事なれば是れ專らでなか!~余所へ廻り道や立寄りなごは無いが雁鴨や鶉

家定公此の邊野遊の時に同亭を通り抜けられて此の梅を賞美され木の形の不動に似たるより斯く名けられしもので有る今こそは大 屋數の前身にて嘉永五年植木屋六三郎ごいふ者が開きしもの)を通り抜けられるこごもある龜井戸より向島邊叉は巢陽染井 衛の臥龍梅の類)の庭内を通り抜け盆栽や金魚又は土燒物なご買上けらるこここあり或る時の如きは淺草鬼山の植六(淺草公園花 かた忘れられたれ此の類のものは諸所に在つたやうである。 尚ほ將軍御腰掛けの建物を御成門が残つて居たのを劈えてゐる根岸の鶯春亭の庭に在る明王梅をいふのも今は老朽ちたれぞ十三代 は目黑邊等の社寺。植木屋又は豪農のうちには将軍家の休息されし場所や建物なご存在し巣鴨の内山長太郎の如きは明治世年以後 の漫或

將軍家通り拔け三買上け物の一例を記せば

嘉永六年正月九日家定公千住筋雁鴨御成りのミき例に據つて兩國より乘船吾妻橋際にて上陸淺草觀音境内通り拔け龍泉寺村より 山谷。今戸。橋塲邊。千住掃除宿に到り歸路は千住大橋より再び乘船の上兩國にて上陸

- 寛物 | 淺草境内源水の獨樂夫より植木屋六三郎方通り抜け。

同所にて買上物左の如し。

戸街道を經て龜有村に到 同年三月廿七日 一五葉松一鉢三兩△八重櫻一鉢三兩△緋桃一鉢三兩△福壽草一鉢一兩一步二朱瑠璃置揚摸樣大鉢一ヶ三兩△口鴨一番 (同 上 り歸路 龜有筋雁鴨御成も例の如く兩國橋乘船向島水神脇上陸木母寺境內通り拔け上手通り古綾瀬川端より水 また水神 より乗船

買上物 隅田村植木半右衛門方にて

同 年五 南殿櫻一 月六日(同 鉢三兩△東錦桃同二兩三步△旭山櫻同一兩三步二朱△金魚四十一疋二步 上 橋場筋漁獵御 成 9

寺村邊を經て淺草觀世音境内通りぬけ吾妻橋より更に乘船歸城漁獵は投網。長繩。地引等である。 辰の口 より乘船日本橋川筋より大川通り漁獵向 島須崎上陸。 野道を經て寺島村に到り同所より乘船橋場へ上陸夫より山谷。

龍泉

買上物 須崎村植木屋平松方にて

植交花菖蒲一鉢三兩△家造虫籠 其の外にも諸所にて買上物あれごも煩はしければ省くべけれご品物こ代價こを見合せて今日こ考へ合せれば其處に多少の趣味 一箇二兩三歩△象牙細工人形十箇附き能舞臺十二兩△變り鯉一本二兩△金魚一疋二步二朱。

尙も一つ記すべし。

安政四年三月廿三日(同上) 中里筋雉子御成りであるが平川門より一つ橋を出で水道橋より白山前町千駄木町を經で植木屋の 庭内又は天主寺境内等を通り抜け西ケ原往還に達し平塚明神前より飛鳥山下瀧ノ川野道より巢鴨に出で元の白山前 町に かくりて

歸城こいふ順序にして此の間諸所にて雉子を狩り又社寺内植木屋等を通り拔けて例の如く植木類を買上けられた。

將軍家は野外散策の模様は大概斯んな風で雉子か鶉か雁鴨か或は川狩等なるが貝だ鶴の御成には進献鶴御成ご稱するほごなれば極 めて重大の事にされてなかく〜寄道なごはされず關係の向々でも鶴の御用も滯りなく濟んで御めでたいご云つて安心するなごのこ

こで有つた。

りであるが是は何の御成にも同じここである 區域に屬する一定の場所に到れば是等の隨侍者は皆な列を止めて夫から先は御塲掛りこて僅な者が扈從する丈で其の人員は左の通 將軍の一行 將軍家の郊外出遊は案外簡素なもので途中は徒士ミか十人組ミか近衛の職に在るものへ隨從して居るが當日野遊の

尼厅宣從皆

若年寄一人△御用掛一人△御供御側一人△御目付二人(此外近侍ミ者若干)ミいふが通例にて此の外には道案内の役向若干ミ近 侍者こてもほんの將軍の手廻りの用を達す者ばかりである

では無く前にも記した通り練武獎勵の趣旨なれば出入の行裝も普通の鷹狩ごは全く異りて齊々肅々たるものである天保四年十月駒 是は全く野鳥の雉子獵にて多少は前以て雉子の用意を爲し置くここも有るやうなれこ大體野鳥狩りにして實は只だの遊獵

傷で行はれた追鳥狩の行列書が有るが順序を正しく書いては餘り紙幅を費すから行列の役名の大概 (人員は省く)を左に記して一

例ごする

は斯 此の行列は堂々たるもので小金ヶ原の猪狩りご同じく獎武の趣意に因るが故で有つて別項に記した西ヶ原や雜司ヶ谷邊の猪狩りに 使番 見側衆へ先立小納戸〇將軍家へ小納戸△刀持小納戸△供騎馬△側衆。若年寄△側衆△勢子騎馬衆△是より以下普通随侍の供立 徒士△徒士頭△狹箱△馬(沓箱)臺傘。日傘。雨傘△床儿△使番△徒士目附。小人目附△勢子徒士組 はごの行裝では無かつたので有る 。徒士頭 徒士頭 同 上目附 。騎馬 △纒△鳥見△鐵砲力。貝役 △纒△小性組頭 。書院番頭騎馬 △鷹匠頭。鷹匠。犬。鷹。鷹方△招き△鳥見頭 △小性組。 。書院組番士各五拾騎つぐ二組△纒△小性組 。鳥見△小十人組 △勢子小十人組△落見日附騎馬 頭 書院番頭 頭負 △長刀△落

鶴の故障 鶴の取扱ひに付いては客易ならざりしものにて其の實例を記して鶴に關する記事の終りこす。

其の外同月末には真鶴 III. 全く棄てるものは少しの羽毛のみにて是も清淨の地を選んで埋却したが時代に從つて信念は不思議なもので黑燥や血紙で婦人の 寧に白紙へ浸ませて黑焼ミ共に婦人血の道の妙樂こして尊重し油は切疵の妙樂こし夫も腰から下へ附けては咎めるこて大事にし 配し脂肪は凝油に製し脛骨は婦人の鉾に製し羽は箒こし臓腑類の食はれるものは黒焼に製し分解の時少しにても血 取捨て方は振つてゐる指令が有るミ(實は指令の下るのを待つでもなく)其方面主任の鳥見役の手元で分解し肉は內 させ斃死するに及んで上司の命を待つて處分した筆者幼年の折かも一年に三羽の落鶴があつて孰れも處分は取捨てこあれご其の れしもの三認定し後の真鶴も同様なりこのこ三にて上司へ屆け出て指令を得て落ち鶴は取捨てさせ負傷鶴は飼附人に命じて飼養 安政六年 の道の治つたのが妙で有る尤も將軍樣のおのこりの御飯粒を煎して頂けば瘧疾が落ちるこ云つて信仰した時代であるから血 (横濱開港の年)三月四日の朝下谷金杉村に黑の雛鶴一羽落ち又三河島村には同じく黑鶴の貧傷したもの二羽舞ひ降り 一羽飛び得ずして降り居たり村方の訴へに依り鳥見役の者檢證の上其の月三日の夜雷鳴烈しく落雷に打た の気あ [友同] 僚に分

道も治つたか知れない。

いまする者が出で小さな繪馬の額や切髪なごを納めるものさへ有つて明治になつても尚木標は存在されて有つたが現今は如何に成れる。 の後の小丘の上に埋めて木標を建てたこころ誰か言ひ出したでも無くお鶴さまに血の道の平癒を祈るこきつこ利益が有るこて参 ので清淨の地へ埋却せよこの命に依り其の村の鎭守の奥へ埋るここになつた夫は今の北豐島郡志村大字元志村の熊野神社で本殿 が餘ほどの老鳥で有つた例に據つて大切に飼養するここになり飼附け役の邸内へ棚を拵へ丹精したが二三ヶ月の後遂に衰死した お鶴さま 白鶴を神扱ひにすることは前項に一言記したが其の例を擧けるミー年戸田邊に白鶴の負傷して落ちたことが有つた

## 雁鴨類の夏冬の棲息地

土黑田長

理學

の棲息地を明にせんこするにあり。 も其欄にて述ぶるよりも本欄に於て細述する方適當なりこ信じ聊か余の調査し得たる所を記し併せて本邦の各種類の夏季及び冬季 本篇は朝鮮晋州道廳の本會々員馬庭軍市氏より質疑應答欄所載の如き質問を受けしにより同氏に答ふる目的にて草せしものなる

に分ち考ふるを可ミすべし。 づれを常棲地ご云ふを得ず。東京附近に渡來するものにては一ケ年中の殆ご半ば留るものあるにより夏季の棲息地三冬季の棲息地 雁鴨類は主こして大部分の種類は寒地にありて産卵、 蕃殖す。而して産卵期以外の時期は暖地に渡り越冬するもの多きに より何

去期の温度は五七度九乃至六九度一こなり而して渡來初期は八ヶ年間の調査(「鳥」第一卷第一號參照)によれば平均九月五日より ガガモ)にありては秋季渡來初期の二十九ヶ年間の平均温度 雁鴨類に適する温度は種類により一定せざるも東京附近にて普通に見る五種類 (中央氣象臺調查)にて示せば華氏八二度九乃至六九度四にして春季 (マガモ、コ 一ガモ! ヨシガモ、 Ŀ ドリガモ、 ラナ

するものにして之以外の時期は夏季の棲息地に適するものミ考へらる。然れざも温度は常に非常なる高度若しくは反對に低度は適 十月十五日迄にして去期は三月三十一日より五月五日迄こなる。即ち上記の温度及び月日にて示せし間の時期は冬季の棲息地に適 せざるにより冬季三雖も彼等に適する温度の地に渡り夏季も亦同樣適當の温度の地(主ごして北方)に赴き蕃殖するを多しこす。 次に一ケ年中にて如何なる緯度を往復するかに就て記せばこは種類により多少相違するも前記普通の五種の鴨類にありては夏季

は北は北緯五○度以上七○度位迄の間にて蕃殖し冬季最南地方ごしては北緯八度乃至赤道直下即ち零度迄の間に渡る。經度にて表

進するものは極めて少し即ち換言すれば各特殊の島に留鳥多きが爲めなり。 以南に赴くここ殆ごなし。反之南半球に産する他の種類(舊日本以外の)にありては主こして南半球内に分布、蕃殖し北半球に北 はすには各種により相違を生ず即ち分布地の異るによる。 南北半球に於ける差異は大にあり。即ち日本及び朝鮮に産する雁鴨類中のものは皆北半球に分布、蕃殖する種類にして赤道より

以上にて馬庭氏の質問に答へ終りたるが尚ほ左に本邦の雁鴨類の最北最南の棲息地を表記せんごす。※印は木邦にても莕殖す。

※シジウカラガンB. canadensis hutchinsii	コ ク ガ ン Branta bernicla nigricans	種類類
北緯四○・四、西經八五・三四(River Anderson) 経一六六・三○(Commander Group) 邊にて蕃 種	北緯五九・東經一〇九(Lena Delta)より北緯七一・二三西經一五六・二二(Point Barrow)の間に蕃殖、北緯七四・四五、東經一四二・五〇(New Siberia Is.)に達す	夏季の棲息地(蕃殖地を含む)
北緯五五、西經一三九・四八(東京附近)位迄達北緯二五(Mexico)邊に達す本邦にては北緯三五・四〇、東經一三九・四八(東京附近)位迄達す。	・ (長崎)な經て北經二○・五二、一四經一五六・四 (長崎)な經て北經二○・五二、一四經一五六・四 で (長崎)な經で北經二○・五二、一四經一五六・四 で (長崎)な経	冬季の棲息地

Anser anser リ ガ ネ	Cygnopsis cygnoides ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
北緯三二、東經五五(波斯)以北の地北緯三九・三〇、東經九〇(Lob-Nor)及び北緯四〇、東經七〇(Turkestan) 北緯五五(Kanchatka)位 北緯五五、東經一〇八(L. Baikal) 北緯五五、東經八〇(西比利亞の北方の蕃殖地のリミツト) 北緯五七、西經四(Scotland) 北緯五七、西經四(Scotland) 北緯元七、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にて北緯七〇、東經三〇(Varanger Fjord)等にては東極である。	北緯四○(支那黄河)邊 北緯四○(朝鮮鴨綠江口)位: 北緯五三、東經一二○(Argun) 北緯五三、東經一二○(Argun) 北緯五三、東經一二○(Argun) 北緯五三、東經一二○(L.Baikal) 北緯五三、東經一六六•三○(Commander Gro- 北緯五五、東經一六六•三○(Commander Gro- 北緯五五(東經一六六・三○(Commander Gro- 北緯五五(東經六七(E. Obi)等にて蕃殖す。
北緯三〇(西北亞弗利加)邊迄達し西細亞にては北緯二五(南支那及び北部印度)位迄之れ心	・ 本邦にては ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

	コカリガネ Anser winutus	ト カ ン Anser albifrens		
北緯五○ (Okhotsk Sea) 邊にても蕃殖するならん	北緯六〇・三〇——七〇(Yenisei) 北緯六〇・三〇——七〇(Yenisei) 北緯六〇・三〇——七〇(Yenisei) 北緯六八・東經二七(Lapland) 北緯六八・東經二七(Lapland) 北緯七〇(Boganida) 北緯七一、東經五五(Novaia Zenlia) 北緯七二・三〇——七四(Valley of Taimyr) 北緯七二・三〇——七四(Valley of Taimyr)	新世界にては 北緯四〇(Month of Anderson)邊 北緯四〇(Month of Anderson)邊 北緯六七(E. Mackenzie) の邊より北緯七二、 東經四〇(Greenland) 迄の間にて潜殖し 曹世界にては 北緯六二、東經十八(Chukchiland) 北緯六二、東經一八(Iceland) 北緯六九、東經一八(Iceland) 北緯六九、東經四五(Kolguev) 北緯七一、東經五五(Novaia Zemlia) 北緯七五、東經一〇〇 (Taimyr Pen.)等にて ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
南は北緯三五•四〇。東經一三九•四八(東京附	北緯三二、東經五五(波斯)邊より南は北緯二五 (南支那、北印度)邊迄達す本邦にては 北緯三五・三〇、東經一三九・三五(横濱)附近迄	新世界にては南は 北緯二五(Mexico)邊より北緯二二・西經八〇 (Caba Is.) 迄達す。 舊世界にては 北緯四三、東經五一(Caspian Sea) I 附近 北緯二五(南支那及び北部印度) 北緯二三・三〇東經一二一(臺灣)位迄達する。		

Chen hyperboreus hyperboreus	ハシブトヒシクヒ M. segetum mentalis	M. segetum serrirostris	M. segetum segetum	オ ポ ヒ シ ク ヒ Melanonyx arvensis sibirious
北緯六五(Mackenzie R.)邊 北緯六五(Mackenzie R.)邊	れたり。 北緯四五、東經一三二 (L. Khanka) 邊にても採集せら がし北緯五五 (Bering Is.) 邊にても採集せら	北緯五五、東經一三三(Stanovoi range) 北緯六○・三○(Yenisei)邊 北緯十○・三○(Taimyr Pen.) 等にて蕃殖す。	り。 Sweden, Finlandに て蕃殖するものは別種ない。 と Yenisei 北部地方迄)にて蕃殖す。	北緯五五 (Kamchatka)邊 北緯六一、東經一七六(Chukchi Pen.) 北緯六九、五○東經一二〇(Vilyui) 北緯六九、五○東經一三五・三○(Yana) 北緯六九、五○東經一三五・三○(Yana) 北緯六九、五○東經一三五・三○(Yana)
本邦にては北緯三二・四八、東經一二九・五七(長北緯五五(British Colombia)より北緯二五	不明なり。 不明なり本邦内地にも渡來せしも地名が開発して明なり本邦内地にも渡來せしも地名	すること明かなり。 遙に南は北緯二三・三○、東經一二一(臺灣)迄達 南は北緯三六(埼玉縣下)邊並びに	北緯三三(Caspian Sea)の附近 北緯三三・二○、東經一二六・三○(朝鮮濟州島) よりなほ以南	り。 本 亞種は歐露叉は西歐地方にも迷び行くことあ本 亞種は歐露叉は西歐地方にも迷び行くことあ

_	

アカツクシガエ	ツクシガ Tadorna cornuta	リ ウ キ ウ ガ r	C. olor ハ ク テ	の. bewicki	オ ホ ハ ク テ ウ	オ ホ ハ ク ガ ンChen hyperboreus nivalis	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	モ (英國)邊にて審殖す。北緯五六・三〇(W.Jutla-nd)にても審殖す。	モ 北緯二〇(緬甸、印度) 邊より南緯七・三〇(Java	北緯六〇(南部瑞典)の附近にて蕃殖す。	ウ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	北緯六五(Mackenzie R.)邊より以北 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	北緯六〇――七〇(東西比利亞の北極地方)の邊正和亞にては
地は北緯三八・五〇(山形地方)位なり。 北緯二三(臺灣邊)迄達す。本邦に於ける最北の	海)邊並びに遙に南は北緯二三(臺灣)邊迄達す。三五(東京附近)より北緯三二・五〇(九州有明の北緯二五(北部印度)邊迄達す。本邦にては北緯	北緯二八(琉球諸島)邊迄達す。	にては稀なるも北緯三四・五〇(木浦)迄達す。北緯二五(北印度)の邊迄も達することあり朝鮮南は屢々	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	最南地方としては北緯二五(印度)邊迄達す。北緯三二・四八、東經一二九・五七(長崎)に達す本邦にては	Rico I.)邊迄達す。シポーム氏によれば本邦に Rico I.)邊迄達す。シポーム氏によれば本邦に	歐洲北部に渡るも稀れなり。

A. oustaleti	A. sperciliosa sperciliosa	※カルガモA. zonorhyncha	※ マ カ Anas bóschas	※ラ シ ド リ	カンムリツクシガモ Pseudotadorna cristata
北緯一六(南洋Marianne) 邊にて採集せられた	の間に分布蓄殖す濠洲及びニウジーランドのもの間に分布蓄殖す濠洲及びニウジーランドのものはの稍々大形なり。	北緯二九・四〇(Kin kiang) 北緯三一・一三(上海)邊より 北緯四〇(北部支那、朝鮮北部) 北緯(四三)北海道、南蒙古) の地方にて明に蕃殖す臺灣にても蕃殖するや不	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	北緯三六・二○(飛彈)邊北緯三六・三八(日光) 北緯四八・三○(Amoorland)位の間にて疑ひなく蕃殖す尚ほ以北にても蕃殖するものあるべなく蕃殖す尚は以北にても蕃殖するものあるべたを離れている。	らんも明ならず。
同上	夏季の棲息地と大差なし。	夏季の棲息地と大差なし南は北緯二二(比律室)	北緯二○(北亞弗利加)邊又尙ほ遙に	北緯二三(臺灣)邊迄之れを見る。 野ち南は 即ち南は	のある外明ならず。 北緯三五・10(釜山附近) 邊にて獲られたるも

フafila acuta	ト セ 片 カ モ N. formosum	アメリカコガモ N. crecca carolinense	※コ カ モ Nettion creeca creeca	) P P ?	ョ ・シ ・カ モ Eumotta falcata	Chaulelasmus streperus
北緯四七 (Brenne附近) 北緯五○ (Bohemia) 北緯五六・三○ (W. Jutland) 邊より北緯七○ (N. Lapend)にて蕃殖す。北米にては北緯四○ (Illinois) 以北 北緯六四(Alaska)邊迄にて蕃殖す。	北緯六一(東部西比利亞)邊にて蕃殖す。	北緯三四(N. New Mexico)より	北緯六八(Lapland)迄達す。 北緯四五(千島)邊より北緯五五(英國)邊迄の間	北緯五五(英國)邊にて審殖するもなほ以北に達北緯五五(英國)邊にて審殖するもなほ以北に達	北緯六○(東部西比利亞)邊にて蕃殖す。	より北緯六八(Lapland)に達する間にて溶殖す。北緯五五(兩大陸)邊北緯四〇(南西班牙)
・本邦にては北緯二三(臺灣)迄達す。 ・本邦にては北緯二三(臺灣)迄達す。	本邦にては北緯二三(臺灣)邊迄達す。 おり。	三五(府下羽田)邊にて一回採集せられたり。 北緯一五(Honduras) 邊迄達す本邦にては北緯 北緯二〇 (Mexico) 及び	北緯八(Ceylon)等迄達す本邦にては 北緯八(Ceylon)等迄達す本邦にては	本邦にては北緯二三(臺灣)迄達す。 対南に迄違す。 対南に迄違す。	(臺灣)迄達す。	本邦にては北緯三二・四八(長崎)愛遊達す北緯二〇(印度、メキシコ、西印度)邊遊達す

ホーシーハージーロ Nyroca ferina	ス 、 ガ モ	キンクロハジロFuligula cristata	アメリカヒドリ M. americana	Mareca penelope	ハ シ ビ ロ カ モ Spatula elypeata
北緯五四(北獨逸)及び以北の歐洲にて蕃殖す。 北緯五○(南西比利亞)	北緯七○(Lapland)等の北地にて蕃殖す。	洋の北極地方は蕃殖地なり。	北緯六四(Alaska)にて蕃殖す。	北緯六五(Iceland) 以北の地にて蕃殖す。	北緯四○(N. Indiana)邊より北緯大四(Alaska) 邊迄にて蕃殖す。舊世界にては北緯五○(獨逸)
三五・三〇(横濱)邊迄達す。	本邦にては北緯二三(臺灣)迄も達す。 おっぱ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	北緯二〇(印度) 北緯一(Abyssinia) 北緯一(南洋Pelew)等の南部に達す。本邦にて 北緯二〇(印度)	國)にても獲られたり。 五(府下羽田)邊にて數回得らる又北經五五(英北緯二二(Cuba)邊迄達す。本邦にては北緯三北緯三次(Guatemala)	の間に時々之れを見る。 (California)邊より北緯八〇(Greenland)邊迄と達するや不明なり北繰八〇(Greenland)邊迄北緯二〇には冬季北緯三〇には大路三〇(印度)	二(臺灣)迄之れを見る。 ・五九(Panama) ・五九(Panama) ・本邦にては北緯三 ・北緯八〇(印度)

※クロガモ Oidomia americana	ジロゥドキンクロ Oidemia fusca stejnegeri	シ ノ リ ガ モ Historionicus historionicus	ローホーリーカーモ Harelda glacialis	ホージロガモ Clangula clangula clangula	N. boeri ジロ	N. africana ガモ
北緯四五(千島) 北緯四九(Newfoundland) 北緯四九(Ungava) 北緯六六・三〇 (Kotzebue Sound) 等にて落殖	北緯五五(Kamchatka 及び東北西比利亞)邊にて審殖す。	北緯三八(Coloradoの西南地方) 北緯四九(New-北緯六三 (Yukon)北緯六五 (Iccland) 北緯七、北緯六三 (Yukon)北緯六五 (Iccland) 北緯七	に蕃殖し。舊世界にても北緯七〇邊にて蕃殖す。(Melville Is.)北緯八〇(N.Greenland)邊迄の間北緯五九・三〇 (Ungava) 以上北緯七五・三〇	北緯五五(英國) 北緯五五(英國)	北緯五五(Kamchatka)邊にて蕃殖す。	にて蕃殖す。
本邦にては稀に北緯三五邊(駿河靜浦)迄達す。	北緯二三(臺灣)邊迄達す。	北緯四○(Ohio; California)邊迄達す。 本邦にては最近北緯三四·五○位(伊豆河津)に て採集せられたり。	北緯三六(N. Carolina) 邊迄違す本邦にてほ最れたり。	(臺灣)迄達す。本邦にては北緯二三北緯二○(印度)邊迄達す。本邦にては北緯二三北緯三○(北亞弗利加)	本邦にては北緯三五・三○(横濱)邊迄達す。北緯二○(印度)邊迄達す。	本邦に渡來するや否や不明なり。 北緯二二・五(中央印度)

				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
M. albellus イサ	M. serrator	Mergus merganser merganser	コケワタがモEniconetta stelleri	Somateria spectabilis
北緯五七(Baltic Sea)邊にて蕃殖す。 北緯五五(英國Behring Is.)	北緯七三(Greenland)にても蒂殖す。 北緯五七(Scotland)邊より北は 北緯五七(Scotland)邊より北は	北緯五〇・三四(獨逸Schlesia) 北緯五五(Kamchatka)	北緯五三(Aleutian Is.) 北緯五五(英國)邊 北緯七〇・二四(露領Finmark) 北緯七一・二三 (Point Barrow) 等の北方にて	又西比利亞にては北緯七○以北にて蕃殖す。 北緯八○(Greenland北方)邊迄の間に蕃殖す。 北緯八○(Greenland北方)邊迄の間に蕃殖す。
本邦にては北緯三二(長崎)邊迄達す。 北緯二〇(印度)等に渡る。	本邦にては尚ほ南方北緯二三(臺灣)に迄達す。 北緯二八(Florida) 北緯二八(東)等に渡る。	北緯三二(長崎)迄達す。本部にては北緯三一(地中海)	南口北緯四五(千島)邊迄達す。 渡ると云ふ。	北緯四○(New Jersey)邊迄達す。 北緯四五・二六(Venice)にて一回採集せられる。 北緯四五(千島)

# **猶太民族の古代に於ける禁獵鳥類**

元木

助助

に鸚鵡三駝鳥を附加せり今古典を記するま、に探討せば、 嚴命しあり鳥類にては健翮を持ちて空中に翱翔する物ミ森林中小動物昆蟲を捕食する物ミ水邊に停立して魚蟲をあさる物ミを主要 れし卷頭のモーセ第五書 (The fifth book of moses) 法律書たる中命記(Deuteronomy) に鳥獸中の挿食すべきご否らざるごを規定して ては天下に特絶の存在を認めらるべきものなり。其宗教の經典たる舊約聖書を繙けば紀元前(西曆)八百年より四百年の間に輯銘さ 世界に於て早くも流亡の民ミなり其墳墓の國家を失ひし悲慘なる猶太族も常て彼等の祖先が天啓を受し三稱せらる、宗教に因

a kide in its mothers milk and the hawk after its kind, the little owl, and the great owl, and the horned owl and the pelican, and the vulture, and the glede, and the falcon, and the kite after its kind, and every raven after its kind, and the ostrich, and the night hawk and the semnew he may eat it, or thou may est sell it unto a foreigner, fore thou art an holy peple unto the lord thy god. thou shalt not see the unto you. ye shall not eat of any thing that dieth of itself. thou mayest give it unto the stranger that is within thy gates, that cormorant, and the stork, and the heron after its kind, and the hoopee, and the bat, and all winged creeping things are unclean [英體]of all clean birds ye may eat but these are they of wich ye shall not eat, the eagle, and the gier eagle, and the ospray, and the

|乾鳥、梟、鷗、雀鷹の類、鸛、鷺、白鳥、鸅鷓、大鷹、鷁。鶴、鸚鵡の類鷸および蝙蝠。また凡て羽翼ありて匍ふごころの者はメディスロウカ8× \* \*\*\*\*\*\*\* カラ サギ ハクラウ オスメドリ オネタカ ウ 〔邦譯〕 また凡て潔き鳥は皆汝等之を食ふべし。但し是等は食ふべからず即ち鵬、黃鷹、鳶。鸇、鷹、黑鷹の類。各種の鴉の類。 カラス カラス ウェン クマタカ ・ イブナメカ くら タカ カラス 汝等には汚れたる者なり、汝これを食ふべからず。凡て羽翼をもて飛ぶこころの潔き物は汝等之を食ふべし。凡そ自ら死たる者

ばなり汝山羊羔を其母の乳にて煮るべからず。 は汝等食ふべからず汝の門の内に居る他國の人に之を與て食しむべし又これを異邦人に賣るも可し汝は汝の神エホバの聖民なれ

戀、鴆。鵜鶘、爰居、魚狗。鶴(鶴又作鸛、希伯來音哈西大即慈鳥之義) 鸚鵡與其類、駕、蝙蝠、以下略之。 【漢譯】 凡鳥之潔方可食 其不可食者即鷹,鶚鵬、鳶。鸇、小鷹與其類。鴉與其類。鴕鳥、夜鷹、魚鷹、雀鷹與其類。 島湖 鷺

に興味ありご云ふべし即英譯に邦順を附せば り爰に古典の文字に從へば儀禮慣例を嚴守し拜神に一種の頑迷なる信仰を伴ひし民族なれぞ今日の益鳥に相當する者の捕食嚴は大 て鷙鳥類の鷲、鷹、鴉類、鸚鵡類、鸵鳥を除けば鷸ミ鷺の有期保護鳥を有する外皆な禁止鳥に屬する所謂益鳥多きは注意すべき事な には其和譯の訓讀にて凡そ其鳥類の如何なる者が禁止されしかを知るに難からず先つ假りに和訓の丈を標準させんか鳥名二十個に 上記の如くにして其抜書に因れば和漢英の譯名必ずしも一致せず本會の碩學には英譯に付き自ら精確の譯語を有せらるべけれご弦

及に虐待せられ今日の流離以上の狀態に在り漸く埃及い拘束を脱して故國の樂土を望んで歸朝の行途に就くや旅中四十年の歳月を は其主要なる處の鳥類活用に伴ふて得らる、結果ご云ふべし殊に紀元前三千七百餘年はモーセに統率されし猶太民族約二百萬が埃 の規程に入れる蝙蝠類まで一三して其肉食性を利用し多少の効果なきものはなく人生に没交渉の生類を以て目すべからず猶太民族 を禁止するより受くる處の利益は決して少々に非ず日本政時の保護鳥ならざる鳥類も鷲類、鷹類、鳥類並に飛翔する為め鳥類三同 梟フクロウ、鸛カウヅル、鷺サギ、鷸の六種の益鳥こなる以上に就き民俗か敬神上の迷信か捕食に値ひせぬかを別こするも其殺傷 アラビャの荒野に彷徨し飢餓に苦み風土に惱みて悲惨の限を極め民力困疲の絶頂に有りたれば産業に衞生に特別の用意なくんばあ の風習たる潔癖ご此法律の勵行ごより來る野生小動物の繁殖の爲め起る農山林の被害驅除ご生物死屍の遺棄に因る腐敗物の排除等 Ospray (鶚ミサゴ) Glede (Buzzard ノスリ普通歐洲産の Kite も本名を用ひらるこも buzzard も含まれるは別に Kite あるを以 て鵟を擬したり) Kite (鳶トビ) Nighthawk (蚊母鳥ヨタカ) Seamew (gull 鷗カモメ) Little owl (小鴉コフクロウ) Great owl (大鴞 才 、ホフクロウ)Horned owl (鴟鵂オホミミヅク)、Stork(靍コウヅル)、Heron(鷺サギ)の七種の益鳥有り邦譯より緝拾せば寫トビ、



# バン・ヒクヒナ類の新分類

理學士黑田長禮

Hartert, E.; — Où Some Rallidæ. Nov. Zool., Vol. XXIV,

1917, pp. 265-274.

亞種を次の如くに分ちたり。 ク産のもの六種類を記し次にバン屬中の Gallinula chloropus 各の産のもの六種類を記し次にバン屬中の Gallinula chloropus 各

1. Gallinula chloropus chloropus (L.)

粍。歐洲産。 翼長雄にては一七五――一八八粍、雌にては一六五――一七六

2. G. chloropus parvifrons Blyth

G. ch. chloropus より小形にして翼長雄にては一五六――一七六

のものも此亞種に屬するならん。

印度、セイロン、支那全部、琉球、日本に分布し恐らく西藏

3. G. chloropus orientalis Horsf.

一一六七粍。上雨覆は帶蒼石板色にて橄欖褐色の羽線を缺如す。翼一四五十

り(抄錄者曰く臺灣產は恐らく第三の亞種ならん) parvifrons この中間のもの又は G. ch. guami に似たるものもあり(抄錄者曰く臺灣產は恐らく第三の亞種ならん) はいべス(稀)等に分布す。比ジャバ、スマトラ、馬來半島、セレベス(稀)等に分布す。比

4. G. chloropus guami, susp. nov.

翼長(雌雄)一六五——一七五粍。

マリアナ群島のグアムに産す。

5. G. chloropus brachyptera (Brehm)

翼長凡そ一五〇――一七五粍。

nobon, Seyohelle 諸島、Praslin He Aried に分布す。

6. G. chloropus pyrrhorhon Newt

Mauritius, Réunion 及びマダガスカルに産す。

7. G. chloropus sandvicensis Streets

ハワイ群島に産す。

G. chloropus galeata (Licht.)

方、 ブラジルの南部、パラグウェー、ウルグェー、アルセンチェナの北 ボリビアの東に産す。

G. chloropus pauxilla Bangs

西部コロンビア、恐らく又西イクワドルのなほ南にも達すべし。

G. chloropus cachinnans Bangs

翼長一六九——一七八粍

北米の北部の温帶地方、東部、及び中央部に分布し南はニカ ア、ケープサンラカスにては分離的の群棲を見る。 ラグワ稀れにはコスタリカに達す。大アンチィレス、北部小アン チャレス、バハマにも稀に且つ地方的に之れを見、カリファーニ

G. ch. cerceris Bangs は南ルカス、小アンチィレスに産するもの なるが多分第十のシノニムご見るべきならん。

G. chloropus garmani Aller

南米秘露のチチカカ湖、西部ボリビア及び智利に産す。

G. frontata Wallace

此種は赤脚にて嘴大なるここによりて他のものより直ちに分た るるも G. chloropus の亞種ご見るべきならん。

> res 及びボルネオ(例外こして偶然來るここありに之れを見る。 次にヒクヒナ類を左の四亞種に分けたり セレベス(稀)Baru, Ceram, Amboina、ニウギニア、Sumba, Flo-

1. Porzana fusca erythrothorax (T. & S.)

五―一二〇粍(三十五羽の調査)。 近似種に比し一般に淡色にて淡褐赤色なり。大形にて翼長一〇 橄欖褐色にて新鮮の羽衣にては繍色を帶ぶ。下面及び額は他の 額より眼の凡そ中央部迄或は頭頂の大部分は褐赤色、上面は暗

は南は雲南よりシャムに達す。 日本にては北海道より九州、屋久島に分布し、東部支那にて

ÇĮ P. fuaca phaeopyga Stejn

恐らく稍一層飽和せる感あり。スタイネゲルの記載こは全く一 致せす。 Pf.erythrothorax に似たるも嘴は厚く且つ長く上胸の褐赤色は

琉球諸島にありて八重山、沖繩、

奄美大島に産す。

3. P. fusca bakeri, subsp. nov

thorax 三同長のものあり下面の褐赤色は濃色にて暗色なり 頭頂は一般に全部褐赤色なり。著者は P.f. lakeri ら P. f. fusea こ 翼長九七──一〇八(一一〇稀れ)なるも時ごして P. f. erythro-

の差を多くの卵の大さによりて前者の方大なるとを述べたり。 北部印度にては Kashmir より Cachar, 上部アツサム、及び緬

甸に達し南はカルカツタに及ぶ。

多かつた様子であるが之ミ關係があるかごうかは分らぬがアカ ツクシガモが奇らしくも内地で屢捕獲された。弦に掲げた寫真 今年は例年より寒氣が强いせいか鴨の渡りが一般にいくらか

P. f. bakeri ご同色なるも 體は餘程小形なり。 八九——九九年。 P. fusca fusca (L. 翼長

ボ ジャバ、 ル 比律賓群島、セレベス、 ネオ、 クリスマス島、 スマトラ、

び馬來半島に産す。此外 イロン、 南印度( 稀、

naad 及び Mysore にも分 Kanara, Travancore, Wyt

のものは本亞種に入るならんか。) 布す。(抄錄者日く臺灣產

ツカア るけ於二場養飼氏平松 モガシク

の鴨場には昨冬十一月下

カツ 動

である。

又羽田の黑田家

飼養後途に斃死したもの で捕獲し同邸に十數日間 で此鳥は千葉縣下で黐繩 日鳥商から得られた雄鳥 は松平頻孝氏が一月十六

學雜誌二月號參照)一月

十七日に

一度捕獲された

が翌日寫真撮影の際取逃

シガモ雌が渡來し 旬頃から一羽のア

圖 -E 第

カックシガモの渡り

8

**灣學士** 內 田 清 Ż 助

誌 十一月初旬に此種が捕獲されてをる。斯く諸方で度々採集され がし目下再び溜池に顯れて居る(第八圖參照) て居る所で見るこ今年は大分内地へ渡つて來たものらしく思は 一月號の齋藤宗雄氏の記事に依れば山形縣庄内地方でも昨年 つ。尚 例は動 物學雜

は偶然渡來するに過ぎない誠に珍らしい種類である。

始めてアメリカヒ

五頁に於て

余が動物學雜志事

16

れる因に從來も内地で採れた事が絕無ではない現に松平家の標

本室にも下總古智

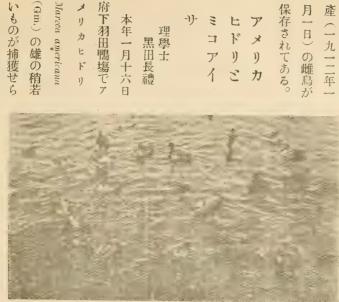
保存されてある。 月一日)の雌鳥が 產(一九一二年一

ア

1)

カ

-1-)-111 E 理學士 K 1) ア 1 3



黑田長禮

影撮日一十二月一年本(右稍央中)モガシクツカアるけ於に塲鴨田羽

第 1) 1: 力 E 圖 ル 以前にも矢張雄 これが羽川で初め 羽 思てゐたが其の餘程 リの名で記述したが 捕獲せられたのだこ

付

か

7= 此種に相違ない様に 物だこのみ考へてい 思はれる。夫政今回 たが今から考へるこ ものの時は單に變り おたこごに する)捕獲せられ 勿論その初め 秋の十月ご記憶 i

のものは第三回目に同鴨場で獲られたのである。そして第二回

ある(第九圖麥照)。此鴨は云ふ迄もなく北米の鳥類であつて我

れ今余の飼養中で

Marcea americana

IJ

t

F"

1)

陽場以外でも省て一二羽獲られたこ云ふここである。此種は此じて此種が渡來したここは殆ご疑ひないここである。此種は此た普通のヒドリガモも出獵期には比較的數が增したその群に混か鴨類の渡來數が多かつた故從つて數年前から非常に少くなつか鴨類以外でも省て一二羽獲られたう。昨冬から今春は氣候の為め目のものご今回のものこの間は更に十年間を經て居る此點のみ目のものご今回のものごの間は更に十年間を經て居る此點のみ目のものご今回のものごの間は更に十年間を經て居る此點のみ目のものご今回のものごの間は更に十年間を經て居る此點のみ目のもの言言は、

寒氣が烈しく鴨の渡來數の多い爲めか內田氏の報告にもある は幼鳥か)一羽が本年一月世五日に渡來したのを見た。其他 ラカヨシガモも三一四年目の本年二月六日に雖幼鳥一羽が排獲 せられた。羽田鴨塲で此獵期間に不思議に思はれるのは海鴨類 せられた。羽田鴨塲で此獵期間に不思議に思はれるのは海鴨類 せられた。羽田鴨塲で此獵期間に不思議に思はれるのは海鴨類 があるし少くごも例年數羽位は必ず見るのに今度は一羽のみ見 があるし少くごも例年數羽位は必ず見るのに今度は一羽のみ見 があるし少くごも例年數羽位は必ず見るのに今度は一羽のみ見 があるし少くごも例年數羽位は必ず見るのに今度は一羽のみ見

## コホリガモの最南分布例

籾山德太郎

本種が本州北部にて獲られし事は先に黑田理學士に依り報ぜ

せられたり。こは恐らく従來に於ける最南の分布例たるべし。賀沼(北緯三五度五一分)に於て本種の雄鳥夏羽のもの一羽捕獲られたりし所なるが(本誌第四號四四頁)昨年十二月九日下總手

## シブトイカルに就て

森

繑

因てその記載をなし報告すっられたる報告なき左の學名を有する大陸型のものなるを知れりられたる報告なき左の學名を有する大陸型のものなるを知れりた。本年一月九日京城市場に赴きしにシメを多數繩にて括れる中本年一月九

Eophona personalus magnirostris Hartert

採集地 京城市場

年月日 大正七年一月九日

小雨覆、中雨覆は黑色⑤大雨覆の内側の四枚は白色基部灰黑色の四枚は中央に於て①初列風切は外側の一枚は全部黑色其の次の四枚は中央に於て內外緣共白斑あり其の次の三枚は外緣のみ中央に小白斑あり最後の一枚は全部黑色なり②次列風切は全部中央に於て內外緣共白斑あり其の次の三枚は外緣のみ中央に小白斑あり最後の一枚は全部黑色なり②次列風切は全部出載。日本鳥類圖說下卷五〇二頁四六二ィカルの記載三同樣な記載。日本鳥類圖說下卷五〇二頁四六二ィカルの記載三同樣な記載。

が、れり其の外側の一枚は黑色にして其の先に小白斑あり夫れ 央尾羽二寸四分、跗蹠七分、 る點に於て異なる。翼長三寸七分五厘、尾長二寸八分五厘、中 より外側は鋼鐵色光澤を帶びたる黑色なり(二)脚は淡紅褐色な 嘴峰七分五厘

嘴の太きここによりて今回新に上記表題の如き和名を附すここ 本亞種の分布は東部西比利亞ミ支那の大部分なり

こせり

# 美濃にて獲られしトキに就て

柳 原 要

尺九分。嘴峰六寸七分五厘。附蹠二寸六分。 全長二尺三寸八分。翼長一尺二寸三分。擴長四尺七寸。尾長四 に珍らしき故左に測定其他を附し報告す。 淵在にて採集されし朱鷺(雄)一羽ル購入し寄附されたり。餘 本年一月十五日當地の小學校卒業生の一人は美濃國武儀郡 神

あり。胃中には馬姪一匹、ドゼウ一尾、タニシの小形のもの一 彩は黄赤色。嘴の基部の裸出部は赤橙黄色なり。尾羽は十二枚 所に黑色を帶ぶ。趾も同樣にて趾爪は淡褐色に黑色を帶ぶ。虹 嘴は黑色にて上嘴の先端には小部分帶赤黑色。脚は褐色にて所

6,

3

J)

井

サンカノ

J)

中

京橋築地に一回飛來したるこごあり。

捕獲したるここあり

個、其他具殼の細片多數を含有せり。

# 東京市内にて見たる鳥類

13 111 (di

大 AL.

5, 2, 1, 4 3 1 ゥ カ J 1 中 +} サ ŋ ギ # 冬期三宝坂附近の御湊内、不忍池等に 夏期京橋築地に於て幼羽のもの二羽を 極めて普通、市内各所に於て繁殖す。 常て一回京橋區築地に於て一羽見しこ 櫻田門附近にて見るもあまり多からず 泳せるものを見しここあり、恐らく芝 若くは二三のものなり、 高空を飛過すものは間々見受るも一羽 田川竹谷の渡附近にて一羽見しここか は普通に見るも数あまり多からず こあり 濱離宮内にて繁殖するものあるべし り、赤坂區内にて繁殖せしここある山 月島沖にて游 

	15		9	14		13	.12		11			10	9,		8,			7
牛	ウ			ユ		4	牛		ŀ			オホ	カ		T			ם
ジ	ĩ			IJ,		ナグ						とシ	ル					
バ	ネ			カモ		177						クヒ	ガ		ガ			ガ
٢	7			×		?	ジ		Ľ.			クヒ(?)	モ		モ			モ
冬期は普通に見受くれご、一羽若くは	前種に混じて飛來するここあり。	なし居るここ多し。	其他の河川に見る所のものにして群を	秋期より冬期に掛け月島附近、隅田川	こあり、夜間鳴聲を聞くここあり。	芝濱離宮附近の海岸に於て一羽見しこ	小石川植物園内にて見しこごあり。	•	四時極めて普通、市内各所に於て繁殖	本種なるや他種なるや明かならず。	り、高空を飛過するものも見受くれご	冬期三宅坂附近の御壕内に見るこごあ	同上、三種の内最多數のものなり。	**************************************	前種ご同じ、されご數は前種程多から	來せる個所も尠なからざるべし。	普通に見る所のものなり、其他にも飛	冬期三宅坂附近の御壕内、不忍池等に
27																		
27		26	25	24	23	22	21	20			19		18			17		
+		26 '	25 Ľ	2)	セ	22 +	21	20 ξ			19 カ		18			r		
			,		セグロ	キセ										アヲ		
牛		Ł	r"	ハクセキ	セグロセ	キセキ	フ				カ		<b>ホ</b>			アラバト		
キビ		E E	ビビン	ハクセ	セグロ	キセ	フク	ì			カハ		木		,	アヲ		

11	
ナ	6

サントを含める者を見ることがるものという。	ヒス 晩秋より初春迄珍しからず。 46、	橋築地) 「	数はあまり多から 数はあまり多から	シクヒ「度り」の祭、旬日止るものを見る、如し。如し。 なれご前種より一層尠ぎもの、 は、ヤビタキ 同上、されご前種より一層尠ぎもの、	ウビタキ 冬期は珍しからず、數はあまり多からりビタキ 冬期は珍しからず、數はあまり多から41、シ	種なるやクロッグミなるや詳かならざに居たるを見しこごあり遠かりし爲本 39、ヒハラ(?)築地海岸なる海軍造兵廠外の石垣附近	ハ ラ 稀に見るこごあり(京橋築地) 38、コシ羽のものを見るを常ごす(京橋築地)
クドリ	ボソガラ	シブトガラスガ	<b>ガ</b> ラ	マ ガ ラ	・・・ ウ カ ラ ズ	ジャク	シアカツバメ
匹時極めて	F	極めて晋通、市内各所に於て繁殖す。同上(同所)	群を見るここ	雌雄のものを見るこごあり(京斎葉也) 秋期前種の群に雑り、又は單獨若くは殖す。	四時、極めて普通、市內各所に於て繁あまり多からす。	日にして去る。	三宅坂附近には極めて多し、市内各所にて繁殖す。

多し、市内各所に於て繁殖す。

57										•							
	56	55	54					53	52		51	50			49		48
21	ア	木	ス					7	ウ		1	シ			Я		3
シ		,						カ									4
F,	ヲ		820					<b>ハ</b> ラ			力				ジ		D
ガ		ジ						Ŀ									F
モ	Ÿ	D	×					ワ	ソ		ル	Х			口		y
三宅坂附近の壕中に見る多からず(鴨は一羽のものを見る(京橋築地)	冬期は普通に見れごも數は甚尠く多く		四時普通、繁殖數夥し。	(六年六月)	地内にて營巢しあるを見しここあり、	らしきものにはあらざるべし、谷中墓	は稀に見るも山の手方面にては差程珍	下町(主ミして京橋、日本橋區内)にて	甞て秋期一羽を捕獲したり(京橋築地)	獲たり。	常て冬期(一月・)京橋築地にて一羽を	秋期及冬期、甚だ稀なり(京橋築地)	くは數羽のものを見る。	のものを見るも以後は概して一二羽若	秋期より初春に見る、渡來期には小群	内にて繁殖するここあるべし。	夏期見るここあり(京橋築地)恐らく市
66			65	64	63		62		61			60	59		58		
1			t	ア	ア		ア					+}-	21		Ŀ		
ラ				ala.	ヲ		カ		ア				,		F	•	
ッ			バ	カ	バ		せ、ウ		ジ			シ	1		y		
グ				ゲ	ヅ		F.		サ				タ		ガ		
ŝ			IJ	ラ	ク		ン		シ			バ	カ		モ		
赤坂區内に於て	の逸したるや	羽低空を飛過	昨六年十月一	赤坂區内にて二	赤阪區内にては繁殖するものある由	ありし山	會て赤坂區内に暴風の折飛來せるここ	田理學士に依	日比谷附近に飛來せるここある由(黑	<b>9</b> °	獲せられたり三云ふものを見しこ言あ	會て上野動物園	赤坂區	は其數	三宅坂附近の壕中に見る、同所に於て	カルガモ	類は一般に夏季

ヤーは猫の意

後名は

カラスより轉じたる

す。 附記 67 69 68 黑田理學士の御教示に依る所のものなり同氏の好意を厚く鳴謝 らざれば弦には除くこことせり、赤坂區内に於ける觀察は凡て IJ ワ タ オ 1 1 ゥ 以上の他に千鳥の類鴨の類頼白の類等あれご種名確實な 和 ソ 木 + 琉球産鳥類の方言 t 3 p カ ウ 3 3 コ 3 力 F. キ ) IJ ル ブ ノ 名 區內 昨六年九月廿日日本橋區内に於て本種 冬間稀に飛來するものあり、 且て一回飛來せるここありし由 こは想はれざりき。 雄鳥一羽を見たり、籠鳥の逸せるもの を捕獲せり(京橋築地 ッ 類 ク 類 + ワシヌトヰ しもの) 7 タ ヤ ヤーヂクク又はホーホード ・ブサ 琉 カ 球 尙 (ヰはリの轉化せ 方 言 曾て一羽 景 (赤坂 リウキ IJ ス 1) 1) ゥ IJ ッウキ ウ ゥ ゥ ゥ ウ + .+ グ + サ ゥ Đ ン ウ ゥ ズ ブ Ł ク 1 ٢ ワ 3 ガ ウ F. ラ テ ス ゥ IJ ス X D もの) 1 多分鳴聲より取りしものなら キーマ のこの意にて鳥以外の種々の クラー小(小ごは可憐なるも ガラシ もの) ーフヒフヒ(前名は長尾にて ナガズーガンター又はモーデ ウグイシ ご云ふ) ものにも附す) 冠毛ある鳥の意。後名は鳴聲 まりちらし等より源を發せし ヒューシ(ひよすより轉化せし より取りしものならん ソーモナー小(意味不明) マツタラー小(多分古文の糞

		オホ		リウ	ノジ		+		リウ	カ		+	ア		オ		1	7
		ルリ(ル		キウサ	コ(カラ		ツツ		キウア	<i>)</i> \		セ	カ		キナ		ソ	カ
		リ ビ		ショ	アヲ		+		カセウ	セ		レ	٤		カガ		٤	21
		タキ?)		クヒ	ジ <sup>?</sup> )		類		ピン	ž		1	ゲ		ラ		3	ラ
りを出る)	にて此鳥を捕獲するミ神罰あ	カモヌトキ(神の鳥ご云ふ意	喰ふこの意)	マーチヌシンクェー(松の芽を	ヌシュク	の意)	キータタチャー(木を喙くご	<b>三聞ゆるを以て名づく)</b>	クカル(鳴聲がクカルルルー	カンデュヤー(意味不明)	に動かす為めに云ふ)	ズーミタミーペー(尾を上下	アコウ	<b>含</b> 色)	ナークグラー(宮古の雀ごの	ーの意不明)	ヒューシクナー又はクン(クナ	モウトキ(意味不明)
	18	D D		٢	クロツ		<b>ヘ</b> ラ	3	シャゥ	サ	<i>ラ</i>	リウ	リウキ			リウキウ	キジ	ウヅラ(イン
	バン			+	D		<b>^</b> = 9	コサ	ヤ	サ			ウ			ウ		ウヅラ(インドミフウヅラ
ナミの意		ם	2月40		ロッラヘラ	杓子の意なりこ云ふ)			ヤウジャウ		シ	<b>ウ</b> キ ウ	ウキウアラ	牛の聲に似たるによる)	(前名は烏鳩の意にて後名	ウキウヵラス	ÿ	ウヅラ(インドミフウヅラャ) ウヂラ

- 1	
P	
1	
1	,

7	タ	ヤ	カ				IJ	IJ		IJ
							ウ	ウ		ウ
木		-7-	モ				+	+		+
		•					ウ	ウ		ウ
ウ	シ						3	٤		オホ
F		シ	×				シ	ク		<b>小</b> ク
'							コ゛	٤		t
IJ	ギ	ギ	類				卉	ナ		ナ
バカドヰ	シージャー	ヤマシージャー	カムミ	のならん)	内地よの來りしご誤認せしも	名は意味不明、ヤマトド井は	アカニシ及はヤマトドヰ(前	アカグミラー小	<b>も</b> の)	クモル(クヒナより轉化せし
+	Ł	ス	モ	ッ	ž	ウ	ア	ッ	セ	ヤ
ツ					ソ	グ	力		グロ	-50
1	タ	ズ		バ	サ	Ł	21	グ	セキ	Đ
牛					ザ				V	
類	丰	У	ズ	K	1	ス	ラ	٤	1	#
バンジョドリ	ヒッカタ	ノキバ	モンズ	ツバクロ	モソッチョ	チャッチャ	クソッポロク	チョウマン	ムギマキ	ボテシギ

٤ ŀ

ť

トンビ マメマキ

下總印旛郡地方の鳥類方言

齋藤源三郎

カ 1 中 ス ツ サ ŋ 1) ギ ヨガラス、バツコ ムグッチョ クソツタカ

和

名

方

言

ク

斗

キュウナ

埼玉縣下に渡來せし鶴群の眞相

拟 Ш 德 太

郎

ありしが、去十一月二十五日、北吉見村に趣き、同村在住の原 年八月、埼玉縣比企郡北吉見村地内に、鶴群渡來せりこのここ 日本鳥學會第八回總會の席上、内田清之助氏の談に、 大正六

巌はより、親しく聞き得たる所の事項を左に記さんに、

渡來せる地は、比企郡北吉見村地内のみならずして荒川の對 たるものにして、後には一ッ木附近の荒地へ下りたる群を發見したるものにして、後には一ッ木附近の荒地へ下りたる群を發見した。至る荒川沿岸の地を去來せるを目撃せり。而して十月一日近に至る荒川沿岸の地を去來せるを目撃せり。而して十月一日近に至る荒川沿岸の地を去來せるを目撃せり。而して十月一日後は、全く群來なくして、稀に一二羽のものを見たりしが、同月十日頃にて、全く其影を絕ちたる由なり。

手の五指を攘けたるこ稍々等しきを験し得たりこ。 でく、前三趾間の廣さは、河原に印せる足跡に依り、大人の片で尾端に尾狀の黑色羽を有せず、脚黑黄色、嘴淡黄色の如く見鶴なりこ稱せる鳥は、高さ四尺餘ありて體色殆んご純白にし

く該時外には、對岸北足立郡多間村地内、並に小谷村地内に居的々多、書間は尠くして、夕暮に到れば未明程にはあらざるも、多く、書間は魦くして、夕暮に到れば未明程にはあらざるも、一ツ木に於ける觀察に依れば、渡來せる初は、未明に非常に

は、毎朝にても見るを得たる由。ほ以上より多き日もありたるものの如く、而して五羽乃至十羽りしものならんご。群の最多数七十三羽を数へし朝ありしも尚

L び河原へ下るを常こせり、樹木に棲止せる時は、 の見物人の群集(毎朝百人以上も來れりご) 之が爲め樹は全く白化せるが如く見えたり。 米の高さを、一羽若くは亂群三なりて飛來し、廻翔しつ、下降 したる後、 岸方面若くは上流の方面へ行きたり、 は、六七十間にて飛去るも、遠距離には行かずして、荒川の對 は、三四十間の距離迄も近接し得たりしが、 夜間の棲息は不明にして、毎朝西南の方面より、 堤外なる柳樹及び其他の矮樹へ棲止し、 西南方に飛び去るを常こせり。 夕暮には暫時中空を廻翔 するに及びてより 渡來せし最初の 後附近の村民其他 四顧せし後泥地及 樹木を覆ひて 目測五六十

混在せる事もありたるも、餘り多からず。 コサギ Herodias garzetta(L.)同(地にてはシラサギご稱す)の

ダイサギ Herodias alba (I-) ならんこ想はれたりこ。尚ほ同氏が小學校其他の標本、並に圖に依りて驗したる結果

の二三の村民によりて聞き及びたる事項の内右ご異りたる點の以上は原氏の語られたるここにのみ依りたるものなるが、他

みを左に記せば

(一)毎朝飛下れる後、日の出づるに及びて、序に東方に歩み

(二)多數の中に、尾端に黑色なる尾狀羽を有し且頭上少しく(二)多數の中に、尾端に黑色なる尾狀羽を有し且頭上少しく

上記の(二)に依れば、或は真正の鶴類も來れるものかこも想はるれざ、真正の鶴類にしては、渡來期の早きに過ぐる感あれば、弦には只聞き得たる事實のみを記し置くに止む。而して埼正縣下に渡來せる鶴群なるものは、グイサギなるここは凝ふべからざる所にして、今回の去期の獵期前なりし爲め、或は次年度に再び渡來するここもあるべければ、其折は實物に就きて委しく調査の上、更に報告するこここし、弦には只目擊者の談話しく調査の上、更に報告するこここし、弦には只目擊者の談話と掲げるに止む。



質疑者

岐阜縣 柳 原 要 二

教示被下度候。

和示被下度候。

和示被下度候。

答 オ サギ、 サギにては雌は雄よりも暗色にて且つ小形なり、 ミゾゴヰ、及びサ、ゴヰにありては殆ご區別なく、 にあらざれば鑑別困難なり。他の鷺類は 以上の外には區別すべき點なし從て生殖羽の雌雄を比較する き飾羽は雄よりも短く體は小形にて且つ體色も暗色に富む りも小形なるのみにて又ヨシゴキ、 ては雄よりも飾羽短く體も小形なり、 雌雄の區別は生殖羽のものにありては外見上、 本 アラサギの雌雄の區別は雌は後頭及び前頭の下部にある長 ヨシゴヰにありては雌雄の差先づ著し特に後者にありて コサギ、アカ、シラサギ、サンカノゴキ等は單に雄よ リウキウヨシゴヰ、及び 其他のダイサギ、 本邦産の場合にて セグロゴ中、 アマサギに ムラサキ チウ

卷」一〇六――一〇八頁參照ありたし。 然りごす。詳細なる區別の記載は內田氏著「日本鳥類圖說上

司二 雁鴨は春は猨地より寒地に向ひ秋は寒地より猨質疑者 朝鮮晋州 馬 庭 軍

市

問二 雁鴨は春は暖地より寒地に向ひ秋は寒地より暖地に來る問二 雁鴨は春は暖地より寒地に向ひ秋は寒地より暖地に来る あものなりや。(一年中十二ヶ月に分け經緯度)(南北半球に於るものなりや。又如何なる程度の寒暖(寒暖計の示度)を るものなりや。尚一ケ年中如何なる經緯度を往復するものなりや。

問四

海苔

漢場の海苔を

最も好む

雁鴨の

種類及習性

ここに就ては未だ充分なる材料を有せず。 
を中や十二ヶ月に分け經緯度によりて各種の往復地を示す 
な・本號講話欄に詳細に記したる故之れを参照せられたし。一

問三海苔藻場の海苔を食ふ鳥類の屬及種名。

ならん。 ここなきも左の種類の鴨類は恐らく疑ひなく海苔を好み食ふここなきも左の種類の鴨類は恐らく疑ひなく海苔を好み食ふる 海苔漢場の海苔を食ふ鳥類に就ては未だ充分に調査したる

Mareca penelope (L.) .......ロリカモ Eunetta falcata (Georgi).....コシガモ = シガモ (Tadorna cornuta (S. G. Gm.)) も食ふ

方言をノリクラヒミ云ふ由。
お分のものは好み食ふべし。因に日向國にてはヒドリガモのにも多少食ふ種類あるべし。歴類にも求食するものあるべし。歴類にも求食するものあるべし。正も多少食ふ種類あるべし。歴類にも求食するものあるべし

答 海苦を好み鳥ふ雁鴨の種類は民に記載せしものの外現令に とり大部分の種類は多少なりこも海苔を食ふここあるべし。 より大部分の種類は多少なりこも海苔を食ふここあるべし。 生に於ける彼等の糞は春季は主こして緑色を呈す。此點のみ 生に於ける彼等の糞は春季は主こして緑色を呈す。此點のみ にても明なるべし。即ち此種類は餘程雁類に近き食物(植物性のもの)を好食す。

の量を調査したるここなきも夏季の食量は冬季のものに比して生殖期の前に至り彼等の體は充分肥大するに至る。故に此て生殖期の前に至り彼等の體は充分肥大するに至る。故に此さるに至り生殖終りたるごきは身體著しく衰へ體量も亦生殖より程なく夏季の羽衣脱更を始む。此脱更を終り更に秋に向より程なく夏季の羽衣脱更を始む。此脱更を終り更に秋に向より程なく夏季の羽衣脱更を始む。此脱更を終り更に秋に向より程なく夏季の食量を欲するに至る。故に此なに従て再び多くの食量を欲するに至る。一日又は一渡來期からば殆ざ食道全部は充満せしむる程に食ふを常ごす。而したして、

半減以上に少きここを知るべし。

※を入れ而して日本紙又は新聞紙にて鳥體全部を包み木製のは十一月中旬以後より二月中旬頃迄は朝鮮より内地迄位ならは十一月中旬以後より二月中旬頃迄は朝鮮より内地迄位なら法に就ては嘴を出來る丈け開き鹽を充分に入れ下腹を縱斷して内臟全部を拔き取り(此時標本材料なれば雌雄を檢すべし) 大震を充分につめ而して頭部を生菜にて包み鳥體の脇部にも生際を充分につめ而して頭部を生菜にて包み鳥體の脇部にも生際を充分につめ而して頭部を生菜にて包み鳥體の脇部にも生際を充分につめ而して日本紙又は新聞紙にて鳥體全部を包み木製の菜を入れ而して日本紙又は新聞紙にて鳥體全部を包み木製の菜を入れ而して日本紙又は新聞紙にて鳥體全部を包み木製の菜を入れ而して日本紙又は新聞紙にて鳥體全部を包み木製の菜を入れ而して日本紙又は新聞紙にて鳥體全部を包み木製の菜を入れ流している。

來得る丈け精細なるを要す)及び採集年月日を記すべし。 らず)その附箋には雌雄(不明のこきは記さず)、採集地 にて附箋を附すべし(附箋は西洋紙に限り日本紙を用ふべか が腐敗をなすここあるべし。若し標本用の場合には鳥足に糸 にすべし。然れごも箱内に生菜の多すぎるこきは夏季はこれ 紙にて全部を巻き而して箱内にて鳥體の直接に接觸せざる様 て然り)故にその手加減を要す。若し數個の鳥類を同一箱に入 射するこきは各部固結して剝製こなし難し(特に頭にあ 注射せば恐らく腐敗せざるべし但し此場合餘り濃厚の液を注 るには尚ほ腐敗の危険あり故に頭及び鳥體に適度の昇汞水を 行ふべしその他は冬の場合ご同様にて可なるべきも遠地に送 送附するこきは一層腐敗せざる様充分なる注意を要す。 きは頭羽全部脱落して完全の標本こならず。次に夏季に同様 ば頭部腐敗するも差支なきも標本用こしては頭部 箱(ミカン箱等紙箱は不可)に入れて送附すべし。 れて送るこきは最も注意を要し各個を生薬にて包み之れを各 合には冬季ご同様にては危檢多き故頭に濃厚なる食鹽注射を 腐敗する 品なれ 此場 (III

答 鳥類剝製上の注意こしては左の敷ケ條を採用すべし。

問八

剝製上の注意事項及参考書名。

1.標本ごなす鳥類は成るべく完全に且つ新鮮なるものを撰定

び置くここ(採集地及び年月不明のこきは貴重なる標本も2鳥脚には常に必ず採集地、年月日及び雌雄を附箋に記し結

その價値殆ごなし)。

其他)にある場合にもその部分の色を記すべし。脚趾並びに爪の色を附記すべし。若し上記の外裸出部(顔脚趾がでなる生の鳥なりし場合には附箋に虹彩の色、嘴及び

4.生の鳥類なれば全長(嘴端より尾端迄の最さ(兩翼を開き翼端この長さを測る)を測定(可るべくミリメートル端ご翼端ごの長さを測る)を測定(可るべくミリメートル端に翼端に引延さざるここ)及び兩翼間の長さ(兩翼を開き翼

島類剝製に關する参考書は左の如きものあり。 も鳥類の食物を檢しその何物なるかを記すべし。 も鳥類の食物を檢しその何物なるかを記すべし。

は除くも不可なし。

小野田伊久馬著——鳥類剝製法

Hasluck, P. N.:—Taxidermy("Work" Handbook series) 1912.
Coale, H. K.:—How to Skin a Bird. "History of Lake County".

p. 370, 1912

問九 雜誌「太陽」の表紙圖案は鶴の三本足なり其由來の詳細御に用ふる標本ごしては是非第三の方法によるべきものごす。書なり。第三は假剝製(學術用標本)製作に最も良し。鳥類研究書はの内始めの二著は本剝製(飾標本)製作に参考して共に良

ては左の如き傳說より來りしものなるべし抄錄せば、答「太陽」の表紙の鳥(鶴にあらず)の三本足の圖案の由來に就

垂教を願ふ。

〔延喜式二十一〕祥 瑞

〔芭蕉之集〕 烏之賦〔共桑略記五〕 十一年太宰府貢三足烏

くつくしめ。羿が矢先にかくつて、三足の金鳥に罪せられ賣僧さいふ釋氏も是をにくみ、俗士も甚うごむ、嗚呼汝よ暑汝がごごぎは心貪慾にして、かたちを墨に染たる人に有て上汝

んここを。

「鳥友合貴上」鳥

みさがなき物ごもおもひくだされず客とおふけなくも、日輪に三足のからすもおはしませば、さの〔鶉衣拾遺上〕 鴉箴

るものこ見るべきなるべし。以上の如くにて先づ太陽内に三足鳥ありこ云ふ迷信より來れ

質疑者

**鹿兒島 荒 木 彦 助** 

間十 鹿兒島縣下の種子島沿岸にては冬期の暴風後に Albatros 間十 鹿兒島縣下の種子島沿岸にては冬期の暴風後に Albatros 中し居候由本邦他地方も本鳥の營巢見られ候や。

市の別島」では「大の鳥」で中し候で「ダーノトリ」で轉訛致し候本方に於ては「大の鳥」で中し候で「ダーノトリ」で轉訛致し候本方に於ては「大の鳥」で中し候で「ダーノトリ」で轉訛致し候本方に於ては「大の鳥」である。

れたし

價は確定の上次號に掲載の筈

内容の詳細は本誌廣告欄を見ら



□本會第九回總會 四月二十六日午後五時より神田淡路町多賀□本會第九回總會 四月二十六日午後五時より神田淡路町多賀□本會第九回總會 四月二十六日午後五時より神田淡路町多賀□本會第九回總會 四月二十六日午後五時より神田淡路町多賀□本會第九回總會 四月二十六日午後五時より神田淡路町多賀

載の條件により至急申込を乞ふに配本を了せり。尚乙種會員中講讀希望の諸君は本誌廣告欄記るを以て本會甲種會員全部及乙種會員中講讀申込の諸君には旣口鳥類の渡り及審殖期。の出版は非常に遅延せしも漸く出來せ

□『鳥』七號原稿〆切 期日九月末日限り重で作作し、6日三条日覧でを

東京市麻布區本村町一一○番地朝鮮慶尚南道廳第一部水產課料與尚南道廳第一部水產課	朝鮮京城龍山漢江通十一朝鮮京城西大門町二丁日四六	熊本縣飽託郡大江村九品寺七神奈川縣小田原中學校	東京府中澁谷宇田川九四一南部初方	大阪府東區南本町一丁目オサ商行内	臺灣總督府國語學校	山口縣阿武郡佐々並村二五六	東京府世田ヶ谷三宿一一一	東京市小石川區原町三ノ六〇	東京市本郷區駒込四片町十	鹿兒島市山下町一八八	□ <b>入</b> 會者	□其他會務に關する一切の件は理科大學	□編輯に闘する一切の用件は赤阪區福吉
戶馬岡	都黑	竹 伊	大	酒	堀	兼	闹	末木	松	荒		動物學	町黒田
澤庭田	世	野藤	澤	井彌	Щ.	常	谷	<b>∤</b> □	永	木		字教室	長禮
富軍信	三保	家和		Z	安	彌	直	保	安	彦		内本	氏宛
壽 市 利	郎吉	立 貴	保	助	市	富	秀	吉	衞	助		會宛	の事
十一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	ヤトカケス	行 誤 行 誤 一	北海道札幌博物館	香川縣大川郡譽水村	□會員死亡	□改姓(舊姓筒井)	福岡市博多馬場新町六增崎恒衞方	山口縣立德基高等女學校	廣島縣蘆品郡立實科高等女學校	和歌山縣立海草中學校	千葉縣海上郡高神村高神小學校	東京府上澁谷一四一	沖繩縣首里區當藏町一ノ一五
附° は 老°本 北° 近°き°鳥 年°陵 方	ミヤマカケスことにより	i 正	村田庄次	槌矢正		菊輪養之	脇山三	小田常太	佐藤龜	太田成	齊藤源三	吉澤寬	台

備

考ノ

他

1 月

巢

n

7

チャア

12

**ラ・六・** 日

他 七

テ・バ

 $\Pi$ 

ノノガニ。凡。一 7月

说

八

1

摘

抽

明

全.

面 約

Ħ.

摘

3/

41.

明

ìùi

JĮ.

```
六五
                                                                六五
                                                                                                                                                                                        ツロ同 同 同 同 同 附 93 91
六 六 六 五
六 六 六 五
                                                                                                                   六三
                                                                                                                                                                         鳥
                                                                                Ŧi.
                                                                                                                                                          頁
                                                                                                                                                                                         り繪
                                                                                                                                                                                                                                                                      錄
                                                                                                                                                                                         シカ91 23 35
                                                                                                                                                                                                                                           35
                                                                                                                                                                                                                                                                      11
                                                                                                                                                                          Hi.
                                                                                                                                                                                        ガム
                                                                                                                                                                          號
                                                                                                                                                                                         モム八
                                                                                                                                                                                                                                             下
                                                                                                                                                                                                                                                           八五十十
                                                                                                                                                                          E[1
                                                     0
                                                                                                                                               -E
                                                                                                                                                                                           1)
                                                                                                                                                                                                                                             3
 = 0
                                                                                                                                                         行
                                                                                                                                                                                                                                                                                   四八
                                                                                                                                                                                                                                  \exists
                         -L
                                                                                7L
                                                                                                                                                                          郭公の
                                                                                                                                                                                                                                               1)
                                                                                                                                                                                                                                  1)
                                                                                                                                                                                                                                  八
                                                                                                         二假
                                                                                                                                               艀
 特•以 巢
                                                                   郭
                                                                                                         一例ニ過・ル・
                                                                                                                                                                                                                                            Synthliboramphus
                                                                                                                                                                                                                                                         江コオ降・源・ボホれ道セ・パ・た
                                        ダ俄サ
                                                                                                                                                                                                        カラア
  二。外。三
                                                                                                                                                                          繁殖ご
                                                                                                                                               决
                                                                                                                                                                                             二分一實物
                                                                                                                                                                                                                     15
                                                                                                                                                                                                                                 右
                                                                    公
                                                                                                                                                                                                                     ___
                           1)
                                                                    7
                                                                                                                                               ス
                                                                                                                                                                                                                                 面
                                                       y · 類·
                           胢
                                         カ
                                                                                                                                                 N
                                                                                                                                                                                                        チ
                                                                    か
                                                                                                                                                上
                            ナ
                                                                                                           # .
                                                                                                                                                                            オ
                                                                                                                                                                                                      ="
                                                                                                           1) •
                                                                                                                                                必
                                                                                                                                                                            ホ
                                                                                                                                                                                             大口
                                                                                                                                                亚
                                                                                                                                                                             \exists
                                                                                                           チ・
                                                                                                                                                                             3
                                                                                                           以。
                                                                                                                                                                             丰
                                                                                                                                                                             I)
                                                                                                                                                                                                                                              Synthliberhamphus
                                                                                                                                                                                                                                                           江コオこの
                                                                                                                                                                                             三○力
                                                                                                                                                                                                                                  右
                                                                                                                                                                                                                      \exists
                                                                                                                                                                           この
                                                                                                                                                                                                                                                          原ががったれた
                                                                                                                                                                                             分
  爰。以 巢 末。一度
ニ。前。ョ ダ 度土
                                                                  郭公
                                                                                                           二假究°解
                                                                                                                                                                                                        ラ
                                                                                                                                                                                                                     13
                                                                                行
                                                                                              チ
                                                                                                                                                                                                                                  同
                                                                                                          一段 先所 例 親上の決正
                                                      废
                                                                                             以
                                                                                                                                                                                                         T
                                                                                  チ
                                                                                                                                                                            關
                                                                                                                                                                                             實
    ハロニ
                                                                    1
                                                                                   更
                                                                                                                                                                                                        チ
                          1)
                                          俄
                                                        ナ
                                                                                                           知。シ。必
                            -0
                                                        ラの親のへ
                                                                                                                                                                            係
                                                                                                                                                                                              物シ
                                           カ
                                                                                                                                                  iv
                                                                                                                                                 10
                                                        ブッが
                                                                                                            レ・テ・要
                             卵
                                                                                                                                                                                             大
                                                                                                                                                                            T
                                                                                                                                                、郭公ノ繁
                                                                                                            ル・
                             チ
                                                                                                            10
                                                                                                            30
                                                                                                             ナロ
                                                                                                             1) 0
                                                                                                                                                 殖。
                                                                                                                                                 和:0
                                                                                              \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t} \mbox{t}
                                                                      七
                                                                                                                                                                                                                                                                                                   -[:
                                                                                                                                                                                                                                                                           表
```

同 表 表 表 三ノ 24 三ノ pu 29 ノ三 1 £. 九 五 Ŧi. 八 小・保刺褐一数タ激・ハ區・ モ 對 1 コ . . レア = 回 如° 10 7 ~ . 共· ザ \_\_ O 置 ŋ Æ

= 0

=>0

テロ

コの反行少の保刺褐一 1 ナ・かっニ 熨 ナ タの他のへ サ メの卵のブ 親。チの 息の加の 其 置 III 7

E

其

-7 ኑ

ナ

サ

-15

本鄉區駒込曙町十三

A

臺灣南投廳埔里社

鹿兒島市山下町一八八 C

> 荒 朝 天

彦

助 松

0

林

保

吉

堀

111

安

市

Ι

田

倉 木

> 喜 鐮

> 代 次 郞

小石川區雜司ケ谷百 東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町九〇二

0

飯

島 塚

0

神奈川縣立小田原中學校 關東都督府中學校

K

赤坂區福吉町

東京市上野公園動物園

臺灣總督府殖產局博物館

横濱市太田町一ノナ

熊本縣立高等女學校 宮城縣栗原郡岩柳新町五

五

岐阜縣加茂郡東白川村

Ŧi.

斗

俊

夫

麻布區飯倉町 神田區五軒町 G

東京府下澁谷一九二九

藤 藤

勝

井 原

欽

吾

福井縣立福井農學校內

F

和歌山縣伊都郡高野山四一八

0 榎

本

佳

樹

E

長崎縣東彼杵郡竹松小學校

千

葉

經

=

郎

飛彈高山町 本鄉區龍岡町廿七

林

壽 Ξ

八

郞

堀

井

榮

吉 祐

山口縣長府

鹿兒島市高等農林學校 千葉縣長生郡鶴枝村下永吉 北海道札幌農科大學

 $\mathbf{H}$ 

六九

桂 111 口 孫 長

郎

次 太

> 郎 惠 郎

近 北 米 河 里 藤 Ш

谷 上 柴 米 他 才

古

次

林 桂

熊 小

池 米 太 郎

0

助 郎

菊

田 義 太

郎

0 

黑 黑

Ш

長 禮

育 和 貴

伊 伊 飯

藤

太 郎 啓

東

魁

小石川區大塚坂下町四四	N	朝鮮京城龍山漢江通一一	本鄉區駒込西片町一〇	京橋區明石町三一	金澤市中安藤町十二	理科大學動物學教室	朝鮮京城高等普通學校	熊本縣第一師範學校	小石川區久堅町四四	М	朝鮮京城西大門町二丁目	三重縣阿山郡上野町字西町	東京府下世田ヶ谷三宿一一一	大分縣速見郡八坂	山口縣河武郡佐々並村二五六	朝鮮京城中學校	本鄉區龍岡町二七近藤仙太郎方	臺南博物館	
0.		6414		0		-4.			0			0			0			0	
波		都	松	籾	水	森	森	森	松		W	菊	ᆐ1	上	兼	小	岸	風	
江		田	永	Ш	野	田		Ш	平		H	輪	谷		常	菅		野	
元		甚三	安	德	23	淳	爲	/'1	賴		保	養	直	忝	彌	昌	喜	鐵	
				太	÷4.			tz.h				之。		325			J.E.S.		
古		郎	衞	郎	誠		三	勉	孝		吉	助	秀	治	富	=	鑑	吉	
臺灣總督府農事試驗場	朝鮮京城傳物館	沖繩縣首里區當藏町一ノ一五	S	東京府中澁谷宇田川九四一南部初方	朝鮮新義州守備隊	和歌山縣立海草中學校	淺草區小島町四十五	山口縣立德基女學校	北海道札幌區農科大學博物館	小石川區小目向臺町三ノ一〇七	京都府木屋町島津製作所標本部	小石川區小日向臺町一ノ四四	0	朝鮮大邸高等普通學校	福井縣立福井中學校	秋田縣仙北郡花館村	新宿角筈新町百四十四	神田區裏猿樂町六	
	0	0					0			0		0							
素	下	尙		大	大	太	大	小	岡	小	小	Æ		中	中	仁	永	長	
木	郡田			澤	揚	H	久保	田	H	野	)11			野與	13	部	井:	與	
				1:Ye				常			別。	it		1:		111		典	

和春郎

[][]

保 平

得 誠

景

成忠太信安太次

利 薨 郎

7i

衞

之睛

助吉

艒

郎

熊本縣飽託郡大江村九品寺七	小石川區西原町二ノ四〇	朝鮮京城本町二丁目	京橋區傳馬町二	臺灣南投廳補里社街三三一	麻布區本村町一一〇	長野縣長野市立商業學校博物學教室	<b>芙城縣多賀郡日立鑛山</b>	横濱市太田町一ノ十小林方	東京府下豐多摩郡淀橋町大字柏木四二一	麻布區本村町	Т	大坂市東區南本町一丁目オサ商行	千葉縣海上郡高神小學校	廣島縣蘆品郡實科高等女學校	福島縣信夫郡島川村大字上鳥渡字茶中十二	朝鮮平壤公立高等女學校	岡山縣兒島郡興除村大字曾根	愛知縣東春日井郡坂下村大字內津五二
〇竹		樽	〇 田	鷹	〇 戶	高	H	寺	〇 寺	〇鷹		酒	齋	佐	閼	〇萱	妹	白
野	子	元	村	羽	/ 澤	len	中	-1	-1	同		井	麻藤	藤	[FF]	原原	% 尾	
	,	龜	彦	33	(e)e	松	-1-	简	尾	ыj		彌	源	<b>乃梁</b>	東	吹	惠	石
家	勝	太	兵	貞	富		誠			信		之	Ξ	龜	*	Ξ	喜	兼
立	彌	郎	衞	將	壽	良	吉	直	新	輔		助	郎		八	郎	太	松
			南滿州大連市出雲町一八號	東京府日暮里町七六一	岐阜縣稻葉郡南森村細畑百五十	小石川區大塚窪町八	長野縣松本市女子師範學校	東京府下澁谷一四一	府下目黑林業試驗場	芝區白金臺町傳染病研究所官宅	四谷大番町八	Y	福岡縣遠賀郡八幡町	福岡市博多馬場新町六增崎恒衞方	W	朝鮮慶尙南道廳第一部水產課	青山原宿百七十番地十二號	U
			滿州大連市出雲町一八號	京府日暮里町七六一	阜縣稻葉郡南森村細加百五十	石川區大塚窪町八	野縣松本市女子師範學校	京府下澁谷一四一	下目黑林業試驗場	白金臺町傳染病研究所官宅	谷大番町八 ○		岡縣遠賀郡八幡町	岡市博多馬場新町六增崎恒衞方		鮮慶尙南道廳第一部水產	山原宿百七十番地十二號	U
			滿州大連市出雲町一八號	京府日暮里町七六一	阜縣稻葉郡南森村細畑百五十柳	石川區大塚窪町八 〇 山	野縣松本市女子師範學校	京府下澁谷一四一	下目黑林業試驗場	白金臺町傳染病研究所官宅	谷大番町八 ○ 籔		岡縣遠賀郡八幡町	岡市博多馬場新町六增崎恒衞方		鮮慶尙南道廳第一部水產課 〇 馬	山原宿百七十番地十二號	U
			滿州大連市出雲町一八號 吉 倉	京府日暮里町七六一 吉 田	阜縣稻葉郡南森村細畑百五十柳原	石川區大塚窪町八 〇山 内	野縣松本市女子師師學校 矢 澤	京府下澁谷一四一 吉 澤	下目黑林業試驗場 矢 野	白金臺町傳染病研究所官宅 山 田	谷大番町八 ○ 籔		岡縣遠賀郡八幡町 渡 澄	岡市博多馬場新町六增崎恒衞方 脇 山		鮮慶尙南道廳第一部水產課 〇馬庭	山原宿百七十番地十二號 〇 內 田	U
			滿州大連市出雲町一八號 吉 倉	京府日暮里町七六一 吉 田	阜縣稻葉郡南森村細畑百五十 柳原	石川區大塚窪町八 〇山 内	野縣松本市女子師館學校 矢 澤 米	京府下澁谷一四一	下目黑林業試驗場 矢 野	白金臺町傳染病研究所官宅 山 田 信	谷大番町八 ○ 籔		岡縣遠賀郡八幡町 渡 3	岡市博多馬場新町六增崎恒衞方 脇 山		鮮慶尙南道廳第一部水產課 〇馬庭	山原宿百七十番地十二號 〇 內 田 清	U

聖助二雄郎夫幹郎麿 次彌 市助

揭載

セル

鳥類ニ關スル論文ノ別刷ラ配

布

乙種會員二八雜誌『鳥』及ど動物學雜誌二揭

ニ關スル論文ノ別刷ヲ配布ス、

臨時出版物

21

定價

拟

٠١. 12

鳥類 [員] ル

## 日本鳥學會規則

第 第 條 條 本會ノ事務所ハ東京帝國大學理科大學動物學教 本會ハ日本鳥學會ト稱

第三條 本會ノ 自的 左 如

烏類二趣味 ラ有ス باد モノヽ 懇親 チ 計

ル コ

鳥類 三關 ノ思想ヲ普及セシ ス ル學術 ブ進 步 ラ 促スコト

鳥類愛護 コト メ鳥類ノ保護増殖ヲ計

本會ハ前條

第四條

プ目的

ラ達

スル為

メ評

議會ノ決議

ヲ經

ラ魔

時種 K 事業ヲナ

一當分 年二二 一回雑誌『鳥』ラ出 版 スル コ

臨 時刊行物ラ出 版 ス ル コ

每年春秋一

一回會合シ鳥類

二關

ス

ル

講演談話ラナ

同

時ニ鳥類ニ關スル圖書標本其他 展覽會ラ催

本會々員ラ分チテ甲種會員ト乙種會員 一鳥學的探檢ヲ舉行スル コ

ノニト

第

五條

一甲種會員ハ會費トシテーケ年金貳圓四拾錢 乙種會員ハ會費トシテーケ年金壹圓貳拾錢ヲ納 コ シラ納 ムル ムル

第六條

コト

甲種會員ニハ雜誌『鳥』、臨時刊行物及ど動物學雜誌

第七條

置

ヲ限リ無代配布

はス其他

ハ定價

一割引ラ以テ講讀ス

本會 三入會

せ ン

ト欲

ス

ル

Ŧ ノハ住

所氏名職

業ヲ記載

シ但甲種會員ノ入、

退會ハ評議會ノ決

本會ニ申込ムへ

第八條 議ニョ

本會二會頭壹名幹事壹

名ラ置

ル

第九條

本會評議會ハ會頭幹事及ビ會員

1

互撰ニョ

ル評議員岩

干名(甲種會員) ラ以 つテ組織

東京理科大學動物學教室內 日本鳥學

會

役

員

幹會

事頭

理學博士 飯 内

魁

塚 助

淺 次

理學博士 理學博士

丘

議

江 元 信 吉輔郎啓

波

長

子

僑

## 投稿及質問規定

(一)鳥類の習性、 渡り、 方言等に關し廣く各地方會員の投稿を

(二) 既揭原稿は返戻せず、 但 し挿畵に使用せる寫真及び圖畵は

希望により返戻すべし

)原稿は紙の表文を使用し一行、二十五字詰に認めら 22 たし

假字は平假字を用る動物名及外國語は片假字ミす

回 種 畵 は寫真以 分外のも のは墨汁にて認めら れたし

(五)原稿は東京赤坂區福吉町黑田長禮氏宛郵送せられたし

(六)本會は鳥類に關 入理科大學動物與教室內本會宛郵送せられたし す る質疑に應答す、 質問 0 事 項 id 返信料封

(七)質問解答は す るも其他は質疑者に直接解答するものミす 般讀者に有益なりご認むるも のは 本誌に 揭載

> 大正 -1 年五 月二 + Ł 日 印 刷

定 價 金 麥 拾 Ŧi. 錢

大正七年五月三十一日發行

發編 行輯 者兼

東

京

क्त

目

本

橋

滬

兜

町

番

地

下

憲

木

日 本 橋 區 神 兜 町 谷 岩 番 地 次 郎

即 東

刷

京

क्त

載轉禁

印 東 京 刷 市日 所 本 橋 膩 東京印 兜 町 刷 番 株 地 式 會社

發行 所

動東 動物學教室內果京理科大學

日 本 鳥 學

會

振替口座東京六五九九番

房

所

十 東京日

店本橋區

振替口座東京一〇七番

#### □錄目物行刊時臨會學鳥本日□

-						
第七篇黑	第二八篇黒	第五篇	第四篇黑	第二篇黑	第一篇內	第一篇內
鮮田	附臺田	郭助	世田	世曲	海田	東鳥田
滿長鳥	新池米太郎述   島間	公審殖	界長の禮	界禮	產保護具	類之助
類者	臺の著灣	器	雁 <sup>著</sup>	著の	局著	著圖
斑	鳥類の習性	研究	と	聘	想圖說	說
定寫原	定寫原	定寫コ	郵定原	郵定原	郵定原	絕
價具色	價眞色	價與夕	色 稅價版	色 税價版	稅價色	
圓拆版 五十畫口 錢	四 於插版	金 イ 州版プ 五 版	金金枚	六七枚	四四版	
錢	錢繪編	錢插一 枚	為	十二二年	三	版
十數一	税數_	郵畫地 税 圖 四數一	版五	五五五	枚	
<b>登個個</b>	四 錢個枚	四 <sup>数</sup> 一 錢個枚	校 錢圓附	枚 錢錢附	錢錢附	

房 華 裳 店軒+區橋本日 所 捌 賣

### 著新の有稀

推奨す

を知らし



時事新報評

料學としての立場より鳥に關する一

切の

知識の組織的・系統的に記述せるもの

開係、

保

護論に及び更に其の形態、

先づ鳥類の茶殖に筆

を起

世界を 鳥類の

眸の下に指

示し始んど興趣の

「渡り」の

經路其他

類等か詳記せるが多数の鮮明なる寫真版は驚く計り不思議なる鳥類

を究明し進んで鳥類の分布、鳥と人生との

ざる程にて加之著者の明快平易なる説明は何人によ愛禽の念を起さしむ學術的價値多き良書として江

獸醫學士 內 H 助 先 生 著

最

新

刊

116 正 精巧圖百八十 菊 判 價 包 洋裝 貢 料 金 全壹 參拾 拾 餘 八 錢 錢 個

理 學 士 鹰 司 信 輔 先 牛 著

着 菊 色口繪三葉 價金二圓五十 版特製美本 巧圖 册 包料 版 紙 -

壹千局本話 七百京東替 兌發房華裳

分類及び

區橋本日京東 + 店

## 助助 行

### 製 本 出 來

# 度 及

郵定圖 菊 價版版 假 稅金葉 紙 一挿數 不圓書百  $\Xi \equiv \Xi$ +++ 要錢個頁

ざる 務 未 本 家 邦 努力の 產 薦 賴 鳥 3 縆 め 結 h 0 とす 果、 き報 渡 b 此 3 告 所 並 01 篇成 以 公表 15 够 な 30 h せ 殖 6 圳 材 n 1= 料 12 就 は 3 T 精選 18 は 聞 せ 共 かる 6 ず。 利 te 害 12 0 b 關 n 吾 す 調 人 3 查 0) 所 立は鄭重 甚 廣 を極 遺 夙 憾 1: とせ to 調 0 查 敢 3 せ 3 T 所 斯 な n 學 2. b 2 0) [ii]今 ~." 好 فع かっ 5 者 著 者等 す W. に江 0) 湖 勘 U) かう 宜 B も

**黎學** な 3 表を附 的 刊行 容 料 考察(三)各種 報 (一)緒 告(三) Ü T 中中 說 故 央氣 別 言 す。 小 鳥類繁殖 觀測規約、『渡 加三 象臺 特に 一紀氏 から 鳥學 全國 期 O) 0) 觀察手 總 專 t りりの 攻者 括 h 蒐 的 以 調 期 記 集 せ 外 査 節 四四 及氣象 3 ٤ 0 一著さ 經 未 便 路 者 刊 等の \* との 行 計 報 觀察 關 各 h 告 T 係 種 は 手 鳥類 以 記 農 主要 Ŀ 商 渡 五 務 500 八鳥類 章、 旣 省 刊 から 約 項 期 信 全 8 飾 賴 國 -|-分 0 す 地 つ事 種 統 3 力 廳 1= 怎 [JL] 及 的 足 生 -[-研 3 大 圖 完 林 ~ É 18 3/6 抓 總 署 數 -1-JĮ. 入 T ょ 個 生 0) b 能 #E 0) 鬼 详 的 錄 集 Sil 細

注 意 En 刷費暴騰の爲め前回廣告の 八日本鳥學會甲種會員ニハ無料配布 特價にて 領布し難 ス・ 乙種會員ニハ本會ニ申 き爲め特質な 一圓 に改正す但 込アレバー し既 人一册ヲ限リ定價金一 に申込濟の 分は値上げ せず 颁 布

大 Æ 七 年 四 月

## 

### 告豫行刊著新の有稀界斯

理學士 黑田長禮先生

著二六月下旬刊行

# 稿千鳥類圖說

正價約五 圆三色版五葉寫眞版五葉寫眞版五葉寫

特 總 本 說 編 論 12 は とし 本 せ 邦 3 種 7 産 8 類 は 0 0 0) 種 1 識 本 科 别 類 L K 7 最 鳥 就 何 類 困 きて 難 0) n な 形 B は 各 能 3 最 鷸 種 詳述 Ŧ 習 1 就 鳥 性 世 3 類 . 渡 I) T Charadriidae 雌 h 尙 雄 0 分 各 . 類 夏 亚 冬 法 科 羽 0) . t 參 全世 h 考 亚 老 界 文書等 種 幼 0 1-1= 產 至 記 を記 載 3 4 迄 及 3 述 絀 U 8 す 密 分 の二百三十 3 12 布 事 3 習 索 性 + 引 等 七種 を r 項 具 記 沭 類 1 百 E

一千局本話電 七百京東替振

圖

版

は

鳥

縆

寫

生

圖

1

最

摅

能

12

3

横

Ш

慶

次

郎

畵

伯

0)

筆

1

成

h

+

葉

約

八

+

種

0)

邦

產

種

8

圖

し本

文

h

其

舶

分

布

表

學

名索

引等

10

附

錄

7

添

附

せ

插

畵

1=

は

內

外

種

0)

寫

眞

寫

生

圖

筝

首

五

+

昌

8

插

ス

世

h

行發店書房華裳

橋本日京東 町 店 軒 十









er e







